

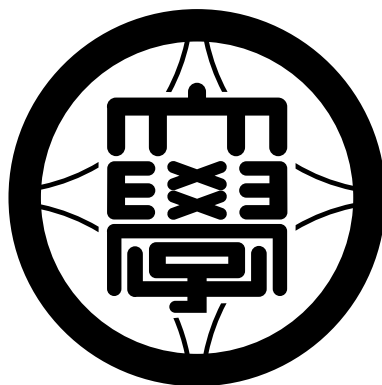
本学の教育方針

学祖大妻コタカが私塾を開いてから110年余りが過ぎ、この間、本学は「女性の自立のための女子一貫教育」を建学の理念として、豊かな教養と思いやりの心に、実技実学を併せ持ち、社会において指導的な役割を果たす専門職業人たる女性の育成に力を注いできました。また、創立以来の時代環境の中で、「良妻賢母」の伝統も培ってきました。

一方、21世紀に入って20年が経過しようとする今日、国内外の急激な変化に応じて、女性がより多様で多面的に社会的な役割を果たすことが期待されています。本学は、伝統を踏まえながらも心新たに「学び働き続ける自立自存の女性の育成」を使命として掲げ、新時代における女子大として社会の負託に応えます。

校章

円の中に糸巻が入っています。円は心の円満、糸巻は技能を表します。豊かな人格の形成と専門的知識・技術の修得という建学の理念を図案化しています。



2020 OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY

大妻女子大学

履修ガイド

家政学部 文学部 社会情報学部 比較文化学部

はじめに

『履修ガイド』には、学生のみなさんが自分で自分の学生生活を計画し、実現していくために欠かすことができない、基本的な情報がまとめられています。それは、みなさんが卒業するまで必要となるものです。

大学では、『学則』や諸規程で定められたルールに従って、学生自身が自分の判断で授業科目を選択し、履修登録をして学習を進めていかなければなりません。『学則』は卒業の要件や入学、退学、休学、留学などについて定めたルールであり、諸規程は、実際に授業や学生生活を送るうえで必要となる、事務手続きなどについての決まりです。これらは、社会における法律にあたるものですから、しっかりと理解しておかなければ、大学の中で自分の判断で行動し、主体的に活動していくことはできません。

『履修ガイド』では、『学則』や諸規程を掲載すると同時に、実際の授業選択や履修登録をどうしたらよいのか、などについても説明しています。これらは新入生にとって、真先に必要となる情報です。

さらに『履修ガイド』には、諸課程やキャンパスの諸設備、学生生活で必要になる様々な事務手続きの方法などについてのガイドも掲載してあります。いずれも、大学をフルに活用するために欠かすことのできない情報です。

みなさんが学生生活で迷ったり、分からないことに会ったとき、先生や事務窓口で相談する前に、まず、『履修ガイド』を開いてみてください。解決の方法やヒントが見つかるはずです。豊かな学生生活を送るために、『履修ガイド』を卒業まで手元に置いて、活用されることを望みます。

大妻女子大学 教育課程の編成及び実施に関する方針

[カリキュラム・ポリシー]

大妻女子大学は、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

1. 総合的な人間教育として、深く幅広い知識と教養を修得するために、全学共通科目を設置する
2. 専門職業人として社会で中核的役割を果たすに足る専門的な知識、技術を修得するために、専門科目を設置する
3. 主体的、創造的な問題解決能力の育成及び関係的自立促進のために、少人数及び個別で、双方向性の指導を行う
4. コミュニケーション力強化と国際感覚育成のために、多様な語学教育などを行う

※本ポリシーは、令和2年4月現在のものです

最新のもの、HP（<http://www.otsuma.ac.jp/about/intro/diploma>）で確認してください。

大妻女子大学 卒業の認定に関する方針 [ディプロマ・ポリシー]

大妻女子大学は、豊かな教養と思いやりの心を持ち合わせた真に自立した女性を育成することをミッションとしています。その実現に向け以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 社会の全体像を理解できる深く幅広い知識と教養を修得し、変化する 21 世紀の社会環境に対して、新たな課題を見だし主体性、創造性を持って問題を解決していく能力
2. 他者との支え合いの中で作られていく個々人の自己決定性（関係的自立）を身につけ、社会の構成員としての自覚を持って、修得した知識と技術を積極的に活用していく能力
3. 関係的自立の確立過程で培ったコミュニケーション力を駆使し、グローバル化した社会において、自己の未来を切り開いていく能力
4. 講義、演習、卒業論文等の作成を通して学部、学科、専攻の専門的知識・技術を修得し、社会集団において中核的・指導的な役割を果たしていく能力

※本ポリシーは、令和 2 年 4 月現在のものです

最新のもの、HP (<http://www.otsuma.ac.jp/about/intro/diploma>) で確認してください。

家政学部 教育課程の編成及び実施に関する方針

[カリキュラム・ポリシー]

私たちは、たくさんのモノに囲まれ、物質的にとても豊かな生活を送っています。しかし、その一方で、生活習慣病や環境破壊が深刻化したり、家族や親子をはじめとした人間関係のあり方が大きく変わっていくなど、次々と新しい問題も生まれています。

これからの家政学は、一人の生活者としての視点からこうした問題に取り組み、それを科学的に研究することで、その解決方法を生み出していく学問になることが要求されています。

家政学部では、新しい時代に求められる学びをリードする『未来志向型サイエンス』を主軸に教育を行い、自立心あふれる職業人の育成を教育の方針としています。

家政学部は、被服学科、食物学科（食物学専攻、管理栄養士専攻）、児童学科（児童学専攻、児童教育専攻）及びライフデザイン学科の4学科4専攻で構成され、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、それぞれ次のような教育を行います。

[被服学科]

被服学科では、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

1. 知識・理解

衣に関する科学的な専門知識や技術を有するために、人体の構造や繊維素材、デザイン・制作、アパレルの生産、ファッションビジネスの各分野に関連する授業を履修する。

2. 思考・判断

創造的思考力を養うために、「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」などを履修する。

3. 関心・意欲・態度

(1) 4つの領域（繊維素材／デザイン・制作／アパレル生産／ファッションビジネス）の専門科目について、自らの希望に合わせて選択しながら履修する。

(2) 1級衣料管理士として社会に貢献できる意欲・能力を有するために、テキスタイルアドバイザー実習などを履修する。

(3) 家庭科教諭資格取得のための科目が選択できる。

4. 技能・表現

「卒業研究」を必修科目とし、専門科目を中心とする学力の総合化を行い、コミュニケーション能力を養う。

[食物学科]

①食物学専攻

食物学科食物学専攻では、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

1. 知識・理解

食と健康に関する科学的な専門知識や技術を有するために、人体の構造と機能、食品と衛生、栄養と健康の各分野に関連する授業を履修する。

2. 思考・判断

創造的思考力を養うために、食物学演習のゼミを履修する。

3. 関心・意欲・態度

(1) 栄養士として社会に貢献できる意欲・能力を有するために、栄養士概論、校外実習などを履修する。

(2) 家庭科教諭または栄養教諭資格取得のための科目が選択できる。

(3) インターンシップや資格取得のための科目が選択できる。

4. 技能・表現

食物学演習、卒業論文のゼミを履修して高いコミュニケーション力を養う。

②管理栄養士専攻

食物学科管理栄養士専攻では、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

1. 知識・理解

- (1) 食と健康に関する科学的な専門知識や技術を有するために、食べ物と健康、基礎栄養学などの専門基礎科目に関連する授業を履修する。
- (2) 疾病の発症メカニズムに関する知識を有するために、人体の構造と機能及び疾病の成り立ちの専門基礎科目に関連する授業を履修する。

2. 思考・判断

健康状態を適切に評価でき、健康的な食生活を提案する能力・判断力を養うために、専門科目に関連する授業を履修する。

3. 関心・意欲・態度

- (1) 人の命を預かる医療職として、管理栄養士の使命や責任感を有するために、管理栄養士概論および専門科目に関連する授業を履修する。
- (2) 栄養教諭資格取得のための科目が選択できる。

4. 技能・表現

栄養教育が実践できる能力を養い、課題の発見と解決のために、臨地実習に関連する授業を履修する。

[児童学科]

①児童学専攻

児童学科児童学専攻では、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

1. 知識・理解

法令に準拠し、保育士ならびに幼稚園教諭になるために必要な専門的知識を学ぶ。乳幼児の教育・保育ならびに子育て支援、子どもや子育て家庭を取り巻く福祉問題など幅広く学ぶ。

2. 思考・判断

法令に準拠し、保育士ならびに幼稚園教諭になるために必要な専門的な技能・技術を演習や実習を中心に学ぶ。

3. 関心・意欲・態度

法令に基づく実習に加え、保育者養成基礎演習Ⅰ・Ⅱ、子どもとからだ、子どもと遊び、アドバンス実習等に基づき、子どもの心身への共感的理解や援助、子どもを中心にした関係のネットワーク構築について学ぶ。

4. 技能・表現

「自分と向き合う（動きながら自分を知る）」「他者と向き合う（関わることを通して他者を知り、自分を育てる）」「社会と向き合う（社会の中で専門職としての役割を自覚し行動する）」「多様な問題と向き合う（専門職としての問題意識と自らの課題を追究する）」プロセスを通して、専門家として、生涯にわたって子どもを巡る環境や社会に目を向け、当事者としての関心を持ち続ける主体的態度の育成をはかる。

②児童教育専攻

児童学科児童教育専攻では、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

1. 知識・理解

法令に準拠し、小学校教諭になるために必要な専門的知識を学ぶ。小学校教育、思春期に至る心の問題加えて、学校外の教育文化活動や余暇活動に関することなどを幅広く学ぶ。

2. 思考・判断

法令に準拠し、小学校教諭になるために必要な専門的な技能・技術を演習や実習を中心に学ぶ。

3. 関心・意欲・態度

法令に基づく実習に加え、児童学基礎体験演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、小学校総合演習、アドバンス実習等に基づき、子どもの心身への共感的理解や援助、子どもを中心にした関係のネットワーク構築について学ぶ。

4. 技能・表現

「自分と向き合う（動きながら自分を知る）」「他者と向き合う（関わることを通じて他者を知り、自分を育てる）」「社会と向き合う（社会の中で専門職としての役割を自覚し行動する）」「多様な問題と向き合う（専門職としての問題意識と自らの課題を追究する）」プロセスを通して、専門家として、生涯にわたって子どもを巡る環境や社会に目を向け、当事者としての関心を持ち続ける主体的態度の育成をはかる。

[ライフデザイン学科]

ライフデザイン学科では、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

1. 知識・理解

- (1) 家庭生活を中心とする生活経営および生活文化について体系的に学ぶ。
- (2) 「家庭」「地域・社会」「自然環境」という空間において展開される生活の営みを幅広く学ぶことによって、生活を捉える視野を拡大する。

2. 思考・判断

- (1) 問題提起型の授業を通じて、生活の諸課題を解決するための前提となる論理的思考力・分析力・考察力を養う。
- (2) 3年次からのゼミナールで、特定の専門的方法（ディシプリン）から生活を深く追究することを学ぶと共に、少人数教育による活発な議論を通じて深い思考力・判断力を養う。

3. 関心・意欲・態度

- (1) 幅広い学修に先立ちライフデザイン学科必修の基礎科目（コア科目）である「生命論」「生涯発達心理学」「ライフデザイン学総論」を履修することを通じて、生命・人生・生活という多義的な概念であり、「真に豊かな生活」を考えるための根本的な概念である‘LIFE’の意味、重要性を理解する。
- (2) 感性教育や体験学習を通じて、モノ・コト・自然と主体的に関わるための豊かな感性を育み、創造力を培う。
- (3) グループ・ワーク等のアクティブ・ラーニングを通じ、他者への共感力を養いながら、他者と協働して課題解決に取り組む意欲を養う。

4. 技能・表現

- (1) 各種デザインに関する科目を履修し、日常生活を豊かにするためのデザインの基礎的技能を養う。
- (2) 展開科目、ゼミナール、卒業論文・卒業制作を通じて、「真に豊かな生活」というにふさわしい新しいライフスタイルを構想（デザイン）する力と、自らの考えを的確に表現し、他者とコミュニケーションする能力を養う。

※本ポリシーは、令和2年4月現在のものです。

最新のものは、HP（<http://www.otsuma.ac.jp/academics/university/home>）で確認してください。

家政学部 卒業の認定に関する方針 [ディプロマ・ポリシー]

家政学部は、家庭という社会における最小単位から、科学的で豊かな生活を実践するために必要な問題意識を育み、社会の複雑な構造や問題を把握し、解決へと導くことのできる、真に自立した社会人を育成することを目指しています。

以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生には、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 知識・理解

各学科の専門領域（被服、食物、医療、児童、家庭生活等）に関する諸問題を理解し、幅広い知識を身につけている。

2. 思考・判断

各学科の専門領域（被服、食物、医療、児童、家庭生活等）に関する諸問題について自ら考え、適切な対処法を判断できる。

3. 関心・意欲・態度

各学科の専門領域（被服、食物、医療、児童、家庭生活等）に関する諸問題について常に関心を持ち、対処しようとする姿勢を有している。

4. 技能・表現

各学科の専門領域（被服、食物、医療、児童、家庭生活等）で活躍できる技能を有し、研究、指導、問題解決（具現化）ができる。

【被服学科】

被服学科では、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 知識・理解

被服に関する幅広い知識と技能を修得し理解できる。

2. 思考・判断

被服に関する知識と技能をもとに、科学的な見方ができ、適切に判断することができる。

3. 関心・意欲・態度

衣生活に深い関心をもち、繊維・アパレル関連産業などにおいて、意欲的に活躍できる。

4. 技能・表現

卒業研究などを通して、その成果を十分に発揮できる能力を有している。

【食物学科】

①食物学専攻

食物学科食物学専攻では、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 知識・理解

食と健康に関する科学的な専門知識や技術を有している。

2. 思考・判断

食に関する専門知識や技術を活かして、企画・開発するための創造的思考力を有している。

3. 関心・意欲・態度

食の専門家として真摯な姿勢をもって社会に貢献できる意欲・能力を有している。

4. 技能・表現

高いコミュニケーション力により、諸問題に関してわかりやすい健康教育ができる能力を有している。

②食物学科管理栄養士専攻

食物学科管理栄養士専攻では、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 知識・理解

- (1) 食と健康に関する科学的な専門知識や技術を有している。
- (2) 人体の機能と、疾病の発症メカニズムに関する知識を有している。

2. 思考・判断

- (1) 健康状態を適切に評価できる能力を有している。
- (2) 個々の人に適した安全で、健康的な食生活を提案する能力・判断力を有している。

3. 関心・意欲・態度

人の命を預かる医療職としての使命や責任感を有している。

4. 技能・表現

人々の健康の保持・増進及び疾病予防のために、適切な栄養教育が実践できる能力を有している。

[児童学科]

児童学科では、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 知識・理解

子どもについて内面も含めて理解するために不可欠な児童学の専門的知識を有している。

2. 思考・判断

保育・教育に関わる専門的な技能・技術と判断力を有している。

3. 関心・意欲・態度

論理的思考力・表現力・共感性に基づき、子どもを中心にした関係のネットワークを作り上げることのできる能力を有している。

4. 技能・表現

変化する社会における子どもに関わる幅広い視野と多様な問題に対処できる能力を有している。

[ライフデザイン学科]

ライフデザイン学科では、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 知識・理解

- (1) 家庭生活を中心とする生活経営および生活文化に関する幅広い教養を身につけている。
- (2) 「家庭」「地域・社会」「自然環境」の相互のかかわりについて理解している。

2. 思考・判断

生活の諸課題を解決するための論理的思考力・分析力・考察力を身につけている。

3. 関心・意欲・態度

- (1) モノ・コト・自然に対する豊かな感性、人に対する共感的な態度を身につけている。
- (2) 自らの人生において「真に豊かな生活」を思い描くことができる。
- (3) 社会において「真に豊かな生活」を実現するために、職業・地域活動その他を通じ、他者と協働できる。

4. 技能・表現

- (1) 豊かな感性を生活の中でかたちにするデザイン力を身につけている。
- (2) 自らの考えを、他者に的確に伝えるためのコミュニケーション力を備えている。

※本ポリシーは、令和2年4月現在のものです。

最新のものは、HP (<http://www.otsuma.ac.jp/academics/university/home>) で確認してください。

文学部 教育課程の編成及び実施に関する方針

[カリキュラム・ポリシー]

文学部のカリキュラムは、言語運用能力の達成と人間性の錬磨を共通課題として編成されています。文学部を構成する3つの学科は、学問の体系性を反映し、個々の学生の関心に対応するため、固有のカリキュラムを設置しています。それぞれの学科では、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、独自の方針（カリキュラム・ポリシー）を設定しています。

[日本文学科]

日本文学科では、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

1. 教育内容

日本人の心の表現である日本文学。日本文学科は、日本語と日本文学について深い教養を身につけ豊かな情操を育成する学科です。「文学」を研究することは、その作品が作者のどのような人生観・社会観を伝えようとしているかを考えることといえます。同時にその様々な思いを伝える手段としての日本語の歴史・特質を学んでいきます。

2. 教育方法

詩歌・物語・小説・エッセイ・評論等々それぞれの時代に生きた人々の「ことば」と「文学」を通して日本語の美しさや日本人の生活を再発見し、さらにそうした各自の「発見」を、他者に向かって発信できる日本語運用能力・プレゼンテーション能力の向上を図ります。そして豊かな人間性と教養を身につけ、より深い人間理解ができる感性を備え、次代に日本文化の伝統を伝えることができる女性を育てます。

3. 評価方法

さまざまな資料に基いた実証的な研究方法を身に付け、それによって、日本語と日本文学の理解がどの程度深くできるようになったかを中心に、評価してゆきます。

[英語英文学科]

英語英文学科では、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

1. 教育内容

- (1) 1、2年次を中心に25の英語科目を配置して、これをOEP（Otsuma English Program）と総称します。これらを通じて実践的な英語力を育成します。各科目は英語の4技能（Speaking, Listening, Reading, Writing）の中のいずれか1つに焦点を当て、その向上をめざします。また、英語力向上のための奨励策によって、TOEIC®などの資格試験で高い成績を収めるための努力の継続を支えます。
- (2) 1年次には初年度教育として「基礎セミナー」を設置して、少人数体制で英語の効果的な学習方法を学ぶとともに、PELLEC（Program for English Literature, Linguistics, Education and Culture）と総称する4つの専門分野、すなわち英語圏の文学・英語学・英語教育学・英米文化の各領域で扱うテーマを学び始めます。さらに大学での学びを深めるためのアクティブ・ラーニングの手法を身につけます。
- (3) PELLECの4つの専門領域、すなわち英語圏の文学・英語学・英語教育学・英米文化の各領域の学修は、各学年に配置した科目によって段階的に深めていきます。
 - ①英語圏の文学：「英文学入門」、「米文学入門」（以上2年）、「英文学（近代）」、「英文学（現代）」、「英文学（特論）」、「米文学（近代）」、「米文学（現代）」、「米文学（特論）」（以上3・4年）
 - ②英語学：「英語学入門」（2年）、「英語学（音声・音韻）」、「英語学（語彙・形態）」、「英語学（語法・文法）」、「英語学（意味・語用）」、「英語学（特論）」（以上3・4年）
 - ③英語教育学：「英語教育学（第二言語習得論）」、「英語教育学（児童英語教育1）」、「英語教育学（英語教育2）」、「英語教育学（メディア論）」（以上3・4年）

- ④英米文化：「イギリス入門」、「アメリカ入門」（以上1年）、「異文化間コミュニケーション1」、「異文化間コミュニケーション2」（以上2・3・4年）、「英米文化（言語）」、「英米文化（社会）」、「英米文化（身体表現・映像）」、「英米文化（特論）」（以上3・4年）
- (4) 3年次からは、13のセミナーの中から1つを選んで2年間通して受講します。13のセミナーは4つの専門分野、すなわち英語圏の文学・英語学・英語教育学・英米文化のいずれかに焦点を当てて学びます。そこでの研究は4年間の学修の集大成である卒業論文としてまとめられます。

2. 教育方法

- (1) 1、2年次のOEP科目の授業は、プレイズメント・テストの結果に基づいて編成される習熟度別クラスで行われ、英語力を効率よく伸ばします。
- (2) OEP科目の「ISEC」では、4日間の合宿を行い、英語のネイティブ・スピーカーの指導を通して特にSpeakingとListeningの力を強化します。
- (3) 長期・短期の英語圏への留学を勧め、参加する学生を支援します。留学先で取得した単位を卒業単位として認定するので、1年間の長期留学参加者も4年間で卒業することができます。また、英語英文学科が独自に実施する「ロンドン大学音声学セミナー」では、音声学の知識と実技を学びます。
- (4) eラーニング・システムManabaを活用して、予習と復習さらに課題への取り組みなど授業外の充実した学習を支援します。

3. 評価方法

- (1) OEP科目の「英文法（基礎）」（1年）では文法力強化を、また「英文講読（発展）」（2年）の授業ではボキャブラリー・コンテストを実施して語彙力の増強を、さらに「英語発音入門」（1年）と「英語音声学演習」（1年）の授業と関連させてレシテーション・コンテストを実施して英語発音能力の向上を図ります。これらのコンテストによって学生の英語力を評価するとともに、英語学習への意欲を高めます。
- (2) 3年次からのセミナーは少人数で行われ、担当教師による行き届いた指導を受けながら自主的に研究を進めます。学修の集大成である卒業論文は、複数の教員によって評価されます。

【コミュニケーション文化学科】

コミュニケーション文化学科では、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

1. 教育内容

- (1) 深く幅広い知識と教養の修得を目的とする全学共通科目、「異文化コミュニケーション」「メディア・コミュニケーション」を柱とする専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習を適切に組み合わせた授業を開講します。
- (2) 「異文化コミュニケーション」「メディア・コミュニケーション」はカリキュラム編成の柱であり、専攻ではありません。学生は、これらの柱で構成された科目群から自由に選択して履修することができます。
- (3) カリキュラムは、領域横断型に編成されており、1・2年次では、専門分野を決めず、専門分野が異なる専任教員全員によるリレー講義などで広い視野を養い、少人数ゼミでプレゼンテーション、ディスカッションなどを通して主体性を伸ばします。
- (4) 外国語は、主に1・2年次で学び、3・4年次でも発展的に学べます。全学共通科目で英語を必修とし、さらに欧米・アジア諸言語科目の中から選択して履修し、専門教育科目で英語専修・中国語専修に分かれて、実践的外国語運用能力を育みます。日本語は、全学共通科目で、文章表現を必修として口頭表現、読解を選択して履修でき、さらに専門教育科目で口頭表現法を必修としています。
- (5) 専門教育科目では、2年次で、専任教員全員がそれぞれの分野で担当する必修科目を履修し、自らの興味に基づいて卒業研究ゼミを選んで、専門分野を決定します。3・4年次では、「異文化コミュニケーション」「メディア・コミュニケーション」の応用科目を履修しつつ、卒業研究ゼミで卒業論文に取り組みます。また、3年次には、卒業研究ゼミ単位でゼミ合宿や集中授業を行う特殊研究を設けています。さらに、学科の枠を越えて開設されている文学部共通科目群により、文学部の本質探究に基づいた教養を身につけることができます。

- (6) 以上のように、1・2年次で広い視野を養い、3・4年次で深く専門を探究することにより、幅広さと専門性を具えるバランスのとれたT字型人間を育成するカリキュラムとなっています。

2. 教育方法

- (1) 主体的な学びの力を高めるため、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施します。
- (2) 1・2年次に開設されている必修の少人数ゼミでは、プレゼンテーション、ディスカッションを取り入れるなど、学生の主体性を育む手法を用い、その中で、課題の気づきを促し、調査・情報収集の方法も考えます。
- (3) 3・4年次に開設されている卒業研究ゼミでは、担当教員が、学生の興味に基づいて、学生の個性を伸ばすきめ細かな指導を2年間にわたり行います。
- (4) 学生と教員でコミュニケーション文化学会を構成し、学生主体で発表会や講演会を企画運営します。

3. 評価方法

- (1) GPAをチェックし、数値が高い学生には履修単位の上限を引き上げ、低い学生には別途指導を行います。
- (2) 4年間の学修成果として卒業研究を重視し、複数教員により総合的評価を行います。

※本ポリシーは、令和2年4月現在のものです。

最新のものは、HP (<http://www.otsuma.ac.jp/academics/university/lit>) で確認してください。

文学部 卒業の認定に関する方針 [ディプロマ・ポリシー]

文学部では、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 知識・理解

人間と言葉に関する深く広い知識を有する。

2. 思考・判断

人間と言葉に関する事象を客観的に観察し、正確に分析することができる。

3. 関心・意欲・態度

多様な価値観に関心を持ち、異なる価値観を尊重することができる。

4. 技能・表現

人間と言葉の関係を認識し、的確な意思伝達を行うことができる。

[日本文学科]

日本文学科では、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 知識・理解

文化的リテラシーと教養を身につけ、日本文学・文化・芸術・芸能の伝統を発展的に継承することができる能力。

2. 思考・判断

日本社会の能動的な担い手として活動するために、様々な言説や物事を冷静に分析し、調査し、判断し、その結果を的確に他者に向かって発信できる能力。

3. 関心・意欲・態度

他者の考えをしっかりと受け止め、自分とは異なる立場、異なる意見を持った人々の考えを理解し、問題解決のために対話を重ねられる能力。

4. 技能・表現

正確で柔軟な日本語運用能力、明確なプレゼンテーション能力。

[英語英文学科]

英語英文学科では、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を取得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 知識・理解

(1) 英語圏の文学・英語学・英語教育学・英米文化の各領域における専門的な知識を持ち、人間にとっての普遍的なテーマを理解することができる。

(2) 国際社会を生きるために、他者理解と共生の課題を理解し、それらを分析することができる。

2. 思考・判断・表現

(1) 英語圏の文学・英語学・英語教育学・英米文化の各領域が扱うテーマを深く思考し、諸問題を客観的かつ相対的に評価することができる。

(2) 建設的な批判力を持って各領域の問題を捉え、それにどう対応するかを主体的に判断し、その考えを的確に表現することができる。

3. 関心・意欲・態度

(1) 英語圏の文学・英語学・英語教育学・英米文化の各領域が扱うテーマに対する深い関心に基づき、それらのテーマを追求する意欲を持ち、主体的に研究する態度を持つ。

(2) 各領域の学びを通して、国際社会に生きる一員として多様な価値観を尊重することができ、相互主体的

な関係を創造しようとする態度を持つ。

(3) 培った英語力を駆使して、世界の人々と積極的にコミュニケーションを取ろうとする意欲を持つ。

4. 技能

(1) 英語の4技能(Speaking, Listening, Reading, Writing)を駆使する実践的コミュニケーション能力を持つ。

(2) 国際社会に生きる一員として、英語を用いて世界の人々とコミュニケーションを取り、諸活動に参加し、仕事をすることができる。

【コミュニケーション文化学科】

コミュニケーション文化学科では、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 知識・理解

コミュニケーションと文化を切り口に課題解決を考える本学科では、「国際性」「現代性」「学際性」をキーワードに、以下の能力を身につけます。

(1) 国際性=世界の異なる価値観を理解し、共生と協働ができる。

(2) 現代性=歴史を踏まえた現代の文化・社会を理解し、問題の発見と解決ができる。

(3) 学際性=人文科学・社会科学の基礎知識と手法を身につけたうえで、こうした従来の学問の枠組みにとられない自由な発想と分野が開拓できる。

2. 思考・判断・表現

(1) コミュニケーション能力=異文化および価値観の異なる他者とのコミュニケーションにおいて、他者を受け容れ、メディアの情報を正しく読み解いた上で、自分の考えを口頭や文章などでの確に伝えられる。

(2) 論理構成能力=自ら設定あるいは与えられた課題について、筋道立てて考え、課題の問題点と論点を発見し、表現できる。

3. 関心・意欲・態度

(1) 課題解決力=筋道立てて考えた上で、問題点の解決のために自ら行動できる。

4. 技能

(1) 社会貢献力=大学での学びを社会で実践し、その発展に貢献することができる。

※本ポリシーは、令和2年4月現在のものです。

最新のものは、HP (<http://www.otsuma.ac.jp/academics/university/lit>) で確認してください。

社会情報学部 教育課程の編成及び実施に関する方針

[カリキュラム・ポリシー]

社会情報学部における教育の主眼は、①情報の整理・活用力と問題解決力、②生活・環境・情報の各課題に対する的確な意思決定能力、③自己実現に不可欠な他者とのコミュニケーション能力の養成にあります。

卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

1. 基本実技としての情報処理実習と、国際的コミュニケーション能力を育成する目的での英語を中心とした語学教育を3専攻共通の基礎的な科目として位置付けます。
2. 1年次に開講される少人数教育である基礎演習を出発点として、専攻ごとに社会科学、人文科学から自然科学まで幅広い専門科目を総合的に学びます。
3. 3年次から必修の少人数ゼミナールと卒業研究を通じて、情報の整理・活用力と問題解決力を実践的に育成します。

本学部は社会生活情報学専攻、環境情報学専攻、情報デザイン専攻の3専攻で構成され、それぞれ次のような方針を定めています。

【社会情報学科 社会生活情報学専攻】

社会生活情報学専攻では、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

1. 経済学・経営学、メディア学・社会学などを軸に、社会科学・人文科学分野の諸科目の学修を通じた総合的な情報処理能力の育成。
2. グローバル化、複雑化するさまざまな社会事象を理解するため、発表や討論を通して幅広い知識や情報リテラシーを修得。
3. 卒業要件達成状況（単位取得状況・GPA）を通して教育課程全体の学修成果を評価。

【社会情報学科 環境情報学専攻】

環境情報学専攻では、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

1. 基礎となる必修科目を中心として、環境創成学に関する知識の修得。
2. 環境に関する課題に対し、情報を収集分析し、それをもとに論理的に考え的確な判断のできる能力の育成。
3. 暮らしのデザインを中心として、持続可能な環境や社会への提案と情報発信に関わる技術の修得。
4. 卒業要件の達成状況（単位取得状況およびGPA）を通して教育課程全般の学修成果の評価。

【社会情報学科 情報デザイン専攻】

情報デザイン専攻では、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

1. 情報基礎科目により、大学での学びの基礎や自己のキャリアを考えるための基礎知識を修得するとともに、理論的および技術的知識と基本的情報処理能力を修得します。
2. システム系科目及びデザイン系科目により、情報デザインに対する各自の関心や目的に合わせて科目を選択することで自己の専門分野を形成します。
3. 卒業研究を通して、3年次までに修得した知識をもとに、専門領域の研究に対して自らテーマを設定し、研究計画をたて、調査、分析、考察、発表を行うことによって実践的な力を身につけます。

※本ポリシーは、令和2年4月現在のものです。

最新のものは、HP（<http://www.otsuma.ac.jp/academics/university/sis>）で確認してください。

社会情報学部 卒業の認定に関する方針 [ディプロマ・ポリシー]

社会情報学部は高度情報化社会において真に自立した、社会に貢献できる女性を育成することを目標としています。以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 21世紀の高度情報化社会において社会生活をおくる上での必要な能力すなわち、情報を整理・活用し、問題を解決する能力。
2. 自立した個人として、生活、環境、情報の各課題に対し、的確な意思決定をする能力。
3. 語学教育などで培った国際的なコミュニケーション力をベースに、グローバル化した社会において、自己の未来を切り開いていく能力。

【社会情報学科 社会生活情報学専攻】

社会生活情報学専攻では、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 社会・人文分野の知識を修得し、これを基礎に現代社会のさまざまな事象について分析する能力。
2. 情報を適切に取捨選択した上で、効果的な情報発信やコミュニケーションを行う能力。

【社会情報学科 環境情報学専攻】

環境情報学専攻では、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 環境創成学に関する知識と、それをもとにした論理的に考える能力。
2. 環境に関する課題に対し、総合的かつ的確な判断のできる問題解決力。
3. 持続可能な「環境づくり」へのとりくみを表現、発信するための情報技術、コミュニケーション能力。

【社会情報学科 情報デザイン専攻】

情報デザイン専攻では、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 情報処理や情報デザインに関する知識や技能を修得し、それらを創造的に応用する能力。
2. 新たな問題を解決し未来を築いていくための、課題発見能力およびコミュニケーション能力。
3. 修得した情報処理や情報デザインに関する知識や技能を、社会の中で主体的に活用する能力。

※本ポリシーは、令和2年4月現在のものです。

最新のもの、HP (<http://www.otsuma.ac.jp/academics/university/sis>) で確認してください。

比較文化学部 教育課程の編成及び実施に関する方針

[カリキュラム・ポリシー]

比較文化学部では、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

1. 世界各地の文化を研究するために、英語を必修として、フランス語、ドイツ語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国語のうちいずれかの言語を履修するとともに、
2. 日本文化を含む世界の文学・美術・宗教・歴史・文化などを、講義とゼミで比較研究します。
3. こうすることにより、急激に変化する国際社会に柔軟に対応できる人材の養成を行います。
4. 比較文化学部の4年間の教育課程は、入門（1年）から文化論（2年）、演習（3年）、卒論（4年）へと展開していく積み上げ式で設計されています。それぞれの節目で教員との懇談により、自分で進路を決断して行きます。

したがって、比較文化学部は文化の勉強を促すにとどまらず、文化の勉強によって学生の自立を意識的に促すのです。

[比較文化学科]

比較文化学部は、比較文化学科1学科のみの学部ですが、その学科はアジア文化コース、アメリカ文化コース、ヨーロッパ文化コースの3コースで構成されています。

※本ポリシーは、令和2年4月現在のものです。

最新のもの、HP（<http://www.otsuma.ac.jp/academics/university/ccs>）で確認してください。

比較文化学部 卒業の認定に関する方針 [ディプロマ・ポリシー]

比較文化学部では、「多様な文化の中の自立する私（関係的自立）」を育成します。その実現に向け、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生には、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
2. 多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
3. 多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
4. 特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

※本ポリシーは、令和2年4月現在のものです。

最新のもの、HP (<http://www.otsuma.ac.jp/academics/university/ccs>) で確認してください。

全学共通教養教育 教育課程の編成及び実施に関する方針

[カリキュラム・ポリシー]

本学の教養教育では、各学部での専門教育と相まって、本学の教育理念である「関係的自立」を具現する女性の育成をめざして、深く幅広い知識と教養を修得するために、基礎力の確保と汎用能力および多様な視点の獲得を目標とする教育課程を編成します。

また、学部の相違によって教養教育に違いが生じることが無いよう、科目構成を全学共通カリキュラムとします。

本学の教育理念である「関係的自立」は、豊かな教養と思いやりの心を持ち合わせ、社会に貢献しうる能力を身につけつつ、他者との関係の中で自らの役割を自覚し、自立できる人間形成を目指すものです。

以下、本学の教養教育の特色を掲げます。

1. 本学のアイデンティティを理解し、「関係的自立」を具現する人材を育成する。

本学を創立した大妻コタカの学びへの願いを理解し、その歴史を「大妻教養講座」でたどることで、本学の教育理念である「関係的自立」をより深く理解し、その具現を目指す。

2. 学修のための基礎力と汎用能力を養う。

「基礎科目」区分で、学びのための基礎力を身につけた上で、主体性、計画力、チームワークといった社会的及び職業的な自立の基盤となる汎用能力を広く養う。

3. 幅広い知識と多様な視点を獲得する。

「教養科目」区分の様々な科目によって、現代世界の動向と自分そして他者を多様な視点から見つめ、価値観、興味、立場の異なる様々な他者や複雑化し変化する社会との関係をどのように構築すべきであるかを考える力を養う。

4. 身体感覚や情緒能力を養い、他者を理解する力を磨く。

身体感覚や情緒能力を養い、言語化されないコミュニケーションや物事の理解の仕方があることを知ると共に、他者と共に学ぶことによって自身や他者の情緒や価値観を理解する能力を身につける。

5. 思考とコミュニケーションを形作るものとしての言語の運用能力を培い、文化の多様性を理解する。

英語必修科目の履修によって、国際化が進む現代社会に対応できる英語力を身につけると共に、その他の外国語学習や「教養科目」区分の科目の様々な概念の学習を通じて、コミュニケーションと思考のための言語運用能力を身につける。

さらに、海外留学、本学へ迎え入れる外国人留学生との交流を通じ、他国文化や日本文化への関心を高め、もって文化の多様性を理解する。

※本ポリシーは、令和2年4月現在のものです。

沿 革

明 治

明治41年 9月

学祖大妻コタカが裁縫、手芸の塾を創設。

大 正

大正 5年 9月

大妻技芸伝習所を設置。

大正 6年 2月

私立大妻技芸学校を開校。

大正10年 4月

高等技芸科を増設。

大正15年 1月

高等家政科を増設。

昭 和

昭和17年 3月

大妻女子専門学校を設置。

昭和24年 3月

大妻女子大学を設置し、家政学部に被服学科、食物学科、家庭理学科及び別科を置く。

昭和25年 3月

大妻女子大学短期大学部を設置、家政科第一部及び第二部を置く。

家政学部被服学科と食物学科を併合、家政学科となる。

昭和42年 1月

文学部国文学科、英文学科を増設。

短期大学部に国文科及び英文科を増設。

昭和42年12月

家政学部家政学科を専攻分離し、家政学専攻、管理栄養士専攻を設置。

家政学部被服学科及び児童学科を増設し、家政学科を食物学科と名称変更。

短期大学部家政科第一部を専攻分離し、家政専攻及び食物栄養専攻を設置。

昭和45年 1月

家政学部児童学科を専攻分離し、児童学専攻及び児童教育専攻を設置。

昭和47年 3月

大学院（修士課程）を設置し、家政学研究科食物学専攻並びに文学研究科国文学専攻

及び英文学専攻を設置。

昭和52年 3月

大学院家政学研究科に児童学専攻（修士課程）を増設。

昭和55年 3月

大学院家政学研究科に被服学専攻（修士課程）を増設。

昭和56年 4月

人間生活科学研究所を設置。

昭和57年 3月

大学院家政学研究科に被服環境学専攻（博士後期課程）を増設。

昭和62年12月

短期大学部に生活科、日本文学科及び実務英語科を増設。

平 成

平成 3年12月

社会情報学部社会情報学科を増設し、社会生活情報学専攻、社会環境情報学専攻及び

社会情報処理学専攻を設置。

平成 7年12月

大学院家政学研究科被服環境学専攻（博士後期課程）を人間生活学専攻（博士後期課程）

に名称変更及び改組。

文学研究科に国文学専攻（博士後期課程）及び英文学専攻（博士後期課程）を増設。

社会情報研究科を新設し、社会生活情報専攻を設置。

平成10年 3月

文学部国文学科を日本文学科と名称変更。

平成10年12月

人間関係学部人間関係学科を増設し、社会学専攻及び社会心理学専攻を設置。

人間関係学部人間福祉学科を増設し、人間福祉学専攻及び介護福祉学専攻を設置。

比較文化学部比較文化学科を増設。

平成13年 5月

家政学部ライフデザイン学科、文学部コミュニケーション文化学科を増設。

平成14年12月

大学院人間関係学研究科を新設し、社会学専攻及び臨床社会心理学専攻を設置。

平成17年 4月

大学院人間関係学研究科臨床社会心理学専攻を臨床心理学専攻と名称変更。

平成20年 4月

人間生活科学研究所を人間生活文化研究所に名称変更及び改組。

平成21年 4月

社会情報学部社会情報学科社会環境情報学専攻を環境情報学専攻、社会情報処理学専攻

を情報デザイン専攻、人間関係学部人間関係学科社会心理学専攻を社会・臨床心理

学専攻と名称変更。

平成22年 4月

大学院家政学研究科、文学研究科、社会情報研究科及び人間関係学研究科を統合し人

間文化研究科に改組。

平成23年 4月

短期大学部家政科生活総合ビジネス専攻を増設。

平成30年 4月

人間関係学部人間福祉学科人間福祉学専攻及び介護福祉学専攻を統合し、人間関係学部

人間福祉学科に改組。

平成31年 4月

文学部英文学科を英語英文学科と名称変更。

校 歌

大妻学院校歌

土岐 善磨 作詞
平井康三郎 作曲

一、千代田の森のかげあかるく
みどりにあけに映ゆるいらかよ
はえある歴史希望新たに
こころをわざをみがきゆくとき
富士はるかに雲晴れたり

二、千鳥ヶ淵に立つさざなみ
友情深く風もさわやか
薫るや花と競う文化に
都の路のひろく正しく
見よわれらの学園あり
よろこび満ちたりわれらの学園
この学園にわれらあり

大妻学院校歌

土岐 善磨 作詞
平井康三郎 作曲

あかるく、力づよく (♩ = 92)

1. ちよだりのもりのかげあかるく
2. ちよだりがふりにかたげあさぎるなくみ

みどうりにあけ一にはゆるいらかよ
ゆどうじょうふか一はかせもさわやか

はえあるはきしときぼうあらかに
かおるやれきしときぼうあらかに

こまろをわざをみがるゆたとしき
みやろをわざをみがるゆたとしき

ふ一じはるからにが一もはれたあり
み一よわれからのが一もはれたあり

りよるこびみちたりわれらがくえん
りよるこびみちたりわれらがくえん

このがくえんにわれらあり
このがくえんにわれらあり

本書の使い方

入学してすぐに読む

「1. 覚えておいてほしいこと」には、学生生活をスタートさせるために、真先に必要となることがらが書かれています。また、「2. 学習について」には、履修や単位制など、大学で学ぶ仕組みについての基本的なことがらから説明してあります。新入生は、まず、これらをしっかりと読んで、大学について理解しておいてください。

ちょっと困ったときに読む

本書には、キャンパスマップや校舎配置図・見取図、電話番号一覧などが掲載されています。事務窓口や掲示板の見取り図なども確認することができます。学内で迷ったときなどに活用してください。

毎年、履修登録のときに読む

科目選択から履修登録までの手続きは複雑で、2年生になっても、迷ったり、ミスをするのが少なくありません。登録手続きでミスがあれば、必要な科目が履修できなくなる場合もあり、それが原因で学習が遅れたり、卒業できなくなることもあります。毎年、履修登録のときには、「3. 教育課程について」や「4. 諸課程について」をしっかりと読みなおし、手続きのミスを防いでください。

大学を徹底的に使いこなすために読む

本学では、図書館や情報メディアなどの諸設備の充実に力を注いでいます。また、正規の教育課程に加えて、図書館学課程など、資格取得のための課程を開設しています。本書では、これらについても説明してあります。大学が提供しているすべてのサービスを知り、自分のために徹底的に使いこなすためにも本書を活用してください。

1 覚えておいてほしいこと

学年暦（年間スケジュール）	30
キャンパスマップ	
千代田キャンパス	32
多摩キャンパス	34
事務窓口 業務時間	36
事務窓口 取扱業務内容	38
大学からの連絡・通知	40
掲示場 見取図	
千代田キャンパス	41
多摩キャンパス	42

2 学習について

大学で学ぶためには	
授業科目について	46
単位制度と学修時間	48
卒業するために必要な要件	50
1年間の履修登録単位数の上限	52
標準履修単位数	52
第3年次進級に必要な要件	55
卒業の認定	55
卒業延期と前期末卒業	56
早期卒業について	56
履修登録・受講者調整	
履修計画	57
履修登録	57
受講者調整	60
学生時間割表	61
修正履修登録	61
履修中止による履修取消制度	62
後期履修登録	63

授業について

授業時間	64
授業を受けるにあたっての注意事項	64
出席・欠席	65
出席管理カードリーダーについて	66
休講・補講・教室変更・時間割変更	67

試験について

受験資格	68
定期試験	68
授業期間中の試験	70
レポートについて	71
成績評価	71
履修結果公開	71
追試験	72
再試験	74
追・再試験結果公開	74

成績と単位認定について

成績の評価基準	75
成績通知	76
成績評価確認制度について	77
GPA について	77
入学前に修得した単位の認定について	81
大学以外の教育施設等における学修に対する単位認定について	81
社会体験実習の単位認定について	83

3 教育課程について

全学共通科目	86
家政学部	86
文学部	88
社会情報学部	90
比較文化学部	92
専門教育科目	100
家政学部	
被服学科	100
食物学科食物学専攻	104
管理栄養士専攻	106
児童学科児童学専攻	108
児童教育専攻	110
ライフデザイン学科	114
文学部	
日本文学科	116
英語英文学科	118
コミュニケーション文化学科	120
社会情報学部	
社会情報学科社会生活情報学専攻	122
環境情報学専攻	126
情報デザイン専攻	128
比較文化学部	
比較文化学科	130
アジア文化コース	132
アメリカ文化コース	134
ヨーロッパ文化コース	136
履修モデル	139
家政学部	
被服学科	139
食物学科食物学専攻	140
管理栄養士専攻	142
児童学科児童学専攻	144
児童教育専攻	145
ライフデザイン学科	146
文学部	
日本文学科	148

英語英文学科	150
コミュニケーション文化学科	152
社会情報学部	
社会情報学科社会生活情報学専攻	154
環境情報学専攻	156
情報デザイン専攻	158
比較文化学部	
比較文化学科	160
編入学者に対する単位の認定について	162
卒業論文等(卒業制作・卒業研究)	164
教育・研究交流による単位修得	167

4 諸課程について

教職課程	170
図書館学課程	201
博物館学芸員課程	205
栄養士及び管理栄養士課程	207
食品衛生管理者及び食品衛生監視員	211
保育士課程	212
1級衣料管理士資格	215
フードスペシャリスト資格	217
NR・サプリメントアドバイザー資格	219
健康運動実践指導者資格	220
レクリエーション・インストラクター資格	222
二級建築士資格	223

5 充実した学習のために

総合情報センター〈図書館〉について	228
総合情報センター〈メディア教育開発センター〉について	229

も く じ

教職総合支援センターについて	231
国際センターについて	232
課外講習について	233
海外研修について	234

6

附録

組織	238
学則	239
教務関係諸規程	251
校舎配置図及び見取図	
千代田校舎	270
多摩校舎配置図	299
電話番号一覧	300

1

覚えておいてほしいこと

学年暦（年間スケジュール）	30
キャンパスマップ	
千代田キャンパス	32
多摩キャンパス	34
事務窓口 業務時間	36
事務窓口 取扱業務内容	38
大学からの連絡・通知	40
掲示場 見取図	
千代田キャンパス	41
多摩キャンパス	42

この項目には、年間のおもなスケジュールや各キャンパスのマップなど、学生生活を送っていくうえで真先に必要になる情報が掲載されています。授業やクラブ・サークル活動を通じて、複数のキャンパスを行き来する際などには、ここに掲載されているキャンパスマップが役に立つはずです。

また、大学では履修の申請を含めて、すべての手続きは、自分自身の責任において行わなければなりません。学校からの連絡事項は基本的に掲示を通じて行われるため、常に自分で確認しなければなりません。そのために必要な事務窓口の業務時間や取扱業務内容、掲示場の見取図なども、この項目に掲載されています。

1

覚えておいてほしいこと

学年暦（年間スケジュール）

※ 2020年度のみ、オリンピック・パラリンピック開催の影響により、年間スケジュールが異なります。

前期スケジュール

4月

入学式
ガイダンス※
Web 履修登録
健康診断
前期授業開始

5月

6月

前期履修取消

7月

前期補講・試験時間割発表
前期追試験願提出期間
前期授業終了
前期補講・試験

8月

夏季休業
前期履修結果公開
前期追・再試験時間割発表
前期追・再試験エントリー

9月

前期追・再試験
前期追・再試験結果公開

※ 3月下旬より新年度ガイダンスが始まることもあります。
日程は、掲示等で確認してください。

- 年間行事予定表は、大妻女子大学ポータルサイト「UNIVERSAL PASSPORT」（通称：UNIPA）の「学内リンク集」に掲載している「教務関係予定表」で確認できます。
- 祝日であっても授業実施日になる場合や、平日であっても授業がない日がありますので、「教務関係予定表」で確認してください。

後期スケジュール

9月

後期授業開始
後期履修登録

10月

スポーツフェスティバル
文化祭

11月

後期履修取消
学校記念日【11月20日】

12月

授業終了
冬季休業

1月

授業再開
後期補講・試験時間割発表
後期追試験願提出期間
大学入学共通テスト(臨時休業)
後期授業終了
後期補講・試験

2月

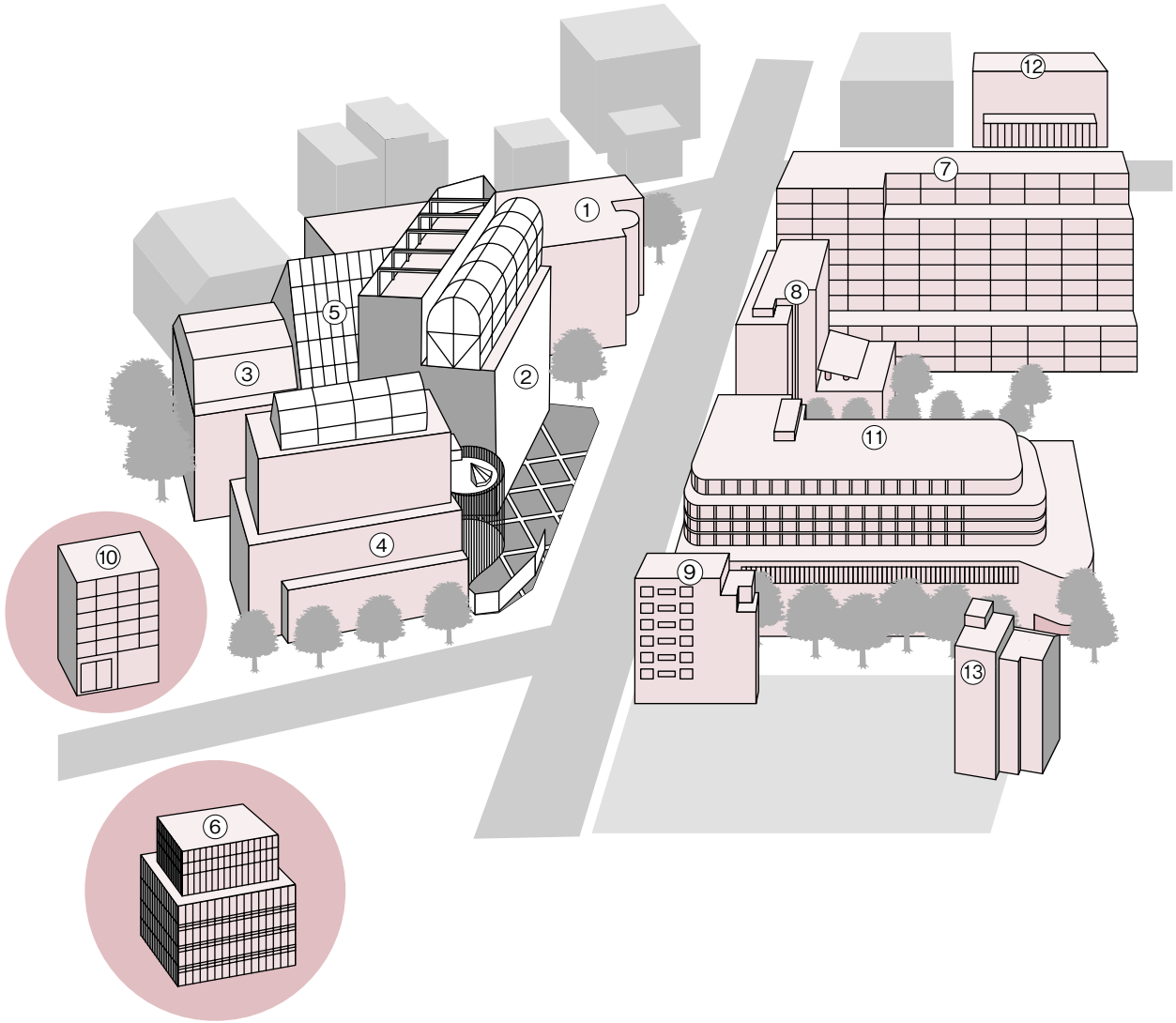
後期履修結果公開
後期追・再試験時間割発表
後期追・再試験エントリー
後期追・再試験

3月

後期追・再試験結果公開
卒業証書・学位記授与式
学年末休業

キャンパスマップ

1 千代田キャンパス



- | | |
|-----------------|----------------|
| ① 大学校舎 A 棟 | ⑧ 本館 F 棟 |
| ② 大学校舎 B 棟 | ⑨ 大学校舎別館 (J 棟) |
| ③ 大学校舎 C 棟 | ⑩ 大妻コタカ記念会館 |
| ④ 大学校舎 D 棟・大妻講堂 | ⑪ 大学校舎 G 棟 |
| ⑤ アトリウム | ⑫ 大学校舎 H 棟 |
| ⑥ 図書館棟 | ⑬ 大学校舎 K 棟 |
| ⑦ 本館 E 棟 | |

①大学校舎 A 棟

講義室や英語教育研究所などがあります。

3階には、パピルスメイト（証明書自動発行機）が設置してあり、稼働時間は平日・土曜 8:30～17:00 です。

交通系電子マネーのみ使用可能です。また、発行できるものに限りがありますので注意してください。

地下1階には RYOMA ラウンジや購買部があります。

②大学校舎 B 棟

給食経営管理実習室、児童臨床研究センター、情報処理教室、被服機器室などの実験・実習室、研究室などがあります。

③大学校舎 C 棟

体育館、情報処理教室、CALL 教室、健康センター、学生相談センター、研究室などがあります。

④大学校舎 D 棟・大妻講堂

講堂の天井の高さは 15m で、1～3階までである客席は全 1,203 席、舞台はすべてヒノキ材で作られています。

講堂内にはパイプオルガンが設置され、定期的に行っているコンサートなどには荘重な音色が響きわたります。

5階以上には研究室などがあります。

⑤アトリウム

キャンパスライフの中心地。コタカキッチン（学生食堂）と売店があり、休み時間や昼食時はいつもにぎわいます。

⑥図書館棟

総合情報センター〈図書館〉、人間生活文化研究所、草稿・テキスト研究所、大妻女子大学博物館などがあります。

地下1階には学祖大妻コタカ先生の居室を復元し、その生涯をしのぶ遺品を展示した記念室があります。

⑦本館 E 棟

教育支援グループ、資格支援グループ、学生支援グループ、就職・キャリア支援グループ、入試グループ、企画・戦略室、総務センター、財務センター、総合情報センター〈システム管理グループ・メディア教育開発グループ〉、情報処理自習室、講義室、ゼミ室、種々の演習室や実験室、研究室、三井住友銀行のキャッシュコーナーなどがあります。

事務室1階には、パピルスメイト（証明書自動発行機）が設置してあり、稼働時間は平日 8:30～16:40、土曜 8:30～13:10 です。

⑧本館 F 棟

広報・募集グループ、講義室、ゼミ室、アリーナ、実験・実習室、コタカフェ（学生食堂）、売店などがあります。

コミュニティテラスには、パピルスメイト（証明書自動発行機）が設置してあり、稼働時間は平日 8:30～16:40、土曜 8:30～13:10 です。

⑨大学校舎別館（J 棟）

教職総合支援センター、国際センター（国際交流支援グループ）、キャリア教育センター、地域連携推進センター、課外英語力強化プログラム教室があります。

⑩大学校舎 G 棟

講義室、ゼミ室、アクティブラウンジ、研究室などがあります。

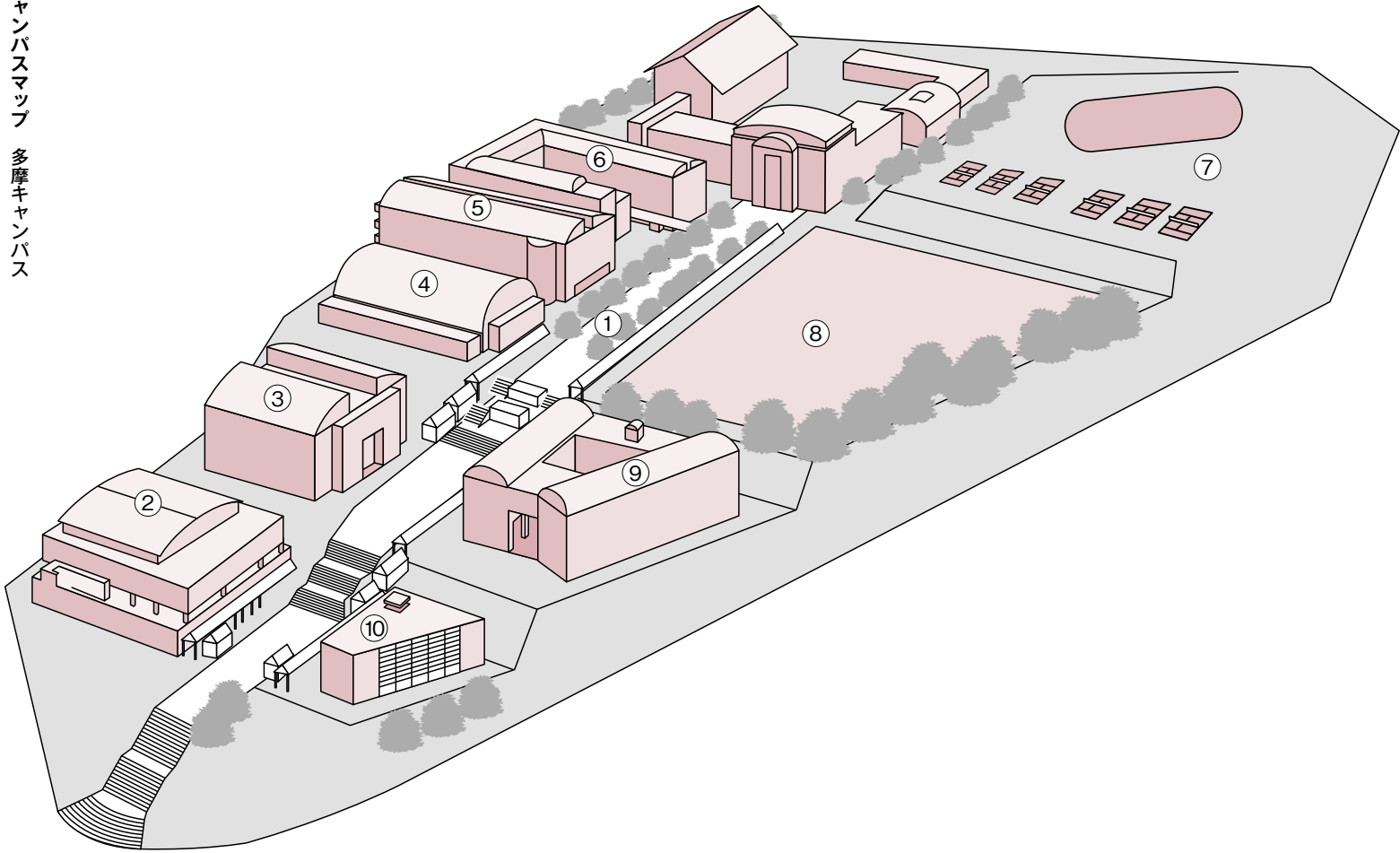
⑪大学校舎 H 棟

講義室、ゼミ室、実験・実習室、研究室などがあります。

⑫大学校舎 K 棟

学友会関係室などがあります。

2 多摩キャンパス



- | | |
|--------------|-----------|
| ① 学園通り | ⑥ 7号館 |
| ② 2号館 (学生会館) | ⑦ 全学共用運動場 |
| ③ 4号館 (図書館棟) | ⑧ 球技場 |
| ④ 5号館 (体育館棟) | ⑨ 3号館 |
| ⑤ 6号館 | ⑩ 1号館 |

① 学園通り

正門から最上段の校舎まで、ケヤキ並木と三角屋根の回廊が続くファッショナブルな通りです。

② 2号館（学生会館）

1階には健康センター、学生相談センター、談話室、部室、掲示場などの学生生活を支援する施設があります。また、パピルスメイト（証明書自動発行機）が設置されています。稼働時間は平日8:50～17:00、土曜8:50～13:30です。2階には集会場（TAMARIBA）、3階には大講義室があります。

③ 4号館（図書館棟）

1階には478席の学生食堂2（コタカ食堂）と事務部（教育・学事支援センター、学生・就職支援センター）があります。事務部内にパピルスメイト（証明書自動発行機）を設置しています。稼働時間は、平日8:50～17:00、土曜8:50～13:30です。2階には事務部（総務・財務センター、地域連携推進室）と情報処理自習室、3・4階には総合情報センター〈図書館〉があります。図書館には開放的な閲覧室やメディアルームがあります。

④ 5号館（体育館棟）

1階にはラウンジ（FOREST CAFE）、購買部、いつでも利用できるトレッドミルを設置したトレーニングルーム、スポーツ教育研究室があります。2階には天井の高い、広々とした体育館があります。

⑤ 6号館

1～4階には講義室、ゼミ室などがあり、1階に就職資料室等、2階には情報処理教室があります。また、3階のTEP（Tama English Program）専用フロアは、ガラス張りの開放的な空間が特徴で、グループワークやディスカッションがしやすいよう可動式の机が設置されています。4階には共生社会文化研究所や各種センターがあります。

⑥ 7号館

1階には学生たちが集うラウンジと講義室があります。また、2・3階には講義室、ゼミ室、情報処理教室、各種実習室、実験室、4階には会議室、各学科・専攻の共同研究室・先生の個人研究室などがあります。

⑦ 全学共用運動場

人工芝のグラウンドの他にテニスコートが6面あり、クラブ活動などで使用しています。また、スポーツフェスティバルもここで行われます。

⑧ 球技場

広大なグラウンドではラクロスをはじめ様々な球技を楽しめます。

⑨ 3号館

1～4階には講義室、ゼミ室などがあります。

⑩ 1号館

1階には心理相談センターがあり、地域の一般の人々の心の悩みの相談施設として設置されています。大学院人間文化研究科臨床心理学専攻の教授陣と臨床心理士や公認心理師の資格を有する専任相談員及び非常勤相談員が相談に応じています。大学院生の実習機関としても利用されています。

2階には講義室などがあります。

また、公開講座会場として、地域社会との交流や知的協力を推進しています。和室は茶道部も使用します。

事務窓口 業務時間

■千代田キャンパス

部 署		場 所	開 室 時 間	
			月曜～金曜	土 曜
教育支援センター	教育支援グループ	本館E棟1階	8:30～16:40	8:30～13:10
	資格支援グループ			
学生支援センター	学生支援グループ	大学校舎別館（J棟） 4階		
	国際交流支援グループ			
就職支援センター	就職・キャリア支援グループ	本館E棟1階		
広報・入試センター	広報・募集グループ	本館F棟G階		
	入試グループ	本館E棟1階		
企画・戦略室				
総務センター		本館E棟2階		
財務センター				
地域連携推進センター		大学校舎別館（J棟） 7階		
健康センター				
学生相談センター	相談室	大学校舎C棟1階	10:00～17:00	10:30～16:00
	談話室			閉 室
総合情報センター	メディア教育開発グループ	本館E棟3階	8:30～16:40	8:30～13:10
	システム管理グループ			
	図書館グループ	図書館棟	8:45～21:00	9:00～17:00

詳しくは図書館ホームページをご覧ください

■多摩キャンパス

部 署		場 所	開 室 時 間	
			月曜～金曜	土 曜
教育・学事支援センター	教育・学事支援グループ	4号館（図書館棟） 1階	8:50～17:00	8:50～13:30
学生・就職支援センター	学生・就職支援グループ			
総務・財務センター	総務・財務グループ	4号館（図書館棟） 2階		
地 域 連 携 推 進 室				
総合情報センター	メディア教育開発グループ	4号館（図書館棟） 3階	8:50～17:00	8:50～13:30
	システム管理グループ			
	図 書 館 グ ル ー プ		9:00～19:00 <small>詳しくは図書館ホームページをご覧ください</small>	9:00～17:00
健 康 セ ン タ ー			8:50～17:50	8:50～14:50
学生相談センター	相 談 室	2号館（学生会館） 1階	10:00～17:00	10:30～15:00
	談 話 室			閉 室

事務窓口 取扱業務内容

部 署	業 務 内 容
教育支援センター	1. 卒業及び修了に関すること 2. 教育課程の編成及び授業科目の履修に関すること 3. 授業時間割に関すること 4. 試験及び学業成績に関すること 5. 科目等履修生、研究生、委託生などに関すること 6. 教室、実験室等の使用に関すること 7. その他教育支援に関すること 8. 学事予定計画の立案、調整に関すること 9. 教授会等に関すること 10. 入学式、卒業式等の式典に関すること 11. 転部等に関すること
	1. 各種免許状、資格の取得に関すること 2. 各種実習、体験の計画及び実施に関すること 3. 教職総合支援センターに関すること
学生支援センター	1. 休学、退学、復学に関すること 2. 旅客運賃割引証、各種証明書に関すること 3. クラス指導主任及び各種学生委員に関すること 4. 住所変更、身分異動に関すること 5. 課外活動、ボランティア活動に関すること 6. 奨学金に関すること 7. 健康管理、学生相談に関すること 8. 学生諸団体に関すること 9. アルバイトに関すること 10. 学生のための諸施設の利用に関すること 11. 学寮及び一人暮らしに関すること 12. 学生教育研究災害傷害保険等に関すること 13. ロッカーの貸与に関すること 14. 学生証の発行に関すること 15. 大妻 Web メール、学内システムアカウントに関すること 16. 卒業証書作成に関すること 17. 在学生・卒業生・退学生の各種証明書に関すること 18. その他学生の福利厚生に関すること

部 署		業 務 内 容
広報・入試センター	入 試 グ ル ー プ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入学試験の実施に関すること 2. 編入学及び再入学試験に関すること 3. 入学者選抜制度の調査、企画、開発、改善及び実施に関すること
	広報・募集グループ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生募集の企画、開発、改善に関すること 2. 学生募集広報（媒体広告、進学相談会、印刷物、オープンキャンパス等）の企画及び実施に関すること
就職支援センター	就 職 ・ キ ャ リ ア 支 援 グ ル ー プ	<ol style="list-style-type: none"> 1. キャリア支援に関すること 2. キャリア教育センターの事務に関すること 3. インターンシップに関すること 4. 職業選択の情報の入手及び指導に関すること 5. 就職希望の登録に関すること 6. 就職総合ガイダンス等の実施に関すること 7. 就職特別講座等の実施に関すること（業界研究、企業研究、公務員講座等） 8. 就職相談及びあっせんに関すること 9. 学校推薦書の発行に関すること 10. 卒業後の進路調査、追跡調査に関すること 11. 既卒者の職業あっせんに関すること

大学からの連絡・通知

1 オリエンテーション・ガイダンスには必ず出席しましょう

大学では、すべて自分自身の責任において行動しなければなりません。オリエンテーションやガイダンスは、履修関係や学生生活に関する資料を配付し、説明を行う大切な行事です。欠席すると履修や成績に関する大切な手続きが遅れたり、手続きができなくなってしまうこともあり得ますので、必ず出席し担任または担当者の指導を受け、必要な事項を正しく判断できるようにしてください。

2 掲示板を確認しましょう

大学からの連絡・通知などは、すべて掲示によって行います。必ず自分自身で毎日掲示を確認してください。掲示の見落としによって生じる事態は自分自身の責任となります。わからないことがあれば友達同士だけで確認し合ったりせず、担当部署窓口に足を運び、直接聞くようにしてください。

なお、安易に電話で問い合わせることは控えてください。大学では、間違った情報等の誤解を招く恐れがあるため、電話での問い合わせには一切応じていません。

また、本学では「大妻 Web メール」という、学外でもパソコンがあれば電子メールが送受信できるシステムがあり、休講情報や教室変更情報など一部の情報を電子メールでお知らせしています。各自で設定すれば、携帯電話にも転送可能です。大妻 Web メールでは、重要な連絡が届くこともありますので、常時内容を確認してください。

詳細は大妻 Web メールトップ画面にリンクのある「大妻 Web メールヘルプ」を参照してください。

なお、電子メールでの問い合わせには一切応じていません。

【大妻 Web メール アクセス方法】

パソコンから


大妻女子大学ホームページの「在学生の方」(<http://www.otsuma.ac.jp/enrolled-index>) から、大妻 Web メールアイコンをクリックすると、大妻 Web メールにログインできます。

スマートフォンから

<https://wmail.cst.otsuma.ac.jp/s/> にアクセスしてログインしてください。

携帯電話から

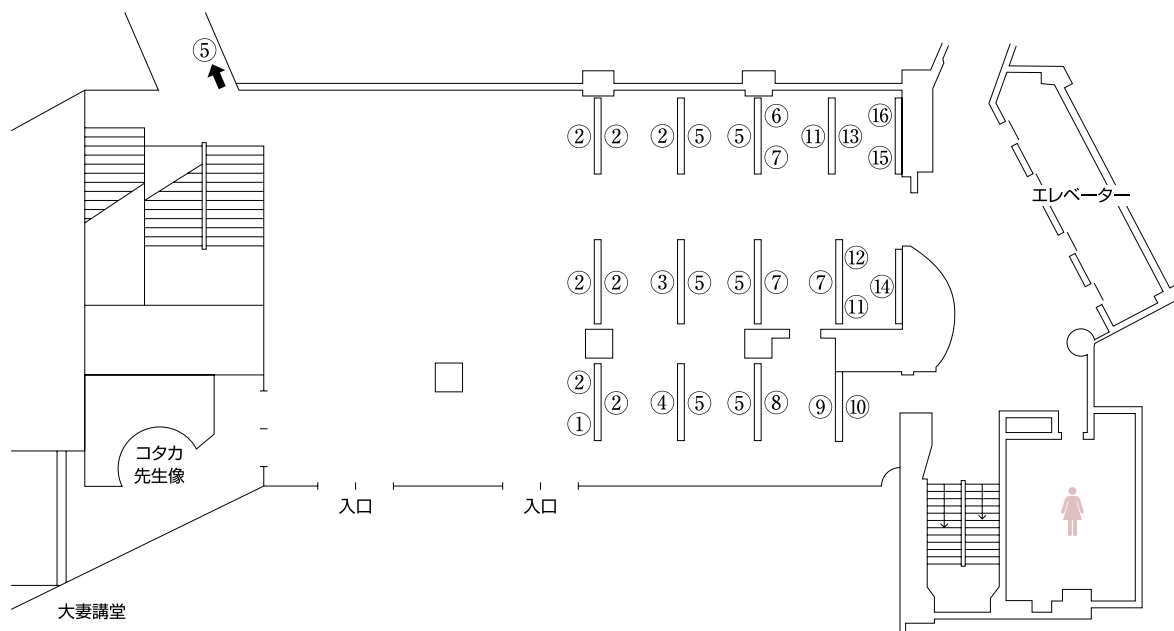
<http://wmail.cst.otsuma.ac.jp/m/> にアクセスしてログインしてください。

詳細は、大妻 Web メールにログインしてをクリックし、「ヘルプ」を参照してください。
「ヘルプ」は PC/ ケータイどちらでもログインすれば参照可能です。

掲示場 見取図

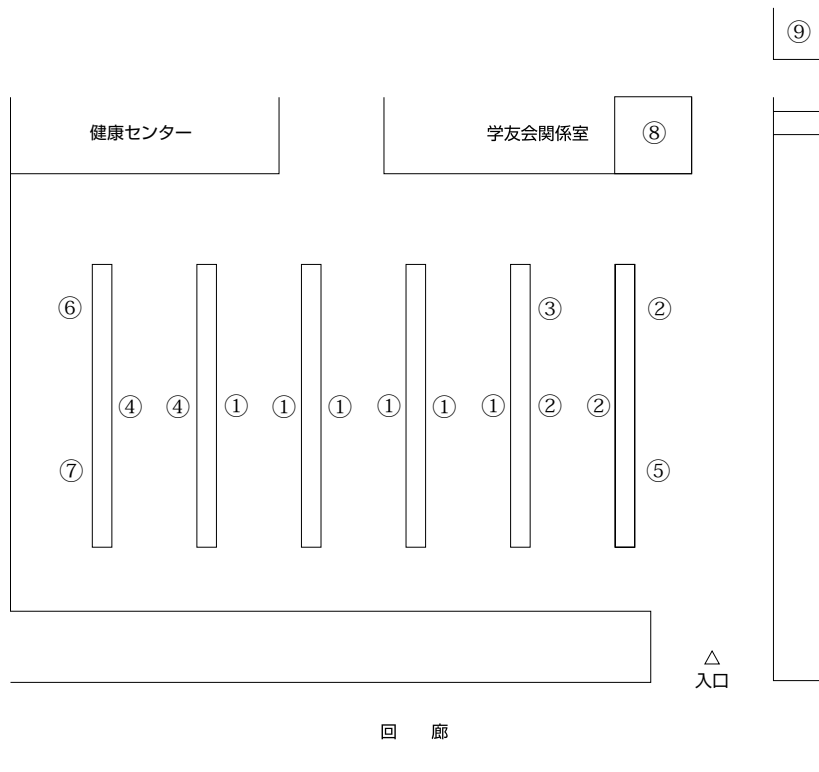
1 千代田キャンパス（大学校舎 B 棟 1 階）

- ① 広報・入試センター
- ② 教育支援グループ
- ③ 英語教育研究所
- ④ 資格支援グループ
- ⑤ 就職支援センター
- ⑥ 学友会
- ⑦ 学生支援グループ
- ⑧ 家政系（学部・短大）
- ⑨ 文系（学部・短大）
- ⑩ 社会情報学部・比較文化学部
- ⑪ 国際センター（国際交流支援グループ）
- ⑫ 総合情報センター〈図書館〉
- ⑬ 総合情報センター〈メディア教育開発センター〉
- ⑭ 総務センター・財務センター
- ⑮ 学生相談センター
- ⑯ 健康センター



2 多摩キャンパス（2号館（学生会館）1階）

- ①教育・学事支援グループ……………履修手続・授業（試験・休講・補講等）に関する必要な連絡事項
卒業生発表等
- ②学生・就職支援グループ……………奨学金・学生生活に必要な連絡事項
- ③学生・就職支援グループ……………海外研修、留学関係等
- ④学生・就職支援グループ……………就職関係、就職講座、学校推薦、大学提携のインターンシップ情報等
- ⑤事務部・健康センター……………学生呼び出し
- ⑥健康センター・学生相談センター……………利用案内、健康に関する情報等
- ⑦総合情報センター〈図書館〉・総合情報センター〈メディア教育開発センター〉……………利用案内、お知らせ等
- ⑧パピルスメイト（証明書自動発行機）
- ⑨課外活動団体、文化部・体育部連絡委員会通知
- ※就職用の求人票やセミナーの案内については6号館1階就職資料室で確認してください。



大学で学ぶためには	
授業科目について	46
単位制度と学修時間	48
卒業するために必要な要件	50
1年間の履修登録単位数の上限	52
標準履修単位数	52
第3年次進級に必要な要件	55
卒業の認定	55
卒業延期と前期末卒業	56
早期卒業について	56
履修登録・受講者調整	
履修計画	57
履修登録	57
受講者調整	60
学生時間割表	61
修正履修登録	61
履修中止による履修取消制度	62
後期履修登録	63
授業について	
授業時間	64
授業を受けるにあたっての注意事項	64
出席・欠席	65
出席管理カードリーダーについて	66
休講・補講・教室変更・時間割変更	67
試験について	
受験資格	68
定期試験	68
授業期間中の試験	70
レポートについて	71
成績評価	71
履修結果公開	71
追試験	72
再試験	74
追・再試験結果公開	74
成績と単位認定について	
成績の評価基準	75
成績通知	76
成績評価確認制度について	77
GPAについて	77
入学前に修得した単位の認定について	81
大学以外の教育施設等における学修に対する単位認定について	81
社会体験実習の単位認定について	83

大学では、開講されている授業科目を一定のルールに従って選択して受講し、必要な科目をすべて学び終えなければ卒業することができません。ここでは、各学部・学科で定められている履修のルールと、卒業に必要な要件を説明しています。単位制の仕組みや履修計画の立て方などの基本的なことからについて解説しているほか、履修登録の手続き、追・再試験や再履修、レポートの提出方法などについても説明してありますので、新1年生は履修登録をする前に、しっかりと読んでおいてください。また、学年が進んでも、授業科目を選択するときに、卒業要件の再確認が必要となってきます。その際にも、この項目で解説されていることが役に立つはずですよ。

大学で学ぶためには

1 授業科目について

本学では、それぞれの学部・学科の教育理念に基づいて、学生が専門分野の知識や幅広い教養を卒業するまでに効果的に身につけることができるように、様々な授業科目（教育課程＝カリキュラム）を開講しています。この教育課程については、P88以降を参照してください。

科目区分について

本学の授業科目は、次の区分に分かれています。

(1) 全学共通科目

全学共通科目は女子教育の伝統を基にした総合的な人間教育を主目的として全学的な共通理念のもとに設定され、基礎科目、教養科目、外国語科目、地域文化・国際理解科目の4つの科目系列からなっています。

社会環境の変化に対応するために必要なさまざまな分野の基礎教養を身につけ、総合的な判断力を養い、総合的な人間形成を図るために設けられた科目です。

- ①基礎科目：大学生として必要な基礎的な能力、素養の育成を図る科目系列です。
- ②教養科目：現代人として必要な総合的な知力を養う科目系列で全学共通科目の中核となっています。
- ③外国語科目：グローバル化する社会に必要なコミュニケーション能力を習得する科目系列です。
- ④地域文化・国際理解科目：学外及び海外において課外活動・語学研修など各自が自分にあったプログラムを受講・体験する科目系列です。

(2) 専門教育科目

専門教育科目は、それぞれの学部・学科・専攻の教育理念を達成するために設けられた科目です。

必修、選択必修、選択といった科目分類を見極めたくうえで、自分が履修する科目を選んでください。

(3) 諸課程科目

①教職課程科目

教員免許状を取得するための科目で、「教科及び教科の指導法に関する科目」と「教育の基礎的理解に関する科目」等があります。

②図書館学課程科目

図書館司書、学校図書館司書教諭の資格を取得するための科目です。

③博物館学芸員課程科目

博物館学芸員の資格を取得するための科目です。

④栄養士及び管理栄養士課程科目

栄養士、管理栄養士の資格を取得するための科目です。

⑤保育士資格科目

保育士の資格を取得するための科目です。

⑥1級衣料管理士資格科目

1級衣料管理士の資格を取得するための科目です。

科目分類について

(1) 必修科目

教育目的を達成するために必ず単位を修得しなければならない科目です。

(2) 選択必修科目

指定された科目群の中から科目を選択し、決められた科目数及び単位数を修得しなければならない科目です。

(3) 選択科目

自由に選択し単位を修得することができる科目です。

授業形態について

授業科目は5つの形態に分類されます。

講義	教員が学生に対して、学問研究の内容を説明することにより知識を授ける授業形態です。
演習	教員の講義と共に、学生も討議・研究発表等を行いつつ指導を受ける授業形態です。
実験	理論や推論が正しいか一定の条件で試してみる授業形態です。
実習	学んだ知識をもとに実際の場で学習する授業形態です。
実技	学んだ知識をもとに実地の技術や実技を行う授業形態です。

授業期間について

授業期間は15週にわたる期間を単位として行います。本学では前期・後期の区分がこれにあたります。

(1) 半期科目

前期または後期の半期間を通して行う授業科目です。

(2) 通年科目

前期及び後期の1年間を通して行う授業科目です。

授業内容について

この授業はどんなことをし、教科書はどんなものが必要なのか、成績評価はどのように行われるのかといった、授業内容に関する具体的情報については、ホームページに掲載されている「シラバス（授業内容）」で確認してください。

各学部のサイト（URL）

家政学部

<http://www.home.otsuma.ac.jp/>

文学部

<http://www.lit.otsuma.ac.jp/>

社会情報学部

<http://www.sis.otsuma.ac.jp/>

人間関係学部

<http://www.hum.otsuma.ac.jp/>

比較文化学部

<http://www.ccs.otsuma.ac.jp/>

短期大学部

<http://www.jun.otsuma.ac.jp/>

2 単位制度と学修時間

単位とは

単位とは、科目を修得するために必要な学修量を示すものです。本学では、1単位の授業科目は45時間の学修を必要とすることを原則としています。学修時間には、授業時間だけでなく、予習・復習等教室外の自修学修も含まれます。

単位の計算方法

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とします。

なお、15時間の授業の場合は30時間の自修学修、30時間の授業の場合15時間の自修学修が必要です。

(2) 実験、実習及び実技等については30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とします。なお、30時間の授業の場合は、15時間の自修学修が必要です。

(3) 卒業論文、卒業研究、卒業制作等については、学修の成果を評価するものとし、所定の単位を与えます。

※各科目で十分な学修成果をあげ、単位を修得するためには、単位数と学修時間の関係を理解することが大切です。教室で講義を受けるということは、自主的な予習・復習が前提となっていることを覚えておいてください。

単位と学修時間

本学では、各時限90分の授業が行われますが、単位数を計算する上では、90分の授業時間を2時間相当の学修時間とみなします。これに基づき授業科目の単位数については、授業形態、授業の教育効果や授業時間外の予習・復習などの自修学修を考慮して、以下のように定めています。

(1) **講義及び演習科目**…15～30時間の授業をもって1単位とする。

(例1) 「○○学」という科目で半期開講2単位の場合(15時間の授業をもって1単位とする講義科目)

週1回の授業(2時間)が半期間(15週)続き、この授業のために毎週4時間の自修学修が必要になります。これらの授業、自修の時間を合計すると下表のとおりで90時間となります。45時間の学修時間をもって1単位とするため、90時間は2単位となります。

時間数の計算方法

	学修時間	時間数合計
授 業	2 (時間) × 15 (週)	30
自 修	4 (時間) × 15 (週)	60
計		90

(例2) 「○○演習」という科目で半期開講1単位の場合(30時間の授業をもって1単位とする演習科目)

週1回の授業(2時間)が半期間(15週)続き、この授業のために毎週1時間の自修学修が必要になります。これらの授業、自修の時間を合計すると半期間で45時間となります。45時間の学修時間をもって1単位となります。

時間数の計算方法

	学修時間	時間数合計
授 業	2 (時間) × 15 (週)	30
自 修	1 (時間) × 15 (週)	15
計		45

(2) 実験・実習科目…30～45時間の授業をもって1単位とする。

(例1) 「〇〇学実習」という科目で半期開講2単位の場合(30時間の授業をもって1単位とする実習科目)
週1回の授業(4時間)が半期間(15週)続き、この授業のために毎週2時間の自修学修が必要になります。これらの授業、自修の時間を合計すると半期間で90時間となります。45時間の学修時間をもって1単位とするため、90時間は2単位となります。

時間数の計算方法

	学修時間	時間数合計
授 業	4(時間) × 15(週)	60
自 修	2(時間) × 15(週)	30
計		90

(例2) 「〇〇学実験」という科目で半期開講1単位の場合(45時間の授業をもって1単位とする実験科目)
週1回の授業(4時間)が半期間(15週)続き、授業時間は60時間となりますが、この中には実験の準備や片付けの時間も含まれることから、実学修時間である45時間をもって1単位としています。

時間数の計算方法

	学修時間	時間数合計
授 業	4(時間) × 15(週)	60
計		60

(3) 講義及び実験・実習科目…15時間の授業をもって1単位とする講義科目と45時間の授業をもって1単位とする実験・実習科目又は、15時間の授業をもって1単位とする演習科目との組合せ。

(例1) 「〇〇学及び実習」という科目で半期開講2単位の場合
週1回の授業(4時間)が半期間(15週)続き、この科目は授業4時間のうち1時間が講義、3時間が実習ということになるため、毎週2時間の自修学修が必要となります。これらの授業、自修の時間を合計すると半期間で90時間となります。45時間の学修時間をもって1単位とするため、90時間は2単位となります。

時間数の計算方法

	学修時間	時間数合計
授 業	[1(時間) + 3(時間)] × 15(週)	60
自 修	2(時間) × 15(週)	30
計		90

(例2) 「〇〇学及び演習」という科目で半期開講2単位の場合
週1回の授業(2時間)が半期間(15週)続き、この科目は授業2時間のうち0.5時間が講義、1.5時間が演習ということになるため、毎週4時間の自修学修が必要となります。これらの授業、自修の時間を合計すると年間で90時間となります。45時間の学修時間をもって1単位とするため、90時間は2単位となります。

時間数の計算方法

	学修時間	時間数合計
授 業	[0.5(時間) + 1.5(時間)] × 15(週)	30
自 修	4(時間) × 15(週)	60
計		90

3 卒業するために必要な要件

本学を卒業するためには、修業年限（休学期間を除いて4年以上在学すること）を満たし、各学科で定められている授業科目及び卒業必要単位数を次のとおり修得しなければなりません。

卒業必要単位数

家政学部

区 分		被服学科	食物学科		児童学科		ライフデザイン 学科						
			食物学専攻	管理栄養士専攻	児童学専攻	児童教育専攻							
全学共通科目	基礎科目	I 女性とキャンパスライフ	3	3	3	3	3						
		II リテラシー	2	2	2	2	4						
		III キャリア	2	2	2	2	2						
	教養科目	I 人間と文化	10	9	9	9	9	15					
		II 社会と生活							4	4	10	10	8
		III 自然と科学							6	6			
		IV スポーツ											
		外国語	2	2	2	2	2	2					
		地域文化・国際理解											
	小 計		34	28	28	28	28	34					
専門教育科目	家政学部共通	8	4	4	4	4	6						
	必修	34	62	91	102	96	30						
	選択必修	—	—	2	8	—	1						
	選択	48	30	14	0	25	53						
小 計		90	96	111	114	125	90						
合 計		124	124	139	142	153	124						

文学部

区 分		日本文学科	英語英文学科	コミュニケーション文化学科						
				英語専修	中国語専修					
全学共通科目	基礎科目	I 女性とキャンパスライフ	3	3	3	3				
		II リテラシー	2	2	2	2				
		III キャリア	2	2	2	2				
	教養科目	I 人間と文化	10	10	10	10				
		II 社会と生活					8	8	10	10
		III 自然と科学								
		IV スポーツ								
		外国語	2	12	12	10				
		地域文化・国際理解								
	小 計		37	37	37	37				
専門教育科目	必修	46	52	36	36					
	選択必修	22	(8)	24 (8)	24 (8)					
	選択	20	28	30	30					
	小 計	88	88	90	90					
合 計		125	125	127	127					

選択必修科目の（ ）の単位は文学部共通科目の中から必ず修得すること。

社会情報学部

区 分		社会情報学科				
		社会生活情報学専攻	環境情報学専攻	情報デザイン専攻		
全学共通科目	基礎科目	I 女性とキャンパスライフ	1 } 4	1 } 4	1 } 4	
		II リテラシー				
		III キャリア				
	教養科目	I 人間と文化	} 8	} 11	} 8	} 11
		II 社会と生活				
		III 自然と科学				
		IV スポーツ				
外国語		10	10	10		
地域文化・国際理解						
小 計		34	34	34		
学部共通科目	必 修	8	8	10		
	選 択	6	6	6		
	小 計	14	14	16		
専門教育科目	必 修	26	24	40		
	選 択 必 修	—	4	—		
	選 択	50	48	34		
	小 計	76	76	74		
合 計		124	124	124		

比較文化学部

区 分		比較文化学科	
全学共通科目	基礎科目	I 女性とキャンパスライフ	3 } 6
		II リテラシー	
		III キャリア	
	教養科目	I 人間と文化	} 6
		II 社会と生活	
		III 自然と科学	
		IV スポーツ	
外国語		14	
地域文化・国際理解			
小 計		38	
学部共通科目	必 修	4	
	選 択	28	
	小 計	32	
専門教育科目	必 修	22 (18)	
	選 択	34 (38)	
	小 計	56	
合 計		126	

専門教育科目の（ ）はヨーロッパ文化コースの単位数である。

修業年限と在学年限

修業年限とは、教育課程を修了して卒業するために必要な年数で、休学期間を除いて4年間の在学年数が必要です。在学年限とは、本学に在学できる最長年数のことで、休学期間を除き、8年が限度です。

こんなときは？

Question & Answer

Q1 卒業するためにはどうしたらいいですか？

A1 卒業するためには、修業年限を満たし、学部・学科ごとに定められた履修方法に従い、所定の単位以上を修得することが必要です。

Q2 卒業に必要な単位を超えて修得した単位はどうなりますか？

A2 修得した単位は、すべて成績として記録されます。

4 1年間の履修登録単位数の上限

一度に多くの科目を履修すると自宅での予習・復習の学習時間を確保することができず学習効果を妨げてしまいますので、1年間に履修できる単位数の上限を定めています。

1年間の履修登録単位数の上限

家政学部・文学部・社会情報学部・比較文化学部

(2020年度入学生から適用)

学部・学科・専攻		履修登録単位数の上限				備考
		1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	
家政学部	被服学科	45	42	40	40	
	食物学科食物学専攻	54	45	45	45	
	管理栄養士専攻	56	45	45	45	
	児童学科児童学専攻	56	50	46	38	
	児童教育専攻	58	46	50	42	
	ライフデザイン学科	40	38	38	38	
文学部	日本文学科	39	36	40	40	
	英語英文学科	43	40	45	45	
	コミュニケーション文化学科	40	40	40	40	
社会情報学部	社会情報学科社会生活情報学専攻	44	46	46	46	
	環境情報学専攻	42	46	46	46	
	情報デザイン専攻	44	48	52	46	
比較文化学部	比較文化学科	45	48	46	46	

※諸課程科目及び家政学部の学外実習科目は、この単位に含まれません。

5 標準履修単位数

本学では、各学年において履修すべき単位の標準（目安）を定めています。卒業年次生は、標準履修単位数が卒業要件となりますので、注意してください（児童学科児童教育専攻を除く）。

配当学年により授業時間割が変動するため、標準履修単位数を超える場合や達しない場合があります。

被服学科

(2019年度入学生から適用)

学年	区分	全学共通科目			小計	家政学部 共通	専門必修	専門選択	小計	合計
		必修	選択必修	選択						
1 学年		3	16	0	19	2	14	6	22	41
2 学年		3	16	11	30	8	24	18	50	80
3 学年		3	16	13	32	8	26	48	82	114
4 学年		3	16	15	34	8	34	48	90	124

食物学科 食物学専攻

(2019年度入学生から適用)

区分 学年	全学共通科目			小計	家政学部 共 通	専門必修	専門選択	小計	合計
	必修	選択必修	選択						
1 学年	3	16	3	22	2	22	4	28	50
2 学年	3	16	9	28	4	44	12	60	88
3 学年	3	16	9	28	4	58	22	84	112
4 学年	3	16	9	28	4	62	30	96	124

食物学科 管理栄養士専攻

(2019年度入学生から適用)

区分 学年	全学共通科目			小計	家政学部 共 通	専門必修	専 門 選択必修	専門選択	小計	合計
	必修	選択必修	選択							
1 学年	3	16	3	22	2	23	0	2	27	49
2 学年	3	16	7	26	4	59	0	4	67	93
3 学年	3	16	9	28	4	89	2	10	105	133
4 学年	3	16	9	28	4	91	2	14	111	139

児童学科 児童学専攻

(2019年度入学生から適用)

区分 学年	全学共通科目			小計	家政学部 共 通	専門必修	専 門 選択必修	小計	合計
	必修	選択必修	選択						
1 学年	3	16	1	20	2	32	2	36	56
2 学年	3	16	7	26	4	58	4	66	92
3 学年	3	16	9	28	4	88	6	98	126
4 学年	3	16	9	28	4	102	8	114	142

児童学科 児童教育専攻

(2020年度入学生から適用)

区分 学年	全学共通科目			小計	家政学部 共 通	専門必修	専 門 選択必修	小計	合計
	必修	選択必修	選択						
1 学年	3	16	1	20	2	34	2	38	58
2 学年	3	16	9	28	4	56	8	68	96
3 学年	3	16	9	28	4	70	※36	110	138
4 学年	3	16	9	28	4	96	※42	※142	※170

※卒業に必要な単位数を上回ります。

ライフデザイン学科

(2019年度入学生から適用)

区分 学年	全学共通科目			小計	家政学部 共 通	専門必修	専 門 選択必修	専門選択	小計	合計
	必修	選択必修	選択							
1 学年	3	16	0	19	2	14	1	4	21	40
2 学年	3	16	7	26	6	20	1	22	49	75
3 学年	3	16	15	34	6	26	1	37	70	104
4 学年	3	16	15	34	6	30	1	53	90	124

日本文学科

(2019年度入学生から適用)

区分 学年	全学共通科目			小計	専門必修	専 門 選択必修	専門選択	小計	合計
	必修	選択必修	選択						
1 学年	3	12	0	15	24	0	0	24	39
2 学年	3	16	10	29	32	10	0	42	71
3 学年	3	16	18	37	36	22	10	68	105
4 学年	3	16	18	37	46	22	20	88	125

英語英文学科

(2019年度入学生から適用)

区分 学年	全学共通科目			小計	専門必修	専門選択必修 (文学部共通)	専門選択	小計	合計
	必修	選択必修	選択						
1 学年	7	14	0	21	18	0	4	22	43
2 学年	11	18	8	37	38	0	8	46	83
3 学年	11	18	8	37	42	4	24	70	107
4 学年	11	18	8	37	52	8	28	88	125

コミュニケーション文化学科 英語専修

(2019年度入学生から適用)

区分 学年	全学共通科目			小計	専門必修	専門選択必修	専門選択必修 (文学部共通)	専門選択	小計	合計
	必修	選択必修	選択							
1 学年	7	14	0	21	14	0	0	0	14	35
2 学年	11	18	2	31	22	16	0	4	42	73
3 学年	11	18	8	37	26	16	4	20	66	103
4 学年	11	18	8	37	36	16	8	30	90	127

コミュニケーション文化学科 中国語専修

(2019年度入学生から適用)

区分 学年	全学共通科目			小計	専門必修	専門選択必修	専門選択必修 (文学部共通)	専門選択	小計	合計
	必修	選択必修	選択							
1 学年	9	14	0	23	14	0	0	0	14	37
2 学年	13	14	8	35	22	16	0	4	42	77
3 学年	13	14	10	37	26	16	4	20	66	103
4 学年	13	14	10	37	36	16	8	30	90	127

社会情報学科 社会生活情報学専攻

(2019年度入学生から適用)

区分 学年	全学共通			小計	学部共通		専門教育			小計	合計
	必修	選択必修	選択		必修	選択	必修	選択必修	選択		
1 学年	5	12	0	17	8	2	8	0	8	26	43
2 学年	11	12	7	30	8	4	12	0	28	52	82
3 学年	11	12	11	34	8	6	16	0	44	74	108
4 学年	11	12	11	34	8	6	26	0	50	90	124

社会情報学科 環境情報学専攻

(2020年度入学生から適用)

区分 学年	全学共通			小計	学部共通		専門教育			小計	合計
	必修	選択必修	選択		必修	選択	必修	選択必修	選択		
1 学年	5	12	0	17	8	2	6	0	8	24	41
2 学年	11	12	11	34	8	4	10	0	24	46	80
3 学年	11	12	11	34	8	6	14	4	44	76	110
4 学年	11	12	11	34	8	6	24	4	48	90	124

社会情報学科 情報デザイン専攻

(2019年度入学生から適用)

区分 学年	全学共通			小計	学部共通		専門教育			小計	合計
	必修	選択必修	選択		必修	選択	必修	選択必修	選択		
1 学年	5	12	1	18	10	2	12	0	0	24	42
2 学年	11	12	9	32	10	4	22	0	14	50	82
3 学年	11	12	11	34	10	6	30	0	34	80	114
4 学年	11	12	11	34	10	6	40	0	34	90	124

比較文化学科

(2020年度入学生から適用)

区分 学年	全学共通			小計	学部共通			専門教育					合計	
	必修	選択必修	選択		日本・国際	地域・異文化	小計	基礎	文化研究	言語	関連	セミナー		小計
1 学年	9	16	5	30	8	2	10	0	0	0	0	0	0	40
2 学年	15	16	7	38	10	14	24	12	0	2	4	0	18	80
3 学年	15	16	7	38	12	20	32	12	8	6	12	0	38	108
4 学年	15	16	7	38	12	20	32	12	12	8	14	10	56	126

6 第3年次進級に必要な要件

比較文化学部は第2年次末までに、所定の単位数を下表のとおり履修しなければ、第3年次に進級することができません。

比較文化学部

学科・専攻		区分	全学共通（外国語）	学部共通	専門教育	合計
		最低必要単位数	比較文化学部	※ 24 (6)		20

※全学共通科目24単位のうち、外国語科目を最低6単位修得していること。

こんなときは？

Question & Answer

Q1 3年生に進級できるかは、いつ頃どうやってわかりますか？

A1 比較文化学科には、第3年次進級要件があります。第3年次進級は、3月初旬の教授会で審議され、認定します。第3年次進級が認められなかった場合は、3月中旬頃保証人宛に、進級延期の通知をします。次年度の進路については、所定の期間内に手続きをしてください。

7 卒業の認定

卒業要件を満たした学生には、教授会における審議を経て、卒業を認定します。卒業の認定を受けた学生には、学士の学位が授与されます。

こんなときは？

Question & Answer

Q1 卒業できるかどうかは、いつ頃どうやってわかりますか？

A1 卒業は3月初旬の教授会における審議を経て、認定します。卒業が認定された学生は「卒業生氏名発表日」に大妻 Web メールにて発表します。卒業が認められなかった場合は、3月中旬頃保証人宛に、卒業延期の通知をします。次年度の進路について、所定の期間内に手続きをしてください。

Q2 卒業証書授与日や卒業証書・学位記授与式に出席しなくてもいいですか？

A2 卒業証書授与日や卒業証書・学位記授与式は必ず出席してください。やむを得ず出席できない場合は、卒業証書の受渡方法を教育支援グループに相談してください。

8 卒業延期と前期末卒業

卒業延期

4年次末までに卒業するために必要な単位数を満たしていない、もしくは、休学等によって在学年数が修業年限の4年を満たしていない場合、教授会における審議を経て卒業が延期になります。

- 1 卒業延期の判定を受けた学生には、3月中旬頃に保証人宛に通知します。
- 2 今後の修学を続けるかどうかを至急保証人及びクラス指導主任と相談し、修学を継続する場合は、所定の日時までに「修学継続届」を教育支援グループに提出し、所定の授業料を期日までに納入してください。

前期末卒業

前年度卒業延期となり修学を継続した学生が、当年度の前期で卒業要件を満たした場合、9月14日付の卒業が認められます。

こんなときは？

Question & Answer

Q1 卒業できなかつたらどうなりますか？

A1 次年度にもう一度卒業学年の学科指定クラスに入ります。次年度前期で卒業要件を満たすことができれば、9月14日付の卒業が認められます。

9 早期卒業について

本学に3年以上在学し、卒業に必要な単位を優秀な成績をもって修得したと認められる者については、早期に卒業を認めることがあります。

履修登録・受講者調整

1 履修計画

大学における学修の特徴は、多くの科目の中から各自が履修科目を選択できることです。履修登録の際は、「履修ガイド」や「シラバス（授業内容）」を熟読し、授業時間割表から履修計画をたてましょう。

履修とは

履修とは、みなさんが大学を卒業するのに必要な単位を修得するために、定められた授業を受けて一定の成果を修めることをいいます。

履修地

千代田キャンパスで履修します。

授業時間割表について

学部・学科・専攻・学年ごとに時間割を作成しています。履修したい科目を選択するにあたっては、自分のクラス的时间割表に従ってください。

「シラバス（授業内容）」の利用のしかた

科目・担当教員ごとに「授業の概要、ねらい」・「到達目標」・「授業内容とスケジュール」・「授業時間外の学習（予習・復習等）」・「成績評価の方法及び基準」などいろいろな情報が掲載されています。特に「授業内容とスケジュール」をよく読んで、履修登録の参考にしましょう。

シラバス（授業内容）は、「UNIVERSAL PASSPORT」で閲覧することができます。

こんなときは？

Question & Answer

Q1 時間割はいつ発表されますか？

A1 新入生については、3月末頃ご自宅に時間割表等をお送りします。在学生については、4月ガイダンス時に時間割表を配付します。

2 履修登録

履修登録とは、年度始めに履修する授業科目を届け出る重要な手続きです。

履修登録のしかた

基本的に履修登録は大妻女子大学ポータルサイト「UNIVERSAL PASSPORT」（通称：UNIPA）で行います。登録方法の詳細は4月ガイダンス時に「UNIVERSAL PASSPORT 操作説明書」を配付しますので確認してください。

指定クラス外履修登録について

原則として、クラス指定がある科目については自分の所属するクラスの科目しか履修することはできませんが、前年度において単位を修得できなかった卒業要件に関わる科目を、時間割の都合上、自分のクラスとは異なるクラスで履修をしなければならない場合などは、所属する学科・専攻が他のクラスでの履修を特別に認めることがあります。

指定クラス外履修登録については、所属する学科・専攻の指示に従ってください。

履修登録の際の注意事項

- (1) 履修登録は必ず本人が行ってください。所定の期日に履修登録を行わなかった場合は、その学年の履修を放棄したものとみなします。
- (2) 前期、通年及び後期開講科目すべてを年度始めに履修登録してください。
- (3) 履修登録した科目でなければ、単位を修得することはできません。
- (4) 同一学期・曜日・時限に2科目以上履修登録することはできません。
- (5) 単位を既に修得した同一科目を再度履修することはできません。

大妻女子大学ポータルサイト「UNIVERSAL PASSPORT」(通称:UNIPA)について

大妻女子大学ポータルサイト「UNIVERSAL PASSPORT」(通称:UNIPA)では、履修登録のほかに、大学からのお知らせ・休講・教室変更情報の確認や、出欠状況・成績照会、追・再試験エントリーなどを行うことができます。

詳しい操作方法については、1年次に配付する「UNIVERSAL PASSPORT 操作説明書」を参照してください。なお、「UNIVERSAL PASSPORT」はパソコンでの閲覧・操作のほか、スマートフォンにも対応していますが、動作の保障ができないため、パソコンでの閲覧・操作を推奨します。

「UNIPA」URL : <https://unipa.otsuma.ac.jp>

こんなときは?

Question & Answer

Q1 1年生の間にどれだけの単位数を登録したらいいのかわかりません。

A1 履修ガイドのP52 標準履修単位数を目安にするとよいでしょう。ただし1年間で登録できる単位数には上限がありますので注意してください。

Q2 他キャンパスの全学共通科目を履修することはできますか？

A2 指定された科目に限り、後期に履修登録することができます。

Q3 履修できるはずの科目が自分の学年の時間割表に載っていないのですが、履修することはできませんか？

A3 各科目は配当学年の最も下級の学年の時間割表にのみ掲載されています。(例えば「2・3・4年次配当の科目」であれば2年次の時間割表にのみ掲載されています。)カリキュラム上履修できる科目であれば、Web履修登録画面にはその科目が表示されますので履修することができます。

Q4 時間割表の中に同じ科目がいくつもありますが、全て履修しなければならないのですか？

A4 時間割表の授業コード欄を見てください。同じ名前で同じ授業コードの科目であれば、それは1つの授業を複数の時間に分けて行っているのだから全て履修しなければなりません。同じ名前の科目でも授業コードが違う場合は、いずれか1つだけを履修することになります。

こんな
ときは？

Question & Answer

Q5 クラスが指定されている科目について自分のクラスではなく、他のクラスで履修できますか？

A5 原則として、履修することはできません。ただし、自分のクラスで開講されている科目が、履修しなければならない下級学年の科目や諸課程科目と時間割上重複した場合は、他のクラスでの履修を認めます。「指定クラス外履修登録について」を参照し、不明な点があれば教育支援グループで確認してください。

Q6 1年生のときに単位を修得できなかった科目を再履修したいのですが、現在の1年生には、その科目が開かれていません。どうしたらよいでしょうか？

A6 大学は常にカリキュラムの見直しを行い、入学年度ごとにカリキュラムが異なることがあります。自分の履修すべき科目が学年進行の過程でなくなった場合は、特別に新しいカリキュラムを読み替えて履修できるように対応します。読み替えが必要な科目については、教育支援グループで確認してください。

Q7 必修科目の単位を落としてしまいました。

A7 次の学期以降、再度、履修登録が必要です。授業時間割表でその科目が何曜日の何時限目に開講されているのか確認し、登録してください。

3 受講者調整

授業科目には、必修科目、選択必修科目、選択科目の3種類があります。必修科目は必ず履修しなければならない授業であり、その授業はクラスや学科単位で行うため、あらかじめ何人の学生が授業を受けるのか履修登録前に分かりますので、それに見合った授業内容や教室を準備することができます。

しかし、選択必修科目・選択科目は学生のみなさんが受講したい科目を選ぶため、あらかじめ履修者数を知ることができません。したがって履修登録した結果、ある科目があまりにも人数が多く授業を運営できない、また予定した教室の座席数では不足するなどの不都合が生じた場合に受講者を調整することがあります。受講者調整は、できるだけ良好な教育環境を保ち、学習効果をあげる趣旨で行うものです。

受講者の抽選

- (1) 履修登録締め切り後に登録者数を集計します。
- (2) 制限人数を超えた場合は、コンピュータで抽選して受講者を決めます。
抽選の方法は公平を期するため、その科目を希望した学生にコンピュータが規則性のない番号（乱数といいます）をつけ、その乱数を並び替え、数字の小さい順に上位から科目別に定めた人数を受講者として登録します。
- (3) 履修登録においてエラーが発生している場合、抽選科目は全て落選となります。

抽選後の調整

- (1) 各自「UNIVERSAL PASSPORT」の学生時間割表で受講者調整の結果を確認してください。抽選の結果、登録できた科目は該当の学期の曜日・時限欄に科目名が記載されていますが、抽選にもれた科目は記載されていません。
なお、受講者調整の結果は、Web履修登録画面における受講者調整抽選結果画面でも確認することができます。
- (2) 抽選にもれた科目があり、他の科目を追加する必要がある場合は、必要に応じて人数に余裕のある科目の中から科目を選択してください。
- (3) 追加登録は、Webで登録します。人数に余裕のある科目のみがWeb画面に表示されますので、希望する科目を登録してください。Web登録締め切り後、追加登録者数を集計し、制限人数を超えた場合は再度コンピュータで抽選します。追加登録の結果は（1）と同様に学生時間割表で確認してください。

こんなときは？

Question & Answer

Q1 受講者調整の抽選でもれてしまいました。どうしたらいいですか？

A1 単位数を充分満たしているようであれば、追加登録する必要はありませんが、もれてしまった科目によっては、満たすために他の科目の追加登録が必要になります。その場合は、追加登録の手続きに参加してください。追加登録の手続きに関する詳細については、4月ガイダンス時に配付されたプリントや掲示で確認してください。

4 学生時間割表

受講者調整が終了したあと、学生時間割表が「UNIVERSAL PASSPORT」からダウンロードできるようになります。間違いなく履修登録できているか必ず確認してください。

5 修正履修登録

登録エラーの修正や追加登録を行う必要がある場合は修正履修登録期間内に修正手続きを行ってください。修正手続きを行う際は、必ず学生時間割表を持参してください。

なお、期間外の受付は一切行いませんので、十分注意してください。

こんなときは？

Question & Answer

Q1 科目の変更をしたいのですができますか？

A1 一度登録した科目の変更はできません。ただし、諸課程科目の履修を目的とした場合に限り変更を認めることがあります。変更が認められた場合は、修正登録期間内に手続きをしてください。期間外の受け付けは一切行いませんので、十分注意してください。

Q2 履修登録した覚えのない科目が、登録されていますがなぜですか？

A2 各学科等で受講者を決めている場合、あらかじめ登録されている科目もあります。それ以外は履修登録の際に他の科目と間違えて登録したと考えられます。学生時間割表でしっかりと確認してください。

Q3 必修科目を履修登録し忘れてしまいました。登録はできますか？

A3 修正履修登録期間内に必ず手続きをしてください。期間外の受け付けは一切行いませんので、十分注意してください。

6 履修中止による履修取消制度

この制度は、授業内容が学習したい内容と異なっていた場合や、授業についていけないだけの知識・学力が不足していたなど何らかの理由で履修を途中で止めてしまった科目、また、履修していてもそのままでは単位を修得することが難しく不合格となる科目があることでGPAが下がることを回避するための制度です。

履修登録の取り消しをする際は、以下の点に注意して手続きをしてください。

- ・卒業に必要な単位数が不足しないようにしてください。
- ・必修科目及び学外実習科目の取り消しは原則として認められません。
ただし、学部・学科・専攻が特別に認めた場合は取り消すことができます。
- ・諸課程科目等卒業に必要な単位として認められない科目は取り消しできません。
- ・手続き後の変更及び取り消しは、いかなる理由があっても認められません。
- ・手続き時期は、前期（4月・6月）及び後期（9月・11月）です。
- ・取り消した科目はGPA算出の対象から除外されます。

取り消し期間や注意事項については、掲示で連絡しますので確認してください。

なお、期間外の受付は一切行いませんので、十分注意してください。

また、本学では授業への出席回数が不足している学生に対し、クラス指導主任を通じて、履修を継続するかどうか問い合わせしています。クラス指導主任や授業担当教員へ履修を放棄すると伝えている場合でも、この履修取り消しの手続きを行わなければ履修取り消しはされませんので、期間内に必ず取り消しするようにしてください。

こんな
ときは？

Question & Answer

Q1 登録した科目を取り消したいのですができますか？

A1 一度登録した科目を、履修登録直後に取り消すことはできません。登録する際は、履修するのかわからないかを十分考えてから手続きをしてください。ただし、授業開始後一定期間を設け、履修中止による履修取り消しの手続きを受け付けます。

Q2 履修登録をして授業に出席し、実際に受講してみなければ、自分の希望する内容の講義であるかどうか判断できないのではないのでしょうか？

A2 前期・後期それぞれ一定期間に履修取消期間を設けます。それまでに、皆さんは履修登録した科目が希望していた講義であるかどうかを判断してください。取り消しをする際は、上記「6 履修中止による履修取消制度」をよく読んでから手続きをしてください。

7 後期履修登録

履修登録はすべて、年度の始めに1年間の計画をしっかりとてて行いますが、以下の条件を満たした場合は、後期履修登録を認めています。

なお、前期履修登録で定員を満たしている後期科目など後期履修登録で追加できないものもあります。

登録の日時や注意事項については、掲示で連絡しますので確認してください。

また、期間外の受付は一切行いませんので、十分注意してください。

- ①卒業年次生で前期追・再試験の結果不合格となり、後期改めて履修登録を行わないと卒業単位が不足する場合に後期履修登録を認めます。
- ②後期授業開始時点で履修登録単位数の上限数まで達していない場合は、空いている曜日・時限に開講されている科目を追加することができます。

4月の履修登録時に履修上限まで登録をした場合

	パターン1	パターン2	パターン3	パターン4
前期履修取消	取消なし	取消なし	取消あり	取消あり
前期履修結果	全科目合格	不合格科目あり	全科目合格	不合格科目あり
後期追加登録	不可	不可	履修取消分のみ追加可	履修取消分のみ追加可 (不合格科目分の追加は不可)
他キャンパス履修単位互換追加登録	不可	不可		

4月の履修登録時に履修上限まで達していない場合

	パターン5	パターン6	パターン7	パターン8
前期履修取消	取消なし	取消なし	取消あり	取消あり
前期履修結果	全科目合格	不合格科目あり	全科目合格	不合格科目あり
後期追加登録	履修上限まで追加可	履修上限まで追加可 (不合格科目分の追加は不可)	履修取消分とあわせて履修上限まで追加可	履修取消分とあわせて履修上限まで追加可 (不合格科目分の追加は不可)
他キャンパス履修単位互換追加登録				

※前期履修結果において、不合格科目(D、E、F評価)がある場合、その分もGPAの総履修登録単位数に含まれるため、不合格科目に対する追加履修登録は不可となる。

授業について

1 授業時間

授業時間は次のとおりです。

時限	区分	キャンパス
		千代田キャンパス
1 時 限		9:00～10:30
2 時 限		10:40～12:10
3 時 限		13:00～14:30
4 時 限		14:40～16:10
5 時 限		16:20～17:50
6 時 限		18:00～19:30

※定期試験時間は、授業時間と異なりますので注意してください。(P68 参照)

2 授業を受けるにあたっての注意事項

受講マナーについて

- (1) 授業中は私語を慎み、静粛かつ真剣に受講してください。
- (2) 著しく受講態度が悪い学生は、受講が停止される場合があります。
- (3) 携帯電話の使用を禁止します。
- (4) 授業中の飲食を禁止します。
- (5) 万が一、電車の遅延等で授業に遅刻した場合は、必ず授業担当教員にその旨を報告の上、着席してください。
- (6) 授業中に無断で退出することを禁止します。

教室内のマナーについて

- (1) 消し忘れの板書は消し、常に清潔な教室を心がけましょう。
- (2) 授業終了後は不要な照明や冷暖房のスイッチを切ってから退出しましょう。
- (3) 机・椅子を移動した場合は元の状態に戻しましょう。
- (4) 教室を利用して飲食をした場合は、ゴミは所定の場所に分別して捨てましょう。

授業中に大きな地震が発生したら

授業中に震度4以上の地震が発生した場合は、非常放送が入ります。あわてずに放送内容をよく聞いて指示に従ってください。

授業支援システム「manaba」について

本学では、インターネットを通じて、履修登録をしている授業ごとに、授業担当教員からの連絡受信、事前・事後のレジュメ確認、小テスト受験、レポート提出、グループワーク、ディスカッション等を簡単な操作で行うことができるLMS*として「manaba」を導入しています。

利用については各授業担当教員の指示に従ってください。利用方法の詳細については、「manaba」ログイン後のトップページ下部「マニュアル」から各自マニュアルをダウンロードして確認してください。

*Learning Management System

「manaba」URL：<https://otsuma.manaba.jp/>

また、「manaba」に関連する無料のライブアクションアプリ「respon」についても、各自インストール・初期設定を行っていただく必要があります。詳細は4月ガイダンス時に配付する資料を確認してください。

Q1 授業時間以外に先生に会いたいのですが？

A1 専任の先生の場合は、各学科の研究室を訪ねてください。非常勤の先生の場合は講師室（大学校舎A棟3階）を訪ねるか、大学のホームページにあるシラバス（授業内容）で質問方法など確認してください。

また、専任の先生は学生の皆さんの相談に応じるためのオフィスアワーを設けています。これは予約なしで教員と面談できる制度です。各先生のオフィスアワーの時間帯は各研究室のドアに貼り出されていますので確認してください。

3 出席・欠席

(1) 授業に出席しなかった学生は、すべて欠席となりますが、学校保健安全法で定められた感染症により出席停止となった場合、裁判員選任手続期日または裁判員に選任された公判のために裁判所へ出頭する場合、教育実習、校外実習、介護等体験、研修旅行及び忌引の場合に関する措置は次のとおりとします。

①学校保健安全法で定められた感染症にかかった場合

学校保健安全法で定められた第一種、第二種、第三種の感染症にかかった場合は出席を停止します。所定の手続きを行った場合は欠席扱いとはなりません。詳細は『学生生活の手引き』を確認してください。

対象となる学校感染症

学校感染症第一種：エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎（ポリオ）、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（SARS）、鳥インフルエンザ（H5N1、H7N9）、中東呼吸器症候群（MERS）、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）

学校感染症第二種：インフルエンザ（鳥インフルエンザ（H5N1、H7N9）を除く）、百日咳、麻疹（はしか）、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）、風疹（三日ばしか）、水痘（水ぼうそう）、咽頭結膜熱（プール熱）、結核及び髄膜炎菌性髄膜炎

学校感染症第三種：コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症（O157など）、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症（溶連菌感染症、ウイルス性肝炎、手足口病、伝染性紅斑、ヘルパンギーナ、マイコプラズマ感染症、流行性嘔吐下痢症、感染性胃腸炎など）

②裁判員制度に伴う場合

裁判員選任手続期日または裁判員に選任された公判のために裁判所へ出頭し授業を欠席した場合は所定の手続きを行うことにより欠席扱いとはなりません。詳細は『学生生活の手引き』を確認してください。

③忌引の場合

忌引の場合は原則として死亡した日から忌引とし、欠席者の取り扱いには授業担当教員の判断にゆだねられます。忌引期間中の日曜日・祝祭日も忌引の中に含まれます。ただし、特別な理由がある場合は葬儀の日の前後に続けて取ることができます。詳細は『学生生活の手引き』を確認してください。

父母の場合 7日以内

祖父母の場合 3日以内

兄弟姉妹の場合 3日以内

曾祖父母の場合 2日以内

伯叔父伯叔母の場合 2日以内

④教育実習、校外実習、介護等体験、研修旅行の場合

教育実習、校外実習、介護等体験、研修旅行の場合、欠席者の取り扱いは授業担当教員の判断にゆだねられます。

手続き等詳細は所属学科及び教育支援グループで確認してください。

- (2) 授業への出席が授業回数の3分の2に満たない場合、授業への出席回数不足で成績評価を受ける資格がないため試験を受けることができず、単位が修得できなくなります。
- (3) 長期にわたる欠席をする場合は、クラス指導主任及び授業担当教員と緊密な連絡をとり、その科目の履修と単位修得に関して遺漏のないようにしてください。
- (4) 授業への出席に関する不正行為（他の学生に成り代わり授業に出席・代返する、または同行を依頼する、授業中に許可無く退室する等。）を行った場合は、当該授業が欠席として扱われます。また、授業担当教員が特に悪質であると判断した場合、当該授業の受講が停止されることがあります。

※ 試験等の欠席に関する事項はP72「7 追試験」を確認してください。

こんなときは？

Question & Answer

Q1 授業を欠席してしまったのですが？

A1 1週間以上の病欠の場合は、『学生生活の手引き』に記載されているとおり、手続きを行ってください。1週間未満の欠席の場合は、各自レポート用紙により欠席届を作成し、授業担当教員に提出してください。

Q2 欠席届を提出すれば先生は考慮してくれますか？

A2 授業に出席しなければすべて欠席です。ただし、学校保健安全法で定められた感染症により出席停止となった場合、裁判員選任手続期日または裁判員に選任された公判のために裁判所に出頭する場合、教育実習・校外実習・介護等体験・研修旅行・引引などのために欠席した場合の措置についてはP65「3 出席・欠席」を参照してください。

Q3 電車が事故で止まってしまい、授業に間に合いません。どのような手続きをしたらいいですか？

A3 鉄道会社で遅延証明書を発行してもらい、各自欠席届を作成し、遅延証明書をつけて各授業担当教員に提出してください。また、交通機関のストライキの場合はP263の「緊急事態発生時の授業及び試験等の取り扱いについて（覚書）」を参照してください。

4 出席管理カードリーダーについて

本学では、学生証をかざすことで授業への出席情報を記録できる「出席管理カードリーダー」を各教室に設置しています。カードリーダーで記録した情報は「UNIVERSAL PASSPORT」の出欠状況照会画面で確認することができます。

なお、栄養士、管理栄養士及び保育士養成課程の指定科目は、出欠状況の把握、管理が義務づけられています。

1年次に配付する「UNIVERSAL PASSPORT 操作説明書」を必ず読んで、出席もれのないように常に自分の各履修科目の出席状況の把握に努めてください。

5 休講・補講・教室変更・時間割変更

休 講

学校行事または授業担当教員のやむを得ない事情により、授業を休講にすることがあります。その場合は、大妻Webメールによる休講メール配信及び掲示によって通知します。

なお、始業開始から30分以上経過しても授業が開始されない場合は、教育支援グループに連絡し、指示を受けてください。

また、伝達間違い等の誤解を招くおそれがあるため、電話・メールでの問い合わせには一切応じていません。

補 講

補講とは、授業担当教員が予定していた授業計画が完了しない場合や授業回数の不足を補うために行われる授業のことです。休講があれば、補講をすることが原則となっています。

補講は、原則として補講・試験期間の4・5・6時限に実施されます。日程等は、掲示によって通知しますので、十分注意してください。補講時間は次のとおりです。

時限	区分	千代田キャンパス
4 時 限		14:40～16:10
5 時 限		16:20～17:50
6 時 限		18:00～19:30

なお、伝達間違い等の誤解を招くおそれがあるため、電話・メールでの問い合わせには一切応じていません。

教室変更・時間割変更

その日時のみでの臨時変更と、その日以降から最終授業までの通期変更があります。変更内容は、掲示によって通知します。

なお、伝達間違い等の誤解を招くおそれがあるため、電話・メールでの問い合わせには一切応じていません。

こんなときは？

Question & Answer

Q1 先生がいつまでたっても教室に来られないのですが？

A1 その授業が休講になっていないか、教室変更されていないか掲示板で確認してください。休講や教室変更の掲示が出ておらず、30分以上経過しても先生が来られない場合は、教育支援グループに連絡し、指示を受けてください。

Q2 教室に行ったら誰もいなかったのですが？

A2 教室変更、時間割変更、休講等の連絡がないか掲示板で確認してください。掲示がない場合は、教育支援グループに確認してください。

Q3 天候が不安定ですが、授業は休講になりますか？

A3 気象警報が発令され、交通機関の運行ダイヤが大幅に混乱することが予想される場合は、休講になることがあります。詳細はP263「緊急事態発生時の授業及び試験等の取り扱いについて(覚書)」を参照してください。

試験について

試験は筆記試験を原則として実施していますが、レポート・ノート・作品提出、口述及び実験・実習・実技により評価されることもあります。

試験は大きく分けて、学期末の試験期間中に実施される「定期試験」と授業中に実施される「授業期間中の試験」に区分されます。

その他、補講や集中講義中に行う試験等もありますので、授業担当教員の指示に従って、受験するようにしてください。

1 受験資格

定期試験を受験できるのは、履修登録をされていてその授業に出席していた学生に限ります。

授業への出席が授業回数（休講等で実施されなかった分は除きます）の3分の2に満たない場合、授業への出席回数不足で成績評価を受ける資格がないため試験を受けることができません。また、学費未納の学生は、原則として受験資格がありません。

2 定期試験

定期試験とは、前期・後期それぞれの学期末の試験期間中に実施する試験を指します。

定期試験時間割表

定期試験時間割は掲示にて発表します。

定期試験時間

本学の定期試験時間は、次のとおりです。授業時間と異なりますので、十分注意してください。

時限	区分	千代田キャンパス
1 時 限		9 : 00 ~ 10 : 00
2 時 限		10 : 40 ~ 11 : 40
3 時 限		13 : 00 ~ 14 : 00
4 時 限		14 : 40 ~ 15 : 40
5 時 限		16 : 20 ~ 17 : 20

定期試験受験の注意事項

1 試験時間割の確認

- (1) 定期試験時間割で試験時間、試験場等を必ず確認してください。通常の授業時間と定期試験時間は異なります。また、教室も異なりますので、見誤りで受験できなくなることをないように十分注意してください。
- (2) 試験時間割は、発表後に変更することがあるので、試験当日まで常に掲示に注意してください。
- (3) 定期試験の時間割には授業科目ごとに対象クラスを記載していますが、自分のクラスが記載されていない場合は、速やかに教育支援グループまで申し出てください。（再履修者は特に注意してください。）また、授業科目によっては、複数の教室で試験を実施することがありますが、必ず指定された教室で受験してください。

2 試験の重複

試験時間が重なった場合は、「定期試験の時間割が重複した場合の取扱いについて」を掲示にて確認し

て、その指示に従ってください。

3 学生証

受験する際は、必ず学生証を机上に提示してください。学生証がなければ受験することができません。学生証を忘れた場合は試験開始前にパピルスメイト（証明書自動発行機）で「仮学生証」の発行手続きをしてください。手続きにはパスワードと手数料200円が必要です。

4 持ち込み物

- (1) 受験の際は、「持込可」とされている科目を除き、教科書、ノート、辞書などは、すべてバッグなどの中にしまい椅子の下に置いてください。
- (2) スマートフォン・携帯電話も電源を切りバッグなどの中にしまってください。
- (3) 時計の持ち込みは認めますが、スマートウォッチ等、時刻を表示する以外の機能や通信機能を有するものは持ち込めません。また、アラームも使用できません。
- (4) コピーしたノートを持ち込めるのは、「持込可」の科目の内、「ノート（コピー可）」の持ち込みを許可された場合だけです。
- (5) 試験場では、許可なく物品の貸し借りはできません。

5 遅刻

試験開始後30分以内の遅刻であれば、受験可能です。ただし終了時間の延長はありません。

6 途中退室

試験開始後、30分経過し解答が終わった者は、監督者の指示に従い退室することができます。

7 その他

試験開始10分前には試験監督から受験の際の注意事項などについて説明があります。試験開始時刻を確認して10分前には教室に行き、受験の準備を始めてください。

不正行為

不正行為を行った学生は、「試験における不正行為者の処罰に関する規程」に基づき、次のとおり処罰されます。

1 試験における不正行為とは、次の各号のいずれかに該当する行為をいう。

① 筆記試験

- (1) 他人に受験を代理させる行為、及び他人の受験を代理する行為
- (2) 他人の答案を見る行為、及び何らかの方法で他人の答案を知る行為
- (3) 他人に答案を見せる行為、及び何らかの方法で他人に答案を教示する行為
- (4) 他人と答案を交換する行為
- (5) 持ち込みが許可されていない資料および電子機器類等を利用する行為
- (6) 持ち込みが許可された資料および電子機器類等を貸借等する行為
- (7) 所持品、衣服、身体、机または壁等にかき込みをする行為、及びその書き込みを利用して答案を作成する行為
- (8) その他試験監督者の指示に従わない行為、及び公正な試験の実施を阻害すると認められた行為

② 論文・レポート・作品等の提出

- (1) 他人に代筆等させた論文・レポート・作品等を提出する行為
- (2) 他人の論文・レポート・作品等を代筆等する行為
- (3) 実験や調査結果のデータを捏造又は改ざんする行為
- (4) 他人の論文・レポート・作品等を盗用する行為
- (5) その他授業担当教員が不正だと判断した行為

2 試験のうち定期試験における不正行為については以下の処罰を行う。

- ① 当該学期の定期試験の全試験科目を無効とする。
 - ② 不正行為者に対しては、懲戒規程第7条に基づいて、自宅謹慎を命じ、懲戒規程第5条第1項第1号の訓告とする。
 - ③ 副学長（学生担当）が当該不正行為を特に悪質なものと判断した場合、懲戒規程第8条に基づく調査委員会による調査を行い、必要に応じて更に厳重な懲戒処分を実施する。
 - ④ 懲戒規程第10条第2項に基づいて、父母又は保証人に、不正行為及び懲戒処分の事実を通知するとともに、学内にその旨を公示する。
- 3 定期試験以外の試験における不正行為については以下のとおりとする。
 - ① 授業担当教員が当該試験を定期試験に準ずると判断する場合は、当該科目を無効とし、前項①～④を適用する。
 - ② 授業担当教員が当該試験を定期試験に準ずると判断しない、あるいは判断できない場合は、当該科目のみを無効とし、懲戒の対象とはせず、懲戒規程第6条に基づいて嚴重注意とする。
 - 4 細部については、内規で定める。
 - 5 この規程の改廃は、教務委員会の議を経て大学教育推進機構委員会において定める。

こんなときは？

Question & Answer

Q1 定期試験の時間に遅刻しそうです。

A1 試験開始から30分以内であれば試験場に入室できます。ただし、試験時間の延長は行いません。30分以上の遅刻の場合は、いかなる理由でも受験はできませんので、追試験の手続きをしてください。

Q2 試験を受けるのですが、学生証を忘れてしまいました。

A2 学生証がなければ受験できませんので、パピルスメイト（証明書自動発行機）で仮学生証の発行手続きを行ってください。手続きの際は、パスワード及び発行手数料200円が必要です。

Q3 履修登録している科目が試験時間割にもレポート課題掲示にも載っていません。

A3 授業中に授業担当教員から直接指示がでていないか確認してください。

3 授業期間中の試験

授業期間中の試験とは、授業中に実施される試験を指します。

授業期間中の試験についても、定期試験に準ずる場合は、定期試験受験の際の注意事項を準用し、不正行為については、「試験における不正行為者の処罰に関する規程」を適用します。

4 レポートについて

レポートは、平常授業の課題として課すもの、定期試験にかわるものに分けられます。レポートの取り扱いはこちらのとおりです。

授業担当教員に提出する場合

授業担当教員が提出方法・日時・提出場所を指示した場合は、その指示に従ってください。
この場合、教育支援グループでは受理しません。

教育支援グループに提出する場合

教育支援グループに提出する場合は、課題・提出日時等を掲示により発表します。
提出は指定日一日限りとし、提出時間は原則【月曜～金曜】8:30～15:00、【土曜】8:30～11:00です。
授業担当教員に直接提出または郵送した場合は無効とします。

レポート提出の際の注意事項

- (1) 期限に遅れた場合は、一切受け付けません。提出日時は厳守してください。
- (2) レポートは必ず本人が提出してください。
- (3) レポート用紙、形式については、授業担当教員の指示に従ってください。
- (4) 各キャンパス所定の場所に置いてある大学指定の表紙をつけてください。
- (5) 表紙は必ず黒のペンまたはボールペンで記入してください。
- (6) レポートは必ずホチキスで留めてください。

5 成績評価

成績評価は100点満点で採点し、60点以上を修得した場合にその科目の単位修得を認めます。「UNIVERSAL PASSPORT」の成績照会画面に表示する記号は次のとおりです。学業成績証明書には、合格科目のS、A、B、C及びNを表示します。

判定	評点	評価	評価内容基準	成績照会画面の表示	学業成績証明書の表示
合格	100～90	S	基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている	S	S
	89～80	A	基本的な目標を十分に達成している	A	A
	79～70	B	基本的な目標を達成している	B	B
	69～60	C	基本的な目標を最低限度達成している	C	C
	単位認定	N	学修等について単位を修得したものと する	N	N
不合格	59点以下	D	基本的な目標を達成していないので再履修が必要である	D	表示なし
再履修	再履修	E	出席不足のため、受験資格なし	E	表示なし
試験時 欠席等	試験時欠席等	F	試験時欠席・レポート等未提出	F	表示なし

6 履修結果公開

「UNIVERSAL PASSPORT」では成績照会画面から成績を確認することができます。履修結果公開日を迎えると、成績情報が更新され、新たに当該年度・学期の履修結果を合格科目・不合格科目問わず確認することができます。追・再試験が実施される科目がある場合は、追・再試験エントリー画面にエントリー可能な科目が追・再試験情報とともに公開されますので、必要に応じて手続きを行ってください。

7 追試験

追試験とは

評価を受ける資格を有する学生が、病気その他やむを得ない理由で定期試験及び定期試験に準ずる試験（レポート提出等含む）を受験できなかった場合、所定の手続きを経て受験することができる試験です。

追試験願提出

以下の事由により試験を受けられなかった学生は、指定された期間に「追試験願」（指定用紙）に診断書等の書類を付けて教育支援グループに提出してください。「追試験願」は教育支援グループにあります。

(1) 学校保健安全法で定められた感染症の罹患

本学所定の治癒証明書。ただし、インフルエンザの場合は本学所定のインフルエンザ罹患証明書の写しと罹患期間が明記されている学生本人及び保証人の署名・捺印のある欠席理由書。

（各本学所定用紙は大学ホームページからダウンロード可能）

(2) (1) 以外の入院または病気

医師の診断書（治癒期間が明記されているなど試験を欠席した日の入院、病気、けがを証明する内容であること）

(3) 裁判員選任手続期日及び裁判員に選任された公判のための裁判所への出頭

出頭した裁判所で出頭日の証明を受けた「選任手続期日のお知らせ（呼出状）」

(4) 忌引

忌引届（学生支援グループ所定用紙）の写し及び会葬礼状等

(5) 以下の資格取得にかかる実習

学生本人の署名・捺印のある欠席理由書（教育実習、介護等体験、保育実習、校外実習、博物館実習、公認心理師、社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士、衣料管理実習）

(6) 教員採用試験・公務員試験等

実施要項・受験票の写し

(7) 就職試験

欠席届（就職支援センター所定用紙）

(8) 他大学大学院の入学試験及び他大学編入学試験

受験票の写し

(9) 単位互換協定に基づき履修している他大学等の授業科目の試験または授業

他大学等で履修している授業科目の試験時間割表等、試験日時や授業実施が確認できるもの

(10) 就職支援センターが取り扱うインターンシップ

学生本人の署名・捺印のある欠席理由書

(11) 国際センター（国際交流支援グループ）が取り扱う海外研修（紹介プログラムを含む）

欠席届（国際センター所定用紙）

(12) 出身高校の進路説明会

学生本人の署名・捺印のある欠席理由書

(13) 交通機関の事故等

事故証明書、遅延証明書（Webサイトからダウンロードできる証明書は本人の乗車を証明できるものではないため、必ず駅で証明書を受領すること。）

(14) 重大な災害

官公庁発行の被災証明書または罹災証明書の写し

(15) その他

学生本人及び保証人の署名・捺印のある欠席理由書

追試験期間

追試験期間は掲示及び「UNIVERSAL PASSPORT」に掲載している「教務関係予定表」で確認してください。

追試験受験可否発表及び追試験納金手続き

提出された追試験願をもとに追試験の受験を認めるか審査し、結果を「UNIVERSAL PASSPORT」で公開します。

追試験受験可否発表後、追試験の受験を認められた科目については、指定された期間にWebでエントリーをし、パピルスメイト（証明書自動発行機）で受験料を納めると「追再試験受験票兼領収書」が発行されます。追試験の受験が認められた学生は、必ず本人が納金手続きを行わなければ受験できません。

なお、通年科目の前期試験欠席は、追試験の対象になりませんので、授業担当教員に相談してください。

追試験時間割発表

追試験時間割は、掲示及び「UNIVERSAL PASSPORT」の追・再試験エントリー画面にて発表します。

追試験の成績について

追試験の成績は、次のとおりです。

100点満点採点

追試験願の事由（1）及び（3）～（14）により認められた追試験

80点満点採点

追試験願の事由（2）及び（15）により認められた追試験

その他

- （1）追試験は1回限りとします。
- （2）追試験に対する再試験は行いません。

こんなときは？

Question & Answer

Q1 試験の時間を間違えて受験できませんでした。どうしたらいいですか？

A1 追試験の手続きを行ってください。（P72 参照）提出された追試験願をもとに受験を認めるか審査し、結果を教育支援グループからお知らせします。

Q2 交通機関の事故で試験に間に合いませんでした。どうしたらいいですか？

A2 追試験の手続きを行ってください。（P72 参照）その際は交通機関で発行している事故証明書、遅延証明書も提出してください。

8 再試験

再試験とは

不合格の認定を受けた科目については再履修することとし、原則として再試験は行いません。ただし、卒業年次生に限り、前期と後期それぞれ3科目（社会生活情報学専攻の「卒業研究」は除く）まで、所定の手続きを経て、再試験を受けることができます。

再試験期間

再試験期間は掲示及び「UNIVERSAL PASSPORT」に掲載している「教務関係予定表」で確認してください。

再試験納金手続き

再試験は必ず本人が受験手続きを行わなければ受験できません。

履修結果公開後、再試験の受験を認められた科目については、指定された期間にWebでエントリーをし、パピルスメイト（証明書自動発行機）で受験料を納めると「追再試験受験票兼領収書」が発行されます。

再試験時間割発表

再試験時間割は、掲示及び「UNIVERSAL PASSPORT」の追・再試験エントリー画面にて発表します。

その他

- (1) 再試験の評価は、CまたはDです。
- (2) 再試験は1回限りとします。
- (3) 再試験に対する追試験は行いません。

こんなときは？

Question & Answer

Q1 追試験と再試験の違いがわかりません。

A1 追試験とは、正当な理由で定期試験またはそれに準ずる試験（レポート提出等含む）が受験できなかったため、自ら願い出て手続きをして受験する試験です。
再試験とは、卒業年次生に限り、試験の結果、不合格となり所定の手続きを経て受験する試験です。

Q2 受験料はいくらかかりますか？

A2 追試験は1科目につき1,000円、再試験は1科目につき2,000円の受験料がかかります。

Q3 追再試験受験票兼領収書を忘れてしまいました。

A3 追再試験受験票兼領収書がないと受験できません。教育支援グループで所定の手続きを行ってください。

9 追・再試験結果公開

「UNIVERSAL PASSPORT」では成績照会画面から成績を確認することができます。追・再試験結果公開日を迎えると、成績情報が更新され、新たに当該年度・学期の追・再試験結果が反映された成績を確認することができます。

成績と単位認定について

1 成績の評価基準

本学における成績の評価基準は、次のとおりです。

判定	評点	評価	評価内容基準	成績照会画面の表示	学業成績証明書の表示
合格	100~90	S	基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている	S	S
	89~80	A	基本的な目標を十分に達成している	A	A
	79~70	B	基本的な目標を達成している	B	B
	69~60	C	基本的な目標を最低限度達成している	C	C
	単位認定	N	学修等について単位を修得したものと する	N	N
不合格	59点以下	D	基本的な目標を達成していないので再履修が必要である	D	表示なし
再履修	再履修	E	出席不足のため、受験資格なし	E	表示なし
試験時欠席等	試験時欠席等	F	試験時欠席・レポート等未提出	F	表示なし

- (1) 学生が履修登録した科目について、学期末及び学年末に学修状況とその結果を考査した結果、合格した者に対して、授業担当教員がその科目の修了を認定し、所定の単位を与えます。
- (2) 評価は、平常の学修状況、試験、レポート等の結果によります。
- (3) 単位が認定された科目は、成績が不本意でも科目の評価を取り消したり、再度その科目を履修しなおすことは認められません。
- (4) 不合格・再履修・欠席であった必修科目は、必ず次の年度に再履修して単位を修得しなければなりません。また、選択科目は、他の選択科目を履修して、不足単位を補うことができます。
- (5) 「N」評価で表示されるのは、「大妻教養講座」、「国際理解（海外研修）Ⅰ～Ⅴ」、入学前の既修得単位として単位認定された科目、編入学に対する単位認定、大学以外の教育施設等における学修に対する単位認定などです。

こんなときは？

Question & Answer

Q1 再履修となった科目は必ずもう一度履修しなければならないのですか？

A1 その科目が必修科目の場合は、再度履修する必要がありますが、その科目が選択科目の場合は、不足した単位数を他の科目で補うことができます。

Q2 既に単位を修得した科目の成績が思わしくなかったため、もう一度同じ科目を履修し直したいのですが？

A2 一度単位を修得した科目を再度履修することはできません。

2 成績通知

成績は、「UNIVERSAL PASSPORT」の成績照会画面から確認することができます。成績照会画面には、学期のGPA、年度のGPAと通算のGPAが、進学や就職などで使用する学業成績証明書には通算のGPAが記載されません。

また、保証人も学生のみなさんと同様、「UNIVERSAL PASSPORT」の成績照会画面から確認できます。

ただし、個人情報保護法が施行され、成人に達した学生が保証人への開示を希望しない旨の申し出をした場合は、開示を取りやめることにしています。開示を希望しない学生は、申し出期間内に手続きをすませてください。

なお、成績に関する問い合わせには、学生個人情報の保護及び誤解を招く恐れがあるため、電話での問い合わせには一切応じていません。

こんなときは？

Question & Answer

Q1 自分の成績を知りたいのですが、どうしたらわかりますか？

A1 成績は、「UNIVERSAL PASSPORT」の成績照会画面から確認してください。また、学業成績証明書（1通200円）をパピルスメイト（証明書自動発行機）で発行すれば確認することができます。

Q2 成績照会画面に不合格科目を記載するのはなぜですか？

A2 ①合格科目と同様に、不合格科目もGPA算出の対象となっていること、②学生の皆さんに、自分が登録した科目に履修の責任を持ってもらうこと、の2点の理由により成績照会画面にも不合格科目を記載します。したがって、不合格になってしまった科目は、成績照会画面に不合格科目として表示されてしまうだけでなく、GPAも下げてしまいますので、修得するつもりのない科目を安易に履修登録することのないように十分注意してください。

Q3 学業成績証明書に不合格科目は記載されますか？

A3 記載されません。

Q4 学業成績証明書とはなんですか？

A4 学業成績証明書は、単位を修得できた科目の評価と通算のGPAが記載された証明書です。成績照会画面とは異なり、不合格や再履修となった科目は記載されません。就職で企業に提出する場合など、必要に応じて各自が申込み手続きをして発行されます。

3 成績評価確認制度について

成績評価の確認をしたい学生は、所定の期間内に、教育支援グループへ申し出てください。
手続き方法や手続き期間については、掲示で確認してください。

4 GPA について

GPA について

GPA (Grade Point Average) は、成績評価を数値に換算した平均値です。

このGPA に基づいて、学業成績の状況を自分自身で的確に把握することにより、科目の履修にあたって、ただ卒業するために必要な単位を取得するだけでなく、主体的にかつ充実した学習効果をあげることを目的としています。

GPA の算出について

(1) 各授業科目の成績評価それぞれに対して、次のとおりGrade Point を付けます。

区分	成績評価	点数	Grade Point
合格	S	100点~90点	4.0
	A	89点~80点	3.0
	B	79点~70点	2.0
	C	69点~60点	1.0
不合格	D	59点以下	0
再履修	E		0
試験時欠席等	F		0

※認定科目 (N) 及び諸課程科目、履修取消科目は原則としてGPAの算出から除かれます。

(2) 履修した各授業科目の単位数にGrade Pointを乗じて、その合計を履修単位数の合計で除したものがGPAです。なお、追・再試験の成績評価も含まれます。

$$\frac{Sの単位数 \times 4.0 + Aの単位数 \times 3.0 + Bの単位数 \times 2.0 + Cの単位数 \times 1.0}{\text{総履修登録単位数 (不合格D、再履修E、試験時欠席Fを含む)}}$$

【算出例】

授業科目名	単位数	成績評価	Grade Point	Grade Point × 科目の単位数
大妻教養講座	1	N	対象外	—
コンピュータ基礎A	2	S	4.0	4.0 × 2 = 8.0
スポーツA	1	A	3.0	3.0 × 1 = 3.0
日本国憲法	2	A	3.0	3.0 × 2 = 6.0
ドイツ語 I	1	D	0	0 × 1 = 0
社会学 I	2	C	1.0	1.0 × 2 = 2.0
出版論	2	A	3.0	3.0 × 2 = 6.0
日本語文法	2	B	2.0	2.0 × 2 = 4.0
児童文学論	2	B	2.0	2.0 × 2 = 4.0
国際理解(海外研修) I	2	N	対象外	—
合計	14 (大妻教養講座1単位及び国際理解2単位を除く)			33.0Point

GPA=2.35 (33.0 ÷ 14 = 2.357.. 小数点以下第三位を切り捨て)

- (3) GPAには学期GPA、年度GPAと通算GPAがあり、学期GPAは当該学期に評価された科目のGPA、年度GPAは当該年度に評価された科目のGPAで、通算GPAは過去に評価された科目を含め、それまでに評価された科目のGPAです。

なお、「UNIVERSAL PASSPORT」の成績照会画面には、学期GPA、年度GPAと通算GPAが、進学や就職などで使用する学業成績証明書には、通算GPAのみが記載されます。

- (4) 対象となる科目は、卒業に必要な単位として開講される授業科目のみで、諸課程科目等卒業に必要な単位として認められない科目は除くことになります。
- (5) 必修科目が不合格 (D)、再履修 (E) または試験時欠席 (F) となり、次学期以降再履修をし合格となった場合は、その科目のGrade Point は合格したGrade Point に書き換えられます。
- (6) 選択必修科目、選択科目で、不合格 (D)、再履修 (E) または試験時欠席 (F) となった科目 (同一科目) を次年度以降に再履修した場合、以前に不合格または再履修だった時の Grade Point も計算式に算入されます。

GPAによる履修指導などについて

- (1) 一度に多くの科目を履修すると予習・復習の学習時間を確保することができず学習効果を妨げてしまいますので、1年間の履修登録単位数の上限を学部・学科・専攻ごとに定めていますが (P52参照)、学生個人の学習状況に応じて次のように履修単位数の上限が変動します。

- ①前年度のGPAが、3.5以上の学生は、別表に定めた単位数に6単位を加え履修することができます。
- ②前年度のGPAが、3.0以上の学生は、別表に定めた単位数に2単位を加え履修することができます。
- ③前年度のGPAが、1.5未満の学生は、学習指導の必要上、別表に定めた単位数を減じることがあります。

- (2) 前学期のGPAが、1.5未満となった学生に対しては、クラス指導主任が今後の学習に関する助言を行います。また、必要に応じて保証人 (保護者) と面談をすることもあります。

- (3) 前学年のGPAが、0.75未満かつ前学年までの合計修得単位数が定められた標準履修単位数 (前学年までの合計) の3分の1未満の学生に対しては、学科長・専攻主任が面談し、指導を行います。また、本人並びに保証人に通知が送られます。

2年間連続して指導となった学生に対しては、学部長により面談が行われ、成業の見込みがないと判断された場合、学則第25条第3項に基づく勧告を行います。

- (4) GPAの成績が特に優秀な学生に対しては、早期卒業を認めることがあります。

なお、早期卒業を実施する学部・学科・専攻は別に定めます。

- (5) GPAは、履修・学習指導の他、留学や奨学金の選考、就職の際の学内選考及び各種表彰者選考などにおける参考資料として使われることがあります。

- (6) GPAが下がることを回避するため、履修取消制度があります。詳細は、P62を参照してください。

Q1 GPA はどんな制度ですか？

A1 Grade Point Average を意味し、1 単位あたりでみた平均成績のことです。「S, A, B, C, D, E, F」の成績評価に「4, 3, 2, 1, 0, 0, 0」の Grade Point を与え、各授業科目の単位数を考慮して算出します。

Q2 履修取消制度があると聞きましたが、どのような手続きを行えばいいですか？

A2 手続時期は、前期は4月・6月、後期は9月・11月を予定しています。詳細については、後日掲示で発表しますので確認してください。
正式に履修取消手続きをした科目は、GPA の計算対象から除外されます。

Q3 履修登録単位数の上限を設定するのはなぜですか。

A3 学生の主体的な学習を促し、十分な学習時間を確保するために、上限を設定しています。成績優秀な学生には履修登録単位数の上限を増やし、幅広い学習を奨励することを目的としています。また、成績不振の学生には、履修科目を絞り込み、少ない科目の学習に集中して取り組むよう指導します。

Q4 4月の履修登録時に履修登録単位数の上限数まで履修登録しました。前期に修得出来なかった単位があるためその不足を補うのに、後期履修登録をすることはできますか？

A4 4月の履修登録時に履修登録単位数の上限数まで履修登録をしている場合、後期履修登録をすることはできません。

Q5 4月の履修登録時に履修登録単位数の上限数まで履修登録しましたが、前期に履修取消制度で取り消しをしました。後期履修登録をすることはできますか？

A5 前期に履修取消制度で取り消した分とあわせて履修上限単位数までを後期履修登録することができます。

Q6 前期に履修取消制度で取り消しをした科目が同じ学年の後期にも開講されている場合、登録することはできますか？

A6 あなたが他の授業を履修していない時限にその科目が開講されており、受講者数に余裕があれば、同じ学年の後期でも再度履修登録することができます。

Q7 GPA が低いと卒業できないのでしょうか？

A7 卒業できないことはありませんが、前年度の GPA が、1.5 未満の学生は学習指導の必要上、履修登録できる単位数を減じることがあります。
また、前学期の GPA が、1.5 未満となった学生に対しては、クラス指導主任による助言を行い、別途指導を行います。必要に応じて保証人（保護者）と面談をすることもあります。

Q8 標準的な GPA の値はどの位ですか？

A8 妥当と認められる成績（B）及び優れた成績（A）の成績評価を基準と考えた場合、GPA の値は 2.0～3.0 の範囲が標準的な値です。まず標準的な GPA 値をめざすことが必要となります。また、努力したことにより GPA が 3.0 以上となった学生は、次学年の履修単位数の上限に一定単位数を加算することができます。

こんな
ときは？

Question & Answer

Q9 自分の GPA を知りたいのですが、どうすればよいですか？

A9 「UNIVERSAL PASSPORT」の成績照会画面に、その時点でのあなたの GPA が記載されています。各自確認し、今後の履修・学習計画に役立ててください。
また、学業成績証明書にも GPA は記載されます。

Q10 どうして不合格の「D」評価も GPA 算出に含まれてしまうのですか？

A10 安易な履修登録、履修取消を避けるため、さらに無責任な履修登録は教室配当、教材準備、授業運営等、真剣に学習しようとしている学生に不利益をもたらします。充実した学習効果をあげるために、履修・学習計画に役立ててもらいたいと考えているためです。

Q11 編入生なのですが、短期大学部時代の GPA は学部へ編入後も使われるのですか？

A11 使用されません。学部への編入後に履修登録した科目からが学部の GPA 算出対象となります。

Q12 GPA をあげるために、がんばって「S」をとりたいと思うので、評価はどうやって決まるのかわかりたいのですが？

A12 評価については、シラバス（授業内容）に「成績評価の方法及び基準」という項目を設け評価基準等を各授業担当教員が明記しています。評価はその基準に沿って判断されています。成績評価の方法および基準を知りたい場合は、授業担当教員または教育支援グループに申し出てください。なお、出された成績評価に疑問がある学生は、所定の期間内に教育支援グループへ申し出てください。

Q13 就職活動や進学に影響はありますか？

A13 多くの企業では、面接や筆記試験の結果を重視しているのが実情ですが、近年は学生の本分である学業への取組状況を評価対象にする企業も増えてきています。また、GPA を求められる海外の大学等への進学、海外留学の際は、成績を見る指標として活用されている場合が多いのも事実です。

5 入学前に修得した単位の認定について

第1年次に入学した学生が、入学する前に他の大学または短期大学で修得した単位を、一定の基準に基づき本学で修得した単位として認定することができます。単位の認定は、60単位を超えない範囲で行うものとします。

単位の認定を希望する場合は、次の書類を持参の上、教育支援グループで申請手続きを行ってください。

申請期間： 配付された資料や掲示等で確認してください。

- 必要書類： (1) 単位認定願書（教育支援グループで配付しています）
 (2) 既修得単位の成績証明書
 (3) 既修得単位科目のシラバス、講義要項等（コピー可）

6 大学以外の教育施設等における学修に対する単位認定について

〈家政学部・文学部〉

振り替え認定基準に定める検定または試験に合格した学生及び一定の成績を得た学生には、本人の申請により、申請科目の配当年次に限り、4月の履修登録前に単位の認定及び授業科目への振り替え認定を行うことができます。

申請手続き

単位の認定を希望する学生は、次の書類を持参の上、4月の履修登録前に教育支援グループで申請手続きを行ってください。

申請期間： 掲示等で確認してください。

- 必要書類： (1) 大学以外の教育施設等における学修に対する単位認定申請書
 (2) 認定基準に定める検定の合格または試験の成績を証明する書類

認定できる科目

全学共通科目

〔家政学部〕	英語 I A・英語 I B(計2単位)	または	英語 I C・英語 I D(計2単位)	〔文学部〕	英語 I A・英語 I B(計2単位)
	英語 II A・英語 II B(計2単位)				英語 I C・英語 I D(計2単位)
	英語 II C・英語 II D(計2単位)				英語 II A・英語 II B(計2単位)
					英語 II C・英語 II D(計2単位)

※内の2科目を合わせて2単位を認定する。1単位のみで認定することはできない。

振り替え認定基準と認定単位

認定単位	実用英語技能検定	TOEIC® L & R (IPテストも含む)	TOEFL®
4	準1級	700点以上	iBT®68以上
6	1級	900点以上	iBT®92以上

認定に際しての注意事項

- (1) 認定単位は合計6単位を超えることはできません。
- (2) 複数の同レベルの技能検定や試験を併用することはできません。
- (3) 再履修科目を振り替え認定することはできません。
- (4) 対応科目を既に履修済みまたは履修登録中の場合は認定できません。
- (5) 履修登録時に、検定または試験の合格・成績取得を見込んで、必修科目の登録を見合わせることはできません。
- (6) 認定した単位の評価は、「N」として表示されます。

〈社会情報学部〉

振り替え認定基準に定める試験に合格した学生には、本人の申請により、申請科目の配当年次または上級年次に限り、1月の指定された期間に単位の認定及び授業科目の振り替え認定を行うことができます。

申請手続き

単位の認定を希望する学生は、必要書類と学生証を持参の上、指定された期間に教育支援グループで申請手続きを行ってください。

申請期間：掲示等で確認してください。

必要書類：情報処理技術者試験合格証明書類（写し）

認定できる科目

社会生活情報学専攻、環境情報学専攻： 専門教育科目（他専攻選択）

情報デザイン専攻： 専門教育科目（選択）

認定対象科目	単位
情報処理機器概論	2単位
インタフェースデザイン論	2単位
統計処理及び演習	2単位
情報管理	2単位
アルゴリズム論及び演習 I	2単位
情報ネットワーク論及び実習 I	2単位
経営情報システム論	2単位

※認定単位は、合計6単位を超えることはできない。

※詳細は掲示等で確認すること。

振り替え認定基準と認定単位

認定基準	認定単位
ITパスポート試験	2単位
基本情報技術者試験	6単位

認定に際しての注意事項

- (1) 認定単位は、合計6単位を超えることはできません。
- (2) 対象科目を既に履修済みまたは履修登録中の場合は認定できません。また、再履修科目を振り替え認定することはできません。
- (3) 社会生活情報学専攻、環境情報学専攻の申請者は、他専攻で履修した単位と合わせて10単位を超えることはできません。
- (4) 認定した単位の評価は、「N」として表示されます。

こんなときは？

Question & Answer

Q1 大学以外の教育施設等における学修（実用英語技能検定、TOEIC® L&R、TOEFL®、ITパスポート、基本情報技術者試験）の成果で単位認定を行ったのですが、認定された単位数は履修単位数の上限に含まれるのですか？

A1 認定された単位は含まれません。

7 社会体験実習の単位認定について

学外における国内での社会活動について、自由科目として単位認定を受けることができます。ただし卒業要件の単位には含まれません。

申請手続き

「企業等体験実習」の単位認定を希望する学生は、社会活動を行う前に就職支援センターに申し出てください。

「スクールインターン」、「ボランティア活動」の単位認定を希望する学生は、社会活動を行う前に教育支援グループに申し出てください。

認定できる科目

学部	自由科目
家政学部・文学部	企業等体験実習
社会情報学部・比較文化学部	企業等体験実習 スクールインターン ボランティア活動

※単位認定が受けられるのは、1科目につき1回だけです。

※資格証明書や免許証が発行されるものについては、単位認定を受けることはできません。

認定基準と認定単位

認定基準と認定単位
活動時間：45時間で1単位
認定単位上限：年間2単位
活動期間：正規の授業に支障がない期間
必要書類：実習資料、実習証明書、報告書等

認定に際しての注意事項

- (1) 1年間に認定できる単位は2単位までです。
- (2) 単位を認定するための要件を満たしていても活動内容によっては申請できない場合があります。単位の認定を希望する学生は、必ず事前に就職支援センターに相談してください。
- (3) 単位認定を受けられるボランティア活動への参加には、ボランティア保険への加入が必要です。国外ボランティア活動は保険の補償外になるため単位認定を受けることができません。
- (4) 認定した単位の評価は、「N」として表示されます。

全学共通科目	86
家政学部	86
文学部	88
社会情報学部	90
比較文化学部	92
専門教育科目	100
家政学部	
被服学科	100
食物学科食物学専攻	104
管理栄養士専攻	106
児童学科児童学専攻	108
児童教育専攻	110
ライフデザイン学科	114
文学部	
日本文学科	116
英語英文学科	118
コミュニケーション文化学科	120
社会情報学部	
社会情報学科社会生活情報学専攻	122
環境情報学専攻	126
情報デザイン専攻	128
比較文化学部	
比較文化学科	130
アジア文化コース	132
アメリカ文化コース	134
ヨーロッパ文化コース	136
履修モデル	139
家政学部	
被服学科	139
食物学科食物学専攻	140
管理栄養士専攻	142
児童学科児童学専攻	144
児童教育専攻	145
ライフデザイン学科	146
文学部	
日本文学科	148
英語英文学科	150
コミュニケーション文化学科	152
社会情報学部	
社会情報学科社会生活情報学専攻	154
環境情報学専攻	156
情報デザイン専攻	158
比較文化学部	
比較文化学科	160
編入学者に対する単位の認定について	162
卒業論文等(卒業制作・卒業研究)	164
教育・研究交流による単位修得	167

すべての授業科目は、各学部学科の教育方針に従って、全学共通科目や専門科目などのグループに分類され、必修科目や選択科目など、様々な条件が与えられています。これは、無秩序な科目選択をなくし、体系立てて専門分野を学んでいけるようにと、考えられたものです。大学で4年間、学修を進めていくためには、この仕組みを理解し、必要なときに必要な科目を履修していかなければなりません。

ここでは、各学部学科ごとに開設されている授業科目を、それぞれの分類に従って掲載しています。自分の学科で開設されている授業科目を知り、履修計画を立てるために欠かせない基礎資料です。

授業科目に関する具体的内容を知るには大学のホームページから Web シラバスを参照してください。

社会情報学部

(2020年度入学生から適用)

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	卒業必要単位数									備考				
						社会生活情報学専攻			環境情報学専攻			情報デザイン専攻							
						必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択					
基礎科目	I 女性キャンパスライフ	大妻教養講座	1	半期	講義	1	1				1								
	II リテラシー	キャンパスライフとメンタルヘルス	2	半期	講義	1・2・3・4													
		女性と健康	2	半期	講義	1・2・3・4													
		ジェンダーと社会生活	2	半期	講義	1・2・3・4													
		女性史	2	半期	講義	1・2・3・4													
		日本語 A (文章表現)	2	半期	講義	1													
		日本語 B (口頭表現)	2	半期	講義	1・2													
	III キャリア	日本語 C (読解)	2	半期	講義	1													
		コンピュータ基礎 A	2	半期	演習	1		4			4			4					
		コンピュータ基礎 B	2	半期	演習	1													
	I 人間と文化	キャリア・ディベロップメント・プログラム I	2	集中	演習	1・2・3・4													
		キャリア・ディベロップメント・プログラム II	2	集中	演習	2・3・4													
		キャリアデザイン I	2	半期	講義	1・2													
		キャリアデザイン II	2	半期	講義	2・3													
		キャリアデザイン III	2	半期	講義	3・4													
文学の世界		2	半期	講義	1・2・3・4														
音楽の世界		2	半期	講義	1・2・3・4														
美術の世界		2	半期	講義	1・2・3・4														
映像・演劇の世界		2	半期	講義	1・2・3・4														
II 社会と生活	考古学の世界	2	半期	講義	1・2・3・4														
	ポピュラー・カルチャーの世界	2	半期	講義	1・2・3・4														
	地域と文化	2	半期	講義	1・2・3・4														
	言語と文化	2	半期	講義	1・2・3・4														
	日本の歴史と文化	2	半期	講義	1・2・3・4														
	世界の歴史と文化	2	半期	講義	1・2・3・4														
	哲学と思想	2	半期	講義	1・2・3・4														
	日本文化・事情	2	半期	講義	1・2・3・4													外国人留学生優先	
	子どもの世界	2	半期	講義	1・2・3・4														
	人間の成長と心理	2	半期	講義	1・2・3・4														
III 自然と科学	日本国憲法	2	半期	講義	1・2・3・4														
	法律と現代社会	2	半期	講義	1・2・3・4														
	政治と現代社会	2	半期	講義	1・2・3・4		8	11		8	11		8	11					
	経済と現代社会	2	半期	講義	1・2・3・4														
	メディアと現代社会	2	半期	講義	1・2・3・4														
	家族と現代社会	2	半期	講義	1・2・3・4														
	福祉と現代社会(ボランティアを含む)	2	半期	講義	1・2・3・4														
	数学の世界	2	半期	講義	1・2・3・4														
IV スポーツ	生活の物理	2	半期	講義	1・2・3・4														
	生活の化学	2	半期	講義	1・2・3・4														
	科学と環境	2	半期	講義	1・2・3・4														
	生命の科学	2	半期	講義	1・2・3・4														
	宇宙の科学	2	半期	講義	1・2・3・4														
	人類の進化	2	半期	講義	1・2・3・4														
	自然科学の歴史	2	半期	講義	1・2・3・4														
	スポーツ A	1	半期	実技	1・2・3・4														
スポーツ B	1	半期	実技	1・2・3・4															
スポーツ C	1	半期	実技	1・2・3・4															
スポーツ D	1	半期	実技	1・2・3・4															
シーズン・スポーツ	1	半期 (一部集中)	実技	1・2・3・4															
スポーツと健康	2	半期	講義	1・2・3・4															
レクリエーション論	2	半期	講義	1・2・3・4															
レクリエーション実技	1	半期	実技	1・2・3・4															

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	卒業必要単位数									備考						
						社会生活情報学専攻			環境情報学専攻			情報デザイン専攻									
						必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択							
外国語科目	英語 I A	1	半期	演習	1	10				10				10							
	英語 I B	1	半期	演習	1																
	英語 I C	1	半期	演習	1																
	英語 I D	1	半期	演習	1																
	英語 II A	1	半期	演習	2																
	英語 II B	1	半期	演習	2																
	英語 II C	1	半期	演習	2																
	英語 II D	1	半期	演習	2																
	英語 III A	1	半期	演習	2																
	英語 III B	1	半期	演習	2																
	フランス語 I	1	半期	演習	1・2																
	フランス語 II	1	半期	演習	1・2																
	フランス語 III	1	半期	演習	2・3																
	フランス語 IV	1	半期	演習	2・3																
	ドイツ語 I	1	半期	演習	1・2																
	ドイツ語 II	1	半期	演習	1・2																
	ドイツ語 III	1	半期	演習	2・3																
	ドイツ語 IV	1	半期	演習	2・3																
	スペイン語 I	1	半期	演習	1・2																
	スペイン語 II	1	半期	演習	1・2																
	スペイン語 III	1	半期	演習	2・3																
	スペイン語 IV	1	半期	演習	2・3																
	ロシア語 I	1	半期	演習	1・2																
	ロシア語 II	1	半期	演習	1・2																
	ロシア語 III	1	半期	演習	2・3																
	ロシア語 IV	1	半期	演習	2・3																
	中国語 I	1	半期	演習	1・2																
	中国語 II	1	半期	演習	1・2																
	中国語 III	1	半期	演習	2・3																
	中国語 IV	1	半期	演習	2・3																
	韓国語 I	1	半期	演習	1・2																
	韓国語 II	1	半期	演習	1・2																
韓国語 III	1	半期	演習	2・3																	
韓国語 IV	1	半期	演習	2・3																	
日本語 I	1	半期	演習	1・2																	
日本語 II	1	半期	演習	1・2																	
日本語 III	1	半期	演習	2・3																	
日本語 IV	1	半期	演習	2・3																	
国際理解科目 地域文化・	地域文化理解 I	2	集中	演習	1・2・3・4																
	地域文化理解 II	2	集中	演習	1・2・3・4																
	地域文化理解 III	2	集中	演習	1・2・3・4																
	国際理解(海外研修) I	2	集中	演習	1・2・3・4																
	国際理解(海外研修) II	2	集中	演習	1・2・3・4																
	国際理解(海外研修) III	2	集中	演習	1・2・3・4																
	国際理解(海外研修) IV	1	集中	演習	1・2・3・4																
	国際理解(海外研修) V	1	集中	演習	1・2・3・4																
	最低履修単位数						11	12	11	11	12	11	11	12	11						
						34			34			34									

注 (1) この表は、全学共通科目の卒業要件である。専門教育科目については、各学科の項を参照すること。
 注 (2) 上記の全学共通科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割で確認すること。

比較文化学部

(2020年度入学生から適用)

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	卒業必要単位数			備考
						比較文化学科			
						必修	選択必修	選択	
基礎科目	I 女性キャンパスライフ	大妻教養講座	1	半期	講義	1	1	2	
		キャンパスライフとメンタルヘルス	2	半期	講義	1・2・3・4			
		女性と健康	2	半期	講義	1・2・3・4			
		ジェンダーと社会生活	2	半期	講義	1・2・3・4			
		女性史	2	半期	講義	1・2・3・4			
	II リテラシー	日本語 A (文章表現)	2	半期	講義	1	4	2	
		日本語 B (口頭表現)	2	半期	講義	1・2			
		日本語 C (読解)	2	半期	講義	1			
		コンピュータ基礎 A	2	半期	演習	1			
		コンピュータ基礎 B	2	半期	演習	1			
	III キャリア	キャリア・ディベロップメント・プログラム I	2	集中	演習	1・2・3・4	2		
		キャリア・ディベロップメント・プログラム II	2	集中	演習	2・3・4			
		キャリアデザイン I	2	半期	講義	1・2			
		キャリアデザイン II	2	半期	講義	2・3			
		キャリアデザイン III	2	半期	講義	3・4			
教養科目	I 人間と文化	文学の世界	2	半期	講義	1・2・3・4	6	7	※外国人留学生優先
		音楽の世界	2	半期	講義	1・2・3・4			
		美術の世界	2	半期	講義	1・2・3・4			
		映像・演劇の世界	2	半期	講義	1・2・3・4			
		考古学の世界	2	半期	講義	1・2・3・4			
		ポピュラー・カルチャーの世界	2	半期	講義	1・2・3・4			
		地域と文化	2	半期	講義	1・2・3・4			
		言語と文化	2	半期	講義	1・2・3・4			
		日本の歴史と文化	2	半期	講義	1・2・3・4			
	世界の歴史と文化	2	半期	講義	1・2・3・4				
	II 社会と生活	哲学と思想	2	半期	講義	1・2・3・4			
		日本文化・事情	2	半期	講義	1・2・3・4			
		子どもの世界	2	半期	講義	1・2・3・4			
		人間の成長と心理	2	半期	講義	1・2・3・4			
		日本国憲法	2	半期	講義	1・2・3・4			
法律と現代社会		2	半期	講義	1・2・3・4				
III 自然と科学	政治と現代社会	2	半期	講義	1・2・3・4				
	経済と現代社会	2	半期	講義	1・2・3・4				
	メディアと現代社会	2	半期	講義	1・2・3・4				
	家族と現代社会	2	半期	講義	1・2・3・4				
	福祉と現代社会(ボランティアを含む)	2	半期	講義	1・2・3・4				
	数学の世界	2	半期	講義	1・2・3・4				
	生活の物理	2	半期	講義	1・2・3・4				
IV スポーツ	生活の化学	2	半期	講義	1・2・3・4				
	科学と環境	2	半期	講義	1・2・3・4				
	生命の科学	2	半期	講義	1・2・3・4				
	宇宙の科学	2	半期	講義	1・2・3・4				
	人類の進化	2	半期	講義	1・2・3・4				
	自然科学の歴史	2	半期	講義	1・2・3・4				
	スポーツ A	1	半期	実技	1・2・3・4				
	スポーツ B	1	半期	実技	1・2・3・4				
スポーツ C	1	半期	実技	1・2・3・4					
スポーツ D	1	半期	実技	1・2・3・4					
シーズン・スポーツ	1	半期 (一学期中)	実技	1・2・3・4					
スポーツと健康	2	半期	講義	1・2・3・4					
レクリエーション論	2	半期	講義	1・2・3・4					
レクリエーション実技	1	半期	実技	1・2・3・4					

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	卒業必要単位数			備考
						比較文化学科			
						必修	選択必修	選択	
外国語科目	英語 I A	1	半期	演習	1	10			
	英語 I B	1	半期	演習	1				
	英語 I C	1	半期	演習	1				
	英語 I D	1	半期	演習	1				
	英語 II A	1	半期	演習	2				
	英語 II B	1	半期	演習	2				
	英語 II C	1	半期	演習	2				
	英語 II D	1	半期	演習	2				
	英語 III A	1	半期	演習	2				
	英語 III B	1	半期	演習	2				
	フランス語 I	1	半期	演習	1・2				
	フランス語 II	1	半期	演習	1・2				
	フランス語 III	1	半期	演習	1・2				
	フランス語 IV	1	半期	演習	1・2				
	ドイツ語 I	1	半期	演習	1・2				
	ドイツ語 II	1	半期	演習	1・2				
	ドイツ語 III	1	半期	演習	1・2				
	ドイツ語 IV	1	半期	演習	1・2				
	スペイン語 I	1	半期	演習	1・2	4			
	スペイン語 II	1	半期	演習	1・2				
	スペイン語 III	1	半期	演習	1・2				
	スペイン語 IV	1	半期	演習	1・2				
	ロシア語 I	1	半期	演習	1・2				
	ロシア語 II	1	半期	演習	1・2				
	ロシア語 III	1	半期	演習	1・2				
	ロシア語 IV	1	半期	演習	1・2				
	中国語 I	1	半期	演習	1・2				
	中国語 II	1	半期	演習	1・2				
	中国語 III	1	半期	演習	1・2				
	中国語 IV	1	半期	演習	1・2				
	韓国語 I	1	半期	演習	1・2				
	韓国語 II	1	半期	演習	1・2				
韓国語 III	1	半期	演習	1・2					
韓国語 IV	1	半期	演習	1・2					
日本語 I	1	半期	演習	1・2				※外国人留学生対象	
日本語 II	1	半期	演習	1・2					
日本語 III	1	半期	演習	2・3					
日本語 IV	1	半期	演習	2・3					
国際理解科目・地域文化	地域文化理解 I	2	集中	演習	1・2・3・4				
	地域文化理解 II	2	集中	演習	1・2・3・4				
	地域文化理解 III	2	集中	演習	1・2・3・4				
	国際理解(海外研修) I	2	集中	演習	1・2・3・4				
	国際理解(海外研修) II	2	集中	演習	1・2・3・4				
	国際理解(海外研修) III	2	集中	演習	1・2・3・4				
	国際理解(海外研修) IV	1	集中	演習	1・2・3・4				
	国際理解(海外研修) V	1	集中	演習	1・2・3・4				
最低履修単位数						15	16	7	38

注(1) この表は、全学共通科目の卒業要件である。専門教育科目については、各学科の項を参照すること。

注(2) 上記の全学共通科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割で確認すること。

家政学部被服学科

次のように科目を履修し、合計 34 単位以上を修得してください。

①必修科目 (計 3 単位)

- ア 基礎科目の「Ⅰ女性とキャンパスライフ」から「大妻教養講座」(1 単位)を履修してください。
- イ 外国語科目の「英語ⅠA・ⅠB」(計 2 単位)を履修してください。

②選択必修科目 (計 16 単位)

- ア 基礎科目の「Ⅰ女性とキャンパスライフ」から必修科目「大妻教養講座」以外の 2 単位、「Ⅱリテラシー」から 2 単位、「Ⅲキャリア」から 2 単位を履修してください。
- イ 教養科目の「Ⅰ～Ⅳ」から 10 単位を履修してください。

③選択科目 (計 15 単位以上)

基礎科目、教養科目、外国語科目、地域文化・国際理解科目の中から必修科目と選択必修科目で履修した科目以外で 15 単位以上を履修してください。

家政学部食物学科

次のように科目を履修し、合計 28 単位以上を修得してください。

①必修科目 (計 3 単位)

- ア 基礎科目の「Ⅰ女性とキャンパスライフ」から「大妻教養講座」(1 単位)を履修してください。
- イ 外国語科目の「英語ⅠA・ⅠB」(計 2 単位)を履修してください。

②選択必修科目 (計 16 単位)

- ア 基礎科目の「Ⅰ女性とキャンパスライフ」から必修科目「大妻教養講座」以外の 2 単位、「Ⅱリテラシー」から 2 単位、「Ⅲキャリア」から 2 単位を履修してください。
- イ 教養科目の「Ⅲ自然と科学」から 6 単位履修し、さらにそれらの科目以外で「Ⅰ～Ⅳ」から 4 単位を履修してください。

③選択科目 (計 9 単位以上)

基礎科目、教養科目、外国語科目、地域文化・国際理解科目の中から必修科目と選択必修科目で履修した科目以外で 9 単位以上を履修してください。

家政学部児童学科

次のように科目を履修し、合計 28 単位以上を修得してください。

①必修科目 (計 3 単位)

- ア 基礎科目の「Ⅰ女性とキャンパスライフ」から「大妻教養講座」(1 単位)を履修してください。
- イ 外国語科目の「英語ⅠA・ⅠB」(計 2 単位)を履修してください。

②選択必修科目 (計 16 単位)

- ア 基礎科目の「Ⅰ女性とキャンパスライフ」から必修科目「大妻教養講座」以外の 2 単位、「Ⅱリテラシー」から 2 単位、「Ⅲキャリア」から 2 単位を履修してください。
- イ 教養科目の「Ⅰ～Ⅳ」から 10 単位を履修してください。

③選択科目 (計 9 単位以上)

基礎科目、教養科目、外国語科目、地域文化・国際理解科目の中から必修科目と選択必修科目で履修した科目以外で 9 単位以上を履修してください。

家政学部ライフデザイン学科

次のように科目を履修し、合計 34 単位以上を修得してください。

①必修科目 (計 3 単位)

- ア 基礎科目の「I 女性とキャンパスライフ」から「大妻教養講座」(1 単位)を履修してください。
- イ 外国語科目の「英語 I A・I B」(計 2 単位)を履修してください。

②選択必修科目 (計 16 単位)

- ア 基礎科目の「I 女性とキャンパスライフ」から必修科目「大妻教養講座」以外の 2 単位、「II リテラシー」の「日本語 A (文章表現)」「日本語 B (口頭表現)」「日本語 C (読解)」からいずれか 2 単位、「コンピュータ基礎 A」「コンピュータ基礎 B」「コンピュータ応用」からいずれか 2 単位、「III キャリア」から 2 単位を履修してください。
- イ 教養科目の「I～IV」から 8 単位を履修してください。

③選択科目 (計 15 単位以上)

基礎科目、教養科目、外国語科目、地域文化・国際理解科目の中から必修科目と選択必修科目で履修した科目以外で 15 単位以上を履修してください。

文学部日本文学科

次のように科目を履修し、合計 37 単位以上を修得してください。

①必修科目 (計 3 単位)

- ア 基礎科目の「I 女性とキャンパスライフ」から「大妻教養講座」(1 単位)を履修してください。
- イ 外国語科目の「英語 I A・I B」(計 2 単位)を履修してください。

②選択必修科目 (計 16 単位)

- ア 基礎科目の「I 女性とキャンパスライフ」から必修科目「大妻教養講座」以外の 2 単位、「II リテラシー」の「日本語 A (文章表現)」「日本語 B (口頭表現)」「日本語 C (読解)」からいずれか 2 単位、「III キャリア」から 2 単位を履修してください。
- イ 教養科目の「I～IV」から 10 単位を履修してください。

③選択科目 (計 18 単位以上)

基礎科目、教養科目、外国語科目、地域文化・国際理解科目の中から必修科目と選択必修科目で履修した科目以外で 18 単位以上を履修してください。

文学部英語英文学科

次のように科目を履修し、合計 37 単位以上を修得してください。

①必修科目 (計 11 単位)

- ア 基礎科目の「I 女性とキャンパスライフ」から「大妻教養講座」(1 単位)と「II リテラシー」から「日本語 A (文章表現)」(2 単位)を履修してください。
- イ 外国語科目の「英語 I A・I B・I C・I D・II A・II B・II C・II D」(計 8 単位)を履修してください。

②選択必修科目 (計 18 単位)

- ア 基礎科目の「I 女性とキャンパスライフ」から必修科目「大妻教養講座」以外の 1 科目(2 単位)、「III キャリア」から 2 単位を履修してください。
- イ 教養科目の「I～IV」から 10 単位を履修してください。
- ウ 外国語科目の「フランス語 I・II・III・IV」(計 4 単位)、「ドイツ語 I・II・III・IV」(計 4 単位)、「スペイン語 I・II・III・IV」(計 4 単位)、「ロシア語 I・II・III・IV」(計 4 単位)、「中国語 I・II・III・IV」(計 4 単位)、「韓国語 I・II・III・IV」(計 4 単位)、「日本語 I・II・III・IV」(計 4 単位)から、いずれか 4 単位を履修してください。

③選択科目 (計 8 単位以上)

基礎科目、教養科目、外国語科目、地域文化・国際理解科目の中から必修科目と選択必修科目で履修した科目以外で 8 単位以上を履修してください。

文学部コミュニケーション文化学科**英語専修**

次のように科目を履修し、合計 37 単位以上を修得してください。

① 必修科目 (計 11 単位)

- ア 基礎科目の「I 女性とキャンパスライフ」から「大妻教養講座」(1 単位)と「II リテラシー」から「日本語 A (文章表現)」(2 単位)を履修してください。
- イ 外国語科目の「英語 I A・I B・I C・I D・II A・II B・II C・II D」(計 8 単位)を履修してください。

② 選択必修科目 (計 18 単位)

- ア 基礎科目の「I 女性とキャンパスライフ」から必修科目「大妻教養講座」以外の 2 単位、「III キャリア」から 2 単位を履修してください。
- イ 教養科目の「I～IV」から 10 単位を履修してください。
- ウ 外国語科目の「フランス語 I・II・III・IV」(計 4 単位)、「ドイツ語 I・II・III・IV」(計 4 単位)、「スペイン語 I・II・III・IV」(計 4 単位)、「ロシア語 I・II・III・IV」(計 4 単位)、「中国語 I・II・III・IV」(計 4 単位)、「韓国語 I・II・III・IV」(計 4 単位)、「日本語 I・II・III・IV」(計 4 単位)から、いずれか 4 単位を履修してください。

③ 選択科目 (計 8 単位以上)

基礎科目、教養科目、外国語科目、地域文化・国際理解科目の中から必修科目と選択必修科目で履修した科目以外で 8 単位以上を履修してください。

中国語専修

次のように科目を履修し、合計 37 単位以上を修得してください。

① 必修科目 (計 13 単位)

- ア 基礎科目の「I 女性とキャンパスライフ」から「大妻教養講座」(1 単位)と「II リテラシー」の「日本語 A (文章表現)」(2 単位)を履修してください。
- イ 外国語科目の「英語 I A・I B・I C・I D・II A・II B」(計 6 単位)、「中国語 I・II・III・IV」(計 4 単位)を履修してください。

② 選択必修科目 (計 14 単位)

- ア 基礎科目の「I 女性とキャンパスライフ」から必修科目「大妻教養講座」以外の 2 単位、「III キャリア」から 2 単位を履修してください。
- イ 教養科目の「I～IV」から 10 単位を履修してください。

③ 選択科目 (計 10 単位以上)

基礎科目、教養科目、外国語科目、地域文化・国際理解科目の中から必修科目と選択必修科目で履修した科目以外で 10 単位以上を履修してください。

社会情報学部社会情報学科

次のように科目を履修し、合計 34 単位以上を修得してください。

① 必修科目 (計 11 単位)

- ア 基礎科目の「I 女性とキャンパスライフ」から「大妻教養講座」(1 単位)を履修してください。
- イ 外国語科目の「英語 I A・I B・I C・I D・II A・II B・II C・II D・III A・III B」(計 10 単位)を履修してください。

② 選択必修科目 (計 12 単位)

- ア 基礎科目から、必修科目「大妻教養講座」以外の 4 単位を履修してください。ただし、社会生活情報学専攻は、「II リテラシー」以外の区分で 4 単位を履修してください。
- イ 教養科目の「I～IV」から、8 単位を履修してください。

③ 選択科目 (計 11 単位以上)

基礎科目、教養科目、外国語科目、地域文化・国際理解科目の中から必修科目と選択必修科目で履修した科目以外に 11 単位以上を履修してください。

※ 注意事項

社会情報学部では「コンピュータ基礎A」「コンピュータ基礎B」「コンピュータ応用」は開講されません。

比較文化学部比較文化学科

次のように科目を履修し、合計38単位以上を修得してください。

① 必修科目（計15単位）

- ア 基礎科目の「I女性とキャンパスライフ」から「大妻教養講座」（1単位）を履修してください。
- イ 基礎科目の「IIリテラシー」から「コンピュータ基礎A・B」（計4単位）を履修してください。
- ウ 外国語科目の「英語IA・IB・IC・ID・IIA・IIB・IIC・IID・IIIA・IIIB」（計10単位）を履修してください。

② 選択必修科目（計16単位）

- ア 基礎科目の「I女性とキャンパスライフ」から必修科目「大妻教養講座」以外の2単位、「IIリテラシー」の「日本語A～C」から2単位、「IIIキャリア」から2単位を履修してください。
- イ 教養科目の「I～IV」から6単位を履修してください。
- ウ 外国語科目（英語以外）から同一言語（計4単位）を履修してください。

③ 選択科目（計7単位以上）

基礎科目、教養科目、外国語科目、地域文化・国際理解科目の中から必修科目と選択必修科目で履修した科目以外に7単位以上を履修してください。

大妻教養講座について

全学共通科目の中に開設している「大妻教養講座」は本学の特色ある必修科目です。皆さんの母校となる大妻女子大学がどのような建学の精神・伝統・特質を持っているかを学び、皆さんが誇りと自信をもって本学での学生生活を送ることができるように応援します。さらに入学された皆さんが、本学で何をどう学ぶかという入門講座の役割も果たします。

地域文化・国際理解科目について

「地域文化理解」・「国際理解（海外研修）」の単位を修得するには、本学が指定した地域連携プログラムや留学プログラムなどに参加し、一定以上の成績を修めなければなりません。

なお、履修登録の方法については、通常と異なりますので、掲示等で確認してください。

他キャンパス履修

自分が所属するキャンパス以外（多摩キャンパス）で開講の全学共通科目を履修することができます。ただし、受講者調整の関係から、後期開講科目のみ履修することになり、履修登録は後期履修登録時に行います。

単位互換について

本学と単位互換協定を締結している大学等の科目を履修し修得した単位について、必要に応じて本学開設科目の「教養特殊講義」あるいは「外国語特殊演習」として、それぞれ教養科目区分、外国語科目区分の単位として認定します。

諸課程履修者に関わる単位の取扱いについて

下記該当学科・専攻の教職課程、図書館学課程（図書館司書課程、学校図書館司書教諭課程）、博物館学芸員課程において修得した単位を以下の表のとおり、卒業要件の単位数として認めます。

これにより、修得した単位は卒業に必要な全学共通科目の選択科目の単位に含めることができます。ただし、2つ以上の課程を履修するものは8単位を上限とします。

学科・専攻	対象科目	卒業要件として認められる単位数
被服学科	教育の基礎的理解に関する科目等※	4単位
	博物館学芸員課程科目（全学共通科目除く）	4単位
食物学科食物学専攻	教育の基礎的理解に関する科目等※	4単位
	図書館司書課程科目	4単位
	博物館学芸員課程科目（全学共通科目除く）	4単位
児童学科児童学専攻	図書館司書課程科目	4単位
	博物館学芸員課程科目（全学共通科目除く）	4単位
児童学科児童教育専攻	学校図書館司書教諭課程科目	4単位
	図書館司書課程科目	4単位
	博物館学芸員課程科目（全学共通科目除く）	4単位
ライフデザイン学科	図書館司書課程科目	4単位
	博物館学芸員課程科目（全学共通科目除く）	4単位
日本文学科 英語英文学科	教育の基礎的理解に関する科目等※	4単位
	学校図書館司書教諭課程科目	4単位
	図書館司書課程科目	4単位
	博物館学芸員課程科目（全学共通科目除く）	4単位
コミュニケーション文化学科	図書館司書課程科目	4単位
	博物館学芸員課程科目（全学共通科目除く）	4単位
社会情報学科	教育の基礎的理解に関する科目等※	4単位
	学校図書館司書教諭課程科目	4単位
	図書館司書課程科目	4単位
	博物館学芸員課程科目（全学共通科目除く）	4単位
比較文化学科	図書館司書課程科目	4単位
	博物館学芸員課程科目（全学共通科目除く）	4単位

※教育の基礎的理解に関する科目等とは「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」をいう。

2 専門教育科目

卒業要件

被服学科

(2019年度入学生から適用)

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	備考 ()内は、卒業に必要な単位数 ◆印は、他学科履修可能科目
家政学部 共通科目	家庭経営学概論(含家庭経済学)	2	半期	講義	1	(8)
	家族関係論	2	半期	講義	2	
	食物学概論	2	半期	講義	2	
	児童学概論	2	半期	講義	2	
	住居学概論	2	半期	講義	1	
	環境科学概論	2	半期	講義	2	
	ライフデザイン学概論	2	半期	講義	1	
必修科目	繊維科学	2	半期	講義	1	(34)
	色彩学	2	半期	講義	1	
	アパレル概論	2	半期	講義	1	
	日本服飾文化史	2	半期	講義	1	
	西洋服飾文化史	2	半期	講義	1	
	和服製作Ⅰ	2	半期②	実習	1	
	アパレル製作Ⅰ	2	半期②	実習	1	
	被服材料学	2	半期	講義	2	
	被服材料学実験	2	半期②	実験	2	
	基礎デザイン	2	半期	講義	2	
	衣生活文化論	2	半期	講義	2	
	被服体型学	2	半期	講義	2	
	ゼミナールⅠ	2	通年	演習	3	
	ゼミナールⅡ	2	通年	演習	4	
卒業研究	6	通年	—	4		

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	備考 ()内は、卒業に必要な単位数 ◆印は、他学科履修可能科目
選択科目	衣生活と化学	2	半期	講義	1	
	衣環境学	2	半期	講義	1	◆
	ファッションビジネス	2	半期	講義	1	◆
	服飾工芸	2	半期②	実習	1	
	機能性被服材料	2	半期	講義	2	◆
	被服管理学	2	半期	講義	2	◆
	染色学	2	半期	講義	2	◆
	界面科学	2	半期②	実験	2	
	被服心理学	2	半期	講義	2	◆
	服飾美学	2	半期	講義	2	◆
	パターン設計	2	半期②	演習	2	
	和服製作Ⅱ	2	半期②	実習	2	
	和服製作Ⅲ	2	半期②	実習	2	
	アパレル製作Ⅱ	2	半期②	実習	2	
	繊維製品消費科学	2	半期	講義	2	◆
	ファッション統計学	2	半期	講義	2	◆
	ファッションマーケティング	2	半期	講義	2	
	アパレル企画	2	半期②	演習	2	
	ファッションデザイン	2	半期②	演習	2	
	ケーススタディ	2	半期	講義	3	
	繊維加工学	2	半期	講義	3	◆
	インテリア材料	2	半期	講義	3	◆
	繊維科学実験	2	半期②	実験	3	
	テキスタイル分析	2	半期②	実験	3	
	アパレルCAD	2	半期②	演習	3	
	立体裁断Ⅰ	2	半期②	実習	3	
	立体裁断Ⅱ	2	半期②	実習	3	
	コンピュータグラフィックス	2	半期②	演習	3	
	インテリアデザイン	2	半期②	演習	3	
	工芸染色	2	半期②	実習	3	
	アパレル設計・生産Ⅰ	2	半期	講義	3	◆
	アパレル設計・生産Ⅱ	2	半期②	実習	3	
衣裳ディスプレイ	2	半期②	実習	3		
消費生活論	2	半期	講義	3	◆	
ファッションリテリング	2	半期	講義	3		
ファッションマネジメント	2	半期	講義	3		
ファッション広告論	2	半期	講義	3		
品質管理	2	半期	講義	3	◆	
消費者調査法	2	半期	講義	3	◆	
テキスタイルアドバイザー実習	1	—	実習	3		

(48)

注(1) この表は被服学科の専門教育科目に関する規定であって、全学共通科目については全学共通科目の項による。

注(2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

履修について（被服学科）

1 家政学部共通科目

- (1) 家政学部共通科目から8単位を履修し単位を修得してください。
- (2) 8単位を超えて修得した単位は、4単位を限度として卒業に必要な選択科目の単位に含めることができます。
- (3) 教職課程履修者は、「教科及び教科の指導法に関する科目等」で修得した2単位を「家政学部共通科目」として卒業に必要な単位に含めることができます。

2 選択科目

- (1) 原則として各領域の推奨選択科目を中心として履修することが望ましいです。
- (2) 他学科の専門教育科目（選択科目）は、当該学科に履修を認められた6科目8単位を限度として履修することができます。これにより修得した単位は卒業に必要な選択科目の単位に含めることができます。

3 その他

- (1) 「卒業研究」の履修は、3年次までに卒業に必要な単位を原則として100単位以上修得していることが望ましいです。
- (2) 教員免許状取得希望者は「**4**諸課程について 1 教職課程」の項を熟読し、単位の修得に十分注意してください。
- (3) 博物館学芸員資格取得希望者は「**4**諸課程について 3 博物館学芸員課程」の項を熟読し、単位の修得に十分注意してください。
- (4) 1級衣料管理士資格取得希望者は「**4**諸課程について 7 1級衣料管理士資格」の項を熟読し、単位の修得に十分注意してください。

卒業要件

食物学科 食物学専攻

(2020年度入学生から適用)

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	備考 ()内は、卒業に必要な単位数 ◆印は、他学科履修可能科目
家政学部 共通科目	家庭経営学概論(含家庭経済学)	2	半期	講義	1	(4)
	家族関係論	2	半期	講義	2	
	被服学概論	2	半期	講義	2	
	児童学概論	2	半期	講義	2	
	住居学概論	2	半期	講義	1	
	環境科学概論	2	半期	講義	2	
	ライフデザイン学概論	2	半期	講義	1	
必修科目	公衆衛生学	2	半期	講義	1	(62)
	社会福祉論	2	半期	講義	3	
	生活環境学実験	1	半期②	実験	1	
	生理学	2	半期	講義	1	
	人体構造機能論実験	1	半期②	実験	1	
	人体構造機能論	2	半期	講義	1	
	疾病の成り立ちⅠ	2	半期	講義	2	
	生化学	2	半期	講義	3	
	食品化学	2	半期	講義	1	
	食品化学実験	1	半期②	実験	2	
	食品学	2	半期	講義	1	
	食品学実験	1	半期②	実験	2	
	食安全学Ⅰ	2	半期	講義	2	
	食安全学実験	1	半期②	実験	2	
	基礎栄養学Ⅰ	2	半期	講義	1	
	基礎栄養学Ⅱ	2	半期	講義	1	
	栄養化学Ⅰ	2	半期	講義	2	
	栄養化学実験	1	半期②	実験	2	
	病態栄養学	2	半期	講義	2	
	応用栄養学	2	半期	講義	2	
	応用栄養学実習	1	半期②	実習	3	
	食事設計論	2	半期	講義	1	
	食事設計論実習	1	半期②	実習	2	
	栄養教育論Ⅰ	2	半期	講義	2	
	栄養教育論Ⅱ	2	半期	講義	3	
	栄養教育論実習Ⅰ	1	半期②	実習	2	
	公衆栄養学	2	半期	講義	3	
	給食管理論Ⅰ	2	半期	講義	2	
	給食管理論Ⅱ	2	半期	講義	3	
	給食管理実習Ⅰ	1	半期②	実習	3	
	調理科学Ⅰ	2	半期	講義	2	
	基礎調理学実習	1	半期②	実習	1	
	調理学実習	1	半期②	実習	1	
	栄養士概論	2	半期	講義	1	
食物学演習	2	半期	演習	3		
卒業論文Ⅰ	2	半期	—	4		
卒業論文Ⅱ	2	半期	—	4		

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	備考 ()内は、卒業に必要な単位数 ◆印は、他学科履修可能科目
選択科目	臨床栄養学	2	半期	講義	3	☆
	臨床栄養学実習	1	半期②	実習	3	☆
	栄養教育論実習Ⅱ	1	半期②	実習	3	☆
	校外実習指導	1	—	演習	3・4	☆
	給食管理実習Ⅱ	1	半期②	実習	3	☆
	校外実習	1	—	実習	3・4	☆
	化学Ⅱ	2	半期	講義	1	
	実践統計学	2	半期	演習	2	
	栄養化学Ⅱ	2	半期	講義	2	
	食安全学Ⅱ	2	半期	講義	2	
	調理科学Ⅱ	2	半期	講義	2	
	調理科学実験	1	半期②	実験	2	
	疾病の成り立ちⅡ	2	半期	講義	2	
	食品素材論	2	半期	講義	3	
	食品バイオテクノロジー	2	半期	講義	3	
	食品感覚機能論	2	半期	講義	4	
	食品流通論	2	半期	講義	3	
	食品開発論	2	半期	講義	3	
	応用調理学実習	1	半期②	実習	3	
	インターンシップ	1	集中	実習	3	
	スポーツパフォーマンス論	2	半期	講義	4	
	健康運動実践指導論	1	半期	講義・実習	3・4	隔年開講
	体力測定と評価	1	半期	講義・実習	3・4	隔年開講
	運動障害と予防・救急処置(含実習)	2	半期	講義・実習	4	隔年開講
	健康スポーツ実技	1	半期	実技	3・4	隔年開講
	消費科学	2	半期	講義	4	
	学校栄養教諭論	2	半期	講義	3	
	フードスペシャリスト論	2	半期	講義	4	
	フードコーディネーター論	2	半期	講義	4	
	化学Ⅰ	2	半期	講義	1	★
基礎生物学	2	半期	講義	1	★	
食文化論	2	半期	講義	1	★◆	
栄養・健康情報論	2	半期	講義	2	★◆	
食品微生物学	2	半期	講義	2	★	
食品微生物学実験	1	半期②	実験	2	★	
スポーツ栄養論	2	半期	講義	4	★	

(30)

注(1) この表は食物学専攻の専門教育科目に関する規定であって、全学共通科目については全学共通科目の項による。

注(2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注(3) ☆印は、栄養士免許を取得する者は必修科目。

注(4) ★印は、学科共通科目。

注(5) 「学校栄養教諭論」は、栄養教諭2種免許状資格を取得する者以外の履修は認められません。

注(6) 「健康スポーツ実技」は健康運動実践指導資格を取得する者以外の履修は認められません。

卒業要件

食物学科 管理栄養士専攻

(2020年度入学生から適用)

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	備考 ()内は、卒業に必要な単位数 ◆印は、他学科履修可能科目
家政学部 共通科目	家庭経営学概論 (含家庭経済学)	2	半期	講義	1	(4)
	家族関係論	2	半期	講義	2	
	被服学概論	2	半期	講義	2	
	児童学概論	2	半期	講義	2	
	住居学概論	2	半期	講義	1	
	環境科学概論	2	半期	講義	2	
	ライフデザイン学概論	2	半期	講義	1	
必修科目	公衆衛生学Ⅰ	2	半期	講義	1	
	公衆衛生学Ⅱ	2	半期	講義	3	
	実践統計学	2	半期	講義	2	
	社会福祉論	2	半期	講義	3	
	生活環境実験	1	半期②	実験	1	
	疾病の成り立ちⅠ	2	半期	講義	1	
	生化学Ⅰ	2	半期	講義	2	
	生化学Ⅱ	2	半期	講義	3	
	生化学実験	1	半期②	実験	2	
	栄養生化学	2	半期	講義	3	
	生理学	2	半期	講義	1	
	人体構造機能論	2	半期	講義	1	
	人体構造機能論実験	1	半期②	実験	1	
	疾病の成り立ちⅡ	2	半期	講義	2	
	栄養代謝実習	1	半期②	実習	2	
	食品学	2	半期	講義	1	
	食品学実験	1	半期②	実験	1	
	食品化学	2	半期	講義	1	
	食品化学実験	1	半期②	実験	2	
	食安全学	2	半期	講義	2	
	食安全学実験	1	半期②	実験	2	
	調理科学	2	半期	講義	2	
	基礎調理学実習Ⅰ	1	半期②	実習	1	
	基礎調理学実習Ⅱ	1	半期②	実習	1	
	食事設計論実習	1	半期②	実習	2	
	基礎栄養学Ⅰ	2	半期	講義	1	
	基礎栄養学Ⅱ	2	半期	講義	2	
	栄養学実験	1	半期②	実験	2	
	食事摂取基準論	2	半期	講義	2	
	ライフステージ栄養学	2	半期	講義	3	
	ライフステージ栄養学実習	1	半期②	実習	3	
	応用栄養科学	2	半期	講義	2	
	栄養教育論Ⅰ	2	半期	講義	2	
栄養教育論Ⅱ	2	半期	講義	3		
栄養教育論実習Ⅰ	1	半期②	実習	2		
栄養教育論実習Ⅱ	1	半期②	実習	3		
カウンセリング論	2	半期	講義	2		
病態栄養学Ⅰ	2	半期	講義	2		
病態栄養学Ⅱ	2	半期	講義	2		
臨床栄養学Ⅰ	2	半期	講義	2		
臨床栄養学Ⅱ	2	半期	講義	3		
臨床栄養学実習Ⅰ	1	半期②	実習	2		
臨床栄養学実習Ⅱ	1	半期②	実習	3		
臨床栄養指導論	2	半期	講義	3		

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	備考 ()内は、卒業に必要な単位数 ◆印は、他学科履修可能科目	
必修科目	公衆栄養学Ⅰ	2	半期	講義	3	(91)	
	公衆栄養学Ⅱ	2	半期	講義	3		
	公衆栄養学実習	1	半期②	実習	3		
	給食経営管理論Ⅰ	2	半期	講義	2		
	給食経営管理論Ⅱ	2	半期	講義	3		
	給食経営管理実習Ⅰ	1	半期②	実習	3		
	給食経営管理実習Ⅱ	1	半期②	実習	3		
	管理栄養士概論Ⅰ	2	半期	講義	1		
	管理栄養士概論Ⅱ	2	半期	講義	1		
	管理栄養士演習	2	半期	演習	4		
選択必修科目	食物学演習	2	半期	演習	3	(2)	
	卒業研究	2	半期	—	3・4		
	卒業論文Ⅰ	2	半期	—	3・4		
選択科目	卒業論文Ⅱ	2	半期	—	3・4	(14)	
	臨地実習指導	2	—	演習	3・4		☆◇
	臨地実習Ⅰ	1	—	実習	3・4		☆◇
	臨地実習Ⅱ	3	—	実習	3・4		◇
	管理栄養士総合演習	2	半期	演習	4		◇
	化学Ⅱ	2	半期	講義	1		
	食品感覚機能論	2	半期	講義	4		
	機能性食品学	2	半期	講義	2		
	調理科学実験	1	半期②	実験	2		
	学校栄養教諭論Ⅰ	2	半期	講義	3		
	学校栄養教諭論Ⅱ	2	半期	講義	3		
	化学Ⅰ	2	半期	講義	1		★
	基礎生物学	2	半期	講義	1		★
	食文化論	2	半期	講義	1		★◆
	栄養・健康情報論	2	半期	講義	2		★◆
	食品微生物学	2	半期	講義	2		★
食品微生物学実験	1	半期②	実験	2	★		
スポーツ栄養論	2	半期	講義	4	★		

注(1) この表は食物学科管理栄養士専攻の専門教育科目に関する規定であって、全学共通科目については全学共通科目の項による。

注(2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注(3) ☆印は、栄養士免許を取得する者は必修科目。

注(4) ◇印は、管理栄養士国家試験受験資格を取得する者は必修科目。

注(5) ★印は、学科共通科目。

注(6) 「学校栄養教諭論Ⅰ」、「学校栄養教諭論Ⅱ」は、栄養教諭1種免許状資格を取得する者以外の履修は認められません。

履修について（食物学科）

1 家政学部共通科目

- (1) 家政学部共通科目から4単位を履修し単位を修得してください。
- (2) 4単位を超えて修得した単位は、2単位を限度として卒業に必要な選択科目の単位に含めることができます。
- (3) 教職課程履修者は、「教育の基礎的理解に関する科目等」で修得した2単位を「家政学部共通科目」として卒業に必要な単位に含めることができます。

2 選択科目（食物学専攻）

他学科の専門教育科目（選択科目）は、当該学科に履修を認められた6科目8単位を限度として履修することができます。これにより修得した単位は卒業に必要な選択科目の単位に含めることができます。

3 その他

- (1) フードスペシャリスト資格取得希望者は「**Ⅳ**諸課程について 8 フードスペシャリスト資格」の項を熟読し、単位の修得に十分注意してください。
- (2) 図書館司書資格取得希望者は「**Ⅳ**諸課程について 2 図書館学課程」の項を熟読し、単位の修得に十分注意してください。
- (3) 博物館学芸員資格取得希望者は「**Ⅳ**諸課程について 3 博物館学芸員課程」の項を熟読し、単位の修得に十分注意してください。

卒業要件

児童学科 児童学専攻

(2019年度入学生から適用)

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	備考 ()内は、卒業に必要な単位数 ◆印は、他学科履修可能科目
家政学部 共通科目	家庭経営学概論(含家庭経済学)	2	半期	講義	1	(4)
	家族関係論	2	半期	講義	2	
	被服学概論	2	半期	講義	2	
	食物学概論	2	半期	講義	2	
	住居学概論	2	半期	講義	1	
	環境科学概論	2	半期	講義	2	
	ライフデザイン学概論	2	半期	講義	1	
必修科目	児童学入門	2	半期	講義	1	(102)
	保育原理	2	半期	講義	1	
	児童文化論	2	半期	講義	1	
	子どもと遊びA	2	半期	演習	1	
	子どもの権利論	2	半期	講義	1	
	教育心理学	2	半期	講義	1	
	領域人間関係	2	半期	講義	1	
	領域表現	2	半期	講義	1	
	子どもとからだ	2	半期	演習	1	
	教育原理A	2	半期	講義	1	
	児童学研究法I(概論)	2	半期	講義	1	
	社会福祉学	2	半期	講義	1	
	子ども理解の基礎	2	半期	講義	1	
	保育内容人間関係の指導法	2	半期	演習	1	
	保育内容表現の指導法	2	半期	演習	1	
	保育内容の理解と方法I	2	半期	演習	1	
	保育内容の理解と方法II	2	半期	演習	2	
	子ども家庭福祉論	2	半期	講義	2	
	保育者論	2	半期	講義	2	
	領域健康	2	半期	講義	2	
	領域こ と ば	2	半期	講義	2	
	特別支援教育A	2	半期	講義	2	
	保育カリキュラム論	2	半期	講義	2	
	乳児保育I	2	半期	講義	2	
	社会的養護論	2	半期	講義	2	
	子ども家庭支援論	2	半期	講義	2	
	保育内容健康の指導法	2	半期	演習	2	
	保育内容ことばの指導法	2	半期	演習	2	
	子どもの理解と援助	2	半期	演習	2	
	乳児保育II	2	半期	演習	3	
	子育て支援	2	半期	演習	3	
	領域環境	2	半期	講義	3	
	社会的養護内容	2	半期	演習	3	
	子どもの保健	2	半期	講義	3	
	子どもの食と栄養	2	半期	演習	3	
	教育相談の基礎	2	半期	演習	3	
	教育経営論A	2	半期	講義	3	
	保育方法演習	2	半期	演習	3	
	障がい児保育	2	半期	演習	3	
	子ども家庭支援の心理学	2	半期	講義	3	
保育内容環境の指導法	2	半期	演習	3		
子どもの健康と安全	2	半期	演習	3		
児童学専門演習I	2	半期	演習	3		
児童学専門演習II	2	半期	演習	3		
保育内容総論	2	半期	演習	4		
保育・教職実践演習	2	半期	演習	4		
卒業研究ゼミナールI	2	半期	演習	4		
卒業研究ゼミナールII	2	半期	演習	4		
卒業研究	6	通年	-	4		

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	備考 ()内は、卒業に必要な単位数 ◆印は、他学科履修可能科目
選択科目	子どもと物語	2	半期	演習	1	6 ◆ 2 (8)
	音楽技術Ⅰ	2	半期	演習	1	
	音楽技術Ⅱ	2	半期	演習	1	
	造形技術	2	半期	演習	1	
	児童学研究法Ⅱ(実験法・検査法)	2	半期	講義	2	
	児童学研究法Ⅲ(調査法・統計法)	2	半期	講義	2	
	児童学研究法Ⅳ(観察法・フィールドワーク)	2	半期	講義	2	
	学童保育	2	半期	演習	3	
	子どもNPO	2	半期	講義	3	
	保育カンファレンス演習	2	半期	演習	3	
	子どもと貧困	2	半期	講義	4	
	子どもと科学する心	2	半期	演習	4	
	保育者とアート(造形)	2	半期	演習	4	
	保育者とアート(音楽)	2	半期	演習	4	
	保育者とアート(パフォーマンス)	2	半期	演習	4	
	保育者とからだ	2	半期	演習	4	
	保育者とメディア	2	半期	演習	4	
	教育実習(幼稚園Ⅰ)	2	—	実習	2	
	教育実習(幼稚園Ⅱ)	2	—	実習	4	
	幼稚園実習特講	1	—	講義	2・3・4	
	保育者養成基礎演習Ⅰ	2	半期	演習	1	
	保育者養成基礎演習Ⅱ	2	半期	演習	2	
	保育実習Ⅰ	4	—	実習	2・3	
	保育実習指導ⅠA	2	半期	演習	2	
	保育実習指導ⅠB	2	半期	演習	3	
	保育実習Ⅱ	2	—	実習	3	
保育実習指導Ⅱ	2	半期	演習	3		
保育実習(アドバンス)	2	—	実習	4		
保育実習(アドバンス演習)	2	半期	演習	4		

注(1) この表は児童学科児童学専攻の専門教育科目に関する規定であって、全学共通科目については全学共通科目の項による。

注(2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

児童学科 児童教育専攻

(2020年度入学生から適用)

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	備考 ()内は、卒業に必要な単位数 ◆印は、他学科履修可能科目
家政学部共通科目	家庭経営学概論(含家庭経済学)	2	半期	講義	1	(4)
	家族関係論	2	半期	講義	2	
	被服学概論	2	半期	講義	2	
	食物学概論	2	半期	講義	2	
	住居学概論	2	半期	講義	1	
	ライフデザイン学概論	2	半期	講義	1	
必修科目	教育心理学	2	半期	講義	1	(96)
	児童学研究法Ⅰ(概論)	2	半期	講義	1	
	社会福祉学	2	半期	講義	1	
	児童学基礎体験演習Ⅰ	2	半期	演習	1	
	児童学基礎体験演習Ⅱ	2	半期	演習	1	
	子ども理解	2	半期	講義	1	
	教師論	2	半期	講義	1	
	生活科教育	2	半期	講義	1	
	音楽科教育	2	半期	講義	1	
	図工科教育	2	半期	講義	1	
	科学と遊び	2	半期	講義	1	
	子どもと実験	2	半期	講義	1	
	化学の基礎	2	半期	講義	1	
	物理の基礎	2	半期	講義	1	
	生物の基礎	2	半期	講義	1	
	地学の基礎	2	半期	講義	1	
	生物学基礎実験Ⅰ	1	半期②	実験	1	
	地学基礎実験Ⅰ	1	半期②	実験	1	
	児童学基礎体験演習Ⅲ	2	集中	演習	2	
	教育原理B	2	半期	講義	2	
	科学と説明・論証	2	半期	講義	2	
	国語科教育	2	半期	講義	2	
	社会科教育	2	半期	講義	2	
	算数科教育	2	半期	講義	2	
	理科教育	2	半期	講義	2	
	家庭科教育	2	半期	講義	2	
	体育科教育	2	半期	演習	2	
	物理学基礎実験Ⅰ	1	半期②	実験	2	
	化学基礎実験Ⅰ	1	半期②	実験	2	
	小学校外国語教育	2	半期	講義	2	
	道徳教育論	2	半期	講義	3	
	教育経営論B	2	半期	講義	3	
	教育課程論B	2	半期	講義	3	
	教育方法論	2	半期	演習	3	
	教育相談	2	半期	講義	3	
	児童学専門演習Ⅰ	2	半期	演習	3	
	児童学専門演習Ⅱ	2	半期	演習	3	
	子どもと生命	2	半期	講義	4	
	子どもと観察	2	半期	講義	4	
	子どもと科学する心	2	半期	演習	4	
	生徒・進路指導の理論及び方法	2	半期	講義	4	
	総合的な学習の時間の学びと指導法	2	半期	講義	4	
特別活動論	2	半期	講義	4		
特別支援教育B	2	半期	講義	4		
教職実践演習(小・中)	2	半期	演習	4		
卒業研究ゼミナールⅠ	2	半期	演習	4		
卒業研究ゼミナールⅡ	2	半期	演習	4		
卒業研究	6	通年	-	4		

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	備考 ()内は、卒業に必要な単位数 ◆印は、他学科履修可能科目
選択科目	生物学基礎実験Ⅱ	1	半期②	実験	1	◇
	地学基礎実験Ⅱ	1	半期②	実験	1	◇
	生活と物理	2	半期	講義	2	◇
	生活と化学	2	半期	講義	2	◇
	物理学基礎実験Ⅱ	1	半期②	実験	2	◇
	化学基礎実験Ⅱ	1	半期②	実験	2	◇
	理科教育法Ⅰ	2	半期	講義	2	◇
	理科教育法Ⅱ	2	半期	講義	2	◇
	小学校総合演習Ⅰ	2	半期	演習	3	
	小学校総合演習Ⅱ	2	半期	演習	3	
	国語科指導法	2	半期	演習	3	☆
	社会科指導法	2	半期	演習	3	☆
	算数科指導法	2	半期	演習	3	☆
	理科指導法	2	半期	演習	3	☆
	生活科指導法	2	半期	演習	3	☆
	音楽科指導法	2	半期	演習	3	☆
	図工科指導法	2	半期	演習	3	☆
	家庭科指導法	2	半期	演習	3	☆
	体育科指導法	2	半期	演習	3	☆
	生物と環境	2	半期	講義	3	◇
	地球と環境	2	半期	講義	3	◇
	理科教育法Ⅲ	2	半期	講義	3	◇
	理科教育法Ⅳ	2	半期	講義	3	◇
	特別活動要説	2	半期	講義	3	◇
	教育実習(中学校)	4	○	実習	3	◇
	中学校実習指導	1	○	講義	3	◇
	サイエンス・エドゥケーター論	2	半期	講義	4	◇
	小学校外国語指導法	2	半期	演習	4	☆
	学級経営と集団づくり	2	半期	講義	4	☆◇
	教育実習(小学校)	4	4週間	実習	4	☆
	特別教育実習(小学校)	4	○	実習	4	☆
	小学校実習特講	1	○	講義	4	☆
子どもと読書	2	半期	演習	1		
児童教育研究法	2	半期	講義	2		
子どもの学びと言語	2	半期	講義	2		
子どもの学びと自然	2	半期	講義	2	◇	
野外活動支援演習	2	集中	演習	2	◇	
リフレクション基礎論	2	半期	演習	2		
科学する心(生命編)	2	半期	講義	2	◇※	
科学する心(地球編)	2	半期	講義	2	◇※	
リフレクション実践演習	2	半期	演習	3		
学童保育	2	半期	演習	3		
子どもの学びとICT	2	半期	講義	3		
科学する心(エネルギー編)	2	半期	講義	3	◇※	
科学する心(粒子編)	2	半期	講義	3	◇※	
子どもと貧困	2	半期	講義	4		

(25)

注(1) この表は児童学科児童教育専攻の専門教育科目に関する規定であって、全学共通科目については全学共通科目の項による。

注(2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注(3) ☆印は、小学校の教員免許を取得する者は必修科目。

注(4) ◇印は、中学校(理科)の教員免許を取得する者は必修科目。

注(5) ※印の4科目については、「履修について(児童学科) 2選択科目 (5)」を確認すること。

履修について（児童学科）

1 家政学部共通科目

- (1) 家政学部共通科目から4単位を履修し単位を修得してください。
- (2) 4単位を超えて修得した単位は、4単位を限度として卒業に必要な選択科目の単位に含めることができます。

2 選択科目

- (1) 児童学専攻で開講される「子どもの食と栄養」「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅱ」「保育実習指導ⅠA」「保育実習指導ⅠB」「保育実習指導Ⅱ」は、保育士資格を取得する者以外の履修は認められません。
- (2) 演習科目の中で履修希望者が多い場合、履修者の調整を行う場合があります。
- (3) 他学科の専門教育科目（選択科目）は、当該学科に履修を認められた6科目8単位を限度として履修することができます。これにより修得した単位は卒業に必要な選択科目の単位に含めることができます。
- (4) 児童教育専攻で小学校の教員免許状を取得する者は、「社会福祉学」（2単位）を必ず履修し単位を修得してください。
- (5) 児童教育専攻において、下記いずれかの対象科目を修得している学生で、かつ、「専門選択科目」の修得単位数が合計25単位を越えている場合は、下記対象科目の内余剰単位数分（最大8単位）を「全学共通科目」の選択科目として、卒業に必要な単位に含めることができます。

※25単位を越えて修得している場合でも、下記対象科目以外は「全学共通科目」の選択科目の単位に含めることはできません。

〈対象科目〉「科学する心(生命編)」「科学する心(地球編)」「科学する心(エネルギー編)」「科学する心(粒子編)」

3 その他

- (1) 教員免許状取得希望者は「[4諸課程について 1 教職課程](#)」の項を熟読し、単位の修得に十分注意してください。
- (2) 保育士資格取得希望者は「[4諸課程について 6 保育士課程](#)」の項を熟読し、単位の修得に十分注意してください。
- (3) 免許・資格に関する授業への取り組みが芳しくない場合は、実習に行けないこともあります。
- (4) 図書館司書資格取得希望者は「[4諸課程について 2 図書館学課程](#)」の項を熟読し、単位の修得に十分注意してください。
- (5) 学校図書館司書教諭資格取得希望者は「[4諸課程について 2 図書館学課程](#)」の項を熟読し、単位の修得に十分注意してください。
- (6) 博物館学芸員資格取得希望者は「[4諸課程について 3 博物館学芸員課程](#)」の項を熟読し、単位の修得に十分注意してください。

卒業要件

ライフデザイン学科

(2020年度入学生から適用)

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	備考 ()内は、卒業に必要な単位数 ◆印は、他学科履修可能科目	
共通科目	家政学部	被服学概論	2	半期	講義	2	
	食物学概論	2	半期	講義	2		
	児童学概論	2	半期	講義	2		
	住居学概論	2	半期	講義	1	(6)	
必修科目	基礎科目	ライフデザイン学総論	2	半期	講義	1	
		生命論	2	半期	講義	1	
		生涯発達心理学	2	半期	講義	1	
		ライフデザイン基礎演習Ⅰ(思考・表現力)	2	半期	演習	1	
		ライフデザイン基礎演習Ⅱ(日本語力)	2	半期	演習	1	
		日常生活と環境	2	半期	講義	1	
		市民生活と法	2	半期	講義	1	
		生活情報論	2	半期	講義	1	
	展開科目	暮らしと社会保障	2	半期	講義	2	
		ライフデザイン演習Ⅰ(量的調査法)	2	半期	演習	3	
		ライフデザイン演習Ⅱ(質的調査法)	2	半期	演習	3	
		ライフデザイン演習Ⅲ(編集・プレゼンテーション)	2	半期	演習	4	
		ゼミナールⅠ-A	1	半期	演習	3	
		ゼミナールⅠ-B	1	半期	演習	3	
選択必修科目	感性教育科目	感性教育A(言語表現)	1	半期②	実習	1	
		感性教育B(造形表現)	1	半期②	実習	1	
		感性教育C(身体表現)	1	半期②	実習	1	(1)
選択科目	専門基礎科目	自然体験論Ⅰ	1	集中	講義	1	
		生活と工芸	2	半期	講義	1	
		コミュニティと福祉	2	半期	講義	1	
		生活経営学	2	半期	講義	1	
		ヒトと生態系	2	半期	講義	1・2	
		消費生活論	2	半期	講義	1・2	◆
		生活環境と健康	2	半期	講義	2・3	◆
		インテリアデザイン論	2	半期	講義	2	◆
		家族心理学	2	半期	講義	2	◆
		現代デザイン論	2	半期	講義	2	◆
		生活史	2	半期	講義	2・3	◆
		家族法	2	半期	講義	2	◆
		地域社会と環境	2	半期	講義	2・3	◆
		インテリアデザイン演習Ⅰ	2	半期②	演習	2	
		インテリアデザイン演習Ⅱ	2	半期②	演習	2	
		エコロジカルライフ演習	2	半期②	演習	2	
		プロダクトデザイン演習	2	半期②	演習	2・3	
		グリーンツーリズム体験実習	1	集中	実習	2	
生活のリスクマネジメント	2	半期	講義	2・3	◆		
農業体験学習	2	半期	演習	2			
情報とコミュニケーション	2	半期	講義	2・3	◆		

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	備考 ()内は、卒業に必要な単位数 ◆印は、他学科履修可能科目
専 門 応 用 科 目 選 択 科 目	都 市 と 公 園	2	半期	講義	3・4	
	工 芸 デ ザ イ ン 演 習	2	半期②	演習	3	
	グラフィックデザイン演習	2	半期②	演習	3・4	
	社会生活と心の健康	2	半期	講義	3・4	◆
	情報社会論	2	半期	講義	3・4	◆
	自然体験論Ⅱ	1	集中	講義	3	
	家族社会学	2	半期	講義	3・4	
	生物環境学演習	2	半期②	演習	3	
	暮らしとメディア	2	半期	講義	3・4	◆
	消費者と法	2	半期	講義	3	◆
	青少年と法	2	半期	講義	3	◆
	余暇生活論	2	半期	講義	3・4	◆
	暮らしと政治	2	半期	講義	3・4	◆
	暮らしとファイナンス	2	半期	講義	3・4	◆
	住空間デザイン論	2	半期	講義	3・4	◆
	N P O ・ 市 民 参 加 論	2	半期	講義	3・4	◆
	スロースライフ論	2	半期	講義	4	◆
	環境教育・思想論	2	半期	講義	4	◆
	社会老年学	2	半期	講義	4	◆
	家族と文化の心理学	2	半期	講義	4	◆
エコロジカルライフ論	2	半期	講義	4	◆	
生活と色彩	2	半期	講義	3・4	◆	
生活と映像	2	半期	講義	3・4	◆	
情報デザイン演習	2	半期	演習	4		
卒業研究	6	通年	—	4		

(53)

注 (1) この表はライフデザイン学科の専門教育科目に関する規定であって、全学共通科目については全学共通科目の項による。

注 (2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

履修について (ライフデザイン学科)

1 家政学部共通科目

- (1) 家政学部共通科目から6単位を履修し単位を修得してください。
- (2) 6単位を超えて修得した単位は、2単位を限度として卒業に必要な「専門基礎科目」または「専門応用科目」の単位に含めることができます。

2 選択科目

- (1) 他学科の専門教育科目(選択科目)は、当該学科に履修を認められた6科目8単位を限度として履修することができます。これにより修得した単位は卒業に必要な「専門基礎科目」または「専門応用科目」単位に含めることができます。
- (2) 「卒業研究」は、3年終了時点で通算GPAが1.5未満、または修得済みの単位数が92単位未満の学生は、原則として履修できませんので注意してください。

3 その他

- (1) 図書館司書資格取得希望者は「**4**諸課程について 2 図書館学課程」の項を熟読し、単位の修得に十分注意してください。
- (2) 博物館学芸員資格取得希望者は「**4**諸課程について 3 博物館学芸員課程」の項を熟読し、単位の修得に十分注意してください。

卒業要件

日本文学科

(平成 30 年度入学生から適用)

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	卒業必要単位数			備考 ◆はオープン科目
						必修	選択必修	選択	
必修科目	基礎ゼミⅠ	2	半期	演習	1前	46			
	日本古典文学入門	2	半期	講義	1前				
	漢文学入門	2	半期	講義	1前				
	上代文学概説	2	半期	講義	1後				
	中古文学概説	2	半期	講義	1後				
	中世文学概説	2	半期	講義	1後				
	近世文学概説	2	半期	講義	1後				
	近代文学概説	2	半期	講義	1前				
	現代文学概説	2	半期	講義	1前				
	日本語学概説	2	半期	講義	1前				
	漢文学概説	2	半期	講義	1後				
	変体仮名読解	2	半期	演習	1後				
	基礎ゼミⅡ	2	半期	演習	2前				
	語学・文学講読Ⅰ	2	半期	講義	2前				
	語学・文学講読Ⅱ	2	半期	講義	2後				
	書誌・出版	2	半期	講義	2・3				
	卒業論文ゼミⅠ	2	半期	演習	3前				
	卒業論文ゼミⅡ	2	半期	演習	3後				
卒業論文ゼミⅢ	2	半期	演習	3前*4前					
卒業論文ゼミⅣ	2	半期	演習	3後*4後					
卒業論文	6	半期	—	3*4					*3年次履修は早期卒業を認められた者に限る
選択科目	上代文学演習Ⅰ	2	半期	演習	2前/3前	12			同一科目名のⅠ・Ⅱを組み合わせることで履修すること
	上代文学演習Ⅱ	2	半期	演習	2後/3後				
	中古文学演習Ⅰ	2	半期	演習	2前/3前				
	中古文学演習Ⅱ	2	半期	演習	2後/3後				
	中世文学演習Ⅰ	2	半期	演習	2前/3前				
	中世文学演習Ⅱ	2	半期	演習	2後/3後				
	近世文学演習Ⅰ	2	半期	演習	2前/3前				
	近世文学演習Ⅱ	2	半期	演習	2後/3後				
	近代文学演習Ⅰ	2	半期	演習	2前/3前				
	近代文学演習Ⅱ	2	半期	演習	2後/3後				
	現代文学演習Ⅰ	2	半期	演習	2前/3前				
	現代文学演習Ⅱ	2	半期	演習	2後/3後				
	日本語学演習Ⅰ	2	半期	演習	2前/3前				
	日本語学演習Ⅱ	2	半期	演習	2後/3後				
	漢文学演習Ⅰ	2	半期	演習	2前/3前				
	漢文学演習Ⅱ	2	半期	演習	2後/3後				
	メディア文化演習Ⅰ	2	半期	演習	2前/3前				
	メディア文化演習Ⅱ	2	半期	演習	2後/3後				
	研究の方法(古典・漢文)	2	半期	講義	2				
	研究の方法(近現代・メディア)	2	半期	講義	2				
	研究の方法(日本語)	2	半期	講義	2				
	上代文学講義	2	半期	講義	2・3・4				
	中古文学講義	2	半期	講義	2・3・4				
	中世文学講義	2	半期	講義	2・3・4				
	近世文学講義	2	半期	講義	2・3・4				
	近代文学講義	2	半期	講義	2・3・4				
現代文学講義	2	半期	講義	2・3・4					
日本語学講義	2	半期	講義	2・3・4					
漢文学講義	2	半期	講義	2・3・4					
メディア文化論	2	半期	講義	2・3・4					
比較文学	2	半期	講義	2・3・4					
ジェンダーと文学	2	半期	講義	2・3・4					
伝承と文学	2	半期	講義	2・3・4					
語学・文学特別講義	2	集中	講義	2・3・4					
語学・文学特別演習	2	半期	演習	2・3・4					
創作研究	2	半期	講義	3・4					
日本の思想A	2	半期	講義	3・4					
日本の思想B	2	半期	講義	3・4					
日本の美術	2	半期	講義	3・4					
日本の芸能と文化	2	半期	講義	3・4					
日本の映像メディア	2	半期	講義	3・4					
日本の歴史と社会	2	半期	講義	3・4					
日本の歴史と文化	2	半期	講義	3・4					

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	卒業必要単位数			備考 ◆はオープン科目	
						必修	選択必修	選択		
文学部 共通科目	言語文化を知る	日本語の歴史	2	半期	講義	3・4			20	卒業要件としては 12単位を上限とする
		日本語と社会	2	半期	講義	3・4				
		英語と日本語	2	半期	講義	3・4				
		ことばの仕組みと働き	2	半期	講義	3・4				
		文字文化論	2	半期	講義	3・4				
		ドイツ文化	2	半期	講義	3・4				
		フランス文化	2	半期	講義	3・4				
		スペイン文化	2	半期	講義	3・4				
		中国文化	2	半期	講義	3・4				
	韓国文化	2	半期	講義	3・4					
	地域文化を知る	江戸・東京の文化	2	半期	講義	3・4				
		日本文化とアジア	2	半期	講義	3・4				
		イギリス的風景	2	半期	講義	3・4				
		イギリスの階級と伝統	2	半期	講義	3・4				
		アメリカの風土と歴史	2	半期	講義	3・4				
		アメリカの文化と思想	2	半期	講義	3・4				
		イスラム文化	2	半期	講義	3・4				
	メディア文化を知る	文学・文化の理論	2	半期	講義	3・4				
		児童文学	2	半期	講義	3・4				
		ジェンダー文化論	2	半期	講義	3・4				
放送文化論		2	半期	講義	3・4					
出版文化論		2	半期	講義	3・4					
異文化を知る	諸外国との国際交流 A (アジア圏)	2	—	—	1・2・3・4					
	諸外国との国際交流 B (欧米圏)	2	—	—	1・2・3・4					
最低履修単位						46	22	20		
							88			

- 注 (1) この表は日本文学の専門教育科目に関する規定であって、全学共通科目については全学共通科目の項による。
- 注 (2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。
- 注 (3) 「専門教育科目」の選択科目の単位のうち、「文学部共通科目」から卒業に必要な単位に含めることができるのは、12単位を上限とする。
- 注 (4) 他学科が履修を可としたオープン科目は16単位を限度として卒業に必要な「専門教育科目」の選択科目の単位に含めることができる。
- 注 (5) 「諸外国との国際交流 A・B」の単位を修得しようとする者は、文学部長が認めた3週間以上の語学研修をし、一定以上の成績を修めること。
- 注 (6) 教職課程履修者については、「教職課程独自の科目として開講する科目」の「書法総合演習Ⅰ」「書法総合演習Ⅱ」の4単位を「専門教育科目」の選択科目として、卒業に必要な単位に含めることができる。

卒業要件

英語英文学科

(平成30年度入学生から適用)

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	卒業必要単位数			備考 ◆はオープン科目	
						必修	選択必修	選択		
必修科目	基礎セミナー1	2	半期	演習	1前	52				
	英語発音入門	2	半期	演習	1前					
	英文法(基礎)1	2	半期	演習	1前					
	英文講読(基礎)1	2	半期	演習	1前					
	イギリス入門	2	半期	講義	1					
	基礎セミナー2	2	半期	演習	1後					
	英文法(基礎)2	2	半期	演習	1後					
	英文講読(基礎)2	2	半期	演習	1後					
	アメリカ入門	2	半期	講義	1					
	英文法(発展)1	2	半期	演習	2前					
	英文講読(発展)1	2	半期	演習	2前					
	英文学入門1	2	半期	講義	2前					
	米文学入門1	2	半期	講義	2前					
	英語学入門1	2	半期	講義	2前					
	英文法(発展)2	2	半期	演習	2後					
	英文講読(発展)2	2	半期	演習	2後					
	英文学入門2	2	半期	講義	2後					
	米文学入門2	2	半期	講義	2後					
	英語学入門2	2	半期	講義	2後					
セミナー1	2	半期	演習	3前						
セミナー2	2	半期	演習	3後						
セミナー3	2	半期	演習	3前*4前						
セミナー4	2	半期	演習	3後*4後						
卒業論文	6	半期	—	—	3*/4				*3年次履修は早期卒業を認められた者に限る	
選択科目	海外ボランティア	2	—	—	1・2・3・4	28				
	Academic English 1A	2	半期	演習	1・2・3・4					英語による授業
	Speaking (Basic) A	2	半期	演習	1前					英語による授業
	Extensive Reading (Basic)	2	半期	演習	1前					
	Academic English 1B	2	半期	演習	1・2・3・4					
	Speaking (Basic) B	2	半期	演習	1後					英語による授業
	英語音声学演習	2	半期	演習	1後					
	ISEC	2	集中	演習	1後					
	Academic English 2A	2	半期	演習	1・2・3・4					英語による授業
	Speaking (Intermediate) A	2	半期	演習	2前					
	Academic English 2B	2	半期	演習	1・2・3・4					
	Speaking (Intermediate) B	2	半期	演習	2後					英語による授業
	異文化間コミュニケーション1	2	半期	演習	2・3・4					
	異文化間コミュニケーション2	2	半期	演習	2・3・4					
	資格英語	2	半期	演習	1・2・3・4					◆ ◆ ◆ 英語による授業
	Special Topics through English	2	半期	演習	3・4					
	Speaking (Advanced)	2	半期	演習	3・4					
	上級英語A	2	半期	演習	3・4					
	上級英語B	2	半期	演習	3・4					
	Extensive Reading (Advanced)	2	半期	演習	3・4					
	英文学(近代)	2	半期	演習	3・4					
	英文学(現代)	2	半期	演習	3・4					
	英文学(特論)	2	半期	演習	3・4					
	米文学(近代)	2	半期	演習	3・4					
	米文学(現代)	2	半期	演習	3・4					
	米文学(特論)	2	半期	演習	3・4					
	英米文化(言語)	2	半期	演習	3・4					◆ ◆ ◆
	英米文化(社会)	2	半期	演習	3・4					
	英米文化(映像・身体表現)	2	半期	演習	3・4					
	英米文化(特論)	2	半期	演習	3・4					
	英語学(音声・音韻)	2	半期	演習	3・4					
	英語学(語彙・形態)	2	半期	演習	3・4					
	英語学(語法・文法)	2	半期	演習	3・4					◆
英語学(意味・語用)	2	半期	演習	3・4						
英語学(特論)	2	半期	演習	3・4						
英語教育学(第二言語習得論)	2	半期	演習	3・4	◆					
英語教育学(児童英語教育1)	2	半期	演習	3・4						
英語教育学(児童英語教育2)	2	半期	演習	3・4						
英語教育学(メディア論)	2	半期	演習	3・4	◆					

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	卒業必要単位数			備考 ◆はオープン科目
						必修	選択必修	選択	
文学部 共通科目	言語文化を知る	日本語の歴史	2	半期	講義	3・4	8		卒業要件としては 12単位を上限とする
		日本語と社会	2	半期	講義	3・4			
		英語と日本語	2	半期	講義	3・4			
		ことばの仕組みと働き	2	半期	講義	3・4			
		文字文化論	2	半期	講義	3・4			
		ドイツ文化	2	半期	講義	3・4			
		フランス文化	2	半期	講義	3・4			
		スペイン文化	2	半期	講義	3・4			
		中国文化	2	半期	講義	3・4			
	韓国文化	2	半期	講義	3・4				
	地域文化を知る	江戸・東京の文化	2	半期	講義	3・4			
		日本文化とアジア	2	半期	講義	3・4			
		イギリス的風景	2	半期	講義	3・4			
		イギリスの階級と伝統	2	半期	講義	3・4			
		アメリカの風土と歴史	2	半期	講義	3・4			
		アメリカの文化と思想	2	半期	講義	3・4			
		イスラム文化	2	半期	講義	3・4			
	メディア文化を知る	文学・文化の理論	2	半期	講義	3・4			
		児童文化論	2	半期	講義	3・4			
		ジェンダー文化論	2	半期	講義	3・4			
放送文化論		2	半期	講義	3・4				
出版文化論		2	半期	講義	3・4				
異文化を知る	諸外国との国際交流 A (アジア圏)	2	—	—	1・2・3・4				
	諸外国との国際交流 B (欧米圏)	2	—	—	1・2・3・4				
最低履修単位						52	8	28	
							88		

注 (1) この表は英語英文学科の専門教育科目に関する規定であって、全学共通科目については全学共通科目の項による。

注 (2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注 (3) 他学科が履修を可としたオープン科目は 16 単位を限度として卒業に必要な「専門教育科目」の選択科目の単位に含めることができる。

注 (4) 「文学部共通科目」の卒業に必要な単位は 8 単位だが、8 単位を超えて修得した単位は、4 単位を限度に「専門教育科目」の選択科目または「全学共通科目」の選択科目として、卒業に必要な単位に含めることができる。

〈例①〉 4 単位を限度として「専門教育科目」の選択科目に含める。

〈例②〉 4 単位を限度として「全学共通科目」の選択科目に含める。

〈例③〉 4 単位を限度として「専門教育科目」の選択科目及び「全学共通科目」の選択科目のどちらにも含める。(4 単位のうち 3 単位を専門教育科目に、1 単位を全学共通科目に含めるなど)

注 (5) 「諸外国との国際交流 A・B」の単位を修得しようとする者は、文学部長が認めた 3 週間以上の語学研修をし、一定以上の成績を修めること。

卒業要件

コミュニケーション文化学科

(平成30年度入学生から適用)

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	卒業必要単位数			備考 ◆はオープン科目
						必修	選択必修	選択	
必修科目	現代国際地域事情	2	半期	講義	1	36			リレー リレー *3年次履修は早期卒業を認められた者に限る 英語専修者に限る 中国語専修者に限る
	コミュニケーション文化概論	2	半期	講義	1				
	日本語口頭表現法	2	半期	演習	1				
	1年次ゼミⅠ	2	半期	演習	1前				
	1年次ゼミⅡ	2	半期	演習	1後				
	2年次ゼミⅠ	2	半期	演習	2前				
	2年次ゼミⅡ	2	半期	演習	2後				
	卒業研究ゼミⅠ	2	半期	演習	3前				
	卒業研究ゼミⅡ	2	半期	演習	3後				
	卒業研究ゼミⅢ	2	半期	演習	3前*/4前				
	卒業研究ゼミⅣ	2	半期	演習	3後*/4後				
	卒業論文	6	半期	—	3*/4				
	コミュニケーション英語A(スピーキング)	2	半期	演習	1				
	コミュニケーション英語B(リーディング&アドディスカッション)	2	半期	演習	1				
コミュニケーション英語C(リスニング&アドプレゼンテーション)	2	半期	演習	2					
コミュニケーション英語D(ライティング&スキルズ)	2	半期	演習	2					
コミュニケーション中国語Ⅰ	2	半期	演習	1前					
コミュニケーション中国語Ⅱ	2	半期	演習	1後					
コミュニケーション中国語Ⅲ	2	半期	演習	2前					
コミュニケーション中国語Ⅳ	2	半期	演習	2後					
選択科目	異文化コミュニケーションⅠ	2	半期	講義	2前	16			2年次に16単位を履修することが望ましい
	異文化コミュニケーションⅡ	2	半期	講義	2後				
	メディア・コミュニケーションⅠ	2	半期	講義	2前				
	メディア・コミュニケーションⅡ	2	半期	講義	2後				
	言語・文化コミュニケーションⅠ	2	半期	講義	2前				
	言語・文化コミュニケーションⅡ	2	半期	講義	2後				
	社会・政策コミュニケーションⅠ	2	半期	講義	2前				
	社会・政策コミュニケーションⅡ	2	半期	講義	2後				
	表象文化コミュニケーションⅠ	2	半期	講義	2前				
	表象文化コミュニケーションⅡ	2	半期	講義	2後				
	異文化コミュニケーション演習	2	半期	演習	2・3				
	欧米文化演習	2	半期	演習	2・3				
	中国文化演習	2	半期	演習	2・3				
	韓国・朝鮮文化演習	2	半期	演習	2・3				
	言語文化演習	2	半期	演習	2・3				
	映像文化演習	2	半期	演習	2・3				
	社会調査演習	2	半期	演習	2・3				
	コンピュータ・リテラシー	2	半期	演習	2・3				
	テクニカル・ライティング	2	半期	演習	2・3				
	時事英語	2	半期	演習	2・3				
	時事中国語	2	半期	演習	2・3				
	アナウンス演習	2	半期	演習	2・3				
	インタビュー演習	2	半期	演習	2・3				
	コミュニケーション文化特殊研究	2	集中	演習	3後				
	現代英語	2	半期	演習	3・4				
	現代中国語	2	半期	演習	3・4				
	通訳演習(英)	2	半期	演習	3・4				
	通訳演習(中)	2	半期	演習	3・4				
	ビジネス・ライティング(英)	2	半期	演習	3・4				
	ビジネス・ライティング(中)	2	半期	演習	3・4				
	社会心理学	2	半期	講義	3・4				
	社会言語学	2	半期	講義	3・4				
	言語心理学	2	半期	講義	3・4				
	異文化コミュニケーション論	2	半期	講義	3・4				
国際関係論	2	半期	講義	3・4					
国際コミュニケーション論	2	半期	講義	3・4					
国際教育論	2	半期	講義	3・4					
国際メディア論A(欧米)	2	半期	講義	3・4					
国際メディア論B(アジア)	2	半期	講義	3・4					
国際ジャーナリズム論	2	半期	講義	3・4					
メディア・コミュニケーション論	2	半期	講義	3・4					
現代正義論	2	半期	講義	3・4					
欧米文化論	2	半期	講義	3・4					
民族文化論	2	半期	講義	3・4					
言語文化論	2	半期	講義	3・4					

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	卒業必要単位数			備考 ◆はオープン科目
						必修	選択必修	選択	
文学部 共通科目	言語文化を知る	日本語の歴史	2	半期	講義	3・4	8		卒業要件としては 12単位を上限とする
		日本語と社会	2	半期	講義	3・4			
		英語と日本語	2	半期	講義	3・4			
		ことばの仕組みと働き	2	半期	講義	3・4			
		文字文化論	2	半期	講義	3・4			
		ドイツ文化	2	半期	講義	3・4			
		フランス文化	2	半期	講義	3・4			
		スペイン文化	2	半期	講義	3・4			
		中国文化	2	半期	講義	3・4			
	韓国文化	2	半期	講義	3・4				
	地域文化を知る	江戸・東京の文化	2	半期	講義	3・4			
		日本文化とアジア	2	半期	講義	3・4			
		イギリス的風景	2	半期	講義	3・4			
		イギリスの階級と伝統	2	半期	講義	3・4			
		アメリカの風土と歴史	2	半期	講義	3・4			
		アメリカの文化と思想	2	半期	講義	3・4			
		イスラム文化	2	半期	講義	3・4			
	メディア文化を知る	文学・文化の理論	2	半期	講義	3・4			
		児童文化論	2	半期	講義	3・4			
		ジェンダー文化論	2	半期	講義	3・4			
放送文化論		2	半期	講義	3・4				
出版文化論		2	半期	講義	3・4				
異文化を知る	諸外国との国際交流 A (アジア圏)	2	—	—	1・2・3・4				
	諸外国との国際交流 B (欧米圏)	2	—	—	1・2・3・4				
最低履修単位						36	24	30	
							90		

- 注 (1) この表はコミュニケーション文化学科の専門教育科目に関する規定であって、全学共通科目については全学共通科目の項による。
- 注 (2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。
- 注 (3) 通訳演習、現代英語、現代中国語、時事英語、時事中国語、ビジネス・ライティングを履修する場合は、原則として自己の専修の科目を履修すること。
- 注 (4) 他学科が履修を可としたオープン科目は 16 単位を限度として卒業に必要な「専門教育科目」の選択科目の単位に含めることができる。
- 注 (5) 「文学部共通科目」の卒業に必要な単位は 8 単位だが、8 単位を超えて修得した単位は、4 単位を限度に「専門教育科目」の選択科目または「全学共通科目」の選択科目として、卒業に必要な単位に含めることができる。
- 〈例①〉 4 単位を限度として「専門教育科目」の選択科目に含める。
- 〈例②〉 4 単位を限度として「全学共通科目」の選択科目に含める。
- 〈例③〉 4 単位を限度として「専門教育科目」の選択科目及び「全学共通科目」の選択科目のどちらにも含める。(4 単位のうち 3 単位を専門教育科目に、1 単位を全学共通科目に含めるなど)
- 注 (6) 「諸外国との国際交流 A・B」の単位を修得しようとする者は、文学部長が認めた 3 週間以上の語学研修をし、一定以上の成績を修めること。

卒業要件

社会情報学科
社会生活情報学専攻

(2020年度入学生から適用)

区分	授業科目名	配当年次	期間	講義・演習等の別	単位数		先修条件	卒業に必要な単位数
					必修	選択		
学部 共通科目	必修	コンピュータの基礎	1	半期	講義	2		(8)
		情報処理実習A	1	半期②	実習	2		
		情報処理実習B	1	半期②	実習	2		
		基礎社会学	1	半期	講義	2		
	選択	基礎統計学	1	半期	講義・演習		2	
		ソフトウェア概論	1	半期	講義		2	
		現代経済学	1	半期	講義		2	
		情報基礎数学	1・2	半期	講義		2	
		社会情報概論	2	半期	講義		2	
		情報社会論	2	半期	講義		2	
		コミュニケーション論	2	半期	講義		2	
		情報倫理	2・3	半期	講義		2	
		社会政策・労働問題	2・3	半期	講義		2	
		情報セキュリティ論	2・3	半期	講義		2	
		情報と職業	3・4	半期	講義		2	
		情報と法律	2・3	半期	講義		2	
		建築・不動産と社会	2	半期	講義		2	
		英語コミュニケーションI	3	半期	演習		2	
英語コミュニケーションII	3	半期	演習		2			
専門 教育科目	必修	経営学入門	1	半期	講義	2		(26)
		基礎経済学	1	半期	講義	2		
		社会生活情報基礎演習I	1	半期	演習	2		
		社会生活情報基礎演習II	1	半期	演習	2		
		プログラミングの基礎	2	半期	講義・演習	2		
		プログラミング基礎演習	2	半期	講義・演習	2		
		社会情報学ゼミナールI	3	半期	演習	2		
		社会情報学ゼミナールII	3	半期	演習	2		
		社会情報学ゼミナールIII	4	半期	演習	2		
	社会情報学ゼミナールIV	4	半期	演習	2			
	卒業研究	4	半期	-	6			
	生活系 経済系	発達心理学	1・2	半期	講義		2	
		感情とパーソナリティの心理学	1・2	半期	講義		2	
		病と健康の心理学	1・2	半期	講義		2	
		老いの心理学	1・2	半期	講義		2	
		社会心理学	1・2	半期	講義		2	
		心理統計演習	3・4	半期	演習		2	
		経済政策論	1・2	半期	講義		2	
マクロ経済と金融		1・2	半期	講義		2		
演習・経済情報分析		2	半期	演習		2		
グローバル経済		2・3	半期	講義		2		
現代資本主義論		2・3	半期	講義		2		
現代企業行動論		2・3	半期	講義		2		
産業組織の経済学		2・3	半期	講義		2		
情報の経済学		2・3	半期	講義		2		
日本経済論		2・3	半期	講義		2		
経済史		2・3	半期	講義		2		
ITビジネス論		3・4	半期	講義		2		
国際金融論		3・4	半期	講義		2		
ネットワーク経済論		3・4	半期	講義		2		

区分	授業科目名	配当年次	期 間	講義・演習等の別	単位数		先 修 条 件	卒業に必要な単位数
					必修	選択		
専 門 教 育 科 目	経 営 学 系	会 計 学 入 門	1・2	半期	講義		2	
		マーケティング入門	1・2	半期	講義		2	
		ケーススタディ経営学	2	半期	演習		2	
		経 営 戦 略 論	2・3	半期	講義		2	
		企 業 と 社 会	2・3	半期	講義		2	
		経 営 組 織 論	2・3	半期	講義		2	
		マーケティング・サイエンス	2・3	半期	講義		2	
		流 通 論	2・3	半期	講義		2	
		ブ ラ ン ド 論	2・3	半期	講義		2	
		消 費 者 行 動 論	2・3	半期	講義		2	
		消 費 者 行 動 演 習	2・3・4	半期	演習		2	
	地 域 経 営 論	3・4	半期	講義		2		
	社 会 学 系	応 用 社 会 学	1・2	半期	講義		2	
		現 代 社 会 論	1・2	半期	講義		2	
		ジェンダーとコロナリズム	2・3	半期	講義		2	
		グローバル化の社会学	2・3	半期	講義		2	
		量的 調 査 演 習	2・3	半期	演習		2	
		質的 調 査 演 習	2・3	半期	演習		2	
		国 際 情 報 比 較 論	2・3	半期	講義		2	
		情 報 行 動 論	2・3	半期	講義		2	
		情 報 文 化 史	2・3	半期	講義		2	
		メディアと社会変容	3・4	半期	講義		2	
		文 化 と 社 会	3・4	半期	講義		2	
	コミュニケーションと社会	3・4	半期	講義		2		
	メ デ ィ ア 学 系	メ デ ィ ア 学 基 礎	1・2	半期	講義		2	
		メディア・ディスコース演習	2	半期	演習		2	
		マ ス メ デ ィ ア 論	2	半期	講義		2	
		情 報 表 現 法	2	半期	演習		2	
		コ ン テ ン ツ 産 業 論	2・3	半期	講義		2	
		オルタナティブ・メディア論	2・3	半期	講義		2	
		ジャーナリズム論	2・3	半期	講義		2	
		ソーシャルメディア論	2・3	半期	講義		2	
		メ デ ィ ア 運 用 演 習	2・3	半期	演習		2	
放 送 論		3・4	半期	講義		2		
広 告 論	3・4	半期	講義		2			
オンラインデータ分析	3・4	半期	演習		2			
如 理 情 報	情 報 分 析 演 習	2	半期	演習		2		
	情報リテラシー演習	3	半期	演習		2		
留 学 認 定 科 目	異 文 化 理 解 I	1・2・3・4	—	—		2		
	異 文 化 理 解 II	1・2・3・4	—	—		2		
教 職 課 程 関 連 科 目 (の み 履 修 可 能)	アルゴリズム論及び演習Ⅰ	3	半期	講義・演習		2		
	アルゴリズム論及び演習Ⅱ	3	半期	講義・演習		2		
	情報システム論及び実習Ⅰ	3	半期	講義・実習		2		
	情報システム論及び実習Ⅱ	3	半期	講義・実習		2		
	情報ネットワーク論及び実習Ⅰ	2・3	半期	講義・実習		2		
情報ネットワーク論及び実習Ⅱ	2・3	半期	講義・実習		2			

(50)

注 (1) この表は社会情報学科社会生活情報学専攻の専門教育科目に関する規定であって、全学共通科目については全学共通科目の項による。

注 (2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

a 履修について

下記の科目について、修得した10単位までを、専門教育科目（選択）の卒業要件単位とすることができる。

・教職課程関連科目 ・社会情報学部の特攻の選択科目 ・専門特殊講義

b 資格取得について

教員免許状取得希望者は「**4** 諸課程について 1 教職課程」の項を熟読し、単位の修得に十分注意すること。

c 留学認定科目について

「異文化理解Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得しようとする者は、大妻女子大学が行っている海外留学・研修プログラム等に参加し、一定以上の成績を修めること。

d 標準履修単位数と1年間の履修登録単位数の上限

(2019年度入学生から適用)

区分 学年	全学共通			小計	学部共通		専門教育			小計	合計	履修登録 単位数の上限
	必修	選択必修	選択		必修	選択	必修	選択必修	選択			
1 学年	5	12	0	17	8	2	8	0	8	26	43	44
2 学年	11	12	7	30	8	4	12	0	28	52	82	46
3 学年	11	12	11	34	8	6	16	0	44	74	108	46
4 学年	11	12	11	34	8	6	26	0	50	90	124	46

卒業要件

社会情報学科
環境情報学専攻

(2020年度入学生から適用)

区分	授業科目名	配当年次	期間	講義・演習等の別	単位数			先修条件	資格科目	卒業に必要な単位数
					必修	選択必修	選択			
学部 共通科目	必修	コンピュータの基礎	1	半期	講義	2				(8)
	必修	情報処理実習A	1	半期②	実習	2				
	必修	情報処理実習B	1	半期②	実習	2				
	必修	基礎社会学	1	半期	講義	2				
	選択	基礎統計学	1	半期	講義・演習			2		(6)
	選択	ソフトウェア概論	1	半期	講義			2		
	選択	現代経済学	1	半期	講義			2		
	選択	情報基礎数学	1・2	半期	講義			2		
	選択	社会情報概論	2	半期	講義			2		
	選択	情報社会論	2	半期	講義			2		
	選択	コミュニケーション論	2	半期	講義			2		
	選択	情報倫理	2・3	半期	講義			2		
	選択	社会政策・労働問題	2・3	半期	講義			2		
	選択	情報セキュリティ論	2・3	半期	講義			2		
	選択	情報と職業	3・4	半期	講義			2		
選択	情報と法律	2・3	半期	講義			2			
選択	建築・不動産と社会	2	半期	講義			2			
選択	英語コミュニケーションI	3	半期	演習			2			
選択	英語コミュニケーションII	3	半期	演習			2			
専攻 科目	必修	環境情報学基礎演習	1	半期	演習	2				(24)
	必修	環境学入門	1	半期	講義	2				
	必修	エコライフ論	1	半期	講義	2				
	必修	プログラミングの基礎	2	半期	講義・演習	2				
	必修	プログラミング基礎演習	2	半期	講義・演習	2				
	必修	環境情報処理論及び実習I	3	半期	講義・実習	2				
	必修	環境情報処理論及び実習II	3	半期	講義・実習	2				
	必修	社会情報学ゼミナールIII	4	半期	演習	2		注(2)		
	必修	社会情報学ゼミナールIV	4	半期	演習	2		注(2)		
	必修	卒業研究	4	半期	-	6				
	選択必修	社会情報学ゼミナールI	3	半期	演習		2	注(2)] 2] 2 (4)
	選択必修	建築・都市ゼミナールI	3	半期	演習		2	注(2)	☆	
	選択必修	社会情報学ゼミナールII	3	半期	演習		2	注(2)		
	選択必修	建築・都市ゼミナールII	3	半期	演習		2	注(2)	☆	
	教育 科目	選択	人間のしくみ	2	半期	講義			2	
選択		環境科学	2	半期	講義			2		
選択		地球環境論	2	半期	講義			2		
選択		住居環境論	2	半期	講義			2	☆	
選択		生命科学と暮らし	3	半期	講義			2		
選択		食と環境	3	半期	講義			2		
選択		健康と環境	3	半期	講義			2		
選択		環境演習I	3	半期②	講義・演習			2		
選択		環境演習II	3	半期②	講義・演習			2	☆	
選択		特殊講義II(暮らしと環境)	3	半期	講義			2	☆	
選択		住居学	1	半期	講義			2	☆	
選択		設計製図の基礎	2	半期②	演習			2	☆	
選択		住居デザイン演習I	2	半期②	演習			2	設計製図の基礎 ☆	
選択		住居デザイン演習II	3	半期②	演習			2	設計製図の基礎・ 住居デザイン演習I ☆	
選択		住居デザイン	2	半期	講義			2	住居学 ☆	
選択	力とかたちI	2	半期	講義			2	物理の基礎I ☆		
選択	力とかたちII	2	半期	講義			2	注(3) ☆		
選択	建築と都市の歴史	2	半期	講義			2	☆		
選択	建築と社会	2	半期	講義			2	☆		
選択	建築インテリア材料	3	半期	講義			2	☆☆		
選択	建築法規と都市デザイン	3	半期	講義			2	◆☆☆		

区分	授業科目名	配当年次	期間	講義・演習等の別	単位数			先修条件	資格科目	卒業に必要な単位数
					必修	選択必修	選択			
専門教育科目	持続的なくらしと社会	環境と経済Ⅰ	2・3	半期	講義			2		
		環境と経済Ⅱ	3・4	半期	講義			2		
		環境と法律Ⅰ	2・3	半期	講義			2	◆◇	
		環境と法律Ⅱ	3・4	半期	講義			2	◆◇	
		環境と経営	2・3	半期	講義			2		
		環境マネジメント論	3	半期	講義			2		
		特殊講義Ⅰ(社会と環境)	3	半期	講義			2		
		環境とアグリビジネス	3・4	半期	講義			2		
		環境とマーケティング	3・4	半期	講義			2		
	環境との共生	エネルギーと環境	3・4	半期	講義			2		
		環境デザイン論	1	半期	講義			2	◆◇☆	
		環境保護論	2	半期	講義			2	◆◇	
		環境アセスメント論	2	半期	講義			2	☆	
		エコロジーⅠ	2	半期	講義			2	◆◇	
		エコロジーⅡ	2	半期	講義			2	◆◇	
		環境生態デザイン	3	半期	講義			2	◇☆	
		フィールドワークA	3	半期	実習			1		
		フィールドワークB	3	半期	実習			1		
		ビオトープ論	3	半期	講義			2	◆◇☆	
		建築デザイン	3	半期	講義			2	☆	
		環境教育	3	半期	講義			2		
		環境とツーリズム	3	半期	講義			2		
		環境とまちづくり	3	半期	講義			2	◆☆	
	(教職課程登録者以外も履修可能)	国際関係と環境法	3・4	半期	講義			2		
		生物の基礎Ⅰ	1	半期	講義			2		
		生物の基礎Ⅱ	1	半期	講義			2		
		物理の基礎Ⅰ	1	半期	講義			2		
		物理の基礎Ⅱ	1	半期	講義			2		
		化学の基礎Ⅰ	1	半期	講義			2		
		化学の基礎Ⅱ	2	半期	講義			2		
		地学の基礎Ⅰ	2	半期	講義			2		
		地学の基礎Ⅱ	2	半期	講義			2		
		物理基礎実験	2	半期②	実験			2		
化学基礎実験	2	半期②	実験			2				
生物基礎実験	3	半期②	実験			2				
地学基礎実験	3	半期②	実験			2				
科目認定	異文化理解Ⅰ	1・2・3・4	—	—			2			
	異文化理解Ⅱ	1・2・3・4	—	—			2			

(48)

注(1) この表は社会情報学科環境情報学専攻の専門教育科目に関する規定であって、全学共通科目については全学共通科目の項による。

注(2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

a 履修について

注(1) 社会情報学部の他専攻の選択科目および専門特殊講義を履修し、修得した10単位までを、専門教育科目(選択)の卒業要件単位とすることができる。

注(2) 「社会情報学ゼミナールⅠ、Ⅱ及び建築・都市ゼミナールⅠ、Ⅱ」は全学共通科目及び学部共通・専門教育科目で合計50単位以上、「社会情報学ゼミナールⅢ、Ⅳ」は全学共通科目及び学部共通・専門教育科目で合計96単位以上取得し、かつ、第2年次までの必修科目の単位をすべて取得(編入学者は除く)していることを履修の条件とする。

注(3) 「力とかたちⅡ」は専門選択科目の「力とかたちⅠ」を同時に履修登録すること。

b 資格取得について

(1) ◆印はビオトープ計画管理士2級試験一部免除に必要な科目。◇印はビオトープ施工管理士2級試験一部免除に必要な科目です。

同資格の試験一部免除希望者は「[4] 諸課程について」の同資格に係る項を熟読し、単位の修得に十分注意すること。

(2) ☆印は二級建築士・木造建築士試験指定科目。所定の単位を修得すれば、同資格の受験資格が得られます。同資格の受験資格取得希望者は「[4] 諸課程について」の同資格に係る項を熟読し、単位の修得に十分注意すること。

(3) 教員免許状取得希望者は「[4] 諸課程について 1 教職課程」の項を熟読し、単位の修得に十分注意すること。

c 留学認定科目について

「異文化理解Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得しようとする者は、大妻女子大学が行っている海外留学・研修プログラム等に参加し、一定以上の成績を修めること。

d 標準履修単位数と1年間の履修登録単位数の上限

(2020年度入学生から適用)

区分	全学共通			小計	学部共通		専門教育			小計	合計	履修登録単位数の上限
	必修	選択必修	選択		必修	選択	必修	選択必修	選択			
1学年	5	12	0	17	8	2	6	0	8	24	41	42
2学年	11	12	11	34	8	4	10	0	24	46	80	46
3学年	11	12	11	34	8	6	14	4	44	76	110	46
4学年	11	12	11	34	8	6	24	4	48	90	124	46

卒業要件

社会情報学科
情報デザイン専攻

(2020年度入学生から適用)

区分	授業科目名	配当年次	期間	講義・演習等の別	単位数		先修条件	卒業に必要な単位数
					必修	選択		
学部 共通 科目	必修	コンピュータの基礎	1	半期	講義	2		(10)
		情報処理実習A	1	半期②	実習	2		
		情報処理実習B	1	半期②	実習	2		
		基礎社会学	1	半期	講義	2		
	選択	基礎統計学	1	半期	講義・演習		2	(6)
		ソフトウェア概論	1	半期	講義		2	
		現代経済学	1	半期	講義		2	
		社会情報概論	2	半期	講義		2	
		情報社会論	2	半期	講義		2	
		コミュニケーション論	2	半期	講義		2	
		情報倫理	2・3	半期	講義		2	
		社会政策・労働問題	2・3	半期	講義		2	
		情報セキュリティ論	2・3	半期	講義		2	
		情報と職業	3・4	半期	講義		2	
		情報と法律	2・3	半期	講義		2	
		建築・不動産と社会	2	半期	講義		2	
英語コミュニケーションⅠ	3	半期	演習		2			
英語コミュニケーションⅡ	3	半期	演習		2			
専門 教育 科目	必修	基礎情報	情報処理原論	1	半期	講義	2	(40)
			情報数学A	1	半期	講義	2	
		システムコア	情報システム論及び実習Ⅰ	3	半期	講義・実習	2	
			情報システム論及び実習Ⅱ	3	半期	講義・実習	2	
			プログラミング入門	1	半期	講義・演習	2	
			プログラミングの基礎	2	半期	講義・演習	2	
		コアデザイン	プログラミング基礎演習	2	半期	講義・演習	2	
			プログラミング論及び演習	2	半期②	講義・演習	4	
			デザイン論及び演習Ⅰ	1	半期	講義・演習	2	
			デザイン論及び演習Ⅱ	1	半期	講義・演習	2	
	情報デザイン基礎演習		1	半期	演習	2		
	クリエイティブ思考法		2	半期	講義・演習	2		
	総合学習	総合学習	社会情報学ゼミナールⅠ	3	半期	演習	2	注(2)
		社会情報学ゼミナールⅡ	3	半期	演習	2	注(2)	
		社会情報学ゼミナールⅢ	4	半期	演習	2	注(2)	
		社会情報学ゼミナールⅣ	4	半期	演習	2	注(2)	
	卒業研究	4	半期	—	6			
	選択	情報基礎	情報数学B	2	半期	講義		2
			情報とモデル	2・3・4	半期	講義		2
			統計処理及び演習	2・3	半期	講義・演習		2
応用統計論及び演習			2・3	半期	講義・演習		2	
統計処理及び演習							統計処理及び演習	
リテラシー		情報処理機器概論	1・2	半期	講義		2	
		スマートデバイス論	2	半期	講義		2	
		ニューメディア論Ⅰ	3	半期	講義		2	
メディア情報		ニューメディア論Ⅱ	3	半期	講義		2	
		経営情報システム論	3・4	半期	講義		2	
システムコア	情報ネットワーク論及び実習Ⅰ	2・3	半期	講義・実習		2		
	情報ネットワーク論及び実習Ⅱ	2・3	半期	講義・実習		2		
	オフィスマネジメント論Ⅰ	2	半期	講義		2		
	オフィスマネジメント論Ⅱ	2	半期	講義		2		
	情報管理	2・3	半期	講義		2		
	アルゴリズム論及び演習Ⅰ	3	半期	講義・演習		2		
アルゴリズム論及び演習Ⅱ	3	半期	講義・演習		2			

区分	授業科目名		配当年次	期間	講義・演習等の別	単位数		先修条件	卒業に必要な単位数
						必修	選択		
専門教育科目	システムコア	シミュレーション論	2・3・4	半期	講義		2		
		スマートデバイス応用Ⅰ	3	半期	講義・演習		2		
		スマートデバイス応用Ⅱ	3	半期	講義・演習		2		
		オブジェクト指向プログラミング論及び演習Ⅰ	3	半期	講義・演習		2		
		オブジェクト指向プログラミング論及び演習Ⅱ	3	半期	講義・演習		2	オブジェクト指向プログラミング論及び演習Ⅰ	
		WebプログラミングⅠ	3	半期	講義・演習		2		
		WebプログラミングⅡ	3	半期	講義・演習		2	WebプログラミングⅠ	
	情報デザインコア	認知科学	2	半期	講義		2		
		デジタルコンテンツ	2	半期	講義・演習		2		
		デジタルコンテンツ応用	2	半期	講義・演習		2		
		感性デザイン及び演習	3	半期	講義・演習		2		
		ウェブデザイン	3	半期	講義・演習		2		
		音声・音響デザイン	3・4	半期	講義・演習		2		
		インタフェースデザイン論	2	半期	講義・演習		2		
		マルチメディア論及び実習Ⅰ	2	半期	講義・実習		2		
		マルチメディア論及び実習Ⅱ	2	半期	講義・実習		2		
		コンピュータグラフィックスⅠ	3・4	半期	講義・演習		2		
	コンピュータグラフィックスⅡ	3・4	半期	講義・演習		2	コンピュータ・グラフィックスⅠ		
	画像情報処理論及び演習	3・4	半期	講義・演習		2			
	科目認定留学	異文化理解Ⅰ	1・2・3・4	—	—		2		
異文化理解Ⅱ		1・2・3・4	—	—		2			
								(34)	

注(1) この表は社会情報学科情報デザイン専攻の専門教育科目に関する規定であって、全学共通科目については全学共通科目の項による。

注(2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

a 履修について

注(1) 社会情報学部の他専攻の選択科目および専門特殊講義を履修し、修得した10単位までを、専門教育科目(選択)の卒業要件単位とすることができる。

注(2) 「社会情報学ゼミナールⅠ・Ⅱ」は全学共通科目及び学部共通・専門教育科目で合計50単位以上、「社会情報学ゼミナールⅢ・Ⅳ」は全学共通科目及び学部共通・専門教育科目で合計94単位以上取得していることを履修の条件とする。

注(3) 「情報ネットワーク論及び実習Ⅱ」は「情報ネットワーク論及び実習Ⅰ」を同時に履修登録すること。

b 資格取得について

教員免許状取得希望者は「④ 諸課程について 1 教職課程」の項を熟読し、単位の修得に十分注意すること。

c 留学認定科目について

「異文化理解Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得しようとする者は、大妻女子大学が行っている海外留学・研修プログラム等に参加し、一定以上の成績を修めること。

d 標準履修単位数と1年間の履修登録単位数の上限

(2019年度入学生から適用)

学年	区分	全学共通			小計	学部共通		専門教育			小計	合計	履修登録単位数の上限
		必修	選択必修	選択		必修	選択	必修	選択必修	選択			
1 学年		5	12	1	18	10	2	12	0	0	24	42	44
2 学年		11	12	9	32	10	4	22	0	14	50	82	48
3 学年		11	12	11	34	10	6	30	0	34	80	114	52
4 学年		11	12	11	34	10	6	40	0	34	90	124	46

卒業要件

比較文化学科

(平成 27 年度入学生から適用)

区分	授業科目名	配当年次	期間	講義・演習等の別	単位数		卒業に必要な単位数	
					必修	選択		
学部 共通 科目	日本文化	日本の歴史と風土	1・2	半期	講義		2	(6)
		日本の社会と民俗	1・2	半期	講義		2	
		日本の思想と宗教	1・2	半期	講義		2	
		日本の美術	1・2	半期	講義		2	
		日本の近代化と世界	1・2	半期	講義		2	
	国際関係・国際交流	文化交流論	1・2	半期	講義		2	(6)
		国際関係論	1・2	半期	講義		2	
		国家と民族	3・4	半期	講義		2	
		多国籍企業論	3・4	半期	講義		2	
	比較文化	異文化間コミュニケーション概論	2・3	半期	講義		2	4
		異文化間コミュニケーション事例研究	2・3	半期	講義		2	
		比較文学論Ⅰ	2・3	半期	講義		2	
		比較文学論Ⅱ	2・3	半期	講義		2	
		比較演劇論Ⅰ	2・3	半期	講義		2	
		比較演劇論Ⅱ	2・3	半期	講義		2	
		言語科学入門Ⅰ	2・3	半期	講義		2	
		言語科学入門Ⅱ	2・3	半期	講義		2	
		国際政治経済論Ⅰ	2・3	半期	講義		2	
		国際政治経済論Ⅱ	2・3	半期	講義		2	
	基礎	比較文化論	2・3	半期	講義	2		2
比較社会論		2・3	半期	講義	2			
日本文学Ⅰ(古典)		1・2	半期	講義		2		
日本文学Ⅱ(近現代)		1・2	半期	講義		2		
日本における異文化		3・4	半期	講義		2		
ジェンダー論		2・3	半期	講義		2		
表象文化論		2・3	半期	講義		2		
外国語	フランス語Ⅴ	2	半期	演習		1	2	
	フランス語Ⅵ	2	半期	演習		1		
	ドイツ語Ⅴ	2	半期	演習		1		
	ドイツ語Ⅵ	2	半期	演習		1		
	スペイン語Ⅴ	2	半期	演習		1		
	スペイン語Ⅵ	2	半期	演習		1		
	ロシア語Ⅴ	2	半期	演習		1		
	ロシア語Ⅵ	2	半期	演習		1		
	中国語Ⅴ	2	半期	演習		1		
	中国語Ⅵ	2	半期	演習		1		
韓国語Ⅴ	2	半期	演習		1			
韓国語Ⅵ	2	半期	演習		1			
							(20)	

注(1) この表は比較文化学科の専門教育科目に関する規定であって、全学共通科目については全学共通科目の項による。

注(2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注(3) 科目によっては先修条件がつく場合があるのでシラバスをよく読んで選択すること。

注(4) 外国語科目のⅤ、Ⅵは全学共通科目で履修した外国語科目(英語以外)と同一科目を履修すること。

a 履修について コースについて

- (1) コースの決定は、第1年次の終了時までに行う。
- (2) 希望者が偏った場合は、調整することがある。

b 標準履修単位数と1年間の履修登録単位数の上限

(2020年度入学生から適用)

学年	全学共通			小計	学部共通		小計	専門教育					合計	履修登録 単位数の 上限	
	必修	選択必修	選択		日本・国際	比較・基礎・ 外国語		基礎	文化研究	言語	関連	セミナー			
1学年	9	16	5	30	8	2	10	0	0	0	0	0	0	40	45
2学年	15	16	7	38	10	14	24	12	0	2	4	0	18	80	48
3学年	15	16	7	38	12	20	32	12	8	6	12	0	38	108	46
4学年	15	16	7	38	12	20	32	12	12	8	14	10	56	126	46

c 第3年次進級に必要な要件

科目		全学共通（外国語）	学部共通	専門教育	合計
学科・専攻					
最低必要 単位数	比較文化学部	※ 24 (6)	20		44

※全学共通科目 24 単位のうち、外国語科目を最低6単位修得していること。

アジア文化コース

(2019年度入学生から適用)

区分	授業科目名	配当年次	期間	講義・演習等の別	単位数		先修条件	卒業に必要な単位数	
					必修	選択			
専門教育科目	基礎	アジア研究入門AⅠ(文化と社会)	2	半期	講義	2		(12)	
		アジア研究入門AⅡ(文化と社会)	2	半期	講義	2			
		アジア研究入門BⅠ(思想と宗教)	2	半期	講義	2			
		アジア研究入門BⅡ(思想と宗教)	2	半期	講義	2			
		アジア研究入門CⅠ(文学と芸術)	2	半期	講義	2			
		アジア研究入門CⅡ(文学と芸術)	2	半期	講義	2			
	文化研究	アジア文化研究AⅠ(近代文学)	3・4	半期	講義		2	注(7)	(12)
		アジア文化研究AⅡ(近代文学)	3・4	半期	講義		2		
		アジア文化研究BⅠ(政治と経済)	3・4	半期	講義		2		
		アジア文化研究BⅡ(政治と経済)	3・4	半期	講義		2		
		アジア文化研究CⅠ(芸術と思想)	3・4	半期	講義		2		
		アジア文化研究CⅡ(芸術と思想)	3・4	半期	講義		2		
		アジア文化研究DⅠ(歴史と風土)	3・4	半期	講義		2		
		アジア文化研究DⅡ(歴史と風土)	3・4	半期	講義		2		
	アジア言語	現代中国語基礎セミナーAⅠ(理解)	*2・3・4	半期	演習		1	注(8)	注(5)
		現代中国語基礎セミナーAⅡ(表現)	*2・3・4	半期	演習		1		
		現代中国語基礎セミナーBⅠ(表現)	2・3・4	半期	演習		1		
		現代中国語基礎セミナーBⅡ(表現)	2・3・4	半期	演習		1		
		現代中国語基礎セミナーCⅠ(総合)	2・3・4	半期	演習		1		
		現代中国語基礎セミナーCⅡ(総合)	2・3・4	半期	演習		1		
		現代中国語中級セミナーⅠ	3・4	半期	演習		1		
		現代中国語中級セミナーⅡ	3・4	半期	演習		1		
		現代英語中級セミナーAⅠ(理解)	*2・3・4	半期	演習		1		
		現代英語中級セミナーAⅡ(理解)	*2・3・4	半期	演習		1		
		現代英語中級セミナーBⅠ(表現)	2・3・4	半期	演習		1		
		現代英語中級セミナーBⅡ(表現)	2・3・4	半期	演習		1		
		現代英語中級セミナーCⅠ(総合)	*2・3・4	半期	演習		1		
		現代英語中級セミナーCⅡ(総合)	*2・3・4	半期	演習		1		
		現代英語上級セミナーⅠ	3・4	半期	演習		1		
		現代英語上級セミナーⅡ	3・4	半期	演習		1		
		現代フランス語基礎セミナーAⅠ(理解)	*2・3・4	半期	演習		1		
		現代フランス語基礎セミナーAⅡ(理解)	*2・3・4	半期	演習		1		
		現代フランス語基礎セミナーBⅠ(表現)	2・3・4	半期	演習		1		
		現代フランス語基礎セミナーBⅡ(表現)	2・3・4	半期	演習		1		
		現代フランス語基礎セミナーCⅠ(総合)	2・3・4	半期	演習		1		
		現代フランス語基礎セミナーCⅡ(総合)	2・3・4	半期	演習		1		
現代フランス語中級セミナーⅠ		3・4	半期	演習		1			
現代フランス語中級セミナーⅡ		3・4	半期	演習		1			
現代ドイツ語基礎セミナーAⅠ(理解)		*2・3・4	半期	演習		1			
現代ドイツ語基礎セミナーAⅡ(理解)		*2・3・4	半期	演習		1			
現代ドイツ語基礎セミナーBⅠ(表現)		2・3・4	半期	演習		1			
現代ドイツ語基礎セミナーBⅡ(表現)		2・3・4	半期	演習		1			
現代ドイツ語基礎セミナーCⅠ(総合)	2・3・4	半期	演習		1				
現代ドイツ語基礎セミナーCⅡ(総合)	2・3・4	半期	演習		1				
現代ドイツ語中級セミナーⅠ	3・4	半期	演習		1				
現代ドイツ語中級セミナーⅡ	3・4	半期	演習		1				
関連科目	アジアの美術	2・3・4	半期	講義		2		(8)	
	アジアの都市	2・3・4	半期	講義		2			
	日韓関係論	2・3・4	半期	講義		2			
	日中関係論	2・3・4	半期	講義		2			
	アメリカのジャーナリズム	2・3・4	半期	講義		2			
	アメリカの都市	2・3・4	半期	講義		2			
	日米関係論	2・3・4	半期	講義		2			
	大衆消費社会論	2・3・4	半期	講義		2			
	ヨーロッパ統合の思想	2・3・4	半期	講義		2			
	日欧関係論	2・3・4	半期	講義		2			
	イスラムの文化と社会	2・3・4	半期	講義		2			
	現代中近東事情	2・3・4	半期	講義		2			
	現代ロシア・東欧事情	2・3・4	半期	講義		2			
	口承文芸と民間信仰	2・3・4	半期	講義		2			
多民族・多文化社会	2・3・4	半期	講義		2				

区分	授業科目名	配当年次	期間	講義・演習等の別	単位数		先修条件	卒業に必要な単位数
					必修	選択		
専 門 教 育 科 目	比較文化演習 1 - I	3	半期	演習		2		4 注(9)
	比較文化演習 1 - II	3	半期	演習		2	比較文化演習 1 - I	
	比較文化演習 2 - I	3	半期	演習		2		
	比較文化演習 2 - II	3	半期	演習		2	比較文化演習 2 - I	
	比較文化演習 3 - I	3	半期	演習		2		
	比較文化演習 3 - II	3	半期	演習		2	比較文化演習 3 - I	
	比較文化演習 4 - I	3	半期	演習		2		
	比較文化演習 4 - II	3	半期	演習		2	比較文化演習 4 - I	
	比較文化演習 5 - I	3	半期	演習		2		
	比較文化演習 5 - II	3	半期	演習		2	比較文化演習 5 - I	
	比較文化演習 6 - I	3	半期	演習		2		
	比較文化演習 6 - II	3	半期	演習		2	比較文化演習 6 - I	
	比較文化演習 7 - I	3	半期	演習		2		
	比較文化演習 7 - II	3	半期	演習		2	比較文化演習 7 - I	
	比較文化演習 8 - I	3	半期	演習		2		
	比較文化演習 8 - II	3	半期	演習		2	比較文化演習 8 - I	
	比較文化演習 9 - I	3	半期	演習		2		
	比較文化演習 9 - II	3	半期	演習		2	比較文化演習 9 - I	
	比較文化演習 10 - I	3	半期	演習		2		
	比較文化演習 10 - II	3	半期	演習		2	比較文化演習 10 - I	
	比較文化演習 11 - I	3	半期	演習		2		
	比較文化演習 11 - II	3	半期	演習		2	比較文化演習 11 - I	
	比較文化演習 12 - I	3	半期	演習		2		
	比較文化演習 12 - II	3	半期	演習		2	比較文化演習 12 - I	
	比較文化演習 13 - I	3	半期	演習		2		
	比較文化演習 13 - II	3	半期	演習		2	比較文化演習 13 - I	
	比較文化演習 14 - I	3	半期	演習		2		
	比較文化演習 14 - II	3	半期	演習		2	比較文化演習 14 - I	
	比較文化演習 15 - I	3	半期	演習		2		
	比較文化演習 15 - II	3	半期	演習		2	比較文化演習 15 - I	
	比較文化演習 16 - I	3	半期	演習		2		
	比較文化演習 16 - II	3	半期	演習		2	比較文化演習 16 - I	
	比較文化演習 17 - I	3	半期	演習		2		
比較文化演習 17 - II	3	半期	演習		2	比較文化演習 17 - I		
比較文化演習 18 - I	3	半期	演習		2			
比較文化演習 18 - II	3	半期	演習		2	比較文化演習 18 - I		
比較文化演習 19 - I	3	半期	演習		2			
比較文化演習 19 - II	3	半期	演習		2	比較文化演習 19 - I		
比較文化演習 20 - I	3	半期	演習		2			
比較文化演習 20 - II	3	半期	演習		2	比較文化演習 20 - I		
比較文化演習 21 - I	3	半期	演習		2			
比較文化演習 21 - II	3	半期	演習		2	比較文化演習 21 - I		
比較文化演習 22 - I	3	半期	演習		2			
比較文化演習 22 - II	3	半期	演習		2	比較文化演習 22 - I		
比較文化演習 23 - I	3	半期	演習		2			
比較文化演習 23 - II	3	半期	演習		2	比較文化演習 23 - I		
諸外国との国際交流Ⅰ(アジア圏)	1・2・3・4	-	-	-	2		注(10)	
諸外国との国際交流Ⅱ(アメリカ圏)	1・2・3・4	-	-	-	2			
諸外国との国際交流Ⅲ(ヨーロッパ圏)	1・2・3・4	-	-	-	2			
諸外国との国際交流Ⅳ(オセアニア圏)	1・2・3・4	-	-	-	2			
比較文化セミナーⅠ	4	半期	演習		2		注(11)	
比較文化セミナーⅡ	4	半期	演習		2			
卒業論文	4	半期	-		6		(10)	

注(1) この表は比較文化学アジア文化コースの専門教育科目に関する規定であって、全学共通科目については全学共通科目の項による。

注(2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注(3) 科目によっては先修条件がつく場合があるので、シラバスをよく読んで選択すること。

注(4) 関連科目として、他のコースの文化研究を含めることができる。

注(5) 専門言語の科目は、①中国語8単位、②中国語4単位・英語4単位、③英語8単位、④英語4単位・フランス語4単位、⑤英語4単位・ドイツ語4単位のいずれかを履修する。

専門言語履修にあたっては、比較文化学部の指示に従うこと。

注(6) 配当年次に*印のある科目は2年次に履修することが望ましい。

注(7) 同一科目名のⅠ、Ⅱを併せて履修すること。

注(8) 同一科目名のセミナーⅠ、Ⅱを併せて履修すること(同一教員が担当するセミナーを履修することが望ましい)。

注(9) 同一教員が担当する演習Ⅰ、Ⅱを併せて履修すること。演習Ⅰを修得していない場合は、演習Ⅱを履修できない。

注(10) 「諸外国との国際交流Ⅰ～Ⅳ」の単位を修得しようとする者は、大妻女子大学が行っている海外語学研修プログラムに参加し、一定以上の成績を修めること。

注(11) 同一教員が担当するセミナーⅠ、Ⅱを併せて履修すること。

アメリカ文化コース

(平成24年度入学生から適用)

区分	授業科目名	配当年次	期間	講義・演習等の別	単位数		先修条件	卒業に必要な単位数		
					必修	選択				
専門教育科目	基礎	アメリカ研究入門AⅠ(文化と社会)	2	半期	講義	2		(12)		
		アメリカ研究入門AⅡ(文化と社会)	2	半期	講義	2				
		アメリカ研究入門BⅠ(思想と宗教)	2	半期	講義	2				
		アメリカ研究入門BⅡ(思想と宗教)	2	半期	講義	2				
		アメリカ研究入門CⅠ(文学と芸術)	2	半期	講義	2				
		アメリカ研究入門CⅡ(文学と芸術)	2	半期	講義	2				
	文化研究	アメリカ文化研究AⅠ(伝統と倫理)	3・4	半期	講義		2	注(7)	(12)	
		アメリカ文化研究AⅡ(伝統と倫理)	3・4	半期	講義		2			
		アメリカ文化研究BⅠ(価値観と夢)	3・4	半期	講義		2			
		アメリカ文化研究BⅡ(価値観と夢)	3・4	半期	講義		2			
		アメリカ文化研究CⅠ(歴史と風土)	3・4	半期	講義		2			
		アメリカ文化研究CⅡ(歴史と風土)	3・4	半期	講義		2			
		アメリカ文化研究DⅠ(政治と経済)	3・4	半期	講義		2			
		アメリカ文化研究DⅡ(政治と経済)	3・4	半期	講義		2			
		アメリカ文化研究EⅠ(文学)	3・4	半期	講義		2			
		アメリカ文化研究EⅡ(文学)	3・4	半期	講義		2			
	アメリカ文化	現代英語中級セミナーAⅠ(理解)	*2・3・4	半期	演習		1	注(8)	注(5)	
			現代英語中級セミナーAⅡ(理解)	*2・3・4	半期	演習				1
			現代英語中級セミナーBⅠ(表現)	2・3・4	半期	演習				1
			現代英語中級セミナーBⅡ(表現)	2・3・4	半期	演習				1
			現代英語中級セミナーCⅠ(総合)	*2・3・4	半期	演習				1
			現代英語中級セミナーCⅡ(総合)	*2・3・4	半期	演習				1
		現代英語上級セミナーⅠ	3・4	半期	演習		1			
		現代英語上級セミナーⅡ	3・4	半期	演習		1			
		現代中国語基礎セミナーAⅠ(理解)	*2・3・4	半期	演習		1			
		現代中国語基礎セミナーAⅡ(理解)	*2・3・4	半期	演習		1			
		現代中国語基礎セミナーBⅠ(表現)	2・3・4	半期	演習		1			
		現代中国語基礎セミナーBⅡ(表現)	2・3・4	半期	演習		1			
		現代中国語基礎セミナーCⅠ(総合)	2・3・4	半期	演習		1			
		現代中国語基礎セミナーCⅡ(総合)	2・3・4	半期	演習		1			
		現代中国語中級セミナーⅠ	3・4	半期	演習		1			
		現代中国語中級セミナーⅡ	3・4	半期	演習		1			
		現代フランス語基礎セミナーAⅠ(理解)	*2・3・4	半期	演習		1			
		現代フランス語基礎セミナーAⅡ(理解)	*2・3・4	半期	演習		1			
		現代フランス語基礎セミナーBⅠ(表現)	2・3・4	半期	演習		1			
		現代フランス語基礎セミナーBⅡ(表現)	2・3・4	半期	演習		1			
現代フランス語基礎セミナーCⅠ(総合)		2・3・4	半期	演習		1				
現代フランス語基礎セミナーCⅡ(総合)		2・3・4	半期	演習		1				
現代フランス語中級セミナーⅠ		3・4	半期	演習		1				
現代フランス語中級セミナーⅡ		3・4	半期	演習		1				
現代ドイツ語基礎セミナーAⅠ(理解)		*2・3・4	半期	演習		1				
現代ドイツ語基礎セミナーAⅡ(理解)		*2・3・4	半期	演習		1				
現代ドイツ語基礎セミナーBⅠ(表現)		2・3・4	半期	演習		1				
現代ドイツ語基礎セミナーBⅡ(表現)		2・3・4	半期	演習		1				
現代ドイツ語基礎セミナーCⅠ(総合)		2・3・4	半期	演習		1				
現代ドイツ語基礎セミナーCⅡ(総合)		2・3・4	半期	演習		1				
現代ドイツ語中級セミナーⅠ	3・4	半期	演習		1					
現代ドイツ語中級セミナーⅡ	3・4	半期	演習		1					
関連科目	アジアの美術	2・3・4	半期	講義		2		(8)		
	アジアの都市	2・3・4	半期	講義		2				
	日韓関係論	2・3・4	半期	講義		2				
	日中関係論	2・3・4	半期	講義		2				
	アメリカのジャーナリズム	2・3・4	半期	講義		2				
	アメリカの都市	2・3・4	半期	講義		2				
	日米関係論	2・3・4	半期	講義		2				
	大衆消費社会論	2・3・4	半期	講義		2				
	ヨーロッパ統合の思想	2・3・4	半期	講義		2				
	日欧関係論	2・3・4	半期	講義		2				
	イスラムの文化と社会	2・3・4	半期	講義		2				
	現代中近東事情	2・3・4	半期	講義		2				
	現代ロシア・東欧事情	2・3・4	半期	講義		2				
	口承文芸と民間信仰	2・3・4	半期	講義		2				
多民族・多文化社会	2・3・4	半期	講義		2					

3 教育課程について

専門教育科目 比較文化学科 アメリカ文化コース

区分	授業科目名	配当年次	期間	講義・演習等の別	単位数		先修条件	卒業に必要な単位数	
					必修	選択			
専 門 教 育 科 目	比較文化演習1-I	3	半期	演習		2		4 注(9)	
	比較文化演習1-II	3	半期	演習		2	比較文化演習1-I		
	比較文化演習2-I	3	半期	演習		2			
	比較文化演習2-II	3	半期	演習		2	比較文化演習2-I		
	比較文化演習3-I	3	半期	演習		2			
	比較文化演習3-II	3	半期	演習		2	比較文化演習3-I		
	比較文化演習4-I	3	半期	演習		2			
	比較文化演習4-II	3	半期	演習		2	比較文化演習4-I		
	比較文化演習5-I	3	半期	演習		2			
	比較文化演習5-II	3	半期	演習		2	比較文化演習5-I		
	比較文化演習6-I	3	半期	演習		2			
	比較文化演習6-II	3	半期	演習		2	比較文化演習6-I		
	比較文化演習7-I	3	半期	演習		2			
	比較文化演習7-II	3	半期	演習		2	比較文化演習7-I		
	比較文化演習8-I	3	半期	演習		2			
	比較文化演習8-II	3	半期	演習		2	比較文化演習8-I		
	比較文化演習9-I	3	半期	演習		2			
	比較文化演習9-II	3	半期	演習		2	比較文化演習9-I		
	比較文化演習10-I	3	半期	演習		2			
	比較文化演習10-II	3	半期	演習		2	比較文化演習10-I		
	比較文化演習11-I	3	半期	演習		2			
	比較文化演習11-II	3	半期	演習		2	比較文化演習11-I		
	比較文化演習12-I	3	半期	演習		2			
	比較文化演習12-II	3	半期	演習		2	比較文化演習12-I		
	比較文化演習13-I	3	半期	演習		2			
	比較文化演習13-II	3	半期	演習		2	比較文化演習13-I		
	比較文化演習14-I	3	半期	演習		2			
	比較文化演習14-II	3	半期	演習		2	比較文化演習14-I		
	比較文化演習15-I	3	半期	演習		2			
	比較文化演習15-II	3	半期	演習		2	比較文化演習15-I		
	比較文化演習16-I	3	半期	演習		2			
	比較文化演習16-II	3	半期	演習		2	比較文化演習16-I		
	比較文化演習17-I	3	半期	演習		2			
比較文化演習17-II	3	半期	演習		2	比較文化演習17-I			
比較文化演習18-I	3	半期	演習		2				
比較文化演習18-II	3	半期	演習		2	比較文化演習18-I			
比較文化演習19-I	3	半期	演習		2				
比較文化演習19-II	3	半期	演習		2	比較文化演習19-I			
比較文化演習20-I	3	半期	演習		2				
比較文化演習20-II	3	半期	演習		2	比較文化演習20-I			
比較文化演習21-I	3	半期	演習		2				
比較文化演習21-II	3	半期	演習		2	比較文化演習21-I			
比較文化演習22-I	3	半期	演習		2				
比較文化演習22-II	3	半期	演習		2	比較文化演習22-I			
比較文化演習23-I	3	半期	演習		2				
比較文化演習23-II	3	半期	演習		2	比較文化演習23-I			
諸外国との国際交流I(アジア圏)	1・2・3・4	-	-	-		2	注(10)	(14)	
諸外国との国際交流II(アメリカ圏)	1・2・3・4	-	-	-		2			
諸外国との国際交流III(ヨーロッパ圏)	1・2・3・4	-	-	-		2			
諸外国との国際交流IV(オセアニア圏)	1・2・3・4	-	-	-		2			
比較文化セミナーI	4	半期	演習		2		注(11)		(10)
比較文化セミナーII	4	半期	演習		2				
卒業論文	4	半期	-		6				

注(1) この表は比較文化学科アメリカ文化コースの専門教育科目に関する規定であって、全学共通科目については全学共通科目の項による。

注(2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注(3) 科目によっては先修条件がつく場合があるのでシラバスをよく読んで選択すること。

注(4) 関連科目として、他のコースの文化研究を含めることができる。

注(5) 専門言語の科目は、英語8単位または英語4単位・その他の1言語4単位を履修する。

専門言語履修にあたっては、比較文化学部の指示に従うこと。

注(6) 配当年次に*印のある科目は2年次に履修することが望ましい。

注(7) 同一科目名のI、IIを併せて履修すること。

注(8) 同一科目名のセミナーI、IIを併せて履修すること(同一教員が担当するセミナーを履修することが望ましい)。

注(9) 同一教員が担当する演習I、IIを併せて履修すること。演習Iを修得していない場合は、演習IIを履修できない。

注(10) 「諸外国との国際交流I～IV」の単位を修得しようとする者は、大妻女子大学が行っている海外語学研修プログラムに参加し、一定以上の成績を修めること。

注(11) 同一教員が担当するセミナーI、IIを併せて履修すること。

ヨーロッパ文化コース

(2019年度入学生から適用)

区分	授業科目名	配当年次	期間	講義・演習等の別	単位数		先修条件	卒業に必要な単位数	
					必修	選択			
専門教育科目	基礎	ヨーロッパ研究入門AⅠ(文化と社会)	2	半期	講義	2		4 (12)	
		ヨーロッパ研究入門AⅡ(文化と社会)	2	半期	講義	2			
		ヨーロッパ研究入門BⅠ(思想と宗教)	2	半期	講義	2			
		ヨーロッパ研究入門BⅡ(思想と宗教)	2	半期	講義	2			
		ヨーロッパ研究入門CⅠ(イギリス文学と芸術)	2	半期	講義		2		
		ヨーロッパ研究入門CⅡ(イギリス文学と芸術)	2	半期	講義		2		
		ヨーロッパ研究入門DⅠ(フランス文学と芸術)	2	半期	講義		2		
		ヨーロッパ研究入門DⅡ(フランス文学と芸術)	2	半期	講義		2		
		ヨーロッパ研究入門EⅠ(ドイツ文学と芸術)	2	半期	講義		2		
		ヨーロッパ研究入門EⅡ(ドイツ文学と芸術)	2	半期	講義		2		
	文化研究	ヨーロッパ文化研究AⅠ(地中海文明とヨーロッパ)	3・4	半期	講義		2	注(7)	(12)
		ヨーロッパ文化研究AⅡ(地中海文明とヨーロッパ)	3・4	半期	講義		2		
		ヨーロッパ文化研究BⅠ(政治と経済)	3・4	半期	講義		2		
		ヨーロッパ文化研究BⅡ(政治と経済)	3・4	半期	講義		2		
		ヨーロッパ文化研究CⅠ(芸術と思想)	3・4	半期	講義		2		
		ヨーロッパ文化研究CⅡ(芸術と思想)	3・4	半期	講義		2		
		イギリス文化研究Ⅰ(歴史と風土)	3・4	半期	講義		2		
		イギリス文化研究Ⅱ(歴史と風土)	3・4	半期	講義		2		
		フランス文化研究Ⅰ(歴史と風土)	3・4	半期	講義		2		
		フランス文化研究Ⅱ(歴史と風土)	3・4	半期	講義		2		
	ヨーロッパ文化言語	現代フランス語基礎セミナーAⅠ(理解)	*2・3・4	半期	演習		1	注(8)	注(5)
		現代フランス語基礎セミナーAⅡ(理解)	*2・3・4	半期	演習		1		
		現代フランス語基礎セミナーBⅠ(表現)	2・3・4	半期	演習		1		
		現代フランス語基礎セミナーBⅡ(表現)	2・3・4	半期	演習		1		
		現代フランス語基礎セミナーCⅠ(総合)	2・3・4	半期	演習		1		
		現代フランス語基礎セミナーCⅡ(総合)	2・3・4	半期	演習		1		
		現代フランス語中級セミナーⅠ	3・4	半期	演習		1		
		現代フランス語中級セミナーⅡ	3・4	半期	演習		1		
		現代ドイツ語基礎セミナーAⅠ(理解)	*2・3・4	半期	演習		1		
		現代ドイツ語基礎セミナーAⅡ(理解)	*2・3・4	半期	演習		1		
	現代ドイツ語基礎セミナーBⅠ(表現)	2・3・4	半期	演習		1			
	現代ドイツ語基礎セミナーBⅡ(表現)	2・3・4	半期	演習		1			
	現代ドイツ語基礎セミナーCⅠ(総合)	2・3・4	半期	演習		1			
	現代ドイツ語基礎セミナーCⅡ(総合)	2・3・4	半期	演習		1			
	現代ドイツ語中級セミナーⅠ	3・4	半期	演習		1			
	現代ドイツ語中級セミナーⅡ	3・4	半期	演習		1			
現代英語中級セミナーAⅠ(理解)	*2・3・4	半期	演習		1				
現代英語中級セミナーAⅡ(理解)	*2・3・4	半期	演習		1				
現代英語中級セミナーBⅠ(表現)	2・3・4	半期	演習		1				
現代英語中級セミナーBⅡ(表現)	2・3・4	半期	演習		1				
現代英語中級セミナーCⅠ(総合)	*2・3・4	半期	演習		1				
現代英語中級セミナーCⅡ(総合)	*2・3・4	半期	演習		1				
現代英語上級セミナーⅠ	3・4	半期	演習		1				
現代英語上級セミナーⅡ	3・4	半期	演習		1				
現代中国語基礎セミナーAⅠ(理解)	*2・3・4	半期	演習		1				
現代中国語基礎セミナーAⅡ(理解)	*2・3・4	半期	演習		1				
現代中国語基礎セミナーBⅠ(表現)	2・3・4	半期	演習		1				
現代中国語基礎セミナーBⅡ(表現)	2・3・4	半期	演習		1				
現代中国語基礎セミナーCⅠ(総合)	2・3・4	半期	演習		1				
現代中国語基礎セミナーCⅡ(総合)	2・3・4	半期	演習		1				
現代中国語中級セミナーⅠ	3・4	半期	演習		1				
現代中国語中級セミナーⅡ	3・4	半期	演習		1				

区分	授業科目名	配当年次	期間	講義・演習等の別	単位数		先修条件	卒業に必要な単位数
					必修	選択		
専門教育科目	アジアの美術	2・3・4	半期	講義		2		4 注(9)
	アジアの都市	2・3・4	半期	講義		2		
	日韓関係論	2・3・4	半期	講義		2		
	日中関係論	2・3・4	半期	講義		2		
	アメリカのジャーナリズム	2・3・4	半期	講義		2		
	アメリカの都市	2・3・4	半期	講義		2		
	日米関係論	2・3・4	半期	講義		2		
	大衆消費社会論	2・3・4	半期	講義		2		
	ヨーロッパ統合の思想	2・3・4	半期	講義		2		
	日欧関係論	2・3・4	半期	講義		2		
	イスラムの文化と社会	2・3・4	半期	講義		2		
	現代中近東事情	2・3・4	半期	講義		2		
	現代ロシア・東欧事情	2・3・4	半期	講義		2		
	口承文芸と民間信仰	2・3・4	半期	講義		2		
	多民族・多文化社会	2・3・4	半期	講義		2		
	比較文化演習1-I	3	半期	演習		2		
	比較文化演習1-II	3	半期	演習		2	比較文化演習1-I	
	比較文化演習2-I	3	半期	演習		2		
	比較文化演習2-II	3	半期	演習		2	比較文化演習2-I	
	比較文化演習3-I	3	半期	演習		2		
	比較文化演習3-II	3	半期	演習		2	比較文化演習3-I	
	比較文化演習4-I	3	半期	演習		2		
	比較文化演習4-II	3	半期	演習		2	比較文化演習4-I	
	比較文化演習5-I	3	半期	演習		2		
	比較文化演習5-II	3	半期	演習		2	比較文化演習5-I	
	比較文化演習6-I	3	半期	演習		2		
	比較文化演習6-II	3	半期	演習		2	比較文化演習6-I	
	比較文化演習7-I	3	半期	演習		2		
	比較文化演習7-II	3	半期	演習		2	比較文化演習7-I	
	比較文化演習8-I	3	半期	演習		2		
	比較文化演習8-II	3	半期	演習		2	比較文化演習8-I	
	比較文化演習9-I	3	半期	演習		2		
	比較文化演習9-II	3	半期	演習		2	比較文化演習9-I	
	比較文化演習10-I	3	半期	演習		2		
	比較文化演習10-II	3	半期	演習		2	比較文化演習10-I	
	比較文化演習11-I	3	半期	演習		2		
	比較文化演習11-II	3	半期	演習		2	比較文化演習11-I	
	比較文化演習12-I	3	半期	演習		2		
	比較文化演習12-II	3	半期	演習		2	比較文化演習12-I	
	比較文化演習13-I	3	半期	演習		2		
	比較文化演習13-II	3	半期	演習		2	比較文化演習13-I	
	比較文化演習14-I	3	半期	演習		2		
	比較文化演習14-II	3	半期	演習		2	比較文化演習14-I	
比較文化演習15-I	3	半期	演習		2			
比較文化演習15-II	3	半期	演習		2	比較文化演習15-I		
比較文化演習16-I	3	半期	演習		2			
比較文化演習16-II	3	半期	演習		2	比較文化演習16-I		
比較文化演習17-I	3	半期	演習		2			
比較文化演習17-II	3	半期	演習		2	比較文化演習17-I		
比較文化演習18-I	3	半期	演習		2			
比較文化演習18-II	3	半期	演習		2	比較文化演習18-I		
比較文化演習19-I	3	半期	演習		2			
比較文化演習19-II	3	半期	演習		2	比較文化演習19-I		
比較文化演習20-I	3	半期	演習		2			
比較文化演習20-II	3	半期	演習		2	比較文化演習20-I		
比較文化演習21-I	3	半期	演習		2			
比較文化演習21-II	3	半期	演習		2	比較文化演習21-I		
比較文化演習22-I	3	半期	演習		2			
比較文化演習22-II	3	半期	演習		2	比較文化演習22-I		
比較文化演習23-I	3	半期	演習		2			
比較文化演習23-II	3	半期	演習		2	比較文化演習23-I		
諸外国との国際交流I(アジア圏)	1・2・3・4	—	—		2	注(10)		
諸外国との国際交流II(アメリカ圏)	1・2・3・4	—	—		2			
諸外国との国際交流III(ヨーロッパ圏)	1・2・3・4	—	—		2			
諸外国との国際交流IV(オセアニア圏)	1・2・3・4	—	—		2			
セミナー	比較文化セミナーI	4	半期	演習	2	注(11)	(14)	
	比較文化セミナーII	4	半期	演習	2			
	卒業論文	4	半期	—	6			(10)

注(1) この表は比較文化学科ヨーロッパ文化コースの専門教育科目に関する規定であって、全学共通科目については全学共通科目の項による。

注(2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注(3) 科目によっては先修条件がつく場合があるのでシラバスをよく読んで選択すること。

注(4) 関連科目として、他のコースの文化研究を含めることができる。

注(5) 専門言語の科目は、①フランス語8単位、②フランス語4単位・英語4単位、③ドイツ語8単位、④ドイツ語4単位・英語4単位、⑤英語8単位、⑥英語4単位・中国語4単位のいずれかを履修する。専門言語履修にあたっては、比較文化学部指示に従うこと。

注(6) 配当年次に*印のある科目は2年次に履修することが望ましい。

注(7) 同一科目名のⅠ、Ⅱを併せて履修すること。

注(8) 同一科目名のセミナーⅠ、Ⅱを併せて履修すること(同一教員が担当するセミナーを履修することが望ましい)。

注(9) 同一教員が担当する演習Ⅰ、Ⅱを併せて履修すること。演習Ⅰを修得していない場合、演習Ⅱを履修できない。

注(10) 「諸外国との国際交流Ⅰ～Ⅳ」の単位を修得しようとする者は、大妻女子大学が行っている海外語学研修プログラムに参加し、一定以上の成績を修めること。

注(11) 同一教員が担当するセミナーⅠ、Ⅱを併せて履修すること。

3 履修モデル

本学では、目標や学びたいことに合わせて科目選択をすることが可能です。

各学科で目的別に4年間の履修モデルを紹介しています。履修モデルを参考に自分の目的にあわせたオリジナルな履修計画を立ててください。

※履修科目は一例です。卒業するためには、修業年限を満たし、各学科で定められた「卒業必要単位数」を修得しなければなりません。

被服学科

教育目標

被服学科では、被服に関する幅広い知識と判断能力を有し、更に社会で必要とされる「衣」に関する専門知識を保持し、活躍できる人材を育成します。

学科が求める学生像

- 1 被服の専門知識を身につけたい人
- 2 アパレル産業で活躍したい人
- 3 繊維製品の企画、評価、開発分野で活躍したい人

4年間の学び

- 1 年次には被服全般にわたる基礎力を養う。
- 2 年次には領域（繊維素材 / デザイン・制作 / アパレル生産 / ファッションビジネス）を意識した理解力を深める。
- 3 年次にはそれぞれの領域を基礎とした展開力を養う。
- 4 年次には卒業研究を通してさらなる探求を深める。

履修モデル

1 素材からデザイン・制作中心に学ぶ（繊維素材、デザイン・制作領域）

学年	全学共通科目	専門教育科目
1年	大妻教養講座 英語 I A 英語 I B 基礎科目（女性とキャンパスライフ／リテラシー／キャリアより選択必修として各2単位） 教養科目（選択必修として6単位） 基礎・教養・外国語（選択必修として9単位）	【必修科目】 繊維科学 色彩学 アパレル概論 日本服飾文化史 西洋服飾文化史 和服製作 I アパレル製作 I 【選択科目】 学部共通科目 衣生活と化学 衣環境学 服飾工学 など
2年	教養科目（選択必修として4単位） 基礎・教養・外国語（選択必修として4単位）	【必修科目】 被服材科学 被服材科学実験 基礎デザイン 衣生活文化論 被服体型学 【選択科目】 学部共通科目 機能性被服材料 被服管理学 染色学 界面科学 服飾美学 パターン設計 和服製作 II 和服製作 III アパレル製作 II など
3年	基礎・教養・外国語（選択必修として2単位）	【必修科目】 セミナール I 【選択科目】 繊維加工学 インテリア材料 繊維科学実験 テキスタイル分析 立体裁断 I 立体裁断 II コンピュータグラフィックス インテリアデザイン など
4年		【必修科目】 セミナール II 卒業研究

2 人間・社会・環境との関わりを中心に学ぶ（アパレル生産、ファッションビジネス領域）

学年	全学共通科目	専門教育科目
1年	大妻教養講座 英語 I A 英語 I B 基礎科目（女性とキャンパスライフ／リテラシー／キャリアより選択必修として各2単位） 教養科目（選択必修として6単位） 基礎・教養・外国語（選択必修として9単位）	【必修科目】 繊維科学 色彩学 アパレル概論 日本服飾文化史 西洋服飾文化史 和服製作 I アパレル製作 I 【選択科目】 学部共通科目 ファッションビジネス など
2年	教養科目（選択必修として4単位） 基礎・教養・外国語（選択必修として4単位）	【必修科目】 被服材科学 被服材科学実験 基礎デザイン 衣生活文化論 被服体型学 【選択科目】 学部共通科目 被服心理学 繊維製品消費科学 ファッション統計学 ファッションマーケティング アパレル企画 ファッションデザイン など
3年	基礎・教養・外国語（選択必修として2単位）	【必修科目】 セミナール I 【選択科目】 ケーススタディ アパレル CAD アパレル設計・生産 I アパレル設計・生産 II 工業染色 衣裳ディスプレイ 消費生活論 ファッションリテイリング ファッションマネジメント ファッション広告論 品質管理 消費者調査法 など
4年		【必修科目】 セミナール II 卒業研究

注意：ローマ数字のついている科目は数字の小さいものから順に履修することが望ましい。

教育目標

生活習慣病予防の栄養指導、国民の健康増進に役立つ食品や外食等の食環境づくり、偏食やアレルギー疾患など様々な問題をかかえる幼児、学童、生徒への食教育を实践できる栄養士を育成する。

学科が求める学生像

- 1 食と健康に関する科学的な専門知識や技術を修得し、自ら探求する力を身につける。
- 2 食の専門知識・技術を生かして、企画、開発するための創造的思考力を身につける。
- 3 高いコミュニケーション力を有し、個々の諸問題に関して分かりやすい栄養指導・食教育ができる能力を身につける。
- 4 食の専門家として、真摯な姿勢をもって社会に貢献できる能力を身につける。

4年間の学び

1年次には、大学生としての教養を高めると共に、食にかかわる知識と技術を習得するための基礎力を養います。人体の構造・機能に関する知識を基に、食への関心を高めます。

2年次には、栄養士免許取得に必要な必修の基礎専門科目について講義のほか、多くの実習・実験で学びます。

3年次には、給食管理実習等の栄養士専門科目を充実させ、さらに、将来像を視野にいれながらより深く学びたい科目を選択して学びます。

4年次には、4年間の集大成として、興味のある分野で卒業研究に取り組みます。

履修モデル

1 家庭科教育・食教育を中心に学ぶ（家庭科教員免許、栄養教諭免許取得）

区分	全学共通科目	学部共通科目	必修科目	選択科目	教職科目
1年	11科目（22単位）	家庭経営学概論（含家庭経済学） 住居学概論	13科目（22単位）	化学Ⅰ 化学Ⅱ 基礎生物学 食文化論	
2年	3科目（6単位）	家族関係論 被服学概論	14科目（22単位）	食安全学Ⅱ 調理科学Ⅱ 調理科学実験 疾病の成り立ちⅡ 栄養・健康情報論 食品微生物学	
3年			8科目（14単位）	食品素材論 食品流通論 応用調理学実習 臨床栄養学 臨床栄養学実習 栄養教育論実習Ⅱ 給食管理実習Ⅱ	学校栄養教諭論
4年			2科目（4単位）	食品感覚機能論 消費科学 スポーツ栄養論	

2 特定給食施設（病院、特養、保育所、事業所）・スポーツ施設での栄養士・管理栄養士を目指す

区分	全学共通科目	学部共通科目	必修科目	選択科目
1年	11科目 (22単位)	家庭経営学概論 (含家庭経済学) 住居学概論	13科目 (22単位)	化学Ⅰ 化学Ⅱ 基礎生物学
2年	3科目 (6単位)	家族関係論 被服学概論 児童学概論	14科目 (22単位)	栄養化学Ⅱ 食安全学Ⅱ 調理科学Ⅱ 疾病の成り立ちⅡ 食品微生物学
3年			8科目 (14単位)	食品素材論 食品流通論 応用調理学実習 臨床栄養学 臨床栄養学実習 栄養教育論実習Ⅱ 給食管理実習Ⅱ 校外実習指導 校外実習 健康運動実践指導論 体力測定と評価 健康スポーツ実技
4年			2科目 (4単位)	食品感覚機能論 消費科学 スポーツ栄養論 スポーツパフォーマンス論 運動障害と予防・救急処置 (含実習)

3 外食産業(給食経営・メニュー開発)、食品企業(企画、品質管理、営業)で栄養士として活かせる知識を学ぶ

区分	全学共通科目	学部共通科目	必修科目	選択科目
1年	11科目 (22単位)	家庭経営学概論 (含家庭経済学) 住居学概論	13科目 (22単位)	化学Ⅰ 化学Ⅱ 基礎生物学
2年	3科目 (6単位)	家族関係論 被服学概論	14科目 (22単位)	栄養化学Ⅱ 食安全学Ⅱ 食品微生物学
3年			8科目 (14単位)	食品素材論 食品流通論 食品バイオテクノロジー 食品開発論 インターンシップ 臨床栄養学 臨床栄養学実習 栄養教育論実習Ⅱ 給食管理実習Ⅱ 校外実習指導 校外実習
4年			2科目 (4単位)	食品感覚機能論 消費科学 フーズスペシャリスト論 フードコーディネーター論

4 食品企業の研究開発および大学院進学により研究者や技術者を目指す

区分	全学共通科目	学部共通科目	必修科目	選択科目
1年	11科目 (22単位)	家庭経営学概論 (含家庭経済学) 住居学概論	13科目 (22単位)	化学Ⅰ 化学Ⅱ 基礎生物学
2年	3科目 (6単位)	家族関係論 被服学概論	14科目 (22単位)	栄養化学Ⅱ 食安全学Ⅱ 食品微生物学
3年			8科目 (14単位)	食品素材論 食品流通論 食品バイオテクノロジー 食品開発論 インターンシップ 臨床栄養学 臨床栄養学実習 栄養教育論実習Ⅱ 給食管理実習Ⅱ 校外実習指導 校外実習
4年			2科目 (4単位)	食品感覚機能論 消費科学

教育目標

社会や環境の変化に対応し、個人の身体状況や栄養状態などを総合的に判断しながら、適切な栄養・食に関する教育ができる実践力のある人材を育成する。

学科が求める学生像

- 1 「食べ物」や「健康」に携わり、人の命を預かる医療職としての使命や責任を身につける。
- 2 人の体や機能および病気のメカニズムを知り、健康状態を適切に評価することで、個々人に適した安全で健康に良い食べ物を提供できる運営管理能力を身につける。
- 3 身近な人・家庭から地域ならびに社会における人々の健康増進および疾病予防のために適切な栄養教育が実践できる能力を身につける。

4年間の学び

1年次には、大学生としての教養を高めるとともに、食にかかわる知識と技術を習得するための基礎力を養います。また、人体の構造・機能に関する知識と管理栄養士の職域を理解し、各自が専門職としての目標を考える。

2年次には、基礎専門領域（病気の仕組み、食品・食べ物と健康のかかわり、栄養学等）を中心に、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学等の専門科目の履修も始まる。

3年次には、専門領域について、広く深く学習します。また、専門科目の知識を学外で実践する実習（臨地実習・校外実習）があり、管理栄養士としての将来を見出すようにする。

4年次には、専門領域の総まとめとして、総合演習において研究課題に取り組み、プレゼンテーションへと展開する。さらに国家試験に向けた学習を全力で行う。

履修モデル

1 管理栄養士の資格を取得することに集中して学ぶ

区分	全学共通科目	学部共通科目	必修科目	選択必修科目	選択科目
1年	11科目 (22単位)	家庭経営学概論 (含家庭経済学) 住居学概論	14科目 (23単位)		化学Ⅰ■ 化学Ⅱ■ 基礎生物学
2年	2科目 (4単位)	家族関係論 被服学概論	22科目 (36単位)		機能的食品学 栄養・健康情報論 食品微生物学■ 食品微生物学実験■
3年	1科目 (2単位)		18科目 (30単位)		社会福祉論
4年			1科目 (2単位)	卒業研究 卒業論文Ⅰ } 1つ選択 卒業論文Ⅱ	管理栄養士総合演習 スポーツ栄養論 食品感覚機能論

■は食品衛生管理者及び食品衛生監視員に任用のための単位修得を希望する場合に履修しなければならない科目。

2 管理栄養士にさらに栄養教諭の資格をプラスする

区分	全学共通科目	学部共通科目	必修科目	選択必修科目	選択科目	教職科目
1年	11科目(22単位)	家庭経営学概論(含家庭経済学) 住居学概論	14科目(23単位)		化学Ⅰ■ 化学Ⅱ■ 基礎生物学 食文化論	
2年	2科目(4単位)	家族関係論 被服学概論	22科目(36単位)		機能性食品学 栄養・健康情報論	
3年	1科目(2単位)		18科目(30単位)			学校栄養教諭論Ⅰ 学校栄養教諭論Ⅱ
4年			1科目(2単位)	卒業研究 卒業論文Ⅰ } 1つ選択 卒業論文Ⅱ }	管理栄養士総合演習 食品感覚機能論	臨地実習指導 臨地実習Ⅰ 臨地実習Ⅱ

■は食品衛生管理者及び食品衛生監視員に任用のための単位修得を希望する場合に履修しなければならない科目。

教育目標

子どもを理解するための児童学の専門的知識、保育・教育に関わる技能・技術と判断力、子どもを中心とした関係のネットワーク作りなど、子どもの成長を総合的に支援していくために必要な専門性を多面的に養い、変化する社会の中で子どもの専門家として活躍できる人材を育成する。

学科が求める学生像

1. 子どもについて内面も含めて理解するために不可欠な児童学の専門的知識を身につける。
2. 保育・教育に関わる専門的な技能・技術と判断力を身につける。
3. 論理的思考力・表現力・共感性に基づき、子どもを中心とした関係のネットワークを作り上げることのできる能力を身につける。
4. 変化する社会における子どもに関わる幅広い視野と多様な問題に対処できる能力を身につける。

4年間の学び

1年次は「自分と向き合う」ことをテーマに、児童学の基礎的な学びを行っていくと同時に、体験に基づく学びを通して、自分自身の身体と心の柔軟な動きを取り戻す。

2年次は「他者と向き合う」ことをテーマに、現場実習にむけた学習やグループワークを通して、自分と異なる他者の考えや心の動きと向き合っていく。

3年次は「社会と向き合う」ことをテーマに、現場実習や実習指導、専門演習（ゼミ）をとおして、子どもの生活とそれらを支える大人や社会の動きと向き合い、自分自身の問題意識を深めていく。

4年次は「多様な問題と向き合う」ことをテーマに、卒業研究や実践演習、さらに多様な選択科目を通して、自分の問いを主体的に探究し、問題と向き合う専門性を高めていく。

履修モデル

学年	全学共通科目	学部共通科目	必修科目	選択必修科目	選択科目
1年	16単位	2単位	32単位	子どもと物語 音楽技術Ⅰ 音楽技術Ⅱ 造形技術	保育者養成基礎演習Ⅰ
2年	10単位	2単位	26単位	児童学研究法Ⅱ（実験法・検査法） 児童学研究法Ⅲ（調査法・統計法） 児童学研究法Ⅳ（観察法・フィールドワーク）	教育実習（幼稚園Ⅰ） 幼稚園実習特講 保育者養成基礎演習Ⅱ 保育実習Ⅰ 保育実習指導ⅠA
3年	2単位		30単位	学童保育 子どもNPO 保育カンファレンス演習	幼稚園実習特講 保育実習Ⅰ 保育実習指導ⅠB 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅱ
4年			14単位	子どもと貧困 子どもと科学する心 保育者とアート（造形） 保育者とアート（音楽） 保育者とアート（パフォーマンス） 保育者とからだ 保育者とメディア	保育実習（アドバンス） 保育実習（アドバンス演習）

教育目標

子どもを理解するための児童学の専門的知識、教育に関わる技能・技術と判断力、子どもを中心とした関係のネットワーク作りなど、子どもの成長を総合的に支援していくために必要な専門性を多面的に養い、変化する社会の中で子どもの専門家として活躍できる人材を育成する。

学科が求める学生像

1. 子どもについて内面も含めて理解するために不可欠な児童学の専門的知識を身につける。
2. 教育に関わる専門的な技能・技術と判断力を身につける。
3. 論理的思考力・表現力・共感力に基づき、子どもを中心とした関係のネットワークを作り上げることのできる能力を身につける。
4. 変化する社会における子どもに関わる幅広い視野と多様な問題に対処できる能力を身につける。

4年間の学び

1年次は「自分と向き合う」ことをテーマに、児童学の基礎的な学びを考え、体験的な学びを中心に、自分自身の身体と心の柔軟な動きを取り戻す。

2年次は「他者と向き合う」ことをテーマに、各授業の体験的学習やグループワークを通して、自分と異なる他者の考えや心の動きと向き合っていく。

3年次は「社会と向き合う」ことをテーマに、現場体験やゼミを通して、子どもの生活とそれらを支える大人や社会の動きと向き合い、自分の考えをふりかえり、課題や問題意識を整理していく。

4年次は「多様な問題と向き合う」ことをテーマに、卒業研究や実践演習など大学での学びを総合的に働かせる学習を通して、問題解決や確かな実践のための専門性を追求する。

教育目標

自然と共生し、良好な家族・近隣関係の中で文化的に豊かで美しい生活を、自分の一生の中で追求するだけでなく、これを社会的に実現する意欲と能力をもった人材を育成する。そのために、人やいのち、自然、そして美しいモノやカタチとつながる感性を養った上で、世の中を「生活者」の視点から体系的にとらえる広い視野を養成する。卒業後は、学びの成果を活かし、企業、NPO、行政機関などにおける多様な職務を通じて「21世紀の新しいライフスタイル」を提案することで社会に貢献することが期待される。

学科が求める学生像

- ①地域や家族のことに関心がある人、
- ②人と自然が共生するエコライフに関心がある人、
- ③美しい暮らしを提言したい人、
- ④本当に豊かな生活とは何かについて考え、実践したい人。

4年間の学び

- 1年次には、ライフデザインの基礎を学ぶ。
- 2年次には、ライフデザインの3つの領域（家庭・地域・社会、自然環境）を学ぶ。
- 3年次には、ライフデザインの3つの領域をさらに深める。
- 4年次には、学びを統合し、ライフデザインの実践力を養う。

履修モデル

ライフデザイン学科では、1・2年次で幅広い分野への興味関心を高め、基礎的な知識の修得を目指します。その上で、3年次以降に自分自身の学びの中心を意識しながら、新たなライフスタイルについての考察を深め、「真の豊かさ」を追求していきます。

以下に履修モデルとして3パターンの「学びの中心」と各パターンにおける学年ごとの代表的履修推奨科目を示します。これらの履修モデルを参考にしながら履修計画を立てていきましょう。ただし、1・2年次では、先に述べたとおり幅広い分野へ眼を向けることを意識して、表中の科目以外についても積極的に履修するようにしてください。

科目同士の関連性についてはカリキュラムチャートを参照してください。また卒業要件として、以下に示した科目のみでなく、指定単位数を修得する必要があることに注意してください。

1 家族と地域の視点を中心に学ぶ

区分	全学共通科目	専門教育科目
1年	大妻教養講座 コンピュータ基礎A キャリアデザインI 英語IA/IB ほか	感性教育 ライフデザイン学総論 生涯発達心理学 生活経営学 市民生活と法 コミュニティと福祉 ほか
2年	女性と健康 スポーツA 地域と文化 ほか	家族心理学 生活情報論 消費生活論 暮らしと社会保障 家族法 ほか
3年	家族と現代社会 ほか	ゼミナールI-A/I-B ライフデザイン演習I/II 暮らしとファイナンス 生活と映像 消費者と法 ほか
4年		ゼミナールII-A/II-B 卒業研究 ライフデザイン演習III スローライフ論 家族と文化の心理学 社会老年学 ほか

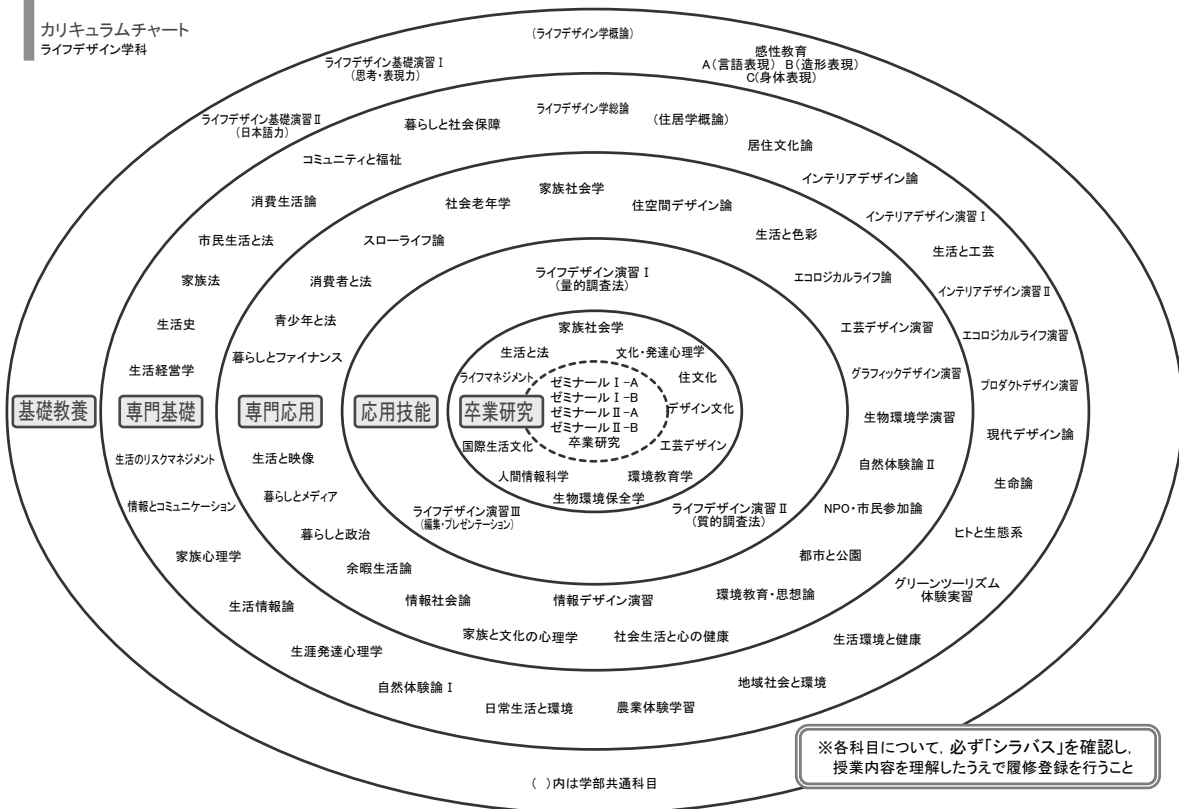
2 自然とのかかわり方を中心に学ぶ

区分	全学共通科目	専門教育科目
1年	大妻教養講座 コンピュータ基礎A キャリアデザイン I 英語 I A/ I B ほか	感性教育 生命論 ヒトと生態系 日常生活と環境 自然体験論 I ほか
2年	女性と健康 スポーツA 地域と文化 ほか	地域社会と環境 生活環境と健康 グリーンツーリズム体験実習 農業体験学習 ほか
3年	生命の科学 科学と環境 ほか	ゼミナール I-A/ I-B ライフデザイン演習 I/ II 生物環境学演習 自然体験論 II 都市と公園 NPO・市民参加論 グラフィックデザイン演習 ほか
4年		ゼミナール II-A/ II-B 卒業研究 エコロジカルライフ論 ライフデザイン演習 III 環境教育・思想論 家族と文化の心理学 ほか

3 モノや生活空間との関係を中心に学ぶ

区分	全学共通科目	専門教育科目
1年	大妻教養講座 コンピュータ基礎A キャリアデザイン I 英語 I A/ I B ポピュラーカルチャーの世界 ほか	感性教育 住居学概論 ライフデザイン学概論 生活と工芸 ほか
2年	女性と健康 スポーツA 経済と現代社会 ほか	居住文化論 インテリアデザイン論 エコロジカルライフ演習 インテリアデザイン演習 I/ II 現代デザイン論 プロダクトデザイン演習 生活史 ほか
3年	美術の世界 ほか	ゼミナール I-A/ I-B ライフデザイン演習 I/ II 生活と色彩 住空間デザイン論 工芸デザイン演習 グラフィックデザイン演習 余暇生活論 ほか
4年		ゼミナール II-A/ II-B 卒業研究 情報デザイン演習 ライフデザイン演習 III ほか

カリキュラムチャート
ライフデザイン学科



教育目標

日本人の心の表現である日本文学。日本文学科は、日本語と日本文学について深い教養と豊かな情操を育成する学科です。「文学」を研究することは、その作品が作者のどのような人生観・社会観を伝えようとしているかを考えることといえます。同時にその様々な思いを伝える手段としての日本語の歴史・特質を学んでいきます。

詩歌・物語・小説・エッセイ・評論等々それぞれの時代に生きた人々の「ことば」と「文学」を通して日本語の美しさや日本人の生活を再発見できるでしょう。さらにそうした各自の「発見」を、他者に向かって発信できる日本語運用能力・プレゼンテーション能力の向上も目標の一つになります。そして豊かな人間性と教養を身につけ、より深い人間理解ができる感性を備えた女性を育てます。

学科が求める学生像

文学・歴史が好きな人／「国語」が好きな人／言葉で考えたり、表現したりすることの好きな人／文学によって真剣に人生の意味を考えようとする人

4年間の学び

- 1年次 大学での学習活動に必要な基本的スキルとして、論理的な日本語を読み書く訓練、プレゼンテーションや議論の訓練を行います。また、日本語および日本文学を学ぶための基礎知識と、変体仮名を習得します。
- 2年次 日本語や日本文学を学ぶために必要な知識や方法を学びます。学術的な文章の読み書きを訓練するとともに、各時代分野の研究方法を身につけます。また、講読によって基礎的な読解方法や解釈を学び、演習によって専門的な研究能力を実践的に養います。
- 3年次 講義・演習によって専門科目の学びを深めます。また、他学科のオープン科目や文学部共通科目を受講することによって、日本文学の学びで培った思考方法や知識を、隣接諸領域を学ぶことによって試しつつ、対話的に発展させていきます。卒業論文ゼミでは卒業論文の準備を始めます。
- 4年次 4年間の学びの総まとめとして卒業論文を書きます。専門科目や文学部共通科目で学んだ内容をふまえながら、自分で調査研究をすることによってさらに発展させ、卒業論文へと結実させます。

履修モデル

1 近現代文学を中心に学ぶ

区分	全学共通科目		専門教育科目		
1年	基礎力をつける	前期	大妻教養講座 英語ⅠA 言語と文化 日本の歴史と文化 キャリアデザインⅠ	前期	基礎ゼミⅠ 日本古典文学入門 漢文学入門 近代文学概説 現代文学概説 日本語学概説
		後期	英語ⅠB 日本語C(読解) 都市と現代社会 科学と環境	後期	上代文学概説 中古文学概説 中世文学概説 近世文学概説 漢文学概説 変体仮名読解
2年	基礎的な読解と解釈	前期	ジェンダーと社会生活 世界の歴史と文化 美術の世界 映像・演劇の世界	前期	基礎ゼミⅡ 語学・文学講読Ⅰ 近代文学演習Ⅰ 比較文学研究の方法(近現代・メディア)
		後期	レクリエーション論 ポピュラー・カルチャーの世界 科学と環境 子どもの世界	後期	書誌・出版 語学・文学講読Ⅱ 近代文学演習Ⅱ メディア文化論 研究の方法(古典・漢文)
3年	応用力を身につける	前期	人類の進化 文学の世界	前期	卒業論文ゼミⅠ 現代文学演習Ⅰ メディア文化演習Ⅰ 近代文学講義 日本の映像メディア 創作研究
		後期	哲学と思想 人間の成長と心理	後期	卒業論文ゼミⅡ 現代文学演習Ⅱ メディア文化演習Ⅱ 現代文学講義 日本の美術 日本の思想B
4年	卒業論文に取り組む	前期		前期	卒業論文ゼミⅢ ことばの仕組みと働き ※文共通 広告論 ※文共通 英米映像・文化 ◆英文
		後期		後期	卒業論文ゼミⅣ 児童文学 ※文共通 ※卒業論文
備考					

2 古典文学を中心に学ぶ

区分		全学共通科目		専門教育科目	
1年	基礎力をつける	前期	大妻教養講座 英語 I A 言語と文化 日本の歴史と文化 キャリアデザイン I	前期	基礎ゼミ I 日本古典文学入門 漢文学入門 近代文学概説 現代文学概説 日本語学概説
		後期	英語 I B 日本語 C (読解) 都市と現代社会 科学と環境	後期	上代文学概説 中古文学概説 中世文学概説 近世文学概説 漢文学概説 変体仮名読解
2年	基礎的な読解と解釈	前期	ジェンダーと社会生活 世界の歴史と文化 美術の世界 映像・演劇の世界	前期	基礎ゼミ II 語学・文学講読 I 中古文学演習 I 伝承と文学研究の方法 (古典・漢文)
		後期	レクリエーション論 ポピュラー・カルチャーの世界 科学と環境 子どもの世界	後期	書誌・出版 語学・文学講読 II 中古文学演習 II 比較文学研究の方法 (日本語)
3年	応用力を身につける	前期	人類の進化 文学の世界	前期	卒業論文ゼミ I 中世文学演習 I 近世文学演習 I 中古文学講義 日本の思想 B 江戸・東京の文化 ※文共通
		後期	哲学と思想 人間の成長と心理	後期	卒業論文ゼミ II 中世文学演習 II 近世文学演習 II 中世文学講義 日本の芸能と文化 児童文学 ※文共通
4年	卒業論文に取り組み	前期		前期	卒業論文ゼミ III 語学・文学特別講義 文字文化論 ※文共通 聖書と神話 ◆英文
		後期		後期	卒業論文ゼミ IV 民族文化論 ◆コミ文 卒業論文
備考					

3 日本語学を中心に学ぶ

区分		全学共通科目		専門教育科目	
1年	基礎力をつける	前期	大妻教養講座 英語 I A 言語と文化 日本の歴史と文化 世界の歴史と文化 キャリアデザイン I	前期	基礎ゼミ I 日本古典文学入門 漢文学入門 近代文学概説 現代文学概説 日本語学概説
		後期	英語 I B 日本語 C (読解) 都市と現代社会 科学と環境	後期	上代文学概説 中古文学概説 中世文学概説 近世文学概説 漢文学概説 変体仮名読解
2年	基礎的な読解と解釈	前期	ジェンダーと社会生活 美術の世界 映像・演劇の世界	前期	基礎ゼミ II 語学・文学講読 I 日本語学演習 I ジェンダーと文学 研究の方法 (近現代・メディア)
		後期	レクリエーション論 ポピュラー・カルチャーの世界 子どもの世界 哲学と思想 人間の成長と心理	後期	書誌・出版 語学・文学講読 II 日本語学演習 II メディア文化論 研究の方法 (日本語)
3年	応用力を身につける	前期	人類の進化 文学の世界	前期	卒業論文ゼミ I 現代文学演習 I メディア文化演習 I 日本語学講義 日本の映像とメディア 言語文化論 ◆コミ文
		後期		後期	卒業論文ゼミ II 現代文学演習 II メディア文化演習 II 現代文学講義 日本の美術 日本語と社会 ※文共通
4年	卒業論文に取り組み	前期		前期	卒業論文ゼミ III ことばの仕組みと働き ※文共通 日本文化とアジア ※文共通 文法論 ◆英文
		後期		後期	卒業論文ゼミ IV 日本語の歴史 ※文共通 卒業論文
備考					

4 漢文学を中心に学ぶ

区分		全学共通科目		専門教育科目	
1年	基礎力をつける	前期	大妻教養講座 英語 I A 言語と文化 日本の歴史と文化 世界の歴史と文化 キャリアデザイン I	前期	基礎ゼミ I 日本古典文学入門 漢文学入門 近代文学概説 現代文学概説 日本語学概説
		後期	英語 I B 日本語 C (読解) 都市と現代社会 科学と環境	後期	上代文学概説 中古文学概説 中世文学概説 近世文学概説 漢文学概説 変体仮名読解
2年	基礎的な読解と解釈	前期	ジェンダーと社会生活 美術の世界 映像・演劇の世界	前期	基礎ゼミ II 語学・文学講読 I 漢文学演習 I 漢文学講義 研究の方法 (古典・漢文)
		後期	レクリエーション論 ポピュラー・カルチャーの世界 子どもの世界 哲学と思想 人間の成長と心理	後期	書誌・出版 語学・文学講読 II 漢文学演習 II 比較文学研究の方法 (日本語)
3年	応用力を身につける	前期	人類の進化 文学の世界	前期	卒業論文ゼミ I 中古文学演習 I 日本語学演習 I 上代文学講義 日本の思想 B 日本の芸能と文化
		後期		後期	卒業論文ゼミ II 中古文学演習 II 日本語学演習 II ジェンダーと文学 日本の歴史と社会 日本の美術
4年	卒業論文に取り組み	前期		前期	卒業論文ゼミ III イスラム文化 ※文共通 民族文化論 ◆コミ文 日本文化とアジア ※文共通
		後期		後期	卒業論文ゼミ IV 児童文学 ※文共通 卒業論文
備考					

教育目標

英語英文学科は4年間じっくりと英語に取り組む学科です。国際化とIT化社会である現代は、つまり英語の時代です。実社会の要求に応えられる真の英語力養成が英文学科の大きな目標です。英語という道具を使いこなす「運用力」をつけましょう。もうひとつの目標は、英語そのものを「対象」とし研究することです。英語の構造を知り、英語で書かれた文学作品を手がかりに、世界中の多くの心・社会・文化の理解を深めます。この作業は、日本語と日本社会・文化への意識を高めてくれることにもなるでしょう。ふたつ目の目標達成をめざす過程で、広い視野をもち、柔軟な思考をもった女性に育つことを願っています。

学科が求める学生像

本格的に英語力を高めたい人
英語を通して人間の心と社会を見つめたい人

4年間の学び

英語力向上については、1・2年次に英語力に応じてクラスを4つに分け、英語の受信と発信の力を徹底的に養い、3・4年次の専門教育への土台を築きます。また、ALEC (Advanced Learners' English Course) を通じて高度な英語力を養う環境を設けます。毎年 TOEIC 試験を団体受験することで、英語学力向上のための目標を立てます。

専門分野の学びについては、1年次は、英米の社会と文化に関する基本的な知識を確かなものとします。2年次は、各専門分野の常識を身につけるための、専門用語の基本的な解説、研究領域の歴史的展望、文学作品の具体的紹介などを行い、3年次ゼミへの橋渡しをします。3年次は、各専門分野での研究法の実際を知得し、ゼミに所属して批評的態度を実感してもらい、資料収集のあり方、研究発表の段取りなどを体験して卒論執筆へとつなげていきます。と同時に、英米の絵画・音楽・映画・演劇などの文化的素養にもふれていきます。4年次は、卒論ゼミにおいて、各自の研究の具体的成果としての卒論を書き上げます。ここで4年間の学習・研究・批評は一体化され、ことば（英語にせよ、日本語にせよ）による「表現」という文学部の大きな目標が完成されます。

履修モデル

1 英米文学・文化を中心に学ぶ

区分	全学共通科目	専門教育科目
1年	文学の世界 映像・演劇の世界 言語と文化 日本語 A (文章表現)	基礎セミナー 1, 2 英語音声入門 英文法 (基礎) 1, 2 英文講読 (基礎) 1, 2 Extensive Reading (Basic) 1, 2 ISEC イギリス入門 アメリカ入門
2年	哲学と思想 ポピュラー・カルチャーの世界	英文法 (発展) 1, 2 英文講読 (発展) 1, 2 英文学入門 1, 2 米文学入門 1, 2
3年		英文学 (近代) 英文学 (現代) 米文学 (近代) 米文学 (現代) Extensive Reading (Advanced) セミナー 1, 2
4年		英文学 (特論) 米文学 (特論) セミナー 3, 4
備考		

2 英語学を中心に学ぶ

区分	全学共通科目	専門教育科目
1年	言語と文化 日本語 A (文章表現)	基礎セミナー 1, 2 英語音声入門 英文法 (基礎) 1, 2 英文講読 1, 2 ISEC イギリス入門 アメリカ入門
2年	地域と文化	英文法 (発展) 1, 2 英文講読 (発展) 1, 2 英文学入門 1, 2
3年	メディアと文化	英語学 (音声・音韻) 英語学 (意味・語用) 英語学 (語法・文法) セミナー 1, 2
4年	哲学と思想	英語学 (語彙・形態) 英語学 (特論) セミナー 3, 4 卒業論文
備考		

3 英語教育学を中心に学ぶ

区分	全学共通科目	専門教育科目
1年	言語と文化 日本語 A (文章表現)	基礎セミナー 1, 2 英語発声入門 英文法 (基礎) 1, 2 英文講読 (基礎) 1, 2 ISEC イギリス入門 アメリカ入門
2年	ポピュラー・カルチャーの世界	英文法 (発展) 1, 2 英文講読 (発展) 1, 2 英文学入門 1, 2 異文化コミュニケーション 1, 2 英語科教育法 1
3年	世界の歴史と文化	英語科教育法 2, 3, 4 英語教育学 (児童英語教育 1) 英語教育学 (児童教育学 2) 資格英語 セミナー 1, 2
4年		英語実習指導 1, 2 セミナー 3, 4 卒業論文
備考		*「英語科教育法 1, 2, 3」は教職必修科目。受講するためには教職課程に登録する必要がある。また、英検 2 級に合格していることも必要。

ALEC (Advanced Learners' English Course) の履修について

1. 目的

英語英文学科では、英語圏の文学、英語学、英語教育学、英米の文化の 4 つを専門領域 (PELLEC) として設定している。ALEC (Advanced Learners' English Course) はこれとは別に設置し、これを履修する学生に国際社会に通用する高度な英語運用能力を身につけさせ、英語を必要とする進路 (就職・進学) に送り出すことを目的とする。

2. 履修と修了証

ALEC の履修は、どの専門領域を学ぶか、どの領域のゼミに所属するかに関係なく、本人の希望と英語力に基づいて認められる。修了証授与要件を満たした受講生には、卒業を待たずにその時点で文学部英語英文学科が発行する修了証を授与する。そのほか、修了証授与要件を満たす見込みの受講生¹⁾には 3 年次末に「修了証授与見込」を発行する。

3. 修了証授与要件

次の 2 点を修了証授与要件とする。

1) 履修科目

以下の 8 科目を必修科目とする。これらの授業は原則として英語で行われる。

「Academic English 1A、1B、2A、2B」、「資格英語」、「Special Topics through English」、
「Speaking (Advanced)」、「英語教育学 (メディア論)」

以下の 2 科目を推薦科目とする。この 2 科目は他の学生の履修を認める。

「英語学 (特論)」²⁾、「海外ボランティア」

2) 外部試験のスコア・級

TOEIC® L&R750 点以上の取得、または英語検定準 1 級以上の合格。

4. 定員と履修資格

1 学年の定員は 15 名とする。履修資格は、英検 2 級に合格、または TOEIC® L&R520 点以上を取得、もしくは CASEC の 2 級相当スコア (620 点) を取得していることとする。履修登録は、原則として 1 年次の 4 月、または 2 年次の 4 月とする。履修希望者は、英語英文学科教務委員に申込用紙と履修資格を証明する書類 (合格証

書またはスコア・レポート)を提出する。

注

- 1) 3年次末までに TOEIC® L&R 650 点以上を取得し、必修8科目中6科目以上の単位を取得した受講生。
- 2) ロンドン大学英語音声学セミナーへの参加。

コミュニケーション文化学科

教育目標

「国際性」「現代性」「学際性」の3つをキーワードに、国家の枠を超えた文化・社会現象への関心を深め、従来の学問の分類にとらわれず、広い視野から社会・文化を学ばせる。この学びをとおして国際的なコミュニケーションの場で自立できる女性の育成をめざす。

学科が求める学生像

強い好奇心と物事に感動する心を持っている人。英語か中国語を身につけて国際的に活躍したい人。外国語能力だけではなく、美しい日本語を話し、書けるようになりたい人。

4年間の学び

- 1年次には、ものの見方、考え方を学ぶ1年次ゼミ、語学は英語専修か中国語専修のいずれかを選択する。
- 2年次には、1年次の内容を発展させる2年次ゼミ、学びの基幹となる必修科目と、各種の演習科目を含む選択科目を学ぶ。
- 3年次には、卒業研究ゼミが始まる。また、専門をより広い視野から捉えるために、ゼミに関連した隣接領域を専門科目群から選んで学ぶ。
- 4年次には、学びの総仕上げとして、卒業論文の執筆に取り組む。

履修モデル

1 英語専修・異文化コミュニケーション系を中心に学ぶ

区分	全学共通科目	専門教育科目
1年	ポピュラー・カルチャーの世界 福祉と現代社会(ボランティアを含む)	日本語口頭表現法 コミュニケーション英語 A・B 現代国際地域事情 1年次ゼミ I・II コミュニケーション文化概論
2年	職業と現代社会 世界の歴史と文化	コミュニケーション英語 C・D 言語・文化コミュニケーション I・II 異文化コミュニケーション I・II 2年次ゼミ I・II
3年		現代英語 通訳演習(英語) 国際関係論 欧米文化演習 時事英語 ビジネスライティング(英語) 卒業研究ゼミ
4年		異文化コミュニケーション演習 言語心理学 現代正義論 卒業研究ゼミ
備考		

2 中国語専修・異文化コミュニケーション系を中心に学ぶ

区分	全学共通科目	専門教育科目
1年	映像・演劇の世界 言語と文化	日本語口頭表現法 コミュニケーション中国語 I・II 現代国際地域事情 1年次ゼミ I・II コミュニケーション文化概論
2年	哲学と思想 都市と現代社会	社会調査演習 異文化コミュニケーション I・II コミュニケーション中国語 III・IV 2年次ゼミ I・II 日本文化とアジア
3年		現代中国語 通訳演習(中国語) 文字文化論 卒業研究ゼミ ビジネスライティング(中国語) 言語文化演習 時事中国語 民族文化論
4年		卒業研究ゼミ 社会心理学 社会言語学 中国語文化演習
備考		

3 英語専修・メディア・コミュニケーション系を中心に学ぶ

区分	全学共通科目	専門教育科目
1年	メディアと現代社会 コンピュータ基礎	日本語口頭表現法 コミュニケーション英語A・B 現代国際地域事情 1年次ゼミⅠ・Ⅱ コミュニケーション文化概論
2年	文学の世界 政治と現代社会	コミュニケーション英語C・D コンピュータ・リテラシー 2年次ゼミⅠ・Ⅱ 映像文化演習 メディア・コミュニケーションⅠ・Ⅱ 表象文化コミュニケーションⅠ・Ⅱ
3年		メディア・コミュニケーション論 時事英語 言語心理学 国際メディア論A(欧米) 広告論 卒業研究ゼミ アナウンス演習 インタビュー演習
4年		卒業研究ゼミ 国際コミュニケーション論 言語文化論 出版文化論 ビジネス・ライティング(英語)
備考		

4 中国語専修・メディア・コミュニケーション系を中心に学ぶ

区分	全学共通科目	専門教育科目
1年	哲学と思想 コンピュータ基礎	日本語口頭表現法 コミュニケーション中国語Ⅰ・Ⅱ 現代国際地域事情 1年次ゼミⅠ・Ⅱ コミュニケーション文化概論
2年	地域と文化 経済と現代社会	コミュニケーション中国語Ⅲ・Ⅳ 中国文化演習 2年次ゼミ メディア・コミュニケーションⅠ・Ⅱ 表象文化コミュニケーションⅠ・Ⅱ
3年		メディア・コミュニケーション論 時事中国語 社会心理学 国際メディア論B(アジア) 卒業研究ゼミ アナウンス演習 インタビュー演習
4年		卒業研究ゼミ 国際コミュニケーション論 社会調査演習 ビジネスライティング(中国語) 広告論
備考		

教育目標

情報社会の中での確かな意思決定や自己表現をする能力を養う。社会学と経済学の知識、および習得した情報リテラシーをいかして社会で活躍できる人材を育成する。

専攻が求める学生像

- 1 社会の動向や社会生活のあり方に関心を持っている人
- 2 社会科学やメディアについて学びたいと考えている人
- 3 情報リテラシーを身につけたいと考えている人

4年間の学び

- 1 年次には英語・第二外国語・コンピュータ関連実習、基礎科目、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、全学共通科目を学ぶ。
- 2 年次には英語、コンピュータ関連基礎・演習科目、学部共通科目、専門教育科目の基幹科目を学ぶ。
- 3 年次にはゼミⅠ・Ⅱ、英語コミュニケーション、各種演習・実習・応用研究など専門教育科目の応用科目を学ぶ。
- 4 年次にはゼミⅢ・Ⅳ、卒業研究およびこれに関連した専門教育科目を学ぶ。

履修モデル

経済・経営と情報の関係を中心に学ぶ

区分	全学共通科目	学部共通科目	専門教育科目
1年	[必修科目] 大妻教養講座 英語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD [選択科目] 法律と現代社会 経済と現代社会 中国語Ⅰ・Ⅱ	[必修科目] コンピュータの基礎 情報処理実習A・B 基礎社会学 [選択科目] 現代経済学	[必修科目] 社会生活情報基礎演習Ⅰ・Ⅱ 基礎経済学 経営学入門 [選択科目] 経営戦略論 メディア学基礎 マーケティング入門 マクロ経済と金融
2年	[必修科目] 英語ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD 英語ⅢA・ⅢB [選択科目] 日本の歴史と文化 世界の歴史と文化 中国語Ⅲ・Ⅳ	[選択科目] 情報社会論 社会情報概論	[必修科目] プログラミングの基礎 プログラミング基礎演習 [選択科目] グローバル経済 経済史 マスメディア論 流通論 情報文化史 消費者行動論 現代資本主義論 演習・経済情報分析 経営戦略論 ケーススタディ・経営学
3年	[選択科目] 哲学と思想	[選択科目] 英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ	[必修科目] 社会情報学ゼミナールⅠ・Ⅱ [選択科目] 日本経済論 企業と社会 国際情報比較論 消費者行動演習 国際金融論 ブランド論 産業組織の経済学
4年			[必修科目] 社会情報学ゼミナールⅢ・Ⅳ 卒業研究 [選択科目] ネットワーク経済論 地域経営論
備考	「中国語Ⅰ～Ⅳ」はあくまでも一例 英語以外の外国語のⅠ～Ⅳを履修		

経済・経営とメディアの関係を中心に学ぶ

区分	全学共通科目	学部共通科目	専門教育科目
1年	[必修科目] 大妻教養講座 英語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD [選択科目] 法律と現代社会 メディアと現代社会 家族と現代社会 ジェンダーと社会生活 女性史 中国語Ⅰ・Ⅱ	[必修科目] コンピュータの基礎 情報処理実習 A・B 基礎社会学 [選択科目] 現代経済学	[必修科目] 社会生活情報基礎演習Ⅰ・Ⅱ 基礎経済学 経営学入門 [選択科目] メディア学基礎 応用社会学 消費者行動論 現代社会論
2年	[必修科目] 英語ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD 英語ⅢA・ⅢB [選択科目] 日本の歴史と文化 世界の歴史と文化 日本国憲法 中国語Ⅲ・Ⅳ	[選択科目] 情報社会論 社会情報概論	[必修科目] プログラミングの基礎 プログラミング基礎演習 [選択科目] マスメディア論 マーケティング情報論 情報文化史 経営組織論 企業と社会 オルタナティブ・メディア論 情報行動論
3年	[選択科目] 哲学と思想 文学の世界	[選択科目] 英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ	[必修科目] 社会情報学ゼミナールⅠ・Ⅱ [選択科目] 文化と社会 広告論 メディアと社会変容 コンテンツ産業論 情報リテラシー演習 コミュニケーションと社会 ブランド論
4年			[必修科目] 社会情報学ゼミナールⅢ・Ⅳ 卒業研究 [選択科目] ネットワーク経済論 ITビジネス論
備考	「中国語Ⅰ～Ⅳ」はあくまでも一例 英語以外の外国語のⅠ～Ⅳを履修		

メディアと社会の関係を中心に学ぶ

区分	全学共通科目	学部共通科目	専門教育科目
1年	[必修科目] 大妻教養講座 英語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD [選択科目] 政治と現代社会 メディアと現代社会 文学の世界 中国語Ⅰ・Ⅱ	[必修科目] コンピュータの基礎 情報処理実習 A・B 基礎社会学 [選択科目] 現代経済学	[必修科目] 社会生活情報基礎演習Ⅰ・Ⅱ 基礎経済学 経営学入門 [選択科目] メディア学基礎 応用社会学 現代社会論 感情とパーソナリティの心理学 発達心理学 経済政策論
2年	[必修科目] 英語ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD 英語ⅢA・ⅢB [選択科目] 言語と文化 日本の歴史と文化 世界の歴史と文化 中国語Ⅲ・Ⅳ	[選択科目] 情報社会論 情報倫理	[必修科目] プログラミングの基礎 プログラミング基礎演習 [選択科目] 情報行動論 情報文化史 オルタナティブ・メディア論 マスメディア論 ジェンダーとコロナリズム 情報表現法 グローバリゼーションの社会学 量的調査演習 メディア運用演習 メディア・ディスコース演習 社会心理学 老いの心理学 病と健康の心理学
3年	[選択科目] 自然科学の歴史 哲学と思想	[選択科目] 英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ	[必修科目] 社会情報学ゼミナールⅠ・Ⅱ [選択科目] ジャーナリズム論 企業と社会 コンテンツ産業論 メディアと社会変容 国際情報比較論 会計学入門 コミュニケーションと社会 情報リテラシー演習 質的調査演習 オンラインデータ分析
4年			[必修科目] 社会情報学ゼミナールⅢ・Ⅳ 卒業研究 [選択科目] ソーシャルメディア論 放送論 広告論 文化と社会
備考	「中国語Ⅰ～Ⅳ」はあくまでも一例 英語以外の外国語のⅠ～Ⅳを履修		

教育目標

自然科学の素養と情報リテラシーを備え、環境に配慮したライフスタイルを実践することを通して「環境問題」に取り組み、持続可能な社会づくりのための総合的な視野を養うことが目標です。

情報教育とともに専門性を高めるために、以下の2分野について、生活者の立場から学びます。

- ①自然環境との共生システム分野(人間と環境、環境との共生):生態学、生命学、地球科学、環境保護などを学び、人間が自然と共生するために必要なことを考えます。
- ②持続可能な社会システム分野(住居のデザイン、持続可能なくらしと社会):エコライフを実践する住まいやくらしについて、法律、経済などを含めた社会のしくみを学び、その実現について考えます。

専攻が求める学生像

- *環境学について文系や理系にこだわらず、広い視点から勉強したい学生
- *将来、企業や家庭において環境問題の解決に積極的に取り組んでいこうと思っている学生
- *エコライフに関心のある学生

4年間の学び

- 1年次には英語・社会学・情報処理を中心に、全学共通科目を交えて、4年間の学びに必要な基礎を固めます。
- 2年次には専門科目の学びを通じて、自分が重点的に学ぶ分野を絞り込み、ゼミなどの進路を考えます。
- 3年次には自分の選んだ分野を中心に専門科目を学び、環境に関する知識を深め、卒業研究に向けた準備を整えます。
- 4年次には卒業研究の完成を目標とし、ゼミを中心に4年間の集大成として環境についての学びを深めます。

履修モデル

社会と環境を中心に学ぶ

区分	全学共通科目	学部共通科目	専門教育科目
1年	[必修科目] 大妻教養講座 英語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD [選択科目] 日本の歴史と文化 世界の歴史と文化 法律と現代社会 日本国憲法	[必修科目] コンピュータの基礎 情報処理実習A・B 基礎社会学 [選択科目] 現代経済学	[必修科目] 環境情報学基礎演習 環境学入門 エコライフ論 [選択科目] 住居学 環境デザイン論
2年	[必修科目] 英語ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD 英語ⅢA・ⅢB [選択科目] 経済と現代社会 政治と現代社会	[選択科目] 情報倫理 情報社会論 建築・不動産と社会	[必修科目] プログラミングの基礎 プログラミング基礎演習 [選択科目] エコロジーⅠ 環境アセスメント論 環境と経済Ⅰ 環境と法律Ⅰ 環境保護論 環境と経営
3年		[選択科目] 社会政策・労働問題 情報と法律	[必修科目] 環境情報処理論及び実習Ⅰ・Ⅱ 社会情報学ゼミナールⅠ・Ⅱ [選択科目] 環境とアグリビジネス 環境とマーケティング 環境とツーリズム 環境マネジメント論 環境と経済Ⅱ 特殊講義Ⅰ(社会と環境) 環境演習Ⅰ
4年			[必修科目] 社会情報学ゼミナールⅢ・Ⅳ 卒業研究 [選択科目] 国際関係と環境法 環境教育 エネルギーと環境
備考			

暮らしと環境を中心に学ぶ

区分	全学共通科目	学部共通科目	専門教育科目
1年	[必修科目] 大妻教養講座 英語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD [選択科目] 福祉と現代社会(ボランティアを含む) 日本の歴史と文化 世界の歴史と文化	[必修科目] コンピュータの基礎 情報処理実習A・B 基礎社会学 [選択科目] 情報基礎数学 基礎統計学	[必修科目] 環境情報学基礎演習 環境原論 環境学入門 エコライフ論 [選択科目] 環境デザイン論 住居学
2年	[必修科目] 英語ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD 英語ⅢA・ⅢB	[選択科目] 情報社会学 情報倫理 建築・不動産と社会	[必修科目] プログラミングの基礎 プログラミング基礎演習 [選択科目] 住居環境論 環境保護論 エコロジーⅠ 環境アセスメント論 建築と都市の歴史 建築と社会 住居デザイン
3年		[選択科目] 社会政策・労働問題 情報と法律	[必修科目] 環境情報処理論及び実習Ⅰ・Ⅱ 建築・都市ゼミナールⅠ・Ⅱ [選択科目] 建築デザイン 環境生態デザイン 環境演習Ⅱ ビオトープ論 環境とまちづくり フィールドワークA、B
4年			[必修科目] 社会情報学ゼミナールⅢ・Ⅳ 卒業研究 [選択科目] エネルギーと環境 特殊講義Ⅱ(くらしと環境)
備考			

自然と環境を中心に学ぶ

区分	全学共通科目	学部共通科目	専門教育科目
1年	[必修科目] 大妻教養講座 英語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD [選択科目] 生命の科学 文学の世界 自然科学の歴史	[必修科目] コンピュータの基礎 情報処理実習A・B 基礎社会学 [選択科目] 基礎統計学	[必修科目] 環境情報学基礎演習 環境学入門 エコライフ論 [選択科目] 住居学 環境デザイン論 物理の基礎Ⅰ 生物の基礎Ⅰ
2年	[必修科目] 英語ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD 英語ⅢA・ⅢB	[選択科目] 建築・不動産と社会 情報倫理 情報社会学	[必修科目] プログラミングの基礎 プログラミング基礎演習 [選択科目] エコロジーⅠ 化学の基礎Ⅱ 地学の基礎Ⅱ 環境アセスメント論 エコロジーⅡ 地球環境論 環境保護論 生命のしくみ
3年		[選択科目] 情報と法律	[必修科目] 環境情報処理論及び実習Ⅰ・Ⅱ 社会情報学ゼミナールⅠ・Ⅱ [選択科目] フィールドワークA、B 環境マネジメント論 生命科学とくらし 健康と環境 環境科学 ビオトープ論 環境生態デザイン 環境教育
4年			[必修科目] 社会情報学ゼミナールⅢ・Ⅳ 卒業研究 [選択科目] 食と環境 エネルギーと環境
備考			

「理科」の教員免許取得を念頭に学ぶ

区分	全学共通科目	学部共通科目	専門教育科目	教職課程科目
1年	[必修科目] 大妻教養講座 英語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD スポーツA・B 日本国憲法 [選択科目] メディアと現代社会 人間の成長と心理 日本の歴史と文化	[必修科目] コンピュータの基礎 情報処理実習A・B 基礎社会学	[必修科目] 環境情報学基礎演習 環境学入門 エコライフ論 [選択科目] 化学の基礎Ⅰ 生物の基礎Ⅰ・Ⅱ 物理の基礎Ⅰ・Ⅱ	教職入門
2年	[必修科目] 英語ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD 英語ⅢA・ⅢB [選択科目] 経済と現代社会	[選択科目] 建築・不動産と社会	[必修科目] プログラミングの基礎 プログラミング基礎演習 [選択科目] 地学の基礎Ⅰ・Ⅱ 化学の基礎Ⅱ 物理基礎実験 化学基礎実験	教育心理学 教育原理 理科教育法Ⅰ・Ⅱ
3年		[選択科目] 情報倫理 情報社会学 情報と法律	[必修科目] 環境情報処理論及び実習Ⅰ・Ⅱ 社会情報学ゼミナールⅠ・Ⅱ [選択科目] 地学基礎実験 生物基礎実験	理科教育法Ⅲ・Ⅳ 教育実習指導Ⅰ
4年			[必修科目] 社会情報学ゼミナールⅢ・Ⅳ 卒業研究	教育実習Ⅰ・Ⅱ 教育実習指導Ⅱ 教職実践演習
備考			教職科目は理科教職関連の主要科目のみを例示しているが、これらの科目はすべて受講しなくてはならない	

教育目標

- ①情報や情報処理の基礎的な知識を十分に修得させること。
- ②実社会で適応できる情報デザイン能力を身につけさせること。
- ③総合的な判断能力をもって現実の問題を解決することができる人材を育成すること。

専攻が求める学生像

- ①情報システムのデザインに関心のある人。
- ②情報を効率的にたやすく使えるようデザインすることに関心のある人。
- ③大学で学んだことを活かして、(1) SE、プログラマー、ネットワークエンジニア、カスタマーエンジニア (2) 映像・Web・グラフィックス・マルチメディア系のデザイン、企画、制作、プロデュースをする人 (3) 教員、企業内教育者、コンピュータインストラクター、教材クリエイターなど教育に携わる人として活躍したい人。

4年間の学び

- 1年次には広い教養と実践的な英語能力を養うと共に、情報社会全般に関する基本的な考え方と情報リテラシーの基礎技術を学習する。
- 2年次にはプログラムと数学的思考能力を中心に、情報システムと情報デザインの学習に必要な基礎固めを行う。
- 3年次には情報処理・デザインに関するより実践的な課題解決能力を養い、並行してゼミナールⅠ、Ⅱでの少人数教育において卒業研究を意識した専門的な知識と応用力を身に付ける。
- 4年次にはこれまでに培った知識や技術をもとに卒業研究に取り組み、4年間の学びの総仕上げを行う。

履修モデル

情報システムの設計・構築を中心に学ぶ

区分	全校共通科目	学部共通科目	専門教育科目
1年	[必修科目] 大妻教養講座 英語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD [選択科目] キャンパスライフとメンタルヘルス キャリアデザインⅠ 経済と現代社会 世界の歴史と文化 科学と環境 スポーツB	[必修科目] コンピュータの基礎 情報処理実習A・B 基礎社会学 情報基礎数学 [選択科目] ソフトウェア概論 現代経済学 基礎統計学	[必修科目] 情報デザイン基礎演習 情報処理原論 プログラミング入門 情報数学A デザイン論及び演習Ⅰ・Ⅱ [選択科目] 情報処理機器概論
2年	[必修科目] 英語ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD 英語ⅢA・B [選択科目] 自然科学の歴史	[選択科目] コミュニケーション論 情報セキュリティ論	[必修科目] クリエイティブ思考法 プログラミングの基礎 プログラミング基礎演習 プログラミング論及び演習 [選択科目] シミュレーション論 情報とモデル 情報数学B オフィスマネジメント論Ⅰ・Ⅱ 情報ネットワーク論及び実習Ⅰ・Ⅱ インタフェースデザイン論
3年			[必修科目] 社会情報学ゼミナールⅠ・Ⅱ 情報システム論及び実習Ⅰ・Ⅱ [選択科目] スマートデバイス論 スマートデバイス応用Ⅰ・Ⅱ オブジェクト指向プログラミング論及び演習Ⅰ・Ⅱ 数値計算論 アルゴリズム論及び演習Ⅰ・Ⅱ ニューメディア論Ⅰ 経営情報システム論
4年			[必修科目] 社会情報学ゼミナールⅢ・Ⅳ 卒業研究

情報デザインの表現を中心に学ぶ

区分	全学共通科目	学部共通科目	専門教育科目
1年	<p>[必修科目] 大妻教養講座 英語Ⅰ A・I B・I C・I D</p> <p>[選択科目] キャンパスライフとメンタルヘルス キャリアデザインⅠ 音楽の世界 美術の世界 映像・演劇の世界 スポーツ A</p>	<p>[必修科目] コンピュータの基礎 情報処理実習 A・B 基礎社会学 情報基礎数学</p> <p>[選択科目] ソフトウェア概論 現代経済学 基礎統計学</p>	<p>[必修科目] 情報デザイン基礎演習 情報処理原論 プログラミング入門 情報数学 A デザイン論及び演習Ⅰ・Ⅱ</p>
2年	<p>[必修科目] 英語Ⅱ A・Ⅱ B・Ⅱ C・Ⅱ D 英語Ⅲ A・B</p> <p>[選択科目] ポピュラー・カルチャーの世界 メディアと現代社会</p>	<p>[選択科目] コミュニケーション論 情報セキュリティ論</p>	<p>[必修科目] クリエイティブ思考法 プログラミングの基礎 プログラミング基礎演習 プログラミング論及び演習</p> <p>[選択科目] デジタルコンテンツ デジタルコンテンツ応用 マルチメディア論及び実習Ⅰ・Ⅱ 統計処理及び演習 インタフェースデザイン論 情報数学 B 認知科学 情報とモデル</p>
3年			<p>[必修科目] 社会情報学ゼミナールⅠ・Ⅱ 情報システム論及び実習Ⅰ・Ⅱ</p> <p>[選択科目] 音声・音響デザイン 感性デザイン及び演習 ウェブデザイン WebプログラミングⅠ・Ⅱ コンピュータ・グラフィックスⅠ・Ⅱ 画像情報処理論及び演習</p>
4年			<p>[必修科目] 社会情報学ゼミナールⅢ・Ⅳ 卒業研究</p>

「情報」の教員免許取得を念頭に学ぶ

区分	全学共通科目	学部共通科目	専門教育科目	教職課程科目
1年	<p>[必修科目] 大妻教養講座 英語Ⅰ A・I B・I C・I D</p> <p>[選択科目] 経済と現代社会 キャンパスライフとメンタルヘルス キャリアデザインⅠ 世界の歴史と文化 科学と環境 スポーツ A</p>	<p>[必修科目] コンピュータの基礎 情報処理実習 A・B 基礎社会学 情報基礎数学</p> <p>[選択科目] 現代経済学 基礎統計学</p>	<p>[必修科目] 情報デザイン基礎演習 情報処理原論 プログラミング入門 情報数学 A デザイン論及び演習Ⅰ・Ⅱ</p>	<p>教職入門 日本国憲法</p>
2年	<p>[必修科目] 英語Ⅱ A・Ⅱ B・Ⅱ C・Ⅱ D 英語Ⅲ A・B</p> <p>[選択科目] 自然科学の歴史 メディアと現代社会</p>	<p>[選択科目] 社会政策・労働問題 情報セキュリティ論 社会情報概論 コミュニケーション論 社会情報概論</p>	<p>[必修科目] クリエイティブ思考法 プログラミングの基礎 プログラミング基礎演習 プログラミング論及び演習</p> <p>[選択科目] シミュレーション論 マルチメディア論及び実習Ⅰ・Ⅱ 情報ネットワーク論及び実習Ⅰ・Ⅱ</p>	<p>教育心理学 教育相談 教育課程論 青年心理学 教育史 教育原理</p>
3年		<p>[必修科目] 情報と職業</p>	<p>[必修科目] 社会情報学ゼミナールⅠ・Ⅱ 情報システム論及び実習Ⅰ・Ⅱ</p> <p>[選択科目] アルゴリズム論及び演習Ⅰ・Ⅱ コンピュータ・グラフィックスⅠ・Ⅱ ウェブデザイン</p>	<p>情報科教育法Ⅰ・Ⅱ 特別活動要説 教育の方法と技術 生徒・進路指導論 教育実習指導Ⅰ 教育制度要説（含学校経営）</p>
4年			<p>[必修科目] 社会情報学ゼミナールⅢ・Ⅳ 卒業研究</p>	<p>教育実習指導Ⅱ 教育実習Ⅰ 教職実践演習</p>

比較文化学科

教育目標

1. 「ダイナミックな比較文化の確立」—自他の文化の比較を通して国際理解を深め、主体的な問題解決をはかる学問の確立。
2. 「新たな文化創造の地平を開く」教育—多民族が共に生きる「共生」の時代に求められる新たな文化を創造するための教育。
3. 「新たな公共性の担い手」となり得る人材の育成—多民族・多文化共生時代に求められる社会性（公共性）の育成。言い換えれば、さまざまな文化を「比較」という方法で学び、多文化共存・共生の社会を創造し得る高度な教養を涵養すること。

学科が求める学生像

1. 外国語の習得に熱意があり、外国の歴史や文化に関心を抱き、その学習に意欲的な人。
2. 物事を自分で考え、それを自分の言葉で語り、他者との相互理解をすすめる人。

4年間の学び

- 1 年次には学びの基礎を固めるために、幅広い知識と教養を身につけながら、初級外国語の学習に取り組む。
- 2 年次には日本と外国の文化や社会を比較しながら学びつつ、中級外国語の学習に取り組む。
- 3 年次には専門として選んだ地域の文化を研究しながら、上級外国語の学習に取り組む。
- 4 年次には大学における学びの総仕上げとして、自ら選んだテーマで卒業論文の完成を目指す。

履修モデル

アジア文化を中心に学ぶ

区分	全学共通科目	学部共通科目	専門教育科目
1年	大妻教養講座 キャンパスライフとメンタルヘルス 日本語A(文章表現) コンピュータ基礎A B 英語I A B C D 中国語I II III IV キャリアデザインI	比較文化入門 日本の歴史と風土 日本の社会と民俗 文化交流論 国際関係論	
2年	女性と健康 家族と現代社会 福祉と現代社会(ボランティアを含む) スポーツと健康 英語II A B C D 英語III A B	比較文化論 比較社会論 中国語V VI	アジア研究入門A I II(文化と社会) アジア研究入門B I II(思想と宗教) アジア研究入門C I II(文学と芸術) 現代中国語基礎セミナーA I II(理解)
3年	子どもの世界 ジェンダーと社会生活 シーズン・スポーツ	ジェンダー論	比較文化演習I II アジア文化研究A I II(近代文学) アジア文化研究B I II(政治と経済) アジア文化研究C I II(芸術と思想) アジアの都市 現代中国語基礎セミナーB I II(表現) 現代中国語基礎セミナーC I II(総合)
4年	女性史		比較文化セミナーI II アジアの美術 日中関係論 イスラムの文化と社会 現代中国語中級セミナーI II 卒業論文
備考			

アメリカ文化を中心に学ぶ

区分	全学共通科目	学部共通科目	専門教育科目
1年	大妻教養講座 キャンパスライフとメンタルヘルス 日本語A(文章表現) コンピュータ基礎AB 英語I ABCD スペイン語 I II III IV キャリアデザイン I	比較文化入門 日本の歴史と風土 日本の社会と民俗 文化交流論 国際関係論	
2年	世界の歴史と文化 政治と現代社会 人類の進化 スポーツA 英語II ABCD 英語III AB	比較文化論 比較社会論 スペイン語V VI	アメリカ研究入門A I II(文化と社会) アメリカ研究入門B I II(思想と宗教) アメリカ研究入門C I II(文学と芸術) 現代英語中級セミナーA I II(理解)
3年	ポピュラー・カルチャーの世界 メディアと現代社会	国家と民族	比較文化演習I II アメリカ文化研究A I II(伝統と倫理) アメリカ文化研究B I II(価値観と夢) アメリカ文化研究C I II(歴史と風土) アメリカのジャーナリズム 現代英語中級セミナーB I II(表現) 現代英語中級セミナーC I II(総合)
4年	言語と文化		比較文化セミナーI II 日米関係論 大衆消費社会論 多民族・多文化社会 現代英語上級セミナーI II 卒業論文
備考			

ヨーロッパ文化を中心に学ぶ

区分	全学共通科目	学部共通科目	専門教育科目
1年	大妻教養講座 キャンパスライフとメンタルヘルス 日本語A(文章表現) コンピュータ基礎AB 英語I ABCD フランス語 I II III IV キャリアデザイン I	比較文化入門 日本の歴史と風土 日本の社会と民俗 文化交流論 国際関係論	
2年	文学の世界 美術の世界 地域と文化 レクリエーション論 英語II ABCD 英語III AB	比較文化論 比較社会論 フランス語V VI	ヨーロッパ研究入門A I II(文化と社会) ヨーロッパ研究入門B I II(思想と宗教) ヨーロッパ研究入門C I II(イギリス文学と芸術) 現代フランス語基礎セミナーA I II(理解)
3年	音楽の世界 世界の歴史と文化 哲学と思想	表象文化論	比較文化演習I II イギリス文化研究I II(歴史と風土) フランス文化研究I II(歴史と風土) ドイツ文化研究I II(歴史と風土) 現代ロシア・東欧事情 現代フランス語基礎セミナーB I II(表現) 現代フランス語基礎セミナーC I II(総合)
4年	映像・演劇の世界		比較文化セミナーI II 日欧関係論 ヨーロッパ統合の思想 現代中近東事情 現代フランス語中級セミナーI II 卒業論文
備考			

4 編入学者に対する単位の認定について

(注意事項)

2022年度3年次編入生は2020年度1年次入学生適用のカリキュラムに基づき認定します。

家政学部 被服学科

対象	区分	全学共通科目	専門教育科目			合計
			家政学部共通	必修	選択	
全編入学者対象		*1 34		*2 28		62

*1 大妻女子大学および大妻女子大学短期大学部以外からの編入学者は、全学共通科目の必修に「大妻教養講座(1単位)」を含めない。

*2 家政学部共通および必修、選択科目を合わせて28単位を認定することを示す。なお、これらは個別認定のため、認定単位の合計が62単位に満たないこともある。

家政学部 食物学科食物学専攻

対象	区分	全学共通科目	専門教育科目			合計
			家政学部共通	必修	選択	
全編入学者対象		*1 24	4	*2 34		62

*1 大妻女子大学および大妻女子大学短期大学部以外からの編入学者は、全学共通科目の必修に「大妻教養講座(1単位)」を含めない。

*2 必修および選択科目を合わせて34単位を認定することを示す。なお、これらは個別認定のため、認定単位の合計が62単位に満たないこともある。

家政学部 食物学科管理栄養士専攻

対象	区分	全学共通科目	専門教育科目				合計
			家政学部共通	必修	選択必修	選択	
全編入学者対象		*1 24	4		*2 34		62

*1 大妻女子大学および大妻女子大学短期大学部以外からの編入学者は、全学共通科目の必修に「大妻教養講座(1単位)」を含めない。

*2 必修および選択必修、選択科目を合わせて34単位を認定することを示す。なお、これらは個別認定のため、認定単位の合計が62単位に満たないこともある。

家政学部 児童学科児童学専攻

対象	区分	全学共通科目	専門教育科目				合計
			家政学部共通	必修	選択必修	選択	
全編入学者対象		*1 28	4		*2 30		62

*1 大妻女子大学および大妻女子大学短期大学部以外からの編入学者は、全学共通科目の必修に「大妻教養講座(1単位)」を含めない。

*2 必修および選択必修、選択科目を合わせて30単位を認定することを示す。なお、これらは個別認定のため、認定単位の合計が62単位に満たないこともある。

家政学部 児童学科児童教育専攻

対象	区分	全学共通科目	専門教育科目			合計
			家政学部共通	必修	選択	
全編入学者対象		*1 28	4		30	*2 62

*1 大妻女子大学および大妻女子大学短期大学部以外からの編入学者は、全学共通科目の必修に「大妻教養講座(1単位)」を含めない。

*2 個別認定のため、認定単位の合計が62単位に満たないこともある。

家政学部 ライフデザイン学科

対象	区分	全学共通科目	専門教育科目					合計
			家政学部共通	必修	選択必修	選択(基礎)	選択(応用)	
全編入学者対象		*1 34	6	14	1	7	0	62

*1 大妻女子大学および大妻女子大学短期大学部以外からの編入学者は、全学共通科目の必修に「大妻教養講座(1単位)」を含めない。

文学部 日本文学科

対象	区分	全学共通科目	専門教育科目				合計
			必修	選択必修	選択	文学部共通	
全編入学者対象		*1 34	22	0	6	0	62

*1 大妻女子大学および大妻女子大学短期大学部以外からの編入学者は、全学共通科目の必修に「大妻教養講座(1単位)」を含めない。

文学部 英語英文学科

対象	区分	全学共通科目	専門教育科目			合計
			必修	選択	文学部共通	
全編入学者対象		*1 34	*2 16	8	4	62

*1 大妻女子大学および大妻女子大学短期大学部以外からの編入学者は、全学共通科目の必修に「大妻教養講座(1単位)」を含めない。

*2 次の科目群から2つ以上選択し、合計8単位以上、3年次に履修すること。

(i) 「英文学入門1」「英文学入門2」(合計4単位)

(ii) 「米文学入門1」「米文学入門2」(合計4単位)

(iii) 「英語学入門1」「英語学入門2」(合計4単位)

・上記の科目群は、自分が所属するゼミと関連するものから選択する。たとえば、英文学のゼミを選択した学生は、(i)を含める。英語教育学のゼミを選択した学生は、(iii)を含める。

文学部 コミュニケーション文化学科

対象	区分	全学共通科目	専門教育科目				合計
			必修	選択必修	選択	文学部共通	
全編入学者対象		*1 34	12	16	0	0	62

*1 大妻女子大学および大妻女子大学短期大学部以外からの編入学者は、全学共通科目の必修に「大妻教養講座(1単位)」を含めない。

社会情報学部 社会情報学科 社会生活情報学専攻

対象	区分	全学共通科目			学部共通科目		専門教育科目		合計
		必修	選択必修	選択	必修	選択	必修	選択	
大妻(短大・学部)		11	12	11	*2 6	6	*3 4	12	62
大妻以外		*1 10	12	11	*2 6	6	*3 4	12	61

*1 大妻女子大学および大妻女子大学短期大学部以外からの編入学者は、全学共通の必修に「大妻教養講座(1単位)」を含めない。

*2 学部共通の必修は、「コンピュータの基礎、情報処理実習A・B」とする。

*3 専門の必修は「社会生活情報基礎演習Ⅰ・Ⅱ」とする。

社会情報学部 社会情報学科 環境情報学専攻

対象	区分	全学共通科目			学部共通科目		専門教育科目			合計
		必修	選択必修	選択	必修	選択	必修	選択必修	選択	
大妻(短大・学部)		11	12	11	*3 6	6	*4 2	0	14	62
他大(短大・学部)		*1 10	12	11	*3 6	6	*4 2	0	14	61
高専・専門学校		*1,2 10(4)	12	11	*3 6	6	*4 2	0	14	55~61

*1 大妻女子大学および大妻女子大学短期大学部以外からの編入学者は、全学共通の必修に「大妻教養講座(1単位)」を含めない。

*2 英語の単位を修得していない者は、全学共通の必修単位は「英語ⅠA・B・C・D(4単位)」のみ認定する。

英語の単位を修得している者は、その単位数に応じて認定する。

*3 学部共通の必修は、「コンピュータの基礎、情報処理実習A・B」とする。

*4 専門の必修は「環境情報学基礎演習」とする。

社会情報学部 社会情報学科 情報デザイン専攻

対象	区分	全学共通科目			学部共通科目		専門教育科目		合計
		必修	選択必修	選択	必修	選択	必修	選択	
大妻(短大・学部)		11	12	11	*2 6	6	*3 6	10	62
大妻以外		*1 10	12	11	*2 6	6	*3 6	10	61

*1 大妻女子大学および大妻女子大学短期大学部以外からの編入学者は、全学共通の必修に「大妻教養講座(1単位)」を含めない。

*2 学部共通の必修は、「コンピュータの基礎、情報処理実習A・B」とする。

*3 専門の必修は「デザイン論及び演習Ⅰ・Ⅱ、情報デザイン基礎演習」とする。

比較文化学部 比較文化学科

対象	区分	全学共通科目				学部共通科目				専門教育科目		合計	
		必修	基礎・教養 選択必修	外国語 選択必修	選択	日本	国際	比較	基礎	外国語	基礎・文化研究 ・言語・セミナー		関連
大妻(短大・学部)		11	16	*2 (4)	7	4	4	0	*3 10	*2 (2)	0	*2,4 4~10	62
大妻以外		*1 10	16	*2 (4)	7	4	4	0	*3 10	*2 (2)	0	*2,4 4~10	61

*1 大妻女子大学および大妻女子大学短期大学部以外からの編入学者は、全学共通の必修に「大妻教養講座(1単位)」を含めない。

*2 比較文化学部で設置している第二外国語の単位を修得している者は、その単位数に応じて全学共通の外国語必修および学部共通の外国語の単位を最大6単位まで認定する。その場合、専門の関連認定単位は、前記全学共通の外国語必修および学部共通の外国語で認定された単位を減ずる。

*3 学部共通の基礎には必修科目の「比較文化入門(2単位)」は認定科目に含めるが「比較文化論(2単位)」は含めない。

*4 専門の関連に設置されている選択必修の「比較文化演習1~23」は認定科目に含めない。

Q1 短大からの編入学後の履修はどのようにしたらよいですか？

A1 3月に編入生事務連絡会を開催し、編入後の履修について説明をします。不明な点や質問がある場合は、教育支援グループまで問い合わせてください。

5 卒業論文等（卒業制作・卒業研究）

家政学部

家政学部の学生はその課程を修了するためには卒業論文（卒業論文、卒業制作、卒業研究と学科で名称は異なるが、以下卒業論文と略記）を提出しなければなりません。ただし、食物学科管理栄養士専攻、ライフデザイン学科は選択です。またライフデザイン学科では卒業研究を履修するための条件がありますので、詳細はP115の「履修について（ライフデザイン学科）2 選択科目（2）」を参照してください。

卒業論文作成に関する規定は次のとおりです。

- (1) 題目の選定……卒業論文の題目は家政学部各専門教育科目及び関連科目について選んでください。
- (2) 題目の登録……題目は所定の用紙に記入のうえ、論文指導教員の承認印を受け、11月の所定の日時（掲示によって指示します）に提出してください。
- (3) 卒業論文は個人研究を原則としますが、指導教員の指示がある場合は共同研究が認められます。
- (4) 卒業論文の指導教員は、本学家政学部各学科の専門教育科目及び関連科目の担当者となります。
- (5) 卒業論文の体裁等……表紙には、次の事項を記入してください。
「年度」「指導教員」「題目」「提出者の所属学科」「氏名」
- (6) 卒業論文の審査（評価）は指導教員が行います。

文学部

日本文学科

1 卒業論文に関する規定

- (1) 日本文学科の学生が卒業するためには、「卒業論文」を提出して最終試験（口述試験）を受けなければなりません。
- (2) 「卒業論文」を提出するための資格は以下のとおりです。
 - ① 3年以上在学していること。
 - ② 原則として、全学共通科目37単位以上を修得していること。
 - ③ 原則として、専門教育科目62単位以上を修得していること。
 - ④ 指導教員の担当する卒業論文ゼミⅠ・Ⅱ（第3年次）、卒業論文ゼミⅢ・Ⅳ（第4年次）を履修しなければならない。
- (3) 第4年次はじめに「卒業必要単位数確認表」によって各人の修得単位を確認してください。
- (4) 「卒業論文」の題目は、あらかじめ指導教員の承認を受け、第4年次指定の日届け出てください。いったん届け出た論文題目の変更は認められません。
- (5) 「卒業論文」は、論文提出期間内に教育支援グループに提出し、教育支援グループを通じて審査を申請しなければなりません。（期日等はその都度掲示します。）
- (6) 「卒業論文」の審査は2名以上の専任教員（又は、これに準ずる者）が行います。

2 卒業論文作成要領

- (1) 論文執筆にあたっては、次の事項に注意してください。
 - ① 提出期間に遅れないように、教育支援グループに提出してください。
 - ② 下書・図表・写真などの資料は、審査時に提出を求められることがありますので保管してください。
 - ③ B4版縦書き原稿用紙あるいはB5版用紙を使用して執筆し、ページごとにページ数を記入してください。

さい。指導教員の承認を得て、横書きの用紙を使用することもできます。

- ④ ワープロ等を用いて執筆する場合、B5版白紙に、以下の字詰めで片面印刷をしてください（インクは黒色使用）。

縦書きの場合 40字×10行 横書きの場合 25字×16行

- ⑤ 手書きの場合、縦書きB4版400字詰原稿用紙を使用して、ペンまたは万年筆（黒またはブルーブラックインク）で書いてください。横書きの場合は、指導教員の指示に従ってください。
- ⑥ 図表・写真などは別冊としてもよいです。この場合の論文の本文の枚数などについては、事前に指導教員と打ち合わせておいてください。
- ⑦ 製本は堅ろうにし、表紙に題目・卒業年度・学籍番号・氏名を明記してください。原稿用紙使用の場合は、二つ折り袋綴じにしてください。さらに背表紙に題目・学籍番号・氏名を明記してください。
- ⑧ 原稿用紙に書く時の形式については、指導教員の指示に従ってください。

(2) 最終試験（口述試験）は1月末ごろに行います。（期日等についてはその都度掲示します。）

(3) 以上のほか、各項にわたって、詳細は、別に配付する注意事項に従ってください。

英語英文学科

1 卒業論文に関する規定

- (1) 卒業論文は、専門教育科目の必修科目（6単位）であり、執筆にあたっては所属ゼミの教員の指導を受けてください。
- (2) 卒業論文の題目は、あらかじめ指導教員の承認を受け、指定された期日に届け出てください。いったん届け出た論文題目の変更は認められません。
- (3) 卒業論文は、指定された時間内に教育支援グループに提出し、同グループを通じて審査を申請しなければなりません。
- (4) 卒業論文の提出後には、審査の一環として2名以上の専任教員による口述試験（1月末）を受けなければなりません。

2 卒業論文作成要領

- (1) 論文は英文、和文どちらも認められますが、和文の場合は論文の要約（Synopsis）を500語前後の英文にまとめ、巻末に付けてください。
- (2) 論文の分量は、英文の場合A4版・11ポイントのフォント・1ページ25行で20枚前後、和文の場合A4版・800字で25枚前後を目安としてください。
- (3) 論文の分量が研究の主題、方法などによって上記規定と異なる場合は、事前に指導教員の指示に従ってください。
- (4) 表紙は所定のものを使い、目次（Contents）と参考文献（Bibliography）は必ずつけてください。
- (5) その他詳細については、所属ゼミから配付される執筆要項に従ってください。

コミュニケーション文化学科

卒業論文に関する規定

- (1) 内容
- ① 研究論文（文書）
 - ② 取材レポート（文書・ビデオ等）
 - ③ 作品制作（文書・ビデオ等）
- (2) 分量
- ① 文書：20,000字以上
 - ② ビデオ等：30分以上 2,000字以上のレポート（文書）を付けてください。
- (3) 用紙・装丁
- ① 文書の用紙はA4を使用してください。
 - ② 文書は手書きの場合のみ原稿用紙（市販・A4）を使用してください。
 - ③ 文書は装丁を施してください。バインダー（市販）も使用可能です。
- (4) 審査

担当教員（主査・副査）が論文審査・口頭試問を行います。

但し、(1)、(2)については、担当教員が独自の設定を行う場合、それに従うものとします。

社会情報学部

卒業研究に関する規定

- a 社会情報学部の学生が卒業するためには、「卒業研究」を提出しなければならない。
- b 「卒業研究」を履修するための条件は以下のとおりとする。
 - (1) 3年以上在学していること。
 - (2) 環境情報学専攻は全学共通科目、学部共通科目及び専門教育科目を合わせて96単位以上、情報デザイン専攻は94単位以上修得していること。
 - (3) 環境情報学専攻は編入学者を除き、第2年次までの必修科目の単位をすべて修得していること。
 - (4) 原則として、指導教員の担当する「社会情報学ゼミナールⅢ・Ⅳ」(第4年次)を履修すること。
- c 「卒業研究」を履修登録する時期は以下のとおりとする。
 - (1) 「卒業研究」は、第4年次前期の履修登録期間に登録するものとする。
- d 「卒業研究」の審査については以下のとおりとする。
 - (1) 「卒業研究」は、所定の提出期間内に指導教員に提出し、審査を受けなければならない。(期間はその都度掲示する。)
 - (2) 卒業研究再履修者で前期履修登録期間に「卒業研究」を登録して履修した者は、指導教員の許可を得た上で、前期中の所定の提出期間内に「卒業研究」を提出し、審査を受けることができる。(期間は別途連絡する。)
 - (3) 「卒業研究」の審査は、原則として、2名以上の専任教員が行う。
なお、「卒業研究」の詳細については別に指示する。

比較文化学部

1 卒業論文に関する規定

- (1) 比較文化学部の学生が卒業するためには、「卒業論文」を提出しなければなりません。卒業論文は専門教育科目の必修単位(6単位)です。
- (2) 卒業論文の審査は、原則として専任教員2名が行います。
- (3) 卒業論文の題目は、あらかじめ指導教員の承認を受け、第4年次指定の日に届け出てください。いったん届け出た題目の変更は、原則として認められません。
- (4) 卒業論文は、指定された時間内に本人が教育支援グループに提出し、同グループを通じて審査を申請しなければなりません。

2 卒業論文作成要領

論文の執筆にあたっては、次の事項に注意してください。

- (1) 提出締切日の厳守。当該年度に配布される行事予定表に書いてある提出日の指定時間内に提出しなければなりません。
- (2) 論文は、日本語、外国語(英、独、仏、中国語のいずれか)のどちらで書いてもかまいません。日本語の論文の長さは、本文が400字詰原稿用紙50枚前後とします。外国語の場合は、それに準ずる長さとなります。
- (3) 論文は、縦書き、横書き、いずれでもかまいません。ページ番号を振り、最終ページ下部に本文・注・参考文献表を合わせた総文字数を記入してください。要旨と目次は総文字数に含まれません。
- (4) 日本語、外国語のどちらで書く場合にも、論文の要旨を日本語あるいは外国語で書き、目次の前に付けてください。日本語の要旨は1,200字前後とします。外国語の場合は、それに準ずる長さとなります。
- (5) 目次と参考文献表を必ず付けてください。参考文献の提示方法と引用の仕方、注の付け方は、指導教員の指示に従ってください。
- (6) ファイルは学部所定のものを使い、2部提出してください。
- (7) その他の事柄については、比較文化学部の指示に従ってください。

6 教育・研究交流による単位修得

大妻女子大学短期大学部との単位互換について

相互の協力交流を通じ教育課程の充実をはかるとともに、学生の幅広い視野の育成と学習意欲の向上を目的として平成18年7月13日に協定を締結しました。

この協定に基づき、大妻女子大学の学生は、大妻女子大学短期大学部の全学共通科目を「特別聴講学生」として履修することができます。

受講者調整を実施しているため、受け入れに余裕がある科目が対象となっています。

大妻女子大学短期大学部で修得した単位は、他キャンパス・他学科履修により修得した単位を含めて8単位まで本学の全学共通科目の卒業要件に算入することができます。

他大学との単位互換協定に基づく科目の履修について

大妻女子大学と他大学との間で締結された単位互換協定に基づき、他大学において科目等の履修が認められた場合、その大学で修得した単位を本学の科目を履修したものとみなして卒業要件に算入することができます。

他大学での履修科目および認定できる単位については、その都度掲示等でお知らせします。

4

諸課程について

教職課程	170
図書館学課程	201
博物館学芸員課程	205
栄養士及び管理栄養士課程	207
食品衛生管理者及び食品衛生監視員	211
保育士課程	212
1級衣料管理士資格	215
フードスペシャリスト資格	217
NR・サプリメントアドバイザー資格	219
健康運動実践指導者資格	220
レクリエーション・インストラクター資格	222
二級建築士資格	223
ビオトープ管理士資格	225

本学では、正規課程の授業科目以外にも、資格取得を目的とした課程を設置しています。所定の科目をルールに従って学び終えることで卒業と同時に資格を得ることができるもの、受験資格が得られるもの、一部受験科目が免除となるなどさまざまです。なお、学部学科によって、選択できる課程が異なるので、諸課程の履修を希望する学生は履修条件、資格取得の方法などをしっかり理解したうえで必要な手続きを行ってください。

4

諸課程について

1 教職課程

教職課程について

教育職員免許状（以下「教員免許状」と記載）を取得しようとする者のために、本学で履修するそれぞれの専門知識の上に立って、教職課程が開設されています。教育職員免許法（以下「免許法」と記載）によって授与される教員免許状を取得する者は、深い専門についての学識と幅の広い教養を修め、そのうえに教育に対する重責と誇りと教員志望の強い意志を持っていなければなりません。したがって、単に教員免許状を持っていれば、将来何かの役に立つであろうというような安易な考えで履修するのは好ましくありません。

履修にあたっては、将来教壇に立つ意欲を継続し、強い決意を持って、周到的な計画をたてることが是非とも必要です。

教員免許更新制

免許法の改正により、平成 21 年 4 月 1 日から教員免許更新制が導入されました。

教員免許更新制とは…

- ①最新の知識技能を身に付けることが目的です。
- ②教員免許状に、取得してから 10 年間の有効期間が付きます。
- ③有効期限を更新するには更新講習の受講が必要となります。

本学で取得できる教員免許状の種類

家政学部で取得できる教員免許状

学科・専攻	教員免許状の種類	教科
被服学科	中学校教諭 1 種免許状 高等学校教諭 1 種免許状	家庭
食物学専攻	中学校教諭 1 種免許状 高等学校教諭 1 種免許状 栄養教諭 2 種免許状	家庭
食物学専攻 栄養士専攻	栄養教諭 1 種免許状	
児童学専攻	幼稚園教諭 1 種免許状	
児童学専攻 児童教育専攻	中学校教諭 1 種免許状 小学校教諭 1 種免許状	理科

※栄養教諭 2 種免許状のみの取得は認められません。中学校・高等学校教諭 1 種免許状の取得を条件とします。

文学部で取得できる教員免許状

学科・専攻	教員免許状の種類	教科
日本文学科	中学校教諭 1 種免許状 高等学校教諭 1 種免許状	国語
英語英文学科	中学校教諭 1 種免許状 高等学校教諭 1 種免許状	英語

社会情報学部で取得できる教員免許状

学科・専攻	教員免許状の種類	教科
社会情報学科 社会生活情報学専攻	高等学校教諭 1 種免許状	情報
社会情報学科 環境情報学専攻	中学校教諭 1 種免許状 高等学校教諭 1 種免許状	理科
社会情報学科 情報デザイン専攻	高等学校教諭 1 種免許状	情報

教員免許状・免許教科の種類と必要な資格及び修得単位数

教員免許状を取得するための基礎資格

教員免許状の種類	免許教科	基礎資格	免許法に定める最低修得単位数
			教科及び教職に関する科目
中学校教諭 1種免許状	家庭 国語 英語 理科	学士の学位を有すること	59
高等学校教諭 1種免許状	家庭 国語 英語 理科 情報	学士の学位を有すること	59
幼稚園教諭 1種免許状		学士の学位を有すること	51
小学校教諭 1種免許状		学士の学位を有すること	59

教員免許状の種類	免許教科	基礎資格	免許法に定める最低修得単位数
			栄養に係る教育及び教職に関する科目
栄養教諭 1種免許状		学士の学位を有すること、かつ、栄養士法第2条第3項の規定により管理栄養士の免許を受けていること又は同法第5条の3第4号の規定により指定された管理栄養士養成施設の課程を修了し、同法第2条第1項の規定により栄養士の免許を受けていること。(家政学部食物学科管理栄養士専攻の場合、学士の学位を有し、かつ管理栄養士専攻を修了し、栄養士の免許を受けていること)	22
栄養教諭 2種免許状		短期大学士の学位を有すること及び栄養士法第2条第1項の規定により栄養士の免許を受けていること(家政学部食物学科食物学専攻の場合、学士の学位を有し、かつ栄養士の免許を受けていること)	14

注 教員免許状の授与を受けようとする者は、上記のほかに、日本国憲法・体育・外国語コミュニケーション・情報機器の操作についての科目各2単位を修得することが必要です。

a 基礎資格

本学において、基礎資格を満たすためには、「②学習について」の「3 卒業するために必要な要件」に掲げる卒業必要単位を修得し、卒業しなければなりません。

また、次の全学共通科目又は学部共通科目を必ず履修し、単位を修得しなければなりません。

家政学部・文学部

- ① 「日本国憲法」
- ② 「スポーツA」、「スポーツB」、「スポーツC」、「スポーツD」、「シーズン・スポーツ」のうちからいずれか2科目
- ③ 「英語I A」及び「英語I B」
- ④ 「コンピュータ基礎A」、「コンピュータ基礎B」、「コンピュータ応用」のうちからいずれか1科目

社会情報学部

- ① 「日本国憲法」
- ② 「スポーツ A」、「スポーツ B」、「スポーツ C」、「スポーツ D」、「シーズン・スポーツ」のうちからいずれか2科目
- ③ 「英語 I A」及び「英語 I B」
- ④ 「情報処理実習 A」及び「情報処理実習 B」(学部共通科目)

b 教科及び教職に関する科目

「教科及び教職に関する科目」は、教職課程履修者独自に開設する科目(幼、小を除く)と、各学科(専攻)の専門科目に分かれます。免許法に定める科目区分ごとに必要な単位を修得しますが、本学では法令に定める単位数以上を修得することになります。詳細は各学科の免許種別ごとの開設科目及び最低修得単位数欄を参照してください。

c 卒業要件との関係

卒業要件を満たすために修得しなければならない科目と、教員免許状の授与を受けるために修得しなければならない科目は異なります。

ただし、以下の科目については、それぞれに掲げる単位を上限として卒業に必要な単位に含めることができます。

①教科及び教科の指導法に関する科目

- ・被服学科

「教職課程独自の科目」として開講する科目については、「専門教育科目」の家政学部共通科目として、2単位を卒業に必要な単位に含めることができます。詳細は、P175を確認してください。

- ・食物学科

「教職課程独自の科目」として開講する科目については、「専門教育科目」の家政学部共通科目として、2単位を卒業に必要な単位に含めることができます。詳細は、P179を確認してください。

- ・日本文学科

「教職課程独自の科目」として開講する科目については、「専門教育科目」の選択科目として、卒業に必要な単位に含めることができます。詳細は、P187を確認してください。

②教育の基礎的理解に関する科目等

「教育の基礎的理解に関する科目」

「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」

「教育実践に関する科目」

上記の科目区分からあわせて4単位を上限として卒業に必要な全学共通科目の選択科目の単位に含めることができます。詳細は、P98を確認してください。

f 介護等体験

小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者は、障がい者、高齢者等に対する介護、介助等の体験を7日間行わなければなりません。

体験の期間等は次のとおりです。

特別支援学校	2日間
社会福祉施設	5日間

教科及び教職に関する科目

被服学科

a 高等学校教諭1種免許状「家庭」

(2019年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数		
科目		単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。)	1	家庭経営学概論(含家庭経済学)[2] 家族関係論[2]	4
		被服学(被服製作実習を含む。)	1	被服材料学② 被服材料学実験② 繊維科学② 繊維科学実験(2) 被服管理学[2] 界面科学(2) アパレル概論② アパレル製作I② 和服製作I② 立体裁断I(2) 繊維加工学(2) 機能性被服材料(2) 染色学(2) 色彩学② 日本服飾文化史② 西洋服飾文化史② 服飾工芸(2)	20
		食物学(栄養学、食品学及び調理実習を含む。)	1	栄養学概論[2] 食品学概論[2] 調理学実習[2] 食物学概論(2)	6
		住居学(製図を含む。)	1	住居学概論[2] 製図及び家庭工作学[2]	4
		保育学(実習及び家庭看護を含む。)	1	保育学(含実習及び家庭看護)[2]	2
		家庭電気・家庭機械・情報処理	1	家庭機械及び家庭電気[2] 生活情報処理[2]	4
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目				-
	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	4	家庭科教育法I[2] 家庭科教育法II[2] 家庭科教育法III[2] 家庭科教育法IV[2]	8	
	計	24		48	
	教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理[2]
教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)			教職入門[2]		2
教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)			教育制度要説(含学校経営)[2]		2
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			教育心理学[2] 青年心理学(2)		2
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			特別支援教育要説[1]		1
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)			教育課程論[2]		2
教育相談等に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、	総合的な学習の時間の指導法	8	総合的な学習の時間要説[1]	1
		特別活動の指導法		特別活動要説[2]	2
		教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		教育の方法と技術[2]	2
		生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論[2]	2
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			
教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談[2]	2			
教育実践に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、	教育実習	3	教育実習I[2] 教育実習II(2) 教育実習指導I[2] 教育実習指導II[2]	6
		学校体験活動		-	
		教職実践演習		2	教職実践演習(中・高)[2]
大学が独自に設定する科目		12	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて12単位以上を修得	-	
合計		59		76	

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[]の数字は教職課程履修者必修単位です。

b 中学校教諭1種免許状「家庭」

(2019年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数	
科目		単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。)	1	家庭経営学概論(含家庭経済学)[2] 家族関係論[2]	4
	被服学(被服製作実習を含む。)	1	被服材料学② 被服材料学実験② 繊維科学② 繊維科学実験(2) 被服管理学[2] 界面科学(2) アパレル概論② アパレル製作I② 和服製作I② 立体裁断I(2) 繊維加工学(2) 機能性被服材料(2) 染色学(2) 色彩学② 日本服飾文化史② 西洋服飾文化史② 服飾工芸(2)	20
	食物学(栄養学、食品学及び調理実習を含む。)	1	栄養学概論[2] 食品学概論[2] 調理学実習[2]	6
	住居学	1	住居学概論[2]	2
	保育学(実習を含む。)	1	保育学(含実習及び家庭看護)[2]	2
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目			-
	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	8	家庭科教育法I[2] 家庭科教育法II[2] 家庭科教育法III[2] 家庭科教育法IV[2]	8
計		28		42
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理[2]	2
		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職入門[2]	2
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育制度要説(含学校経営)[2]	2
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学[2] 青年心理学(2)	2
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育要説[1]	1
		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論[2]	2
教育相談等に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導	道徳の理論及び指導法	道徳教育要説[2]	2
		総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間要説[1]	1
		特別活動の指導法	特別活動要説[2]	2
		教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育の方法と技術[2]	2
		生徒指導の理論及び方法	生徒・進路指導論[2]	2
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)	教育相談[2]	2
教育実践に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導	教育実習	教育実習I[2] 教育実習II[2] 教育実習指導I[2] 教育実習指導II[2]	8
		学校体験活動		-
		教職実践演習	教職実践演習(中・高)[2]	2
大学が独自に設定する科目		4	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて4単位以上を修得	-
合計		59		74

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[]の数字は教職課程履修者必修単位です。

c 教科及び教科の指導法に関する科目「家庭」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2019年度入学生から適用)

授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備考
食品学概論	2	半期	講義	2	2	
栄養学概論	2	半期	講義	2または3	2	
保育学(含実習及び家庭看護)	2	半期	講義	3	2	
調理学実習	2	通年	講義・実習	3	4	
家庭機械及び家庭電気	2	半期	講義	1～3	2	
製図及び家庭工作学	2	半期	講義	3	2	
生活情報処理	2	半期	講義	3	2	
家庭科教育法Ⅰ	2	半期	講義	2	2	
家庭科教育法Ⅱ	2	半期	講義	2	2	
家庭科教育法Ⅲ	2	半期	講義	3	2	
家庭科教育法Ⅳ	2	半期	講義	3	2	

注(1) 時間数は1週間の授業時間数です。

注(2) 各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注(3) 被服学科の「専門教育科目」の家政学部共通科目として2単位を卒業に必要な単位に含めることができます。(家庭科教育法を除く)

d 教育の基礎的理解に関する科目等「家庭」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2019年度入学生から適用)

授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備考
教育原理	2	半期	講義	2	2	
教職入門	2	半期	講義	1	2	
教育制度要説(含学校経営)	2	半期	講義	2	2	
教育心理学	2	半期	講義	2	2	
青年心理学	2	半期	講義	2	2	選択
特別支援教育要説	1	集中	講義	2	1	
教育課程論	2	半期	講義	2	2	
道徳教育要説	2	半期	講義	3	2	
総合的な学習の時間要説	1	集中	講義	3	1	
特別活動要説	2	半期	講義	3	2	
教育の方法と技術	2	半期	講義	3	2	
生徒・進路指導論	2	半期	講義	3	2	
教育相談	2	半期	講義	2	2	
教育実習Ⅰ	2	2週間	実習	4	○	
教育実習Ⅱ	2	2週間	実習	4	○	
教育実習指導Ⅰ	2	半期	講義	3	2	
教育実習指導Ⅱ	2	半期	講義	4	2	
教職実践演習(中・高)	2	半期	演習	4	2	

注(1) 時間数は1週間の授業時間数です。

注(2) 各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注(3) 「教育実習指導Ⅰ」、「教育実習指導Ⅱ」は教育実習に係る事前及び事後の指導を含み、それぞれ3年後期、4年後期に開講されます。

注(4) 「教職実践演習(中・高)」は、教員として必要な知識・技能を修得したことを確認するための総まとめの科目で、4年後期に開講されます。

食物学科 食物学専攻

a 高等学校教諭1種免許状「家庭」

(2019年度入学生から適用)

課程	免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数			
	科目	単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。)	1	家庭経営学概論(含家庭経済学)[2] 家族関係論[2]	4	
		被服学(被服製作実習を含む。)	1	衣生活概論[2] 被服材料学(2) 被服工作(和)(洋)[2]	4	
		食物学(栄養学、食品学及び調理実習を含む。)	1	生化学② 栄養化学Ⅰ② 食品化学② 食品化学実験① 食品学② 食品学実験① 食安全学Ⅰ② 食安全学実験① 栄養教育論Ⅰ② 栄養教育論Ⅱ② 基礎調理学実習① 調理科学Ⅰ② 調理科学Ⅱ(2) 調理科学実験[1] 食事設計論② 食文化論(2) 食安全学Ⅱ(2)	23	
		住居学(製図を含む。)	1	住居学概論[2] 製図及び家庭工作学[2]	4	
		保育学(実習及び家庭看護を含む。)	1	保育学(含実習及び家庭看護)[2]	2	
		家庭電気・家庭機械・情報処理	1	家庭機械及び家庭電気[2] 生活情報処理[2]	4	
		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目			—	
		各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	4	家庭科教育法Ⅰ[2] 家庭科教育法Ⅱ[2] 家庭科教育法Ⅲ[2] 家庭科教育法Ⅳ[2]	8	
		計	24		49	
	教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理[2]	2
			教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門[2]	2
			教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度要説(含学校経営)[2]	2
			幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学[2] 青年心理学(2)	2
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			特別支援教育要説[1]		1	
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)			教育課程論[2]		2	
教科及び教職に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間の指導法	8	総合的な学習の時間要説[1]	1	
		特別活動の指導法		特別活動要説[2]	2	
		教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		教育の方法と技術[2]	2	
		生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論[2]	2	
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法				
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談[2]	2	
教科及び教職に関する科目	教育実践に関する科目	教育実習	3	教育実習Ⅰ[2] 教育実習Ⅱ(2) 教育実習指導Ⅰ[2] 教育実習指導Ⅱ[2]	6	
		学校体験活動		—		
		教職実践演習		2	教職実践演習(中・高)[2]	2
	大学が独自に設定する科目	12	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて12単位以上を修得	—		
	合計	59		77		

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[]の数字は教職課程履修者必修単位です。

b 中学校教諭1種免許状「家庭」

(2019年度入学生から適用)

全課程	免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数			
	科目	単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。)	1	家庭経営学概論(含家庭経済学)[2] 家族関係論[2]	4	
		被服学(被服製作実習を含む。)	1	衣生活概論[2] 被服材料学(2) 被服工作(和)(洋)[2]	4	
		食物学(栄養学、食品学及び調理実習を含む。)	1	生化学② 栄養化学Ⅰ② 食品化学② 食品化学実験① 食品学② 食品学実験① 食安全学Ⅰ② 食安全学実験① 栄養教育論Ⅰ② 栄養教育論Ⅱ② 基礎調理学実習① 調理科学Ⅰ② 調理科学Ⅱ(2) 調理科学実験[1] 食事設計論② 食文化論(2) 食安全学Ⅱ(2)	23	
		住居学	1	住居学概論[2]	2	
		保育学(実習を含む。)	1	保育学(含実習及び家庭看護)[2]	2	
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目				-	
	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		8	家庭科教育法Ⅰ[2] 家庭科教育法Ⅱ[2] 家庭科教育法Ⅲ[2] 家庭科教育法Ⅳ[2]	8	
	計		28		43	
	教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理[2]	2
			教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門[2]	2
			教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度要説(含学校経営)[2]	2
			幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学[2] 青年心理学(2)	2
			特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育要説[1]	1
			教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論[2]	2
		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	道徳教育要説[2]	2
			総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間要説[1]	1
			特別活動の指導法		特別活動要説[2]	2
教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)			教育の方法と技術[2]		2	
教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習Ⅰ[2] 教育実習Ⅱ[2] 教育実習指導Ⅰ[2] 教育実習指導Ⅱ[2]	8		
	学校体験活動		-			
	教職実践演習		2	教職実践演習(中・高)[2]	2	
大学が独自に設定する科目		4	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて4単位以上を修得	-		
合計		59		75		

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[]の数字は教職課程履修者必修単位です。

c 栄養教諭 2 種免許状

(2019 年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数		
科目		単位数	本学開設科目 (単位)	最低修得単位数	
栄養に係る教育及び教職に関する科目	栄養に係る教育に関する科目	栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項	2	学校栄養教諭論 [2]	2
		幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項			
		食生活に関する歴史的及び文化的事項			
		食に関する指導の方法に関する事項			
	計		2		2
	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	5	教育原理 [2]	2
		教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門 [2]	2
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度要説 (含学校経営) [2]	2
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学 [2] 青年心理学 (2)	2
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育要説 [1]	1
		教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論 [2]	2
	道徳、総合的な学習の時間等に関する科目	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	3	道徳教育要説 [2] 総合的な学習の時間要説 [1] 特別活動要説 [2]	5
		教育の方法及び技術 (情報機器及び教材の活用を含む。)		教育の方法と技術 [2]	2
		生徒指導の理論及び方法		生徒指導論 [2]	2
教育相談 (カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)		教育相談 [2]		2	
教育実践に関する科目	栄養教育実習	2	栄養教育実習 (含事前事後指導) [2]	2	
	教職実践演習	2	教職実践演習 (栄養教諭) [2]	2	
大学が独自に設定する科目				-	
合 計		14		28	

注 本学開設科目 (単位) 欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[] の数字は教職課程履修者必修単位です。

d 教科及び教科の指導法に関する科目「家庭」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2019年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備 考
保育学（含実習及び家庭看護）	2	半 期	講義	2	2	
衣 生 活 概 論	2	半 期	講義	2	2	
被 服 材 料 学	2	半 期	講義	2 または 3	2	選択
被 服 工 作（和）（洋）	2	通 年	実習	2	4	
製 図 及 び 家 庭 工 作 学	2	半 期	講義	3	2	
家庭機械及び家庭電気	2	半 期	講義	3	2	
生 活 情 報 処 理	2	半 期	講義	3	2	
家 庭 科 教 育 法 I	2	半 期	講義	2	2	「家庭」のみ
家 庭 科 教 育 法 II	2	半 期	講義	2	2	「家庭」のみ
家 庭 科 教 育 法 III	2	半 期	講義	3	2	「家庭」のみ
家 庭 科 教 育 法 IV	2	半 期	講義	3	2	「家庭」のみ

注（1）時間数は1週間の授業時間数です。

注（2）各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注（3）食物学科の「専門教育科目」の家政学部共通科目として2単位を卒業に必要な単位に含めることができます。（家庭科教育法を除く）

e 教育の基礎的理解に関する科目等「家庭」「栄養教諭」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2019年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備 考
教 育 原 理	2	半 期	講義	2	2	
教 職 入 門	2	半 期	講義	1	2	
教育制度要説（含学校経営）	2	半 期	講義	2	2	
教 育 心 理 学	2	半 期	講義	2	2	
青 年 心 理 学	2	半 期	講義	2	2	選択
特 別 支 援 教 育 要 説	1	集 中	講義	2	1	
教 育 課 程 論	2	半 期	講義	2	2	
道 徳 教 育 要 説	2	半 期	講義	3	2	
総合的な学習の時間要説	1	集 中	講義	3	1	
特 別 活 動 要 説	2	半 期	講義	3	2	
教 育 の 方 法 と 技 術	2	半 期	講義	3	2	
生 徒 ・ 進 路 指 導 論	2	半 期	講義	3	2	「家庭」のみ
生 徒 指 導 論	2	半 期	講義	3 または 4	2	「栄養教諭」のみ
教 育 相 談	2	半 期	講義	2	2	
教 育 実 習 I	2	2週間	実習	4	○	「家庭」のみ
教 育 実 習 II	2	2週間	実習	4	○	「家庭」のみ
教 育 実 習 指 導 I	2	半 期	講義	3	2	「家庭」のみ
教 育 実 習 指 導 II	2	半 期	講義	4	2	「家庭」のみ
栄養教育実習（含事前事後指導）	2	1週間	実習	4	○	「栄養教諭」のみ
教 職 実 践 演 習（中・高）	2	半 期	演習	4	2	「家庭」のみ
教 職 実 践 演 習（栄養教諭）	2	半 期	演習	4	2	「栄養教諭」のみ

注（1）時間数は1週間の授業時間数です。

注（2）各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注（3）「教育実習指導Ⅰ」、「教育実習指導Ⅱ」は、教育実習に係る事前及び事後の指導を含み、それぞれ3年後期、4年後期に開講されます。

注（4）「教職実践演習（中・高）」、「教職実践演習（栄養教諭）」は、教員として必要な知識・技能を修得したことを確認するための総まとめの科目で、4年後期に開講されます。

食物学科 管理栄養士専攻

a 栄養教諭1種免許状

(2019年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数		
科目		単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数
栄養に係る教育に関する科目	栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項	4	学校栄養教諭論Ⅰ [2] 学校栄養教諭論Ⅱ [2]	4
	幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項			
	食生活に関する歴史的及び文化的事項			
	食に関する指導の方法に関する事項			
計		4		4
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	8	教育原理 [2]	2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門 [2]	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度要説(含学校経営) [2]	2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学 [2] 青年心理学 (2)	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育要説 [1]	1
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論 [2]	2
道徳、総合的な学習の時間及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	6	道徳教育要説 [2] 特別活動要説 [2] 総合的な学習の時間要説 [1]	5
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		教育の方法と技術 [2]	2
	生徒指導の理論及び方法		生徒指導論 [2]	2
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)		教育相談 [2]	2
教育実践に関する科目	栄養教育実習	2	栄養教育実習(含事前事後指導) [2]	2
	教職実践演習	2	教職実践演習(栄養教諭) [2]	2
大学が独自に設定する科目				-
合計		22		30

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[]の数字は教職課程履修者必修単位です。

b 教育の基礎的理解に関する科目等「栄養教諭」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2019年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備 考
教 育 原 理	2	半期	講義	2	2	
教 職 入 門	2	半期	講義	1	2	
教育制度要説(含学校経営)	2	半期	講義	2	2	
教 育 心 理 学	2	半期	講義	2	2	
青 年 心 理 学	2	半期	講義	2	2	選択
特 別 支 援 教 育 要 説	1	集中	講義	2	1	
教 育 課 程 論	2	半期	講義	2	2	
道 徳 教 育 要 説	2	半期	講義	3	2	
特 別 活 動 要 説	2	半期	講義	3	2	
総合的な学習の時間要説	1	集中	講義	3	1	
教 育 の 方 法 と 技 術	2	半期	講義	3	2	
生 徒 指 導 論	2	半期	講義	3	2	
教 育 相 談	2	半期	講義	2	2	
栄養教育実習(含事前事後指導)	2	1週間	実習	4	○	
教職実践演習(栄養教諭)	2	半期	演習	4	2	

注(1) 時間数は1週間の授業時間数です。

注(2) 各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注(3) 「教職実践演習(栄養教諭)」は、教員として必要な知識・技能を修得したことを確認するための総まとめの科目で、4年後期に開講されます。

児童学科 児童学専攻

a 幼稚園教諭1種免許状

(2019年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数		
科目		単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数	
領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	健康	領域健康②	2	
		人間関係	領域人間関係②	2	
		環境	領域環境②	2	
		言葉	領域ことば②	2	
		表現	領域表現②	2	
	領域及び保育内容の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目				-
	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)			保育内容健康の指導法② 保育内容人間関係の指導法② 保育内容環境の指導法② 保育内容ことばの指導法② 保育内容表現の指導法② 保育内容総論② 子どもと遊びA② 子どもとからだ②	16
計		16		26	
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理A②	2	
		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	保育者論②	2	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育経営論A②	2	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学②	2	
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育A②	2	
		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	保育カリキュラム論②	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	幼児理解の理論及び方法	保育方法演習②	2	
		子ども理解の基礎②	子ども理解の基礎②	2	
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談の基礎②	2	
教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習(幼稚園Ⅰ)[2] 教育実習(幼稚園Ⅱ)[2] 幼稚園実習特講[1]	5	
	学校体験活動			-	
	教職実践演習	2	保育・教職実践演習②	2	
大学が独自に設定する科目		14	最低修得単位を超えて履修した「領域及び保育内容の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて14単位以上を修得	-	
合計		51		51	

注(1) 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[]の数字は教職課程履修者必修単位です。
 注(2) 「幼稚園実習特講」は、教育実習に係る事前及び事後の指導とし、2年次、4年次それぞれの実習の前後に行います。
 注(3) 「保育・教職実践演習」は、教員として必要な知識・技能を修得したことを確認するための総まとめの科目で4年後期に開講されます。

児童学科 児童教育専攻
a 小学校教諭1種免許状

(2019年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数		
科目		単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国語(書写を含む。)	国語科教育②	2	
		社会	社会科教育②	2	
		算数	算数科教育②	2	
		理科	理科教育②	2	
		生活	生活科教育②	2	
		音楽	音楽科教育②	2	
		図画工作	図工科教育②	2	
		家庭	家庭科教育②	2	
		体育	体育科教育②	2	
		外国語	小学校外国語教育②	2	
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目				-
	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)			国語科指導法[2] 社会科指導法[2] 算数科指導法[2] 理科指導法[2] 生活科指導法[2] 音楽科指導法[2] 図工科指導法[2] 家庭科指導法[2] 体育科指導法[2] 小学校外国語指導法[2]	20
	計		30		40
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理B②	2	
		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教師論②	2	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育経営論B②	2	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学②	2	
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育B②	2	
		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論B②	2	
道徳、総合的な学習の時間等に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育論②	2	
		総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の学びと指導法②	2	
		特別活動の指導法	特別活動論②	2	
		教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育方法論②	2	
		生徒指導の理論及び方法	学級経営と集団づくり(2) 生徒・進路指導の理論及び方法②	2	
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)	教育相談②	2	
教育実践に関する科目	教育実践に関する科目	教育実習	教育実習(小学校)(4) 特別教育実習(小学校)(4) 小学校実習特講[1]	5	
		学校体験活動		-	
		教職実践演習	教職実践演習(小中)[2]	2	
大学が独自に設定する科目		2	「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位数を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて2単位以上を修得 小学校総合演習Ⅰ(2) 小学校総合演習Ⅱ(2)	-	
合計		59		71	

注(1) 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[]の数字は教職課程履修者必修単位です。

注(2) 「小学校実習特講」は、教育実習に係る事前及び事後の指導とし、4年次の実習の前後に行います。

注(3) 「教職実習(小学校)」、「特別教育実習(小学校)」は選択必修科目であり、いずれか1科目を履修します。「特別教育実習(小学校)」は、東京都教育委員会等が主催する教師養成に関する特別実習コースに参加する者だけが履修できます。本コースは東京都等が公立小学校教員を強く希望する者のなかから選考し、4年次に教育実習のほか体験活動・セミナー・講義などを行うものです。詳細は学科ガイダンス等で説明します。

注(4) 「教職実践演習(小学校)」は、教員として必要な知識・技能を修得したことを確認するための総まとめの科目で、4年後期に開講されます。

b 中学校教諭1種免許状「理科」

(2020年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位			
科目			単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	物理学	1	物理の基礎② 科学する心(エネルギー編)[2] 生活と物理[2]	6	
		物理学実験(コンピュータ活用を含む。)	1	物理学基礎実験Ⅰ① 物理学基礎実験Ⅱ[1]	2	
		化学	1	化学の基礎② 科学する心(粒子編)[2] 生活と化学[2]	6	
		化学実験(コンピュータ活用を含む。)	1	化学基礎実験Ⅰ① 化学基礎実験Ⅱ[1]	2	
		生物学	1	生物の基礎② 科学する心(生命編)[2] 生物と環境[2]	6	
		生物学実験(コンピュータ活用を含む。)	1	生物学基礎実験Ⅰ① 生物学基礎実験Ⅱ[1]	2	
		地学	1	地学の基礎② 科学する心(地球編)[2] 地球と環境[2]	6	
		地学実験(コンピュータ活用を含む。)	1	地学基礎実験Ⅰ① 地学基礎実験Ⅱ[1]	2	
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係わる科目					-
	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)			8	理科教育法Ⅰ[2] 理科教育法Ⅱ[2] 理科教育法Ⅲ[2] 理科教育法Ⅳ[2]	8
計			28		40	
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理B②	2	
		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教師論②	2	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育経営論B②	2	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学②	2	
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育B②	2	
		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論B②	2	
関連する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	道徳教育論②	2	
		総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の学びと指導法②	2	
		特別活動の指導法		特別活動要説②	2	
		教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		教育方法論②	2	
		生徒指導の理論及び方法		学級経営と集団づくり(2) 生徒・進路指導の理論及び方法②	2	
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法				
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)		教育相談②	2	
関連する科目	教育実践に関する科目	教育実習	5	中学校実習指導[1] 教育実習(中学校)[4]	5	
		学校体験活動				
		教職実践演習		2	教職実践演習(小・中)[2]	2
大学が独自に設定する科目			4	子どもの学びと自然(2) 野外活動支援演習(2) サイエンス・エドゥケーター論(2) 子どもと科学する心② 児童学基礎体験演習Ⅰ② 児童学基礎体験演習Ⅱ②	6	
合計			59		77	

注(1) 本学開講科目(単位)のうち、○の数字は卒業必修単位、[]の数字は教職課程履修者の必修単位です。

注(2) 「教職実践演習(小・中)」は、教員として必要な知識・技能を修得したことを確認するための総まとめの科目で、4年後期に開講されます。

日本文学科

a 高等学校教諭1種免許状「国語」

(2019年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数	
科目		単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	1	日本語学概説② 日本語学講義 [2]	4
	国文学(国文学史を含む。)	1	日本古典文学入門② 上代文学概説② 中古文学概説② 中世文学概説② 近世文学概説② 近代文学概説② 現代文学概説② 変体仮名読解② 上代文学講義 [2] 中古文学講義 [2] 中世文学講義 [2] 近世文学講義 [2] 近代文学講義 [2] 現代文学講義 [2]	28
	漢文学	1	漢文学入門② 漢文学概説② 漢文学講義 [2]	6
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目			-
	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	4	国語科教育法Ⅰ [2] 国語科教育法Ⅱ [2] 国語科教育法Ⅲ [2] 国語科教育法Ⅳ [2]	8
	計	24		46
教科及び教職に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理 [2]	2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門 [2]	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度要説(含学校経営) [2]	2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学 [2] 青年心理学 (2)	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育要説 [1]	1
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論 [2]	2
等に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導	8	総合的な学習の時間要説 [1]	1
	特別活動の指導法		特別活動要説 [2]	2
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		教育の方法と技術 [2]	2
	生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論 [2]	2
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談 [2]	2
教育実践に関する科目	教育実習	3	教育実習Ⅰ [2] 教育実習Ⅱ (2) 教育実習指導Ⅰ [2] 教育実習指導Ⅱ [2]	6
	学校体験活動			-
	教職実践演習	2	教職実践演習(中・高) [2]	2
大学が独自に設定する科目	12	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて12単位以上を修得	-	
合計		59		74

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[]の数字は教職課程履修者必修単位です。

b 中学校教諭1種免許状「国語」

(2019年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数		
科目			単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	1	日本語学概説② 日本語学講義[2]	4
		国文学(国文学史を含む。)	1	日本古典文学入門② 上代文学概説② 中古文学概説② 中世文学概説② 近世文学概説② 近代文学概説② 現代文学概説② 変体仮名読解② 上代文学講義[2] 中古文学講義[2] 中世文学講義[2] 近世文学講義[2] 近代文学講義[2] 現代文学講義[2]	28
		漢文学	1	漢文学入門② 漢文学概説② 漢文学講義[2]	6
		書道(書写を中心とする。)	1	書法総合演習Ⅰ[2] 書法総合演習Ⅱ[2]	4
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目				-
	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		8	国語科教育法Ⅰ[2] 国語科教育法Ⅱ[2] 国語科教育法Ⅲ[2] 国語科教育法Ⅳ[2]	8
	計		28		50
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理[2]	2
		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門[2]	2
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度要説(含学校経営)[2]	2
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学[2] 青年心理学(2)	2
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育要説[1]	1
		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論[2]	2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	道徳教育要説[2]	2
		総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間要説[1]	1
		特別活動の指導法		特別活動要説[2]	2
		教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		教育の方法と技術[2]	2
		生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論[2]	2
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			2
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)		教育相談[2]	2
教育実践に関する科目	教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習Ⅰ[2] 教育実習Ⅱ[2] 教育実習指導Ⅰ[2] 教育実習指導Ⅱ[2]	8
		学校体験活動		-	
		教職実践演習	2	教職実践演習(中・高)[2]	2
大学が独自に設定する科目		4	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて4単位以上を修得	-	
合計			59		82

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[]の数字は教職課程履修者必修単位です。

c 教科及び教科の指導法に関する科目「国語」（教職課程独自の科目として開講する科目）

（2019年度入学生から適用）

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備考
書 法 総 合 演 習 I	2	半 期	演習	2	2	
書 法 総 合 演 習 II	2	半 期	演習	2	2	
国 語 科 教 育 法 I	2	半 期	講義	2	2	
国 語 科 教 育 法 II	2	半 期	講義	3	2	
国 語 科 教 育 法 III	2	半 期	講義	3	2	
国 語 科 教 育 法 IV	2	半 期	講義	3	2	

注（1）時間数は1週間の授業時間数です。

注（2）各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注（3）「書法総合演習Ⅰ」、「書法総合演習Ⅱ」は、日本文学科の「専門教育科目」の選択科目として、卒業に必要な単位に含めることができます。

d 教育の基礎的理解に関する科目等「国語」（教職課程独自の科目として開講する科目）

（2019年度入学生から適用）

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備考
教 育 原 理	2	半 期	講義	2	2	
教 職 入 門	2	半 期	講義	1	2	
教育制度要説（含学校経営）	2	半 期	講義	2	2	
教 育 心 理 学	2	半 期	講義	2	2	
青 年 心 理 学	2	半 期	講義	2	2	選択
特 別 支 援 教 育 要 説	1	集 中	講義	2	1	
教 育 課 程 論	2	半 期	講義	2	2	
道 徳 教 育 要 説	2	半 期	講義	3	2	
総合的な学習の時間要説	1	集 中	講義	3	1	
特 別 活 動 要 説	2	半 期	講義	3	2	
教 育 の 方 法 と 技 術	2	半 期	講義	3	2	
生 徒 ・ 進 路 指 導 論	2	半 期	講義	3	2	
教 育 相 談	2	半 期	講義	2	2	
教 育 実 習 I	2	2週間	実習	4	○	
教 育 実 習 II	2	2週間	実習	4	○	
教 育 実 習 指 導 I	2	半 期	講義	3	2	
教 育 実 習 指 導 II	2	半 期	講義	4	2	
教 職 実 践 演 習（中・高）	2	半 期	演習	4	2	

注（1）時間数は1週間の授業時間数です。

注（2）各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注（3）「教育実習指導Ⅰ」、「教育実習指導Ⅱ」は教育実習に係る事前及び事後の指導を含み、それぞれ3年後期、4年後期に開講されます。

注（4）「教職実践演習（中・高）」は、教員として必要な知識・技能を修得したことを確認するための総まとめの科目で、4年後期に開講されます。

a 高等学校教諭1種免許状「英語」

(2019年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数		
科目		単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	英語学	英語発音入門② 英文法(基礎)1② 英文法(基礎)2② 英文法(発展)1② 英文法(発展)2② 英語学入門1② 英語学入門2② 英語音声学演習(2) 英語学(音声・音韻)(2) 英語学(語彙・形態)(2) 英語学(語法・文法)(2) 英語学(意味・語用)(2) 英語学(特論)(2)	14	
		英語文学	英文学入門1② 英文学入門2② 米文学入門1② 米文学入門2② 英文学(近代)(2) 英文学(現代)(2) 英文学(特論)(2) 米文学(近代)(2) 米文学(現代)(2) 米文学(特論)(2)	8	
		英語コミュニケーション	英文講読(基礎)1② 英文講読(基礎)2② 英文講読(発展)1② 英文講読(発展)2② Academic English 1A(2) Academic English 1B(2) Speaking(Basic)A(2) Speaking(Basic)B(2) Extensive Reading(Basic)(2) ISEC(2) Academic English 2A(2) Academic English 2B(2) Speaking(Intermediate)A(2) Speaking(Intermediate)B(2) Special Topics through English(2) Speaking(Advanced)(2) 上級英語A(2) 上級英語B(2)	8	
		異文化理解	イギリス入門② アメリカ入門② 海外ボランティア(2) 異文化間コミュニケーション1[2] 異文化間コミュニケーション2[2] 英米文化(言語)(2) 英米文化(社会)(2) 英米文化(映像・身体表現)(2) 英米文化(特論)(2)	8	
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目				-
	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		4	英語科教育法Ⅰ[2] 英語科教育法Ⅱ[2] 英語科教育法Ⅲ[2] 英語科教育法Ⅳ[2]	8
		計		46	
教科及び教職に関する項目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理[2]	2	
		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職入門[2]	2	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育制度要説(含学校経営)[2]	2	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学[2] 青年心理学(2)	2	
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育要説[1]	1	
		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論[2]	2	
相談等に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導	総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間要説[1]	1	
		特別活動の指導法	特別活動要説[2]	2	
		教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育の方法と技術[2]	2	
		生徒指導の理論及び方法	生徒・進路指導論[2]	2	
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)	教育相談[2]	2	
教育実践に関する科目	教育実践に関する科目	教育実習	教育実習Ⅰ[2] 教育実習Ⅱ(2) 教育実習指導Ⅰ[2] 教育実習指導Ⅱ[2]	6	
		学校体験活動		-	
		教職実践演習	教職実践演習(中・高)[2]	2	
大学が独自に設定する科目		12	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて12単位以上を修得	-	
		合計		74	

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[]の数字は教職課程履修者必修単位です。

b 中学校教諭1種免許状「英語」

(2019年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数	
科目		単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	英語学	英語発音入門② 英文法(基礎)1② 英文法(基礎)2② 英文法(発展)1② 英文法(発展)2② 英語学入門1② 英語学入門2② 英語音声学演習(2) 英語学(音声・音韻)(2) 英語学(語彙・形態)(2) 英語学(語法・文法)(2) 英語学(意味・語用)(2) 英語学(特論)(2)	14
		英語文学	英文学入門1② 英文学入門2② 米文学入門1② 米文学入門2② 英文学(近代)(2) 英文学(現代)(2) 英文学(特論)(2) 米文学(近代)(2) 米文学(現代)(2) 米文学(特論)(2)	8
		英語コミュニケーション	英文講読(基礎)1② 英文講読(基礎)2② 英文講読(発展)1② 英文講読(発展)2② Academic English 1A(2) Academic English 1B(2) Speaking(Basic)A(2) Speaking(Basic)B(2) Extensive Reading(Basic)(2) ISEC(2) Academic English 2A(2) Academic English 2B(2) Speaking(Intermediate)A(2) Speaking(Intermediate)B(2) Special Topics through English(2) Speaking(Advanced)(2) 上級英語A(2) 上級英語B(2)	8
		異文化理解	イギリス入門② アメリカ入門② 海外ボランティア(2) 異文化間コミュニケーション1[2] 異文化間コミュニケーション2[2] 英米文化(言語)(2) 英米文化(社会)(2) 英米文化(映像・身体表現)(2) 英米文化(特論)(2)	8
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目			
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		8	英語科教育法Ⅰ[2] 英語科教育法Ⅱ[2] 英語科教育法Ⅲ[2] 英語科教育法Ⅳ[2]	8
計		28		46
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理[2]	2
		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職入門[2]	2
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育制度要説(含学校経営)[2]	2
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学[2] 青年心理学(2)	2
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育要説[1]	1
		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラムマネジメントを含む。)	教育課程論[2]	2
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育要説[2]	2
		総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間要説[1]	1
		特別活動の指導法	特別活動要説[2]	2
		教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育の方法と技術[2]	2
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導の理論及び方法	生徒・進路指導論[2]	2	
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)	教育相談[2]	2	
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習Ⅰ[2] 教育実習Ⅱ[2] 教育実習指導Ⅰ[2] 教育実習指導Ⅱ[2]	8	
	学校体験活動		-	
	教職実践演習	教職実践演習(中・高)[2]	2	
大学が独自に設定する科目		4	最低修得単位数を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて4単位以上を修得	-
合計		59		78

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[]の数字は教職課程履修者必修単位です。

c 教科及び教科の指導法に関する科目「英語」（教職課程独自の科目として開講する科目）

（2019年度入学生から適用）

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備考
英 語 科 教 育 法 I	2	半期	講義	2	2	
英 語 科 教 育 法 II	2	半期	講義	3	2	
英 語 科 教 育 法 III	2	半期	講義	3	2	
英 語 科 教 育 法 IV	2	半期	講義	3	2	

注（1）時間数は1週間の授業時間数です。

注（2）各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

d 教育の基礎的理解に関する科目等「英語」（教職課程独自の科目として開講する科目）

（2019年度入学生から適用）

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備考
教 育 原 理	2	半期	講義	2	2	
教 職 入 門	2	半期	講義	1	2	
教育制度要説（含学校経営）	2	半期	講義	2	2	
教 育 心 理 学	2	半期	講義	2	2	
青 年 心 理 学	2	半期	講義	2	2	選択
特 別 支 援 教 育 要 説	1	集中	講義	2	1	
教 育 課 程 論	2	半期	講義	2	2	
道 徳 教 育 要 説	2	半期	講義	3	2	
総合的な学習の時間要説	1	集中	講義	3	1	
特 別 活 動 要 説	2	半期	講義	3	2	
教 育 の 方 法 と 技 術	2	半期	講義	3	2	
生 徒 ・ 進 路 指 導 論	2	半期	講義	3	2	
教 育 相 談	2	半期	講義	2	2	
教 育 実 習 I	2	2週間	実習	4	○	
教 育 実 習 II	2	2週間	実習	4	○	
教 育 実 習 指 導 I	2	半期	講義	3	2	
教 育 実 習 指 導 II	2	半期	講義	4	2	
教 職 実 践 演 習（中・高）	2	半期	演習	4	2	

注（1）時間数は1週間の授業時間数です。

注（2）各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注（3）「教育実習指導Ⅰ」、「教育実習指導Ⅱ」は教育実習に係る事前及び事後の指導を含み、それぞれ3年後期、4年後期に開講されます。

注（4）「教職実践演習（中・高）」は、教員として必要な知識・技能を修得したことを確認するための総まとめの科目で、4年後期に開講されます。

社会情報学科社会生活情報学専攻

a 高等学校教諭1種免許状「情報」

(2019年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位		
科目		単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	情報社会・情報倫理	1	社会情報概論[2] 情報社会論(2) 情報倫理(2)	2
		コンピュータ・情報処理(実習を含む。)	1	情報処理実習A② 情報処理実習B② コンピュータの基礎② プログラミングの基礎② プログラミング基礎演習② ソフトウェア概論(2) アルゴリズム論及び演習Ⅰ(2) アルゴリズム論及び演習Ⅱ(2)	10
		情報システム(実習を含む。)	1	情報システム論及び実習Ⅰ[2] 情報システム論及び実習Ⅱ[2] 情報リテラシー演習(2)	4
		情報通信ネットワーク(実習を含む。)	1	情報ネットワーク論及び実習Ⅰ[2] 情報ネットワーク論及び実習Ⅱ[2] 放送論(2)	4
		マルチメディア表現・マルチメディア技術(実習を含む。)	1	オンラインデータ分析[2] メディア運用演習[2] 情報分析演習(2) メディア学基礎(2) 情報表現法(2)	4
		情報と職業	1	情報と職業[2] 社会政策・労働問題(2) 情報と法律(2)	2
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目				—
	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		4	情報科教育法Ⅰ[2] 情報科教育法Ⅱ[2]	4
				※12単位は教科に関する専門的事項の選択科目24単位から選択	12
	計		24		42
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理[2]	2	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門[2]	2	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度要説(含学校経営)[2]	2	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学[2] 青年心理学(2)	2	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育要説[1]	1	
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論[2]	2	
等に関する科目	道徳、総合的な学習の時間の指導法	8	総合的な学習の時間要説[1]	1	
	特別活動の指導法		特別活動要説[2]	2	
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		教育の方法及び技術[2]	2	
	生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論[2]	2	
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			2	
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)		教育相談[2]	2	
教育実践に関する科目	教育実習	3	教育実習Ⅰ[2] 教育実習Ⅱ(2) 教育実習指導Ⅰ[2] 教育実習指導Ⅱ[2]	6	
	学校体験活動			—	
	教職実践演習	2	教職実践演習(中・高)[2]	2	
大学が独自に設定する科目		12	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて12単位以上を修得	—	
合計		59		70	

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[]の数字は教職課程履修者必修単位です。

b 教科及び教科の指導法に関する科目「情報」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2019年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備 考
情 報 科 教 育 法 I	2	半期	講義	3	2	
情 報 科 教 育 法 II	2	半期	講義	3	2	

注（1）時間数は1週間の授業時間数です。

注（2）各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

c 教育の基礎的理解に関する科目等「情報」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2019年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備 考
教 育 原 理	2	半期	講義	2	2	
教 職 入 門	2	半期	講義	1	2	
教育制度要説（含学校経営）	2	半期	講義	2	2	
教 育 心 理 学	2	半期	講義	2	2	
青 年 心 理 学	2	半期	講義	2	2	選択
特 別 支 援 教 育 要 説	1	集中	講義	2	1	
教 育 課 程 論	2	半期	講義	2	2	
総合的な学習の時間要説	1	集中	講義	3	1	
特 別 活 動 要 説	2	半期	講義	3	2	
教 育 の 方 法 と 技 術	2	半期	講義	3	2	
生 徒 ・ 進 路 指 導 論	2	半期	講義	3	2	
教 育 相 談	2	半期	講義	2	2	
教 育 実 習 I	2	2週間	実習	4	○	
教 育 実 習 II	2	2週間	実習	4	○	選択
教 育 実 習 指 導 I	2	半期	講義	3	2	
教 育 実 習 指 導 II	2	半期	講義	4	2	
教 職 実 践 演 習（中・高）	2	半期	演習	4	2	

注（1）時間数は1週間の授業時間数です。

注（2）各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注（3）「教育実習指導Ⅰ」、「教育実習指導Ⅱ」は教育実習に係る事前及び事後の指導を含み、それぞれ3年後期、4年後期に開講されます。

注（4）「教職実践演習（中・高）」は、教員として必要な知識・技能を修得したことを確認するための総まとめの科目で、4年後期に開講されます。

社会情報学科環境情報学専攻

a 高等学校教諭1種免許状「理科」

(2019年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数			
科目		単位数	本学開設科目(単位)		最低修得単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	物理学	1	物理の基礎Ⅰ [2] 物理の基礎Ⅱ [2] エネルギーと環境(2) 力とかたちⅠ(2)	4	
		化学	1	化学の基礎Ⅰ [2] 化学の基礎Ⅱ [2] 環境科学(2)	4	
		生物学	1	生物の基礎Ⅰ [2] 生物の基礎Ⅱ [2] エコロジーⅠ② エコロジーⅡ(2) 生命のしくみ(2) 生命科学とくらし(2)	6	
		地学	1	地学の基礎Ⅰ [2] 地学の基礎Ⅱ [2] 地球環境論(2)	4	
		物理学実験(コンピュータ活用を含む。)、 化学実験(コンピュータ活用を含む。)、 生物学実験(コンピュータ活用を含む。)、 地学実験(コンピュータ活用を含む。)	1	物理基礎実験(2) 化学基礎実験(2) 生物基礎実験(2) 地学基礎実験(2)	2	
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目					-
	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		4	理科教育法Ⅰ [2] 理科教育法Ⅱ [2] 理科教育法Ⅲ [2] 理科教育法Ⅳ [2]	8	
	計		24	※11単位は、教科に関する専門的事項の 選択科目22単位から選択	39	
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理 [2]	2	
		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門 [2]	2	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度要説(含学校経営) [2]	2	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学 [2] 青年心理学(2)	2	
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育要説 [1]	1	
		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論 [2]	2	
教育相談等に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、	総合的な学習の時間の指導法	8	総合的な学習の時間要説 [1]	1	
		特別活動の指導法		特別活動要説 [2]	2	
		教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		教育の方法と技術 [2]	2	
		生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論 [2]	2	
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		教育相談 [2]	2	
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法				
教育実践に関する科目	教育実践に関する科目	教育実習	3	教育実習Ⅰ [2] 教育実習Ⅱ(2) 教育実習指導Ⅰ [2] 教育実習指導Ⅱ [2]	6	
		学校体験活動		-		
		教職実践演習		2	教職実践演習(中・高) [2]	2
大学が独自に設定する科目		12	最低修得単位数を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて12単位以上を修得	-		
合計		59		67		

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[]の数字は教職課程履修者必修単位です。

b 中学校教諭1種免許状「理科」

(2019年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数		
科目		単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	物理学	物理の基礎Ⅰ [2] 物理の基礎Ⅱ [2] エネルギーと環境(2) 力とかたちⅠ (2)	4	
		物理学実験(コンピュータ活用を含む。)	物理基礎実験 [2]	2	
		化学	化学の基礎Ⅰ [2] 化学の基礎Ⅱ [2] 環境科学(2)	4	
		化学実験(コンピュータ活用を含む。)	化学基礎実験 [2]	2	
		生物学	生物の基礎Ⅰ [2] 生物の基礎Ⅱ [2] エコロジーⅠ ② エコロジーⅡ (2) 生命のしくみ(2) 生命科学とくらし(2)	6	
		生物学実験(コンピュータ活用を含む。)	生物基礎実験 [2]	2	
		地学	地学の基礎Ⅰ [2] 地学の基礎Ⅱ [2] 地球環境論(2)	4	
	地学実験(コンピュータ活用を含む。)	地学基礎実験 [2]	2		
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目				-
	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		8	理科教育法Ⅰ [2] 理科教育法Ⅱ [2] 理科教育法Ⅲ [2] 理科教育法Ⅳ [2]	8
			※8単位は教科に関する専門的事項の選択科目14単位から選択	8	
計		28		42	
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理 [2]	2	
		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職入門 [2]	2	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育制度要説(含学校経営) [2]	2	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学 [2] 青年心理学(2)	2	
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育要説 [1]	1	
		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論 [2]	2	
教科及び教職に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育要説 [2]	2	
		総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間要説 [1]	1	
		特別活動の指導法	特別活動要説 [2]	2	
		教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育の方法と技術 [2]	2	
		生徒指導の理論及び方法	生徒・進路指導論 [2]	2	
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)	教育相談 [2]	2	
教科及び教職に関する科目	教育実践に関する科目	教育実習	教育実習Ⅰ [2] 教育実習Ⅱ [2] 教育実習指導Ⅰ [2] 教育実習指導Ⅱ [2]	8	
		学校体験活動		-	
		教職実践演習	教職実践演習(中・高) [2]	2	
大学が独自に設定する科目		4	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて4単位以上を修得	-	
合計		59		74	

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[]の数字は教職課程履修者必修単位です。

c 教科及び教科の指導法に関する科目「理科」（教職課程独自の科目として開講する科目）

（2019年度入学生から適用）

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備 考
理 科 教 育 法 I	2	半期	講義	2	2	
理 科 教 育 法 II	2	半期	講義	2	2	
理 科 教 育 法 III	2	半期	講義	3	2	
理 科 教 育 法 IV	2	半期	講義	3	2	

注（1）時間数は1週間の授業時間数です。

注（2）各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

d 教育の基礎的理解に関する科目等「理科」（教職課程独自の科目として開講する科目）

（2019年度入学生から適用）

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備 考
教 育 原 理	2	半期	講義	2	2	
教 職 入 門	2	半期	講義	1	2	
教育制度要説（含学校経営）	2	半期	講義	2	2	
教 育 心 理 学	2	半期	講義	2	2	
青 年 心 理 学	2	半期	講義	2	2	選択
特別支援教育要説	1	集中	講義	2	1	
教 育 課 程 論	2	半期	講義	2	2	
道 徳 教 育 要 説	2	半期	講義	3	2	
総合的な学習の時間要説	1	集中	講義	3	1	
特別活動要説	2	半期	講義	3	2	
教育の方法と技術	2	半期	講義	3	2	
生徒・進路指導論	2	半期	講義	3	2	
教 育 相 談	2	半期	講義	2	2	
教 育 実 習 I	2	2週間	実習	4	○	
教 育 実 習 II	2	2週間	実習	4	○	
教育実習指導Ⅰ	2	半期	講義	3	2	
教育実習指導Ⅱ	2	半期	講義	4	2	
教職実践演習（中・高）	2	半期	演習	4	2	

注（1）時間数は1週間の授業時間数です。

注（2）各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注（3）「教育実習指導Ⅰ」、「教育実習指導Ⅱ」は教育実習に係る事前及び事後の指導を含み、それぞれ3年後期、4年後期に開講されます。

注（4）「教職実践演習（中・高）」は、教員として必要な知識・技能を修得したことを確認するための総まとめの科目で、4年後期に開講されます。

社会情報学部社会情報学科情報デザイン専攻

a 高等学校教諭1種免許状「情報」

(2019年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数	
科目		単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	情報社会・情報倫理	1	社会情報概論[2] 情報社会論(2)	2
	コンピュータ・情報処理(実習を含む。)	1	情報処理実習A② 情報処理実習B② コンピュータの基礎② プログラミングの基礎② プログラミング基礎演習② 情報処理原論② ソフトウェア概論(2) アルゴリズム論及び演習 I (2) アルゴリズム論及び演習 II (2) スマートデバイス応用 I (2) スマートデバイス応用 II (2) オブジェクト指向プログラミング論及び演習 I (2) オブジェクト指向プログラミング論及び演習 II (2)	12
	情報システム(実習を含む。)	1	情報システム論及び実習 I ② 情報システム論及び実習 II ② 経営情報システム論(2) シミュレーション論(2)	4
	情報通信ネットワーク(実習を含む。)	1	情報ネットワーク論及び実習 I [2] 情報ネットワーク論及び実習 II [2] Webプログラミング I (2) Webプログラミング II (2)	4
	マルチメディア表現・マルチメディア技術(実習を含む。)	1	マルチメディア論及び実習 I [2] マルチメディア論及び実習 II [2] ニューメディア論 I (2) ニューメディア論 II (2) コンピュータグラフィックス I (2) コンピュータグラフィックス II (2) 画像情報処理論及び演習(2) ウェブデザイン(2)	4
	情報と職業	1	情報と職業[2] 社会政策・労働問題(2)	2
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目			—
	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	4	情報科教育法 I [2] 情報科教育法 II [2]	4
			※10単位は、教科に関する専門的事項の選択科目 38単位から選択	10
	計	24		42
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理[2]	2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門[2]	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度要説(含学校経営)[2]	2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学[2] 青年心理学(2)	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育要説[1]	1
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論[2]	2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導に関する科目	総合的な学習の時間の指導法	8	総合的な学習の時間要説[1]	1
	特別活動の指導法		特別活動要説[2]	2
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		教育の方法と技術[2]	2
	生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論[2]	2
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)		教育相談[2]	2
教育実践に関する科目	教育実習	3	教育実習 I [2] 教育実習 II (2) 教育実習指導 I [2] 教育実習指導 II [2]	6
	学校体験活動		—	
	教職実践演習	2	教職実践演習(中・高)[2]	2
大学が独自に設定する科目	12		—	
合計	59		70	

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[]の数字は教職課程履修者必修単位です。

b 教科及び教科の指導法に関する科目「情報」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2019年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備 考
情報科教育法Ⅰ	2	半期	講義	3	2	
情報科教育法Ⅱ	2	半期	講義	3	2	

注(1) 時間数は1週間の授業時間数です。

注(2) 各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

c 教育の基礎的理解に関する科目等「情報」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2019年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備 考
教育原理	2	半期	講義	2	2	
教職入門	2	半期	講義	1	2	
教育制度要説(含学校経営)	2	半期	講義	2	2	
教育心理学	2	半期	講義	2	2	
青年心理学	2	半期	講義	2	2	選択
特別支援教育要説	1	集中	講義	2	1	
教育課程論	2	半期	講義	2	2	
総合的な学習の時間要説	1	集中	講義	3	1	
特別活動要説	2	半期	講義	3	2	
教育の方法と技術	2	半期	講義	3	2	
生徒・進路指導論	2	半期	講義	3	2	
教育相談	2	半期	講義	2	2	
教育実習Ⅰ	2	2週間	実習	4	○	
教育実習Ⅱ	2	2週間	実習	4	○	選択
教育実習指導Ⅰ	2	半期	講義	3	2	
教育実習指導Ⅱ	2	半期	講義	4	2	
教職実践演習(中・高)	2	半期	演習	4	2	

注(1) 時間数は1週間の授業時間数です。

注(2) 各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注(3) 「教育実習指導Ⅰ」、「教育実習指導Ⅱ」は教育実習に係る事前及び事後の指導を含み、それぞれ3年後期、4年後期に開講されます。

注(4) 「教職実践演習(中・高)」は、教員として必要な知識・技能を修得したことを確認するための総まとめの科目で、4年後期に開講されます。

教職課程受講希望者に対する注意

教育実習（栄養教育実習を含む）を履修するためには、次の条件が必要となりますので十分注意してください。

全学科共通

教職課程履修ガイダンスや教育実習手続き説明会等の全てのガイダンス・説明会に出席し、所定の手続きをしていること。

被服学科

(1) 中学校・高等学校教諭 1 種免許状

3年次終了時まで、次の科目の単位を修得していること。

教職入門、教育原理、教育心理学、道德教育要説、特別活動要説、教育相談、生徒・進路指導論、教育実習指導Ⅰ、特別支援教育要説、総合的な学習の時間要説、栄養学概論、食品学概論、調理学実習、保育学（含実習及び家庭看護）、生活情報処理、家庭科教育法Ⅰ、家庭科教育法Ⅱ、家庭科教育法Ⅲ、家庭科教育法Ⅳ

食物学科

(1) 中学校・高等学校教諭 1 種免許状

3年次終了時まで、次の科目の単位を修得していること。

教職入門、教育原理、教育心理学、道德教育要説、特別活動要説、教育相談、生徒・進路指導論、教育実習指導Ⅰ、特別支援教育要説、総合的な学習の時間要説、衣生活概論、被服工作（和）（洋）、保育学（含実習及び課程看護）、生活情報処理、家庭科教育法Ⅰ、家庭科教育法Ⅱ、家庭科教育法Ⅲ、家庭科教育法Ⅳ

(2) 栄養教諭 1 種免許状

3年次終了時まで、次の科目の単位を修得していること。

教職入門、教育原理、教育心理学、道德教育要説、特別活動要説、教育相談、生徒指導論、特別支援教育要説、総合的な学習の時間要説、学校栄養教諭論Ⅰ、学校栄養教諭論Ⅱ

(3) 栄養教諭 2 種免許状

3年次終了時まで、次の科目の単位を修得していること。

教職入門、教育原理、教育心理学、道德教育要説、特別活動要説、教育相談、生徒指導論、特別支援教育要説、総合的な学習の時間要説、学校栄養教諭論

児童学科

(1) 幼稚園教諭 1 種免許状

「教育実習（幼稚園Ⅱ）」を履修するにあたっては、3年次終了時まで、次の単位を修得していること。

保育者論、教育原理A、教育心理学、子ども理解の基礎、保育内容の指導法

ただし、「保育内容の指導法」については、次の5科目のうち、3科目以上の単位を修得していること。

保育内容健康の指導法、保育内容人間関係の指導法、保育内容環境の指導法、保育内容ことばの指導法、保育内容表現の指導法

(2) 小学校教諭 1 種免許状

3年次終了時まで、次の単位を修得していること。

教師論、教育原理B、教育心理学、各教科の指導法

ただし、「各教科の指導法」は次の9科目のうち、3分の2以上を修得していること。

国語科指導法、算数科指導法、理科指導法、社会科指導法、生活科指導法、音楽科指導法、図工科指導法、家庭科指導法、体育科指導法

(3) 中学校教諭 1 種免許状 [理科]

2年次終了時まで、次の科目の単位を修得していること。

教師論、教育原理B、教育心理学、理科教育法Ⅰ、理科教育法Ⅱ、物理の基礎、化学の基礎、生物の基礎、地学の基礎、物理学基礎実験Ⅰ、化学基礎実験Ⅰ、生物学基礎実験Ⅰ、地学基礎実験Ⅰ

日本文学科

(1) 中学校・高等学校教諭 1 種免許状

3年次終了時まで、次の科目の単位を修得していること。

教職入門、教育原理、教育心理学、道徳教育要説、特別活動要説、教育相談、生徒・進路指導論、教育実習指導Ⅰ、特別支援教育要説、総合的な学習の時間要説、国語科教育法Ⅰ、国語科教育法Ⅱ、国語科教育法Ⅲ

ただし、「国語科教育法」の履修は、日本文学科の主要科目成績等を考慮した選考試験に合格した者に限る。

英語英文学科

(1) 中学校・高等学校教諭 1種免許状

3年次終了時まで、次の科目の単位を修得していること。

教職入門、教育原理、教育心理学、道徳教育要説、特別活動要説、教育相談、生徒・進路指導論、教育実習指導Ⅰ、英語科教育法Ⅰ、英語科教育法Ⅱ、英語科教育法Ⅲ、英語科教育法Ⅳ。ただし、「英語科教育法」の履修は、2年次前期終了時まで英語検定2級に合格した者（またはTOEIC[®]520点以上、TOEFL ITP[®]480点以上、TOEFL iBT[®]57点以上、CASEC 620点以上を取得した者）に限る。

社会情報学科

(1) 高等学校教諭 1種免許状「情報」

社会生活情報学専攻

① 3年次終了時まで次の科目の単位を修得していること。

[全学共通科目] 卒業に必要な単位数（基礎資格科目含む）

[専門科目] 1年次から3年次の必修科目

[教育の基礎的理解に関する科目等]

教職入門、教育原理、教育心理学、教育課程論、生徒・進路指導論、教育実習指導Ⅰ、教育の方法と技術、特別支援教育要説、総合的な学習の時間要説

[教科及び教科の指導法に関する科目]

社会情報概論、情報システム論及び実習Ⅰ、情報システム論及び実習Ⅱ、情報ネットワーク論及び実習Ⅰ、情報ネットワーク論及び実習Ⅱ、オンラインデータ分析、メディア運用演習、情報と職業、情報科教育法Ⅰ、情報科教育法Ⅱ

② 原則として「教科及び教科の指導法に関する科目」および「教育の基礎的理解に関する科目等」の3年次終了時のGPAが2.6以上であること。

情報デザイン専攻

① 3年次終了時まで次の科目の単位を修得していること。

[全学共通科目] 卒業に必要な単位数（基礎資格科目含む）

[専門科目] 1年次から3年次の必修科目

[教育の基礎的理解に関する科目等]

教職入門、教育原理、教育心理学、教育課程論、生徒・進路指導論、教育実習指導Ⅰ、教育の方法と技術、総合的な学習の時間要説

[教科及び教科の指導法に関する科目]

社会情報概論、情報ネットワーク論及び実習Ⅰ、情報ネットワーク論及び実習Ⅱ、マルチメディア論及び実習Ⅰ、マルチメディア論及び実習Ⅱ、アルゴリズム論及び演習Ⅰ、アルゴリズム論及び演習Ⅱ、情報と職業、情報科教育法Ⅰ、情報科教育法Ⅱ

(2) 中学校・高等学校教諭 1種免許状「理科」

① 3年次終了時まで次の科目の単位を修得していること。

[全学共通科目] 卒業に必要な単位数（基礎資格科目含む）

[専門科目] 1年次から3年次の必修科目

[教育の基礎的理解に関する科目等]

教職入門、教育原理、教育心理学、教育課程論、特別活動要説、教育相談、生徒・進路指導論、道徳教育要説、教育の方法と技術、総合的な学習の時間要説、特別支援教育要説、教育実習指導Ⅰ

[教科及び教科の指導法に関する科目]

物理の基礎Ⅰ、物理の基礎Ⅱ、化学の基礎Ⅰ、化学の基礎Ⅱ、生物の基礎Ⅰ、生物の基礎Ⅱ、地学の基礎Ⅰ、地学の基礎Ⅱ、物理基礎実験、化学基礎実験、生物基礎実験、地学基礎実験、理科教育法Ⅰ、理科教育法Ⅱ、理科教育法Ⅲ、理科教育法Ⅳ

② 原則として「教科及び教科の指導法に関する科目」および「教育の基礎的理解に関する科目等」の3年次終了時のGPAが2.6以上であること。

教育実習

教育実習は、教員免許状を取得するために必ず行わなければなりません。その概要は次のとおりです。

(1) 教育実習校の種別及び実習期間

教員免許状の種類	実習校の種別	実習期間	修得単位数
幼稚園教諭免許状	幼稚園	4週間	4単位
小学校教諭免許状	小学校	4週間	4単位
中学校教諭免許状	中学校	3～4週間	4単位
高等学校教諭免許状	高等学校	2週間	2単位
栄養教諭免許状	小学校または中学校	1週間	2単位

中学校及び高等学校教諭の2種類の免許状を取得しようとする場合は、中学校または高等学校で3～4週間教育実習をおこないます。

(2) 教育実習の実施時期

教育実習の実施は4年次の前期を原則としますが、実習校の都合により他の時期に実施することもあります。

(3) 教育実習校の経費

教育実習校に対する教育実習費は、教職課程履修者が別途納める履修費から大学が支払います。

教職課程を履修するために必要な指導事項とその日程

(1) 教職課程に関して、随時ガイダンスを行います（掲示等により日時を通知する）ので、必ず出席してください。理由なくガイダンスを欠席、または所定の期間内に書類等を提出しない場合は、教職課程の履修を放棄したものとみなします。

(2) 教育実習実施の詳細な方法は、実習実施の直前に説明を行います。

(3) 教職課程を履修するために必要な指導事項とその日程は下表のとおりです。

学年	指導内容・事項	実施時期・期間
1年次	第1回教職課程履修ガイダンス 第2回教職課程履修ガイダンス 教職課程履修費納入 介護等体験ガイダンス 教職課程履修費納入(2年次分)	4月上旬 6月下旬～7月上旬 9月中旬 1月中旬 1月中旬
2年次	介護等体験(社会福祉施設)届提出 幼稚園教育実習(観察・参加実習)<児学2年> 介護等体験ガイダンス(社会福祉施設) 介護等体験(社会福祉施設) 教員採用試験第1次特別講座[オリエンテーション] 教職課程履修費納入(3年次分) 教育実習手続きガイダンス	4月上旬 6月 6月下旬 5日間 10月中旬 1月中旬 1月下旬
3年次	介護等体験(特別支援学校)届提出 介護等体験ガイダンス(特別支援学校) 介護等体験(特別支援学校) 教育実習調査票および内諾書提出 教員採用試験第2次特別講座[基礎講座] 教員採用試験第3次特別講座[教員採用試験の傾向と対策] 教員採用試験第4次特別講座[論作文講座] 教職課程履修費納入(4年次分) 教育実習確認訪問ガイダンス 教員採用試験第5次特別講座[応用講座] 教育実習校確認訪問	4月上旬 4月下旬 2日間 6月上旬 7月下旬～8月上旬 10月下旬～11月上旬 12月～4年次の8月下旬 1月中旬 1月下旬 2月下旬 3月下旬～4年次の4月上旬
4年次	教育実習関係書類提出 幼稚園教育実習(本実習)<児学4年> 教育実習(小学校) 教育実習(栄養教諭) 教育実習(中学・高等学校) 教員採用試験第6次特別講座[面接対策講座] 経過報告書提出 教育実習録提出 教員採用試験一次試験結果報告書提出 教員免許状授与願申請申込書提出 教員免許状授与願記載事項確認、署名捺印、申請手数料納入 教員免許状授与	4月上旬 5月(原則) 5月～6月(原則) 5月～6月(原則) 5月下旬～6月下旬(原則) 6月下旬・8月中旬 実習終了後2週間以内 実習終了後1ヶ月以内 7月上旬～9月下旬 7月中旬 11月下旬～12月上旬 3月20日

注 この日程は一応の目安であり、詳細についてはその都度掲示等により通知します。

2 図書館学課程

図書館学課程について

図書館学課程には、図書館司書課程と学校図書館司書教諭課程の2つの課程があります。それぞれ所定の単位を修得することにより、司書または司書教諭のいずれかの資格を取得することができます。

(1) 図書館司書課程

司書とは、図書館法第4条により、図書館において専門的職務に従事する職員をいう。受講学生は卒業に必要な単位のほかに、別に掲げる図書館司書課程科目として開講している所定の授業科目を履修し、修得しなければなりません。

(2) 学校図書館司書教諭課程

司書教諭とは、学校図書館法第5条により、小学校・中学校・高等学校の各図書館において、その専門的職務を担当する教員をいう。受講学生は、教育職員免許状の取得を前提とし、学校図書館司書教諭課程科目として開講されているすべての授業科目を履修し、修得しなければなりません。

図書館司書課程を履修できる学部・学科

- ・家政学部食物学科食物学専攻（教職課程または博物館学芸員課程を履修する学生は履修できません。）
- ・家政学部児童学科（小学校、中学校の教職課程を履修する学生は履修できません。）
- ・家政学部ライフデザイン学科
- ・文学部日本文学科（教職課程または博物館学芸員課程を履修する学生は履修できません。）
- ・文学部英語英文学科（教職課程または博物館学芸員課程を履修する学生は履修できません。）
- ・文学部コミュニケーション文化学科
- ・社会情報学部社会情報学科（教職課程を履修する学生は履修できません。）
- ・比較文化学部比較文化学科

学校図書館司書教諭課程を履修できる学部・学科

- ・家政学部児童学科（小学校の教職課程を履修する学生は履修できます。）
- ・文学部日本文学科（博物館学芸員課程を履修する学生は履修できません。）
- ・文学部英語英文学科（博物館学芸員課程を履修する学生は履修できません。）
- ・社会情報学部社会情報学科（博物館学芸員課程を履修する学生は履修できません。）

図書館学課程授業科目一覧

(1) 図書館司書課程科目

(平成24年度入学生から適用)

区分	科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	備考	
必修	基礎科目	生涯学習概論	2	半期	講義	2	博物館学芸員課程と同時開講
		図書館概論	2	半期	講義	2	
		図書館情報技術論	2	半期	講義・演習	3	
		図書館制度・経営論	2	半期	講義	2	
	図書館サービスに関する科目	図書館サービス概論	2	半期	講義	2	
		情報サービス論	2	半期	講義	3	
		児童サービス論	2	半期	講義・演習	3	
		情報サービス演習(1)	1	半期	演習	3	
	図書館情報資源に関する科目	情報サービス演習(2)	1	半期	演習	4	
		図書館情報資源概論	2	半期	講義	2	学校図書館司書教諭課程と同時開講
		情報資源組織論	2	半期	講義	3	学校図書館司書教諭課程と同時開講
		情報資源組織演習	2	通年	演習	4	
選択必修	図書館サービス特論(1) 図書・図書館史	2	半期	講義	3・4		
	図書館サービス特論(2) 図書・図書館史	2	半期	講義	3・4		
	図書館情報資源特論(1) 図書館施設論	2	半期	講義	3・4		
	図書館情報資源特論(2) 図書館基礎特論	2	半期	講義	3・4		
	図書館総合演習	1	半期	演習	3・4		

注 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

(2) 学校図書館司書教諭課程科目

(平成26年度入学生から適用)

区分	科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	備考
必修	学校経営と学校図書館	2	半期	講義	3	
	図書館情報資源概論	2	半期	講義	3	司書課程と同時開講
	情報資源組織論	2	半期	講義	3	司書課程と同時開講
	学習指導と学校図書館	2	半期	講義	3	
	読書と豊かな人間性	2	半期	講義	3	
	情報メディアの活用	2	半期	講義	4	

注 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

履修方法

(1) 履修希望者へのガイダンス

a 図書館司書課程

履修希望者は、1年次の11月頃に実施される図書館司書課程ガイダンスに必ず出席してください。このガイダンスに遅刻または欠席した者は、課程の履修はできません。

なお、図書館司書課程の定員は、家政学部・文学部の学生を合わせて70名、社会情報学部・比較文化学部の学生を合わせて40名です。

b 学校図書館司書教諭課程

履修希望者は、2年次の11月頃に実施される学校図書館司書教諭課程ガイダンスに必ず出席してください。このガイダンスに遅刻または欠席した者は、課程の履修はできません。

なお、学校図書館司書教諭課程については特に定員を設けていませんが、P202の「学校図書館司書教諭課程を履修できる学部・学科」に記載されている条件を満たす学生のみ履修することができます。

(2) 履修の手続き

履修の許可を得た者は、指定された日時に履修費を支払い手続きを完了してください。指定の日時に手続きを完了しない場合は履修の許可を取り消します。また、いったん納入した履修費は、原則として返還しません。

(3) 履修に要する経費

a 履修費（予定）	図書館司書課程	2年次	8,000円	3年次	8,000円	4年次	8,000円
	学校図書館司書教諭課程			3年次	12,000円	4年次	12,000円

b 教材、その他 若干

（注）履修費の金額は確定ではありません。一応の目安と考えてください。

卒業要件との関係

図書館学課程において修得した単位は、4単位を上限として卒業に必要な全学共通科目の選択科目の単位に含めることができます。詳細は、P100を確認してください。

履修に関する注意**(1) 図書館司書課程**

- ① 図書館司書課程科目として開講している科目のうち、必修科目はすべて履修し、修得してください。
- ② 図書館司書課程科目として開講している科目のうち、選択必修科目は2単位以上を履修し、修得してください。
- ③ 課程を放棄する場合は、事前に資格支援グループに申し出たうえで、所定の手続きをおこなってください。

(2) 学校図書館司書教諭課程

- ① 教員免許状の取得を前提とし、学校図書館司書教諭課程科目として開講されている全ての授業科目を履修し、修得してください。
- ② 課程を放棄する場合は、事前に資格支援グループに申し出たうえ、所定の手続きをおこなってください。

資格取得に必要な科目及び単位数

(1) 司書

(平成24年度入学生から適用)

	図書館法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目		
	区分	科目名	単位	科目名	単位	
甲群	基礎科目	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	
		図書館概論	2	図書館概論	2	
		図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	2	
		図書館制度・経営論	2	図書館制度・経営論	2	
	図書館サービスに関する科目	図書館サービス概論	2	図書館サービス概論	2	
		情報サービス論	2	情報サービス論	2	
		児童サービス論	2	児童サービス論	2	
	図書館情報資源に関する科目	情報サービス演習	2	情報サービス演習(1)	1	
				情報サービス演習(2)	1	
		図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	2	
情報資源組織論		2	情報資源組織論	2		
乙群	(2科目選択)	情報資源組織演習	2	情報資源組織演習	2	
		図書館基礎特論	1	図書館基礎特論	1	
		図書館サービス特論	1	図書館サービス特論(1)	1	
				図書館サービス特論(2)	1	
		図書館情報資源特論	1	図書館情報資源特論(1)	1	
				図書館情報資源特論(2)	1	
		図書・図書館史	1	図書・図書館史	1	
		図書館施設論	1	図書館施設論	1	
図書館総合演習	1	図書館総合演習	1			
		図書館実習	1			
				-		

(2) 司書教諭

(平成26年度入学生から適用)

	学校図書館司書教諭講習規程に定める科目区分等		左記に対応する本学開設科目	
	科目名	単位	科目名	単位
必修	学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	2
	学校図書館メディアの構成	2	図書館情報資源概論	2
			情報資源組織論	2
	学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2
	読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2
情報メディアの活用	2	情報メディアの活用	2	

3 博物館学芸員課程

博物館学芸員課程について

博物館（美術館・資料館・天文台・動物園・水族館・植物園などを含む）は、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行う社会教育施設です。この目的を達成するため、館の業務（資料の収集・保管・研究・展示・教育）をつかさどる者を「学芸員」といい、これを養成するために、本学に博物館学芸員課程が設けられています。

学芸員の資格は、学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令（博物館法施行規則）で定める博物館に関する所定の科目の単位を修得する必要があります。

博物館学芸員課程を履修できる学科・専攻

- ・家政学部被服学科
- ・家政学部食物学科食物学専攻（教職課程または図書館学課程を履修する学生は履修できません。）
- ・家政学部児童学科児童学専攻
- ・家政学部児童学科児童教育専攻
- ・家政学部ライフデザイン学科
- ・文学部日本文学科（図書館学課程を履修する学生は履修できません。）
- ・文学部英語英文学科（図書館学課程を履修する学生は履修できません。）
- ・文学部コミュニケーション文化学科
- ・社会情報学部社会情報学科（教職課程を履修する学生は履修できません。）
- ・比較文化学部比較文化学科

博物館学芸員課程授業科目一覧

（平成24年度入学生から適用）

区分	科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	備 考
必修	生涯学習概論	2	半期	講義	2	図書館学課程と同時開講
	博物館概論	2	半期	講義	2	
	博物館経営論	2	半期	講義	2・3・4	
	博物館資料論	2	半期	講義	2・3・4	
	博物館資料保存論	2	半期	講義	2・3・4	
	博物館展示論	2	半期	講義	2・3・4	
	博物館情報・メディア論	2	半期	講義	2・3・4	
	博物館教育論	2	半期	講義	2	
	博物館実習	3	通年	実習	3・4	
選択	文化史 A	2	半期	講義	2・3・4	
	文化史 B	2	半期	講義	2・3・4	
	美術史 A	2	半期	講義	2・3・4	
	美術史 B	2	半期	講義	2・3・4	
	美術の世界	2	半期	講義	1・2・3・4	全学共通科目
	考古学の世界	2	半期	講義	1・2・3・4	全学共通科目
	民俗学 A	2	半期	講義	2・3・4	
	民俗学 B	2	半期	講義	2・3・4	
	生活の物理	2	半期	講義	1・2・3・4	全学共通科目
	生活の化学	2	半期	講義	1・2・3・4	全学共通科目
人類の進化	2	半期	講義	1・2・3・4	全学共通科目	

注（1）各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注（2）選択科目は8単位以上修得すること。

履修方法

（1）履修希望者へのガイダンス

履修希望者は、1年次の11月頃に実施される博物館学芸員課程ガイダンスに必ず出席してください。このガイダンスに遅刻または欠席した者は、課程の履修はできません。

なお、博物館学芸員課程の定員は、家政学部・文学部の学生を合わせて50名、社会情報学部・比較文化学部の学生を合わせて35名です。

(2) 履修の手続き

履修の許可を得た者は、所定の日時に履修費の支払い手続きをしてください。指定の日時に手続きを完了しない場合は、履修の許可を取り消します。

また、いったん納入した履修費は、原則として返還しません。

(3) 受講に要する経費

- ① 履修費（予定） 2年次 5,000円 3年次 15,000円 4年次 15,000円
 ② 教材、その他 若干

（注）履修費の金額は確定ではありません。一応の目安と考えてください。

卒業要件との関係

博物館学芸員課程において修得した単位（全学共通科目に係る単位を除く。）は、4単位を上限として卒業に必要な全学共通科目の選択科目の単位に含めることができます。詳細は、P100を確認してください。

履修に関する注意

- (1) 必修科目は、すべて修得してください。
 (2) 選択科目は、8単位以上を修得してください。

資格取得に必要な科目、単位数

（平成24年度入学生から適用）

	博物館法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学開設科目	
	科目名	単位	科目名	単位
必修	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2
	博物館概論	2	博物館概論	2
	博物館経営論	2	博物館経営論	2
	博物館資料論	2	博物館資料論	2
	博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2
	博物館展示論	2	博物館展示論	2
	博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2
	博物館教育論	2	博物館教育論	2
	博物館実習	3	博物館実習	3
選択	文化史	—	文化史 A	2
			文化史 B	2
	美術史	—	美術史 A	2
			美術史 B	2
			美術の世界	2
	考古学	—	考古学の世界	2
	民俗学	—	民俗学 A	2
			民俗学 B	2
	自然科学史	—	—	—
物理	—	生活の物理	2	
化学	—	生活の化学	2	
生物	—	人類の進化	2	
地学	—	—	—	

注 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

博物館実習

「博物館実習」は、学芸員資格を取得するために行う必修科目であり、この授業の中で以下の実習を行います。

項目	内容	場所
授業内講義	資格取得手続き・博物館関連法規 資料分類・展示構成 各種資料の取扱 他各種資料の取扱・調書作成など	学内
授業内実習		
授業内見学		
館務実習（学外実習）	資料取扱・展示解説・保管管理 避難誘導・来館者対応など	博物館・博物館相当施設

4 栄養士及び管理栄養士課程

栄養士及び管理栄養士課程について

(1) 栄養士課程について

食物学科食物学専攻は、栄養士法に基づく栄養士養成施設の指定を受けた施設であり、所定の科目の単位を修得することにより卒業と同時に栄養士免許証を取得することができます。栄養学・食品学・調理学の理論と技術を基礎として栄養教育論・臨床栄養学・公衆栄養学・食安全学・給食管理論などを修得した栄養士の育成をめざしています。この課程は、卒業後、栄養士実務経験をもって管理栄養士国家試験受験資格が得られます。

栄養士とは、都道府県知事の免許を受けて、栄養士の名称を用いて栄養の指導に従事することを業とする者をいいます（栄養士法第1条第1項）。

(2) 管理栄養士課程について

食物学科管理栄養士専攻は、栄養士法に基づく管理栄養士養成施設の指定を受けた施設であり、所定の科目の単位を修得することにより卒業と同時に栄養士免許証を取得することができ、さらに所定の科目の単位を修得することで管理栄養士国家試験受験資格が得られる課程です。この課程は、基礎専門分野の社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康にかかわる科目の理論と技術を学び、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論など専門分野の科目を修得し、一次予防、二次予防、三次予防ができる食・健康づくりの専門家の育成をめざしています。

管理栄養士とは、厚生労働大臣の免許を受けて、管理栄養士の名称を用いて、

- ①傷病者に対する療養のため必要な栄養の指導
- ②個人の身体の状態、栄養状態に応じた高度の専門的知識及び技術を要する健康の保持増進のための栄養の指導
- ③特定多数人に対して継続的に食事を供給する施設における利用者の身体の状態、栄養状態、利用状況に応じた特別の配慮を必要とする給食管理及びこれらの施設に対する栄養改善上必要な指導等を行うことを業とする者をいいます（栄養士法第1条第2項）。

校外実習・臨地実習

栄養士課程においては、給食業務を行うために必要な給食サービス提供に関し、栄養士として具備すべき知識及び技能を修得させることを目的に校外実習（物を対象とした業務）として「給食の運営」について1週間1単位以上を必須としています。実習施設は、小・中学校、会社・事業所、社会福祉施設、自衛隊給食等から選択し、実習時期は3年次後期から4年次とします。

管理栄養士課程においては、実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識及び技能を修得するため、臨地実習（人を対象とした実務）4単位以上（校外実習1単位以上を含む）を必須としています。実習施設は病院、保健所・保健センター、小・中学校、社会福祉施設、会社・事業所、自衛隊などで、実習時期は3年次後期から4年次となります。

ただし、校外実習・臨地実習の履修に際しては、次の授業科目を履修登録し受講中の者または履修済みの者とします。

(食物学専攻)

栄養と健康：応用栄養学、応用栄養学実習

栄養の指導：栄養教育論Ⅰ、栄養教育論実習Ⅰ、食事設計論実習

給食の運営：基礎調理学実習、給食管理論Ⅰ・Ⅱ、給食管理実習Ⅰ

栄養士課程必修：臨床栄養学実習、栄養教育論実習Ⅱ、給食管理実習Ⅱ

(管理栄養士専攻)

食べ物と健康：基礎調理学実習Ⅰ、食事設計論実習、食安全学

応用栄養学：ライフステージ栄養学、ライフステージ栄養学実習

栄養教育論：栄養教育論Ⅰ・Ⅱ、栄養教育論実習Ⅰ・Ⅱ

臨床栄養学：臨床栄養指導論、臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱ

公衆栄養学：公衆栄養学Ⅰ・Ⅱ、公衆栄養学実習

給食経営管理論：給食経営管理論Ⅰ・Ⅱ、給食経営管理実習Ⅰ・Ⅱ

なお、具体的な実習日時・内容等は、実習施設と調整し決定します。

栄養士実力認定試験について

全国栄養士養成施設協会が、栄養士の資質向上等を図るため実施する栄養士実力認定試験に本学も参加し、学力の向上を図っています。

栄養士実力認定試験は、12月上旬に実施され、協会の認定基準に従い認定証が発行されます。

食医学専攻は3年次、管理栄養士専攻は4年次に受験します。

栄養士免許取得に必要な科目、単位数（食医学専攻）

(平成27年度入学生から適用)

栄養士法施行規則に定める科目	単位数		本学授業開講科目			
	講義又は演習	実験又は実習	授業科目名	単位		備考
				講義又は演習	実験又は実習	
社会生活と健康	4	4	公衆衛生学	2		
			社会福祉論	2		
			生活環境学実験		1	
人体の構造と機能	8		生理学	2		
			人体構造機能論実験		1	
			人体構造機能論	2		
			疾病の成り立ちⅠ	2		
			生化学	2		
食品と衛生	6		食品化学	2		
			食品化学実験	2	1	
		食品学	2		1	
		食品安全学Ⅰ	2			
		食品安全学実験		1		
栄養と健康	8	10	基礎栄養学Ⅰ	2		
			基礎栄養学Ⅱ	2		
			栄養化学Ⅰ	2		
			栄養化学実験		1	
			病態栄養学	2		
			臨床栄養学	2		
			臨床栄養学実習		1	
			応用栄養学	2		
応用栄養学実習			1			
栄養の指導	6		食事設計論	2		
		食事設計論実習		1		
		栄養教育論Ⅰ	2			
		栄養教育論Ⅱ	2			
		栄養教育論実習Ⅰ		1		
		栄養教育論実習Ⅱ		1		
給食の運営	4	公衆栄養学	2			
		給食管理論Ⅰ	2			
		給食管理論Ⅱ	2			
		校外実習指導	1			
		給食管理実習Ⅰ		1		
		給食管理実習Ⅱ		1		
		調理科学Ⅰ	2			
		基礎調理学実習		1		
調理学実習		1				
校外実習		1				

栄養士免許取得に必要な科目、単位数（管理栄養士専攻）

（平成27年度入学生から適用）

栄養士法施行規則に定める科目	単位数		本学授業開講科目			
	講義又は演習	実験又は実習	授業科目名	単位		備考
				講義又は演習	実験又は実習	
社会生活と健康	4	4	公衆衛生学Ⅰ	2		
			公衆衛生学Ⅱ	2		
			実践統計学	2		
			社会福祉論	2		
人体の構造と機能	8		生活環境実験		1	
			疾病の成り立ちⅠ	2		
			疾病の成り立ちⅡ	2		
			生化学Ⅰ	2		
			生化学Ⅱ	2		
			生化学実験		1	
			栄養生化学	2		
			生理学	2		
			人体構造機能論	2		
			人体構造機能論実験		1	
食品と衛生	6		栄養代謝実習		1	
			食品学	2		
			食品学実験		1	
			食品化学	2		
			食品化学実験		1	
栄養と健康	8		食品安全学実験	2		
			食品安全学	2		
			基礎栄養学Ⅰ	2		
			基礎栄養学Ⅱ	2		
			栄養学実験		1	
			食事摂取基準論	2		
			ライフステージ栄養学	2		
			ライフステージ栄養学実習		1	
			応用栄養科学	2		
			病態栄養学Ⅰ	2		
			病態栄養学Ⅱ	2		
			臨床栄養学Ⅰ	2		
			臨床栄養学Ⅱ	2		
			臨床栄養学実習Ⅰ		1	
			臨床栄養学実習Ⅱ		1	
栄養の指導	6		臨床栄養指導論	2		
			栄養教育論Ⅰ	2		
			栄養教育論Ⅱ	2		
			栄養教育論実習Ⅰ		1	
			栄養教育論実習Ⅱ		1	
			カウンセリング論	2		
			公衆栄養学Ⅰ	2		
			公衆栄養学Ⅱ	2		
給食の運営	4		公衆栄養学実習		1	
			調理科学	2		
		基礎調理学実習Ⅰ		1		
		基礎調理学実習Ⅱ		1		
		食事設計論実習		1		
		給食経営管理論Ⅰ	2			
		給食経営管理論Ⅱ	2			
		給食経営管理実習Ⅰ		1		
		給食経営管理実習Ⅱ		1		
		臨地実習指導	2			
臨地実習Ⅰ		1				

管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な科目、単位数

(平成27年度入学生から適用)

管理栄養士学校指定規則による規定			本学授業開講科目名					
教育内容	単位数		授業科目名	単位数				
	講義又は演習	実験又は実習		講義又は演習	実験又は実習			
専門基礎分野	社会・環境と健康	6	10	公衆衛生学 I	2			
				公衆衛生学 II	2			
				実践統計学	2			
				社会福祉論	2			
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	14		10	生活環境実験		1	
					疾病の成り立ち I	2		
					疾病の成り立ち II	2		
					生化学 I	2		
					生化学 II	2		
					生化学実験		1	
					栄養生化学	2		
					生理学	2		
	人体構造機能論	2						
	食べ物と健康	8		10	人体構造機能論実験		1	
					栄養代謝実習		1	
					食品学	2		
					食品学実験		1	
					食品化学	2		
					食品化学実験		1	
					食安全学	2		
食安全学実験					1			
専門分野	基礎栄養学	2	8	基礎調理学実習 I		1		
				基礎調理学実習 II		1		
	応用栄養学	6		8	食事設計論実習		1	
					基礎栄養学 I	2		
					基礎栄養学 II	2		
					栄養学実験		1	
	栄養教育論	6			8	食事摂取基準論	2	
						ライフステージ栄養学	2	
						ライフステージ栄養学実習		1
						応用栄養科学	2	
						栄養教育論 I	2	
						栄養教育論 II	2	
臨床栄養学	8	8	栄養教育論実習 I				1	
			栄養教育論実習 II				1	
			カウンセリング論	2				
			病態栄養学 I	2				
			病態栄養学 II	2				
			臨床栄養学 I	2				
			臨床栄養学 II	2				
			臨床栄養学実習 I		1			
臨床栄養学実習 II			1					
公衆栄養学	4		8	臨床栄養学指導論	2			
				公衆栄養学 I	2			
				公衆栄養学 II	2			
		公衆栄養学実習			1			
給食経営管理論	4	8		給食経営管理論 I	2			
				給食経営管理論 II	2			
				給食経営管理実習 I		1		
				給食経営管理実習 II		1		
総合演習	2			8	臨地実習指導	2		
					管理栄養士概論 I	2		
					管理栄養士概論 II	2		
					管理栄養士総合演習	2		
臨地実習	4		8		臨地実習 I*		1	
					臨地実習 II		3	

* 給食の運営に係る校外実習を含む

5 食品衛生管理者及び食品衛生監視員

食物学科管理栄養士専攻は、食品衛生法第48条第6項第3号に基づく食品衛生管理者の養成施設及び食品衛生法施行令第9条第1項第1号に基づく食品衛生監視員の養成施設として登録を受けた施設であり、所定の科目の単位を修得することにより卒業と同時に食品衛生管理者及び食品衛生監視員となる資格（任用資格）を得ることができます。

ただし、卒業要件を満たすために修得しなければならない科目と、食品衛生管理者及び食品衛生監視員となる資格を得るために修得しなければならない科目は異なります。

食品衛生管理者及び食品衛生監視員資格に必要な科目、単位数

(平成27年度入学生から適用)

	食品衛生法施行規則に定める学科		左記に対応する本学開講科目			
	区 分	科 目	本学授業科目名	資格取得に必要な単位数		
				必 修	選 択	
A群	化 学	分析化学	生 活 環 境 実 験	1		
		有機化学	化 学 II	2		
		無機化学	化 学 I	2		
		小 計			5	0
B群	生 物 化 学	生物化学	生 化 学 I	2		
			生 化 学 II	2		
			生 化 学 実 験	1		
		食品化学	食 品 化 学	2		
			食 品 化 学 実 験	1		
		生理学	生 理 学	2		
小 計			10	0		
C群	微 生 物 学	食品微生物学	食 品 微 生 物 学	2		
			食 品 微 生 物 学 実 験	1		
		食品製造学	食 品 学	2		
			食 品 学 実 験	1		
小 計			6	0		
D群	公 衆 衛 生 学	公衆衛生学	公 衆 衛 生 学 I	2		
			公 衆 衛 生 学 II	2		
		食品衛生学	食 安 全 学	2		
			食 安 全 学 実 験	1		
		環境衛生学	環 境 科 学 概 論		2	
小 計			7	2		
A群からD群までそれぞれ1科目以上で合計22単位以上 合計 (A+B+C+D)				28	2	
E群	そ 他 関 連 科 目	病理学	疾 病 の 成 り 立 ち I	2		
			疾 病 の 成 り 立 ち II	2		
		解剖学	人 体 構 造 機 能 論		2	
			栄養学	基 礎 栄 養 学 I	2	
		基 礎 栄 養 学 II		2		
		栄 養 学 実 験		1		
		病 態 栄 養 学 I		2		
		栄養化学	病 態 栄 養 学 II	2		
			栄 養 生 化 学	2		
		衛生管理学	給 食 経 営 管 理 論 I	2		
			給 食 経 営 管 理 論 II	2		
			給 食 経 営 管 理 実 習 I	1		
			給 食 経 営 管 理 実 習 II	1		
		その他	調 理 科 学		2	
調 理 科 学 実 験			1			
卒 業 論 文 I			2			
卒 業 論 文 II			2			
小 計			25	5		
A群からE群を含め40単位以上を履修 合計 (A+B+C+D+E)				53	7	

■食品衛生管理者

乳製品、食肉製品など、食品衛生法に定められた食品又は添加物の製造又は加工を行う営業者は、その製造又は加工を衛生的に管理させるため、その施設ごとに、専任の「食品衛生管理者」を置かなければならないことになっています。

■食品衛生監視員

都道府県知事等は、都道府県等食品衛生監視指導計画の定めるところにより監視指導を、また、厚生労働大臣は、輸入食品監視指導計画に定めるところにより食品、添加物、器具及び容器包装の輸入に係る監視指導を、それぞれ「食品衛生監視員」に行なわせることになっています。

6 保育士課程

保育士課程について

本学において保育士資格を取得する者は、必ず保育士課程を履修しなければなりません。この課程は、保育所及びその他の児童福祉施設において、保育士として保育に従事する者を養成することを目的としています。

保育士とは、児童福祉法第18条第4項では、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者としています。保育士には、その対象とする児童の生活と発達を守り育てるための専門的な援助者としての役割があります。そのために、保育士養成校である本学においても、保育士資格を取得する者は基礎教養を身につけることはいうまでもなく、保育や児童養護（施設養護）に関する理論と実践の両面から高い見識を養えるように、教科内容を整えています。

本学の保育士課程は、四年制大学としての特色を生かせるように考慮されています。大学1・2年次の段階では、主として保育や児童養護をはじめ児童理解を深めるように、基礎教養の修得に見合う教科の学習を主としています。そして、2年次2月から3年次にかけて、保育所及びその他の児童福祉施設の現場における実習を行います。こうした実習体験をふまえ、児童学科本来の児童学演習や卒業研究その他の専門的教科目による全学習課程を経ることによって、質の高い保育者の養成にかなうことが期待されます。

保育士課程受講希望者に対する注意

履修した保育士課程の授業・ガイダンスには必ず出席すること。

履修に要する経費

履修費（予定） 1年次 9,000円 2年次 17,000円 3年次 20,000円 4年次 12,000円
その他 履修カルテシステム利用料として、毎年500円

（注）履修費の金額は確定ではありません。一応の目安と考えてください。

保育実習

保育実習は、その修得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを生かして総合的に実践する力量を養うことを目的とします。実習を通して、児童の生活と発達の現実にふれつつ、援助者としての保育士の役割についての理解を深めることが可能となります。

本学における保育実習は「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」と「保育実習指導Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」「保育実習指導Ⅲ」があり、以下のように実施します。

（1）「保育実習Ⅰ」（必修）では、保育所での実習（90時間以上）と保育所以外の児童福祉施設での実習（90時間以上）とを行う。

本学における児童福祉施設としては、乳児院、児童養護施設、医療型障害児入所施設、児童発達支援センター、母子生活支援施設などがある。

（2）「保育実習Ⅱ」及び「保育実習Ⅲ」は、いずれか一方を選択する。（選択必修）

（3）「保育実習Ⅱ」では、保育所での実習（90時間以上）を行う。

この場合、上記の（1）「保育実習Ⅰ」における保育所実習に引き続き、同一保育所で行うことを原則とする。

（4）「保育実習Ⅲ」では、通所型児童福祉施設での実習（90時間以上）を行う。

（5）「保育実習指導Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」「保育実習指導Ⅲ」では、保育実習に当たり、実習に関する予備知識の習得や諸注意などを含めた事前指導と、実習反省会を主とした事後指導を行う。

本学における保育実習表

実習種別	実習施設と日数	
保育実習Ⅰ（必修）	保育所	90時間以上（原則1日8時間以内、12日以上）
	児童福祉施設	90時間以上（原則1日8時間以内、12日以上）
保育実習Ⅱ（選択必修）	保育所	90時間以上（原則1日8時間以内、12日以上）
保育実習Ⅲ（選択必修）	通所型児童福祉施設	90時間以上（原則1日8時間以内、12日以上）

保育士資格取得に必要な科目及び単位数

児童福祉法施行規則に定める教科目				左記に対応する本学開設科目(単位)
系列	教科目	授業形態	単位数	
教養科目	外国語、体育以外の科目	不問	6以上	コンピュータ基礎 A (2) コンピュータ基礎 B (2) 日本国憲法 (2)
	外国語	演習	2以上	英語 I A① 英語 I B①
	体育	講義	1	スポーツと健康②
		実技	1	スポーツ A (1) スポーツ B (1) スポーツ C (1) スポーツ D (1)
合計		10単位以上		
系列	教科目	授業形態	単位数	左記に対応する本学開設科目(単位)
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理②
	教育原理	講義	2	教育原理 A ②
	子ども家庭福祉	講義	2	子ども家庭福祉論②
	社会福祉	講義	2	社会福祉学②
	子ども家庭支援論	講義	2	子ども家庭支援論②
	社会的養護 I	講義	2	社会的養護論②
	保育者論	講義	2	保育者論②
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	講義	2	子ども理解の基礎②
	子ども家庭支援の心理学	講義	2	子ども家庭支援の心理学②
	子どもの理解と援助	演習	1	子どもの理解と援助②
	子どもの保健	講義	2	子どもの保健②
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養②
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	2	保育カリキュラム論②
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論②
	保育内容演習	演習	5	保育内容健康の指導法② 保育内容人間関係の指導法② 保育内容環境の指導法② 保育内容ことばの指導法② 保育内容表現の指導法②
	保育内容の理解と方法	演習	4	保育内容の理解と方法 I ② 保育内容の理解と方法 II ②
	乳児保育 I	講義	2	乳児保育 I ②
	乳児保育 II	演習	1	乳児保育 II ②
	子どもの健康と安全	演習	1	子どもの健康と安全②
	障害児保育	演習	2	障がい児保育②
	社会的養護 II	演習	1	社会的養護内容②
	子育て支援	演習	1	子育て支援②
保育実習	保育実習 I	実習	4	保育実習 I [4]
	保育実習指導 I	演習	2	保育実習指導 I A [2] 保育実習指導 I B [2] 保育者養成基礎演習 I [2] 保育者養成基礎演習 II [2]
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育・教職実践演習②
合計		51単位		

児童福祉法施行規則に定める教科目				左記に対応する本学開設科目(単位)	
系列	教科目	授業形態	単位数		
保育の本質・目的に関する科目		講義	15以上	子どもの権利論② 子どもと貧困(2)	
		演習		保育カンファレンス演習(2) 教育相談の基礎②	
		講義		教育心理学②	
保育の対象の理解に関する科目	各指定保育士養成施設において設定	講義・演習	15以上	子どもと遊びA② 子どもとからだ② 子どもと物語(2) 保育方法演習② 学童保育(2) 子どもNPO(2) 保育者とアート(造形)(2) 保育者とアート(音楽)(2) 保育者とアート(パフォーマンス)(2) 保育者とからだ(2) 子どもと科学する心(2) 保育者とメディア(2) (注)	
				講義	特別支援教育A②
				講義	児童文化論②
				講義	家庭経営学概論(含家庭経済学)(2)
				演習	音楽技術Ⅰ(2) 音楽技術Ⅱ(2) 造形技術(2)
				実習	保育実習Ⅱ
保育実習指導Ⅱ	演習	1	保育実習指導Ⅱ[2]		
合計			18単位以上		

(注)「保育者とアート(造形)」「保育者とアート(音楽)」「保育者とアート(パフォーマンス)」「保育者とからだ」「子どもと科学する心」「保育者とメディア」のうち、1科目2単位以上を履修すること。

7 1級衣料管理士資格

1級衣料管理士について

本学の家政学部被服学科は、カリキュラム編成、単位数、教員組織、施設設備など衣料管理士教育に必要な要件を満たし1級衣料管理士の教育を行う大学として、日本衣料管理協会の認定を受けており、所定の単位を修得し、卒業した者に対して、1級衣料管理士の資格認定証が交付されます。

最近の繊維製品は、多様化、特殊化、高級化の傾向にあり、輸入品も増えてきています。このため、繊維製品の苦情相談件数は、年々増加の傾向にあります。このような時代にあって、企業と消費者のパイプ役を果たすのが、衣料管理士（Textile Adviser）です。衣料管理士は、生産、流通、消費の接点に立って、お互いのコミュニケーションを図り、より良い衣生活を実現するため、社会的に大きな使命を担っています。衣料管理士は、繊維製品分野における HEIB（Home Economist in Business）と言えるかもしれません。現在、内閣府所管の一般社団法人日本衣料管理協会が認定を行い、1級（4年制大学）、2級（短期大学）の資格を授与しています。衣料管理士の活動業務としては、商品の企画、販売、商品試験、調査、研究等をあげることができ、百貨店、量販店、素材メーカー、アパレルメーカー、消費者センター、各種試験機関などで活躍しています。

資格申込方法

（1）申込者の募集

衣料管理士資格取得者の定員は、被服学科の学生約40名です。応募人員が定員を上回った場合は、選抜試験を実施します。

（2）申込の手続き

申込の許可を得た者は、指定された日時に履修費を支払い手続きを完了してください。指定の日時に手続きを完了しない場合は申込の許可を取り消します。

また、いったん納入した履修費は、原則として返還しません。

（3）資格取得に要する経費

- ① 履修費（予定） 3年次 12,000円 4年次 5,000円
- ② 認定証交付手数料等 4年次 17,500円（参考：2019年度）

（注）履修費、認定証交付手数料等の金額は確定ではありません。一応の目安と考えてください。

1級衣料管理士資格取得に必要な科目、単位数

(平成29年度入学生から適用)

区分	グループ	協会の指定科目・単位数		左記に対応する本学開設科目等			資格取得に必要な単位数
		科目名	単位数	科目名	講義・演習等の別	単位数	
A 必修	材料	被服繊維学	(講義)2	繊維科学	講義	②	24
		被服材料学	(講義)2	被服材料学	講義	②	
		繊維学実験Ⅰ	(実験)1	繊維科学実験	実験	[2]	
		材料学実験Ⅰ	(実験)1	被服材料学実験	実験	②	
	加工・整理	被服整理学	(講義)2	被服管理学	講義	[2]	
		染色加工学	(講義)2	染色学	講義	[2]	
		被服整理学実験	(実験)1	界面科学	実験	[2]	
	企画・設計・生産	アパレル企画論	(講義)2	アパレル企画	演習	[2]	
		アパレル設計論	(講義)2	被服体型学	講義	②	
		アパレル設計実習	(実習)1	アパレル製作Ⅰ	実習	[2]	
		アパレル生産実習	(実習)1				
	流通・消費	アパレル生理衛生論	(講義)2	衣環境学	講義	[2]	
		消費科学	(講義)2	繊維製品消費科学	講義	[2]	
		消費生活論	(講義)2	消費生活論	講義	[2]	
テキスタイルアドバイザー実習		(実習)1	テキスタイルアドバイザー実習	実習	[1]		
Aの合計		24			27		
B 選択	推奨科目	繊維加工学	(講義)2	繊維加工学	講義	(2)	19
		アパレル生産論	(講義)2	アパレル設計・生産Ⅰ	講義	(2)	
		アパレルデザイン論	(講義)2	ファッションデザイン	演習	(2)	
		ファッションビジネス論	(講義)2	ファッションビジネス	講義	(2)	
		マーケティング論	(講義)2	ファッションマーケティング	講義	(2)	
	その他	機器測定法	(講義)2	テキスタイル分析	実験	(2)	
		機能材料学	(講義)2	機能性被服材料	講義	(2)	
		品質管理	(講義)2	品質管理	講義	(2)	
		インテリア繊維製品	(講義)2	インテリア材料	講義	(2)	
		色彩学	(講義)2	色彩学	講義	②	
		工芸染色実習	(実習)1	工芸染色	実習	(2)	
		ファッションリテール実習	(実習)1	ファッションリテイリング	講義	(2)	
		衣生活文化論	(講義)2	衣生活文化論	講義	②	
		被服心理学	(講義)2	被服心理学	講義	(2)	
ケーススタディ	(実習)1	ケーススタディ	講義	(2)			
(規定外科目)	(講義)2	日本服飾文化史	講義	②			
Bの合計		29			32		
単位合計(A+B)		53			59	43	

注(1) 本学開設科目等欄の単位数の、○の数字は卒業必修単位であり、[]の数字は衣料管理士資格取得者必修単位である。

注(2) 「テキスタイルアドバイザー実習」は、3年次、4年次と2年間にわたって履修登録すること。成績は4年次に評価されます。

8 フードスペシャリスト資格

フードスペシャリスト

本学の家政学部食物学科食物学専攻は、カリキュラム編成、単位数、教員組織、施設設備などフードスペシャリスト教育に必要な要件を満たす大学として、フードスペシャリスト協会の認定を受けています。本学で定める単位を修得し、かつフードスペシャリスト協会が実施する「認定試験」に合格すると、フードスペシャリストの資格認定証が交付されます。

近年、消費者のニーズが多様化、高度化し、食品や食べ物に対する安全志向、健康志向が強まるなど、より豊かな食生活を求めるようになってきました。そのため、①流通の分野では食品の市場調査や科学的知識・技術により得た情報を提供し、流通の円滑をはかる。②販売の分野では販売員に対し食品の品質情報を知らせ、管理・陳列や科学的知識及びサービスを含め指導・助言する。また、③顧客に対しては食品の種類の選び方、その利用の方法などにわたり、食品の専門職の立場から指導・助言する。④ホテルやレストランなど、料理として提供する分野では調理者と喫食者の間に立ってメニュー、食味の調整や食堂の雰囲気を保ち、楽しく、快適な飲食ができるよう食空間をコーディネートする。さらに、⑤消費者センターではクレームに対して問題解決策を講じます。このように流通・消費分野の食品専門職が求められていますが、消費者サイドに立った流通・消費の分野における「食」の専門職がフードスペシャリストです。

フードスペシャリストが活動を期待されている職域は幅広く、流通、販売、ホテル・レストラン、消費者センターなどがあげられます。それぞれの分野での具体的な活動内容などは以下のようなものが想定されます。

a 流通

活動の場：卸売店、卸売市場など

活動内容：①食品管理や良否の判断 ②流通方法の開発
③需給調整や情報収集

b 販売

活動の場：デパート、スーパー、コンビニエンスストアなど

活動内容：①消費者へのアドバイス ②売場コーディネート
③食品管理や良否の判断 ④クレーム処理

c ホテル・レストラン

活動の場：ホテル、レストラン

活動内容：①食空間のコーディネート ②メニューのコーディネート
③新調理システムの導入 ④従業員へのサービス指導

d 消費者センター

活動の場：消費者センター

活動内容：①消費者生活のアドバイス ②クレーム処理
③メーカー等への問題提起 ④市販されている食品の調査

資格申込方法

(ア) 申込方法

フードスペシャリスト資格取得者の定員は、食物学科食物学専攻の学生 50 名です。3 年生の後期に希望をとりますが、希望人数が定員を上回った場合は調整があります。資格取得のための受講を認められなかった学生が、フードスペシャリスト資格に係る科目を履修し単位を修得してもフードスペシャリストの資格を取得することはできません。

(イ) 申込の手続き

資格取得のための受講許可を得た者は、指定された日時に履修費を支払い手続きを完了してください。指定の日時に手続きを完了しない者は、受講の許可を取り消します。また、いったん納入した履修費は、原則として返還しません。

(ウ) 資格取得に要する経費

- ・履修費（予定） 4 年次 2,000 円
- ・受験料・認定証交付手数料 4 年次 8,000 円（参考：2019 年度）

（注）履修費他の金額は確定ではありません。一応の目安と考えてください。

なお、購入希望者は認定試験に関する受験参考書（6 冊分）約 13,000 円、過去問題集約 1,200 円を要します。

(エ) 認定試験

フードスペシャリスト協会が実施する認定試験は毎年 12 月の日曜日に実施されますが、本学では 4 年次に受験します。

フードスペシャリストの資格取得に必要な科目、単位数

（平成 27 年度入学生から適用）

協会の規定科目・単位数等		左記に相当する本学の開設科目	
授業科目名	単位数等	授業科目名	単位数等
必修科目	フードスペシャリスト論	講義 2 単位以上	フードスペシャリスト論 [2]
	食品の官能評価・鑑別論	講義 1 単位以上	食品感覚機能論 [2]
		実験 1 単位以上	食品学実験 ①
	食物学に関する科目	講義 4 単位以上 実験 1 単位以上	食品学 ②
			食品化学 ②
			食品化学実験 ①
	食品の安全性に関する科目	講義又は 実験 2 単位以上	食安全学 I ②
			食安全学実験 ①
	調理学に関する科目	講義 2 単位以上 実習 2 単位以上	調理科学 I ②
			基礎調理学実習 ①
調理学実習 ①			
栄養と健康に関する科目	講義又は 実習 2 単位以上	基礎栄養学 I ②	
		応用栄養学実習 ①	
食品流通・消費に関する科目	講義 2 単位以上	食品流通論 [2]	
フードコーディネータ論	講義 2 単位以上	フードコーディネータ論 [2]	
小計			24
選択科目	フードスペシャリスト資格に相当とされる科目 自由設定科目	食品開発論 (2)	
		食品素材論 (2)	
小計			4
本学が定める資格取得に必要な修得単位数合計			24

注 本学開講科目の単位数欄の、○の数字は卒業必修単位、[] の数字はフードスペシャリスト資格取得者必修単位、() は選択科目です。

9 NR・サプリメントアドバイザー資格

NR・サプリメントアドバイザーについて

NR・サプリメントアドバイザーは、一般社団法人日本臨床栄養協会・日本サプリメントアドバイザー機構が認定する民間資格です。

健康に関連する食品として、特定保健用食品、栄養機能食品、サプリメントなど、さまざまな種類があります。したがって、消費者が適切かつ安全にこれら食品を利用するためには、正しい栄養学が消費者に理解されることが重要であり、NR・サプリメントアドバイザーは消費者に対して専門的観点から消費者個人々の栄養状態を評価し、適切にアドバイスできる知識を備えていることを証明する資格です。栄養士資格保有者が取得することで、活動の場を広げることができます。

本学は学校登録認定校として一般社団法人日本臨床栄養協会から登録されています。

資格取得できる学科

家政学部食物学科4年生

(ただし、3年生までのGPAにより履修の可否を決定します)

資格取得方法

「NR・サプリメントアドバイザー講座」(インターネットによる受講)にて40単位を取得後、認定試験(年1回12月第一土曜日実施)に合格する必要があります。

申込手続

指定された日時に学生会員入会手続きをしてください。

資格取得に係る経費

学生会員年会費 4,000円

通信教育受講料 5,100円(テキスト代別)

認定試験受験料 15,300円

※金額が変更となる場合がありますので、一応の目安としてください。

※認定試験合格者には一般社団法人日本臨床栄養協会から認定証と認定カードが発行されます。

その他

資格取得後も、5年ごとの更新が必要です。更新するためには、日本臨床栄養協会正会員の継続に必要な費用(年会費8,000円の5年分。ただし、在学中は4,000円)・研修単位(50単位)取得のための費用、更新申請料5,100円を支払う必要があります。

3年次1月中旬ごろにガイダンスを実施します。手続方法などをお知らせしますので、受験希望者は必ず出席してください。

10 健康運動実践指導者資格

健康運動実践指導者について

健康運動実践指導者は、積極的な健康づくりを目的とした運動を安全かつ効果的に実践指導できる能力を有すると認められる者に対し公益財団法人健康・体力づくり事業財団が認定する資格です。

家政学部食物学科食物学専攻は健康運動実践指導者養成校として、公益財団法人健康・体力づくり事業財団から認定を受けています。本学で定める単位を修得し、公益財団法人健康・体力づくり事業財団が実施する「認定試験」に合格した上で、健康運動実践指導者台帳に登録されることで「健康運動実践指導者」の称号を取得することができます。

資格取得できる学科

家政学部食物学科食物学専攻の学生 20 名

申込手続

指定された日時に手続きをしてください。定員を超過した場合は、選抜を行います。

資格取得に係る経費

- ・履修費（予定） 3年次 11,000円 4年次 20,000円
- ・認定試験受験料 13,619円
- ・登録料 22,000円（税別）

（注）履修費他の金額は確定ではありません。一応の目安としてください。

その他

健康運動実践指導者の登録には、有効期限が設けられ、その期間は5年間となっています。登録を更新するためには、公益財団法人健康・体力づくり事業財団が認定した登録更新のための講習会において所定の単位を更新時まで履修する必要があります。詳細は公益財団法人健康・体力づくり事業財団のウェブサイト（<http://www.health-net.or.jp/shikaku/index.html>）で確認してください。

健康運動実践指導者に必要な科目、単位数

(平成27年度入学生から適用)

健康運動実践指導者養成講習会カリキュラム		左記に相当する本学の開設科目		
科目名	内容	授業科目名	単位数	備考
健康づくり 施策概論	・健康の概念、わが国の現状と健康づくり施策 ・生活習慣病とその予防、メディカルチェック	公衆衛生学	②	
運動生理学	・運動とエネルギー出力系 ・運動と筋・神経系 ・発育・発達の概論、老化の過程と機能変化	スポーツ パフォーマンス論	[2]	
機能的解剖と バイオメカニクス	・骨格、筋、心臓、血管、呼吸器の構造と機能 ・バイオメカニクスの基礎と応用			
栄養摂取と運動	・栄養学の基礎 ・食生活と運動、体重調節	基礎栄養学Ⅰ	②	
		応用栄養学	②	
体力測定と評価	・体力測定の理論 ・形態及び体脂肪の測定 ・体力測定の実際と評価、データ処理	体力測定と評価	[1]	
健康づくりと 運動プログラム	・トレーニングの原則、健康増進のための運動 効果、運動指針の具体例 ・運動プログラムの基本的考え方、目標設定 ・運動のプログラミング	健康運動 実践指導論	[1]	
運動指導の 心理学的基礎	・運動における行動変容			
健康づくり 運動の実際	・ウォーキング	スポーツB	[1]	エアロビックダンス を選択してください。
	・エアロビックダンス			
	・ジョギング	健康スポーツ実技	[1]	
	・水泳・水中運動			
	・レジスタンスエクササイズ			
	・ストレッチング	スポーツC	[1]	
・ウォーミングアップとクーリングダウン、体操	スポーツA	[1]		
運動障害と 予防・救急処置	・内科的障害 ・救急蘇生法 ・整形外科的障害 ・外科的救急処置とテーピング	運動障害と予防・ 救急処置(含実習)	[2]	

注 単位数欄の、○の数字は卒業必修単位、[]の数字は健康運動実践指導者必修単位です。

11 レクリエーション・インストラクター資格

レクリエーション・インストラクターについて

レクリエーション・インストラクターは、公益財団法人日本レクリエーション協会が認定している資格です。

平成16年4月からレクリエーション・インストラクター養成校として本学は認定され、在学中に資格取得が可能となりました。

レクリエーション・インストラクターとは、市民が自分の住むまちで、好きなレクリエーション活動を日常的に楽しめる機会や環境を提供する指導者のことです。

活動内容としては、都道府県や市町村のレクリエーション協会などと力を合わせて、地域の人々が気持ちよく生活できるように、スポーツやカルチャー、福祉分野や野外活動、芸術・文化・学習活動などを通じて、地域を活性化したり、健やかに暮らせるように心とからだをリフレッシュしたり、楽しみながら自然と共生する生き方を提案したりし、市民のレクリエーション活動を支援・指導することになります。

資格取得できる学部

家政学部、文学部、社会情報学部、比較文化学部の各学生。

資格取得に必要な科目

レクリエーション論（2単位）

レクリエーション実技（1単位）

スポーツA～D（1単位）

シーズン・スポーツ（1単位）

）の内、いずれか1単位

現場実習（学外実習2/3単位・事業参加1/3単位 合計1単位）

履修方法

レクリエーション論とレクリエーション実技、スポーツA～D、シーズン・スポーツは、全学共通科目に開講されていますので、各自履修してください。

現場実習は、本学では開講されていませんが、教職課程を履修する場合は、教育実習等が現場実習の学外実習単位として認められますので、残りの事業参加の単位については、東京都または居住地のレクリエーション協会が主催する事業に各自で必要な回数を参加（大学の休業期間中に参加すること）することによって取得することができます。

なお、教職課程を履修しない場合は、現場実習ができる場所・施設等（日本レクリエーション協会が認定している実習先）で単位を修得することになります。

実習先については、東京都レクリエーション協会のホームページにて確認してください。

資格取得に係る経費

資格取得に係る経費（2019年度の場合）については、次の通りとなります。

・登録料（2年ごとの更新）16,000円（税別）

※金額は変更となる場合がありますので、一応の目安としてください。

その他

レクリエーション・インストラクター資格取得に関しては、スポーツ教育研究室が担当していますので、詳細についてはスポーツ教育研究室にお問い合わせください。なお、スポーツ教育研究室は千代田キャンパス大学校舎D棟5階にあります。

12 二級建築士資格

二級建築士について

二級建築士は、都道府県知事の免許を受けて、一定規模以下の木造の建築物、および鉄筋コンクリート造などの主に日常生活に最低限必要な建築物（延べ床面積 300㎡以内のもの）の設計、工事監理等の業務を行う者を認定する国家資格です（建築士法第 2 条第 3 項）。

受験資格を取得できる学科・専攻

社会情報学部 社会情報学科 環境情報学専攻

資格取得方法について

二級建築士受験資格取得に必要な科目を修得して卒業し、卒業後に二級建築士試験（学科の試験、設計製図の試験の両方）に合格する必要があります。

所定の単位（カテゴリーごとの必要最低単位 10 単位を含む 40 単位）を修得すれば、卒業後、実務経験がなくても二級建築士試験の受験及び免許登録ができます。なお、単位の修得状況（カテゴリーごとの必要最低単位 10 単位を含む 20～39 単位）の場合、実務経験が課されます。

要件を満たした場合は、受験資格を取得したことを証明する「指定科目修得単位証明書・卒業証明書」が卒業時に発行されます。

二級建築士受験資格取得に必要な科目、単位数

(2020 年度入学生から適用)

国土交通大臣による指定科目の分類等		左記に対応する本学開設科目及び単位数		
分類毎の指定科目	最低修得単位数	本学開設科目	単位数	
A	建築設計製図	設計製図の基礎	2	
		住居デザイン演習Ⅰ	2	
		住居デザイン演習Ⅱ	2	
B	建築計画、建築環境工学又は建築設備	住居学	2	
		住居デザイン	2	
		建築デザイン	2	
		住居環境論	2	
		特殊講義Ⅱ（くらしと環境）	2	
C	構造力学、建築一般構造又は建築材料	力とかたちⅠ	2	
		力とかたちⅡ	2	
		建築インテリア材料	2	
D	建築生産	1	建築と社会	2
E	建築法規	1	建築法規と都市デザイン	2
F	その他	環境デザイン論	2	
		環境アセスメント論	2	
		建築と都市の歴史	2	
		環境とまちづくり	2	
		環境演習Ⅱ	2	
		環境生態デザイン	2	
		ビオトープ論	2	
		建築・都市ゼミナールⅠ	2	
		建築・都市ゼミナールⅡ	2	
A～Eの合計		10	26	
A～Fの合計		40	44	

注(1)「最低修得単位数」は卒業後、実務経験年数0年で受験資格を取得するために、各分類毎に定められた最低限必要な単位数

その他

- ・単位の修得状況に応じて、卒業後、実務経験年数が1年又は2年必要となる場合があります。
- ・先修条件などに注意して、履修計画を立ててください。
- ・詳細は掲示や専攻で実施するガイダンスなどで必ず確認してください。特に履修に関することについては変更になることがあるので、掲示など常に確認してください。

総合情報センター〈図書館〉について	228
総合情報センター 〈メディア教育開発センター〉について	229
教職総合支援センターについて	231
国際センターについて	232
課外講習について	233
海外研修について	234

本学では、充実した学習を支援するために、施設設備の充実に力を注いでいます。ここでは、それらの概要を紹介するとともに、利用の仕方を説明しています。授業や予習・復習、ゼミ活動、研究などでこれらの施設設備を積極的に活用して、大学生活の充実に役立ててください。

総合情報センター〈図書館〉について

本学では、千代田校・多摩校の2か所に、それぞれ総合情報センター〈図書館〉（以下、図書館）を設けています。

図書館は図書・雑誌等の資料を提供することによって、自発的・積極的な学習を側面から支援する機関です。目的に応じていろいろなスペースを用意しています。

千代田校には、「ラーニングコモンズ」「コミュニケーションエリア」というスペースを設けて、学生同士が資料やパソコンを持ち込んで自主学習をしたり、グループディスカッションや協同学習に利用できるように開放しています。

多摩校の「グループ学習室」というスペースでも、グループディスカッションや協同学習を行うことができます。

その他に千代田校には「個人ブース」、多摩校には「キャレル」という一人用スペースがあり、こちらは集中して学習したいときに便利です。

また図書館は就職活動に関連した資料も多数所蔵しています。図書館ホームページから各種データベースにアクセスして情報を収集することも可能です。

皆さんの学習・研究の成果向上のために、就職活動にも学内の施設と合わせて図書館の資料や施設を上手に利用してください。

詳しくは、図書館利用のしおり、または図書館ホームページをご覧ください。(http://www.lib.otsuma.ac.jp/)

1 開館時間

場所	開館時間	
	月曜～金曜	土曜
千代田校本館	8:45～21:00 ※授業のない日は9:00～17:00	9:00～17:00 ※授業のない日は9:00～15:00
多摩校分館	9:00～19:00 ※授業のない日は9:00～17:00	

2 休館

日曜日、国民の祝日、学校記念日（11月20日）。※ただし授業実施日は開館

長期休暇中、臨時の休館については、その都度掲示します。

3 入館

入館にあたり、貴重品は各自が責任をもって所持してください。所定の場所以外での飲食・携帯電話の通話をご遠慮ください。

※入館方法（千代田校本館）

ゲートに学生証を読み取らせてください。学生証を忘れた場合はカウンターに申し出てください。

総合情報センター〈メディア教育開発センター〉について

本センターは、高度情報化社会に対応した、大学及び短期大学の教育・研究機能の充実発展のための支援と学生サービスの向上に向けた情報資源の活用・開発と情報管理の整備・効率化を図ることを目的として設立され、全学的な情報教育、コンピュータ、CALLをはじめとするさまざまな視聴覚機器・メディアを利用した授業や学習への支援を主な業務としています。

1 総合情報センター〈メディア教育開発センター〉の設置場所について

メディア教育開発センターは以下の場所にあります。

千代田キャンパス 本館 E 棟3階E366室

多摩キャンパス 4号館（図書館棟）3階4366室

2 総合情報センター〈メディア教育開発センター〉の主な活動について

- 1) CALL教室、情報処理教室での授業補佐や視聴覚教室で行われる授業への支援
- 2) 普通教室、実験・実習室で行われる授業への機器貸出
- 3) 視聴覚教室、CALL教室、情報処理教室、スタジオなどの施設・設備に関する設計、維持、管理
- 4) 情報処理自習室に備えられたソフトウェア、ハードウェアの利用に関する学生への支援
- 5) 補完教育「課外英語力強化プログラム」（千代田）、「課外パソコン講習」の企画、運営
- 6) 各種視聴覚教材の制作及び制作支援
- 7) コンピュータを用いた教材の制作及び制作支援
- 8) スタジオ利用の支援

3 学生サービスについて

本センターでは本学の学生に対し以下のサービスを行っています。ご利用ください。

①情報処理自習室の環境整備と利用サポート

学生の情報処理に関する自主的な学習のために、パソコンが備えられた自習室が設置されており、決められた時間内であればいつでも利用できます。

②情報処理教室の環境整備と利用サポート

情報処理教室、CALL教室を授業などで使用していない時間帯は、状況に応じて自習のためにコンピュータやネットワークが自由に使えるように開放することがあります。

③動画編集等を行う施設・設備の環境整備と利用サポート

上記情報処理自習室および情報処理教室では、動画編集、スキャナから静止画の取り込み・加工等ができるソフトを導入しています。

④その他のサービス

KOTAKA-WiFi や Office365 の設定、大妻 web メール の使い方に関する問い合わせへの対応を行っています。

※以上のサービスについては、キャンパスにより利用方法、利用時間、内容などに若干の違いがありますので、利用の際にはあらかじめ確認をしてください。

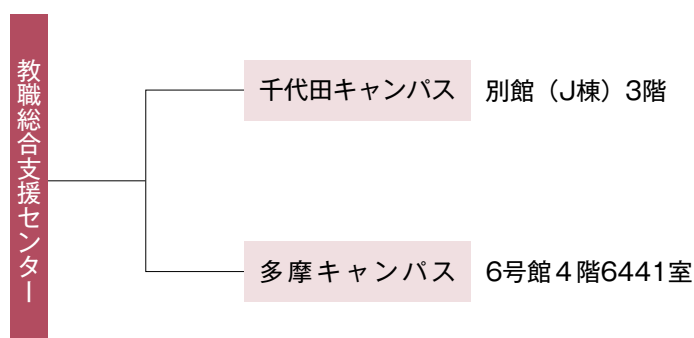
教職総合支援センターについて

教職総合支援センターは教職課程をはじめ、図書館学課程、博物館学芸員課程、保育士課程を履修する学生に対して指導や相談を行い、教員免許状や各種資格の取得にかかわるガイダンスや指導、情報提供等を行っています。詳細については、教職総合支援センターホームページ（下記 URL）を参照してください。

<http://www.cstop.otsuma.ac.jp/>

1 教職総合支援センターの設置場所について

教職総合支援センターは以下の場所にあります。



2 教職総合支援センターの主な活動について

1) ガイダンスや相談、各種情報提供

各種課程のガイダンスを実施しています。また、教職課程に関しては学校ボランティアの紹介や各種情報提供を行うほか、教員になるためのさまざまな相談や履修に関する相談、教員採用選考試験に関する相談なども随時受け付けています。

2) 教員採用選考試験受験希望者を対象とした指導や相談

選考試験受験のための学習内容・方法の相談から、筆記試験、論作文、面接の指導まで幅広く行っています。

3) 学習室としての利用

センター室には、各都道府県の教員採用に関する資料や問題集などをそろえており、教員免許や各種資格を取得するために学習室としても利用できます。また、友だちとの勉強会に使うことも出来ます。

3 開室日

千代田キャンパス

月曜～金曜 9：30～17：30（注）

土曜 9：30～16：30（注）

多摩キャンパス

週3日程度 10：00～17：00（注）

（注）開室時間は、都合により変更する場合がありますので教職総合支援センターホームページで確認してください。

国際センターについて

地球上には多くの国や地域が存在し、様々な民族がそれぞれの伝統に基づいて多種多様な文化の花を咲かせています。学生の皆さんは、広く世界に目を向け、ぜひ在学中に異なる文化を体験してください。国際センターでは、全学的な協働のもと多様な留学や語学研修などのプログラムを用意し、また国際交流に関する相談に応じています。

1 国際センターの主な活動について

- 1) 留学生の送り出し及び受け入れに関すること
- 2) 外国人留学生と本学学生との交流推進に関すること
- 3) 留学生送り出し、受け入れにともなう外国語（日本語を含む）の教育・学習に関すること
- 4) 留学生の危機管理に関すること
- 5) その他、国際交流に関すること

2 学生への情報提供について

日頃から最新の情報（短期／長期／交換留学の各説明会、国際交流イベントなど）を集めて、積極的に参加してください。

最新の情報は、掲示（大学校舎 B 棟 1 階）、国際センターホームページ (<https://glbc.otsuma.ac.jp/>)、UNIVERSAL PASSPORT（ポータルサイト）、国際センター公式 Twitter アカウント（@owu_kokusai）などでお知らせしますので、随時、確認をしてください。

3 国際センターの場所などについて

(1) 事務

千代田キャンパス 国際交流支援グループ：別館（J 棟）4 階 J410 室

（開室日） 月曜～金曜 8：30～16：40

土曜 8：30～13：10

- ・各種情報の提供
- ・プログラムの受付

多摩キャンパス 学生・就職支援グループ：4 号館（図書館棟）1 階

（開室日） 月曜～金曜 8：50～17：00

土曜 8：50～13：30

- ・各種情報の提供
- ・プログラムの受付

※夏季・冬季休業中の開室日・開室時間は国際センターホームページなどをご参照ください。

(2) 教員

オフィスアワー・・・専任教員が相談に応じます。

場所：千代田キャンパス 別館（J 棟）5 階

時間：教員からアナウンスがありますので、それに従ってください。

(3) 問合せ先

電話：03-5275-6310

メール：glbc-jimu@ml.otsuma.ac.jp

課外講習について

総合情報センター〈メディア教育開発センター〉では、正規の授業とは別に、補完教育の一環として「課外英語力強化プログラム」(千代田)と「課外パソコン講習」を企画、運営しています。

1 課外英語力強化プログラム〈千代田キャンパス所属の学生対象〉

国際社会のボーダレス化がますます進行する中、英語によるコミュニケーション能力の習得は日々重要な課題になってきています。本学では、外国語あるいは第2言語としての英語教育を専門とし、英語を母語とする講師たちによる「課外英語力強化プログラム」を実施しています。この講座は1回40分、少人数制で週5日開催され、年間約100回のレッスンを行います。受講生は授業の空き時間を利用してレッスンに参加することができると同時に、ほぼ毎日開かれる English Challenge (Free Talking) にも自由に参加することができます。

毎年多数の学生がネイティブ講師による工夫をこらした毎日のレッスンへ積極的に参加し、楽しみながら実践的コミュニケーション能力の習得に励んでいます。講座については4月中旬に説明会・サンプルレッスン・受講受付が行われ、5月上旬からレッスンが開始される予定です。詳しい講座内容や日程及び費用については、別途配付されている「課外英語力強化プログラム受講者募集」のパンフレット、または下記のURL(※パソコンのみ対応)を参照してください。

<https://www.campus-english.jp/otsuma/>

2 課外パソコン講習

近年の社会では、文書作成やプレゼンテーション用のツールとして、また効果的なコミュニケーションの手段として、パソコンを利用することがごく一般的になりました。このような状況を受け学習指導要領が改訂された結果、新入生は高校における「情報」関連の授業などを通して入学前に何らかのかたちでパソコンに触れていることになっています。しかしながら、スマートフォンが日常生活の中に広く浸透した結果、『キーボードによる文字入力のままならない』『アプリケーションの操作がうまくできない』と言った学生がこれまでに比べて増加しており、このことが本学を含む多くの大学で問題になっています。

このため本学では、そのような現状をふまえ、情報処理に関する正確な知識と堅実なパソコンスキルの向上、認定資格の取得を目指し、「課外パソコン講習」を実施しています。講座は授業終了後や夏季、春季休業中に学内で実施されるため、無理なく受講することが可能で、講座終了時には認定試験も実施されています。また、講習はビジネスアプリケーションと呼ばれるワープロ、表計算などの基礎力養成コースに始まり、最終的にはビジネスアプリケーションの上級コースや国家試験(ITパスポート試験・基本情報技術者試験)に至るまで段階的に講座が構成されているため、受講者は自分の実力に合わせて一步一步着実にスキルアップをはかることができます。

講座については、各講座期間前に各キャンパスで説明会と受講申込受付を行います。詳しい講座内容や日程及び費用については、説明会や受講申込みの際に尋ねるか別途配布されているパンフレットまたは下記のURLを参照してください。

http://www.link-academy.co.jp/otsuma_pc/



海外研修について

学部が主催する海外研修プログラムについて

文学部英語英文学科ロンドン大学英語音声学セミナー

本セミナーは、英語音声についての講義と実践的訓練を行う国際的英語教育講座で、半世紀を超える歴史を有します。毎年世界中から数多くの学生、教員が参加し、クラスは少人数でレベル別に編成されています。本セミナーを受講し、所定の修了証書を授与されると、所定の単位が認定されます。

比較文化学部海外研修

- 1 イギリス、ドイツ、中国、台湾の長期海外研修は8月から翌年の3月までの期間（プログラムによって異なりますが、5～7ヶ月間）おこなわれます。長期海外研修参加者には本学の学費が免除される規程が適用されます。なお、留学先の大学で取得した単位は、比較文化学部の卒業単位の一部として認定されます。出願の条件など、詳細については比較文化学部国際交流委員会にお問い合わせください。
- 2 上記以外に、約2週間から3週間のスペイン短期研修、および10日間程度のヨーロッパ文化研修（ギリシャ）も開催しており、修了すると所定の単位が認定されます。掲示などで確認し、詳細については学部担当教員にお問い合わせください。

※海外研修プログラムには、学部が主催するもの以外に、国際センター主催のプログラムがあります。

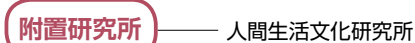
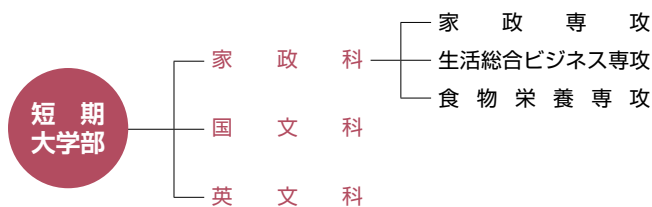
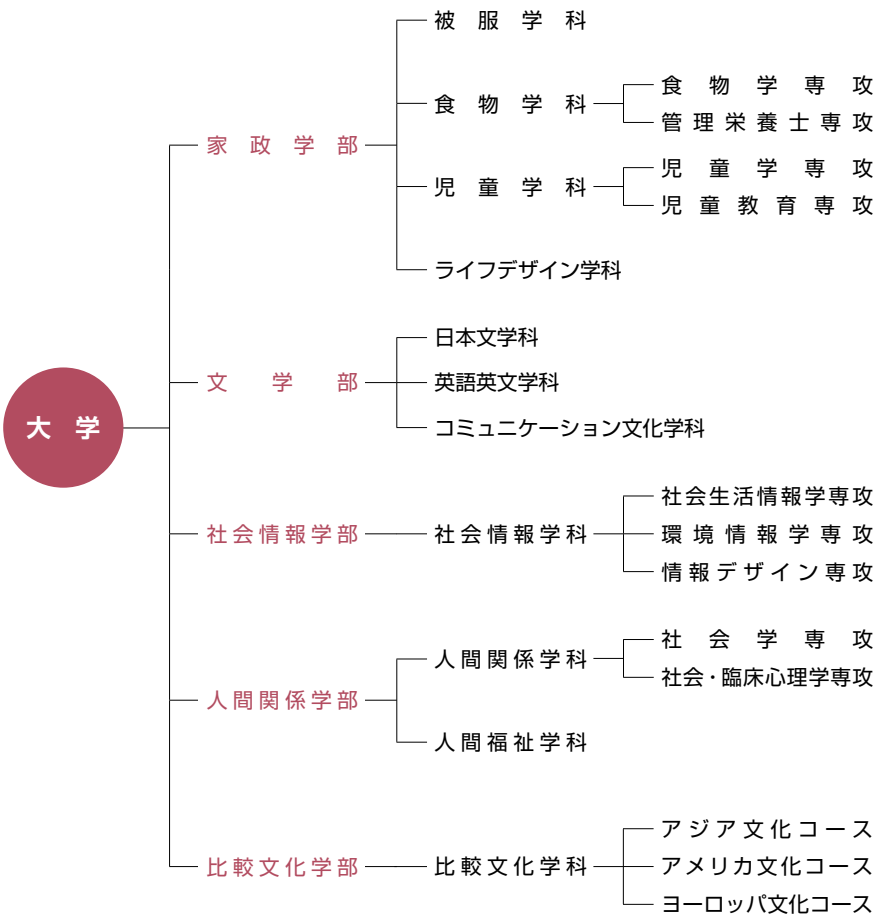
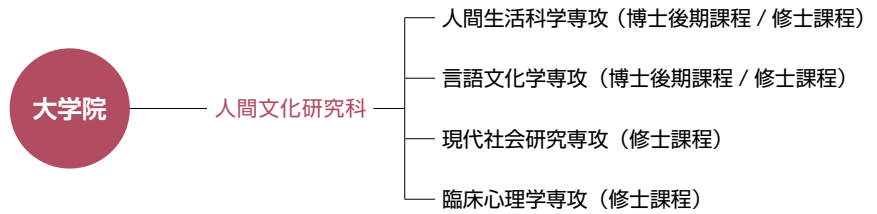
国際センター主催のプログラムについては、国際センターのホームページを参照してください。(P232)

組織	238
学則	239
教務関係諸規程	251
大妻女子大学入学者の既修得単位の取り扱いに関する細則.....	251
大学以外の教育施設等における学修に対する単位認定に関する細則.....	252
試験に関する内規.....	254
試験における不正行為者の処罰に関する規程.....	255
大妻女子大学学生の留学に関する内規.....	257
大妻女子大学再入学に関する細則.....	258
大妻女子大学早期卒業に関する規程.....	259
大妻女子大学における転部・転科・転専攻の取扱いに関する規程.....	260
大妻女子大学科目等履修生規程.....	261
大妻女子大学委託生規程.....	262
緊急事態発生時の授業及び試験等の取り扱いについて（覚書）.....	263
大妻女子大学家政学部児童臨床研究センター	
家庭教育相談員基礎能力等認定規程.....	266
家庭教育相談員に関する基礎能力等認定業務実施内規.....	269
校舎配置図及び見取図	
千代田校舎.....	270
多摩校舎配置図.....	299
電話番号一覧	300

ここには、学生生活を送るうえで守らなければならない、基本的なルールとしての学則や規程を掲載しています。

あわせて、各教室の平面図や、大学施設の連絡先なども記してあります。いずれも、いざというときに必要になる情報です。

組 織



学 則

大妻女子大学学則

第1章 総則

第1条 本学は教育基本法に基づき、学校教育法の定めるところに従い、広く知識を授けると共に深く専門の学芸を教授研究して、応用的能力の展開と人格の完成に努め、高い知性と豊かな情操を有する女性の育成を目的とする。

第2条 本学は、学校法人大妻学院がこれを設置する。

2 本学は東京都千代田区三番町12番地及び東京都多摩市唐木田2丁目7番地1に置く。

第2条の2 本学は、教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の点検及び評価に関する事項は別に定める。

第2章 学部及び学科

第3条 本学に、次の学部、学科及び専攻を置く。

家政学部	被服学科	
	食物学科	食物学専攻 管理栄養士専攻
	児童学科	児童学専攻 児童教育専攻
	ライフデザイン学科	
文学部	日本文学科	
	英語英文学科	
	コミュニケーション文化学科	
社会情報学部	社会情報学科	社会生活情報学専攻 環境情報学専攻 情報デザイン専攻
人間関係学部	人間関係学科	社会学専攻 社会・臨床心理学専攻
	人間福祉学科	
比較文化学部	比較文化学科	

2 本学に大学院を置く。大学院の規程は別に定める。

3 本学に人間生活文化研究所を置く。人間生活文化研究所の規程は別に定める。

第3条の2 各学部、学科の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

一 家政学部

新しい時代に求められる学びをリードする「未来志向型サイエンス」を主軸に教育を行い、自立心あふれる職業人を育成する。

イ 被服学科

衣を通して、イマジネーションにあふれる生活を創造し、新しい価値観と豊かな心を育み、夢のある社会の形成に参加できる人を育成する。

ロ 食物学科

「食」の専門家として高度な技術と知識を持ち、社会に貢献できる人材を育成する。

ハ 児童学科

子どもの成長を総合的に支援していくために必要な専門性をもった人材を育成する。

ニ ライフデザイン学科

21世紀に求められる真に豊かな生活や自立した生き方をデザインし、提言できる人材を育成する。

二 文学部

「ことば」による広い意味でのコミュニケーションを教育のテーマとし、実技と知識・感覚の錬磨を学修と教育の両輪とすることにより、時代の進展に柔軟に適應できる有為な人材を養成する。

イ 日本文学科

日本語と日本文学を通して、人間理解を深め、豊かな教養と人間性を養う。

ロ 英語英文学科

英語とそれを中心とした文学や文化の学修を通して、人間理解を深め、国際性豊かな人材を育成する。

ハ コミュニケーション文化学科

国際性、現代性、学際性をキーワードに、社会・文化をとらえ、国際的なコミュニケーションの場で自立できる女性を育成する。

三 社会情報学部 社会情報学科

現代社会が要求する情報リテラシーを修得し、高度に発達したIT社会で活躍することのできる人材を養成する。

社会生活情報学専攻では、意思決定と自己表現ができる、社会知識のある女性を育成する。

環境情報学専攻では、環境問題の発生から解決までを学び、総合的な視点を養うことのできる人材を育成する。

情報デザイン専攻では、高度な情報処理能力によって情報システムを具現化できる人材、及びヒューマンスキルに基づいて情報を的確に表現できる人材を育成する。

四 人間関係学部

「共生社会」の実現を目指して、さまざまな人々と社会と共存するための知識を学び、人間関係や社会についての洞察力を身につけ、人間の幸福や福祉についての深い理解を修得し、柔軟な想像力・すぐれた問題解決能力・実践力を備えた心豊かな人材を育成する。

イ 人間関係学科

社会学専攻では、社会学的想像力と社会調査のスキルを備え、幅広い視野と柔軟な発想を持った人材を育成する。

社会・臨床心理学専攻では、人間関係にまつわる問題に、適切に対処できる「人間関係力」を備えた人材を育成する。

ロ 人間福祉学科

生活を送る上で様々な課題を持っている人々が、「共生」できる社会を創ることに貢献できる人材を養成する。

五 比較文化学部 比較文化学科

2カ国語を修得し、各地域毎の文学、美術、宗教、政治、歴史などを日本文化と比較研究することにより、急激に変化する国際社会にも柔軟に対応できる人材を育成する。

第3章 授業科目

第4条 本学における各学部の授業科目は別表（1）のとおりとする。

2 教職、司書、司書教諭及び学芸員に関する専門科目はそれぞれ別表（2）、別表（3）、別表（4）及び別表（5）のとおりとする。

第4章 履修方法、卒業の認定及び学位の授与

第5条 修業年限は4年とし、在学年数は8年を超えることはできない。

2 毎学年の授業期間は、定期試験等の期間を含め35週にわたることを原則とする。

3 第1項の規定にかかわらず、3年次編入学生の修業年限は2年とし、在学年数は6年を超えることはできない。

第5条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 メディアを利用して行う授業は、あらかじめ指定した日時にパソコンその他双方向の通信手段によって行う。

4 前項の授業を実施する授業科目については、別に定める。

第6条 各授業科目の単位数は、45時間の学修を必要とする授業内容をもって1単位とすることを原則とし、当該授業による教育効果、授業外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算する。

- 一 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
 - 二 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
 - 三 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前二号に規定する基準を考慮して本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等については、学修の成果を評価するものとし、所定の単位を与える。

第7条 本学を卒業するためには、最低次の単位を修得しなければならない。

家政学部

学科・専攻		全学共通科目	専門教育科目	
被服学	被服学	34単位	90単位	他専攻・他学科が履修を可とした科目は、6科目8単位を限度として認められる。
食物学	食物学専攻	28単位	96単位	
	管理栄養士専攻	28単位	111単位	
児童学	児童学専攻	28単位	114単位	他専攻・他学科が履修を可とした科目は、6科目8単位を限度として認められる。
	児童教育専攻	28単位	125単位	
ライフデザイン学		34単位	90単位	

文学部

学科	全学共通科目	専門教育科目	
日本文学	37単位	88単位	他学科が履修を可とした科目は、8科目16単位を限度として認められる。
英語英文学	37単位	88単位	
コミュニケーション文化	37単位	90単位	

社会情報学部

学科・専攻		全学共通科目	専門教育科目	
社会情報学	社会生活情報学専攻	34単位	90単位	他専攻の授業科目は、10単位を限度として認められる。
	環境情報学専攻	34単位	90単位	
	情報デザイン専攻	34単位	90単位	

人間関係学部

学科・専攻		全学共通科目	専門教育科目	
人間関係学	社会学専攻	32単位	94単位	他専攻・他学科が履修を可とした科目は、12科目24単位を限度として認められる。卒業のための最低修得単位数を超えて修得した全学共通科目は、3科目6単位を限度として認められる。
	社会・臨床心理学専攻	38単位	88単位	他専攻・他学科が履修を可とした科目は、12科目24単位を限度として認められる。
人間福祉学		26単位	100単位	他専攻・他学科が履修を可とした科目は、17科目34単位を限度として認められる。卒業のための最低修得単位数を超えて修得した全学共通科目は、6科目12単位を限度として認められる。

比較文化学部

学科	全学共通科目	専門教育科目
比較文化学	38単位	88単位

2 他学部の授業科目の履修及び修得単位について、次のとおり定める。

- (1) 社会情報学部においては、家政学部、文学部、人間関係学部及び比較文化学部が別に指定した授業科目を履修することができる。これにより修得した単位は11単位を超えない範囲で前項に定める全学共通科目の単位数に含めることができる。
- (2) 人間関係学部人間関係学科においては、家政学部、文学部、社会情報学部及び比較文化学部が別に指定した授業科目を履修することができる。これにより修得した単位は社会学専攻は11単位、社会・臨床心理学専攻は17単位を超えない範囲で前項に定める全学共通科目の単位数に含めることができる。
- (3) 人間関係学部人間福祉学科においては、家政学部、文学部、社会情報学部及び比較文化学部が別に指定した授業科目を履修することができる。これにより修得した単位は8単位を超えない範囲で前項に定める全学共通科目の単位数に含めることができる。
- (4) 比較文化学部においては、家政学部、文学部、社会情報学部及び人間関係学部が別に指定した授業科目を履修することができる。これにより修得した単位は7単位を超えない範囲で前項に定める全学共通科目の単位数に含めることができる。
- (5) 家政学部においては、文学部、社会情報学部、人間関係学部及び比較文化学部が別に指定した授業科目を履修することができる。これにより修得した単位は8単位を超えない範囲で前項に定める全学共通科目の単位数に含めることができる。
- (6) 文学部においては、家政学部、社会情報学部、人間関係学部及び比較文化学部が別に指定した授業科目を履修することができる。これにより修得した単位は8単位を超えない範囲で前項に定める全学共通科目の単位数に含めることができる。

3 第1項の規定により卒業の要件として修得すべき単位のうち、第5条の2第2項の授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。

第7条の2 教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、次の各号の場合について準用する。

- 一 外国の大学又は短期大学に留学する場合
- 二 外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合
- 三 外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合

3 前2項に定める単位認定に関する事項は、別に定める。

第7条の3 教育上有益と認めるときは、短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項により与えることのできる単位数は、前条第1項及び第2項により本学において修得したものとみなした単位数と合わせ60単位を超えないものとする。

3 前項に定める単位認定に関する事項は、別に定める。

第7条の4 教育上有益と認めるときは、学生が入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、入学後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 教育上有益と認めるときは、学生が入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第7条の2第1項及び第2項並びに前条第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせ60単位を超えないものとする。

4 前項に定める単位認定に関する事項は、別に定める。

第8条 教育職員免許状を得ようとする者は、第7条に規定するもののほか、教育職員免許法及び同法施行規則に規定する単位を含めて修得しなければならない。

2 司書教諭の資格を得ようとする者は、学校図書館法及び学校図書館司書教諭講習規程の定めるところにより単位を修得しなければならない。

- 3 司書の資格を得ようとする者は、図書館法及び同法施行規則の定めるところにより単位を修得しなければならない。
- 4 学芸員の資格を得ようとする者は、博物館法及び同法施行規則の定めるところにより単位を修得しなければならない。
- 5 保育士の資格を得ようとする者は、児童福祉法施行令及び同法施行規則の定めるところにより単位を修得しなければならない。
- 6 前各項に定める司書教諭、司書及び学芸員に関する専門科目は、第7条に定める所定の単位のほかに修得しなければならない。
- 7 栄養士の資格を得ようとする者は、栄養士法施行規則の定めるところにより単位を修得しなければならない。
- 8 管理栄養士国家試験の受験資格を得ようとする者は、管理栄養士学校指定規則の定めるところにより単位を修得しなければならない。
- 9 公認心理師国家試験の受験資格を得ようとする者は、公認心理師法及び同法施行規則の定めるところにより単位を修得しなければならない。
- 10 社会福祉士国家試験の受験資格を得ようとする者は、社会福祉士及び介護福祉士法及び同法施行規則の定めるところにより単位を修得しなければならない。
- 11 精神保健福祉士国家試験の受験資格を得ようとする者は、精神保健福祉士法及び同法施行規則の定めるところにより単位を修得しなければならない。
- 12 介護福祉士国家試験の受験資格を得ようとする者は、社会福祉士及び介護福祉士法及び同法施行規則の定めるところにより単位を修得しなければならない。

なお、社会福祉士介護福祉士学校養成施設指定規則に掲げる科目に相当する科目の出席時数が同規則に定める時間数の3分の2（ただし、介護実習については5分の4）に満たない者については、当該科目の単位は与えない。

第9条 各学部、学科及び専攻において、取得できる第8条第1項に定める教育職員免許状の種類及び教科は次のとおりとする。

学部	学科・専攻	教育職員免許状の種類	教科
家政学部	被服学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	家庭
	食物学専攻	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 栄養教諭二種免許状	家庭
	食物学専攻 管理栄養士専攻	栄養教諭一種免許状	
	児童学専攻	幼稚園教諭一種免許状	
	児童学専攻 児童教育専攻	小学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状	理科
文学部	日本文学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	国語
	英語英文学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	英語
社会情報学部	社会情報学科 社会生活情報学専攻	高等学校教諭一種免許状	情報
	社会情報学科 環境情報学専攻	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	理科
	社会情報学科 情報デザイン専攻	高等学校教諭一種免許状	情報

2 各学部、学科及び専攻において、取得できる第8条第2項から第12項に定める資格・受験資格は次のとおりとする。

学 部	学科・専攻	資格・受験資格
家 政 学 部	被 服 学 科	学芸員
	食 物 学 科 食 物 学 専 攻	司書 学芸員 栄養士
	食 物 学 科 管 理 栄 養 士 専 攻	栄養士 管理栄養士国家試験
	児 童 学 科 児 童 学 専 攻	司書 学芸員 保育士
	児 童 学 科 児 童 教 育 専 攻	司書教諭 司書 学芸員
	ライフデザイン学科	司書 学芸員
文 学 部	日 本 文 学 科	司書教諭 司書 学芸員
	英 語 英 文 学 科	司書教諭 司書 学芸員
	コミュニケーション文化学科	司書 学芸員
社会情報学部	社会情報学科	司書教諭 司書 学芸員
人 間 関 係 学 部	人 間 関 係 学 科 社 会 学 専 攻	司書 学芸員
	人 間 関 係 学 科 社 会 ・ 臨 床 心 理 学 専 攻	司書 学芸員 公認心理師国家試験 (大学院における科目修得又は実務経験を必要とする)
	人 間 福 祉 学 科	司書 学芸員 社会福祉士国家試験 精神保健福祉士国家試験 介護福祉士国家試験
比較文化学部	比較文化学科	司書 学芸員

3 前2項の取得について必要な事項は、別に定める。

第10条 授業科目は、原則として配当された各年次において履修するものとする。

2 1年間に履修科目として登録することができる単位数の上限は、別に定める。

第11条 学生が授業科目を履修した場合は試験を行い、合格者に対しては単位を与える。

2 試験は毎年前期及び後期の二期に筆記、口述及び論文等の方法によって行う。

3 試験の成績はS、A、B、C及びDとし、Dは不合格とする。

第12条 本学に4年以上在学し、第4条に定める授業科目及び第7条に定める単位数を修得した者については、教授会における審議を経て、卒業を認定する。ただし、本学に3年以上在学し、本学が定める卒業に必要な単位数を優秀な成績で修得したと認める場合は、第5条第1項の規定にかかわらず、早期に卒業を認めることがある。

2 前項により卒業を認定した者に対して学士の学位を授与する。

3 前項の学位の表記は、次のとおりとする。

家政学部	学 士 (家 政 学)
文学部	学 士 (文 学)

社会情報学部 学 士 (社会情報学)
人間関係学部 学 士 (人間関係学)
比較文化学部 学 士 (比較文化学)

4 第1項前段の規定にかかわらず、3年次編入学生の卒業に必要な在学年数は2年以上とする。

第5章 入学、退学、休学、復学、転学、留学、転部・転科・転専攻、編入学、再入学及び除籍

第13条 入学の時期は、学年の初めとする。

2 前項の規定にかかわらず、適当であると認めるときは、学期の初めにも入学させることができる。

第14条 本学に入学し得る者は、次の各号の一に該当する女子とする。

- 一 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
- 二 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- 三 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- 四 文部科学大臣が、高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- 五 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- 六 文部科学大臣の指定した者
- 七 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定（以下「旧検定」という。）に合格した者を含む。）
- 八 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの

第15条 入学志願者に対しては、別に定めるところにより選考を行う。

第16条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに本人及び保証人の誓約書その他の書類を提出し、所定の納付金を納入しなければならない。

第16条の2 前条の入学手続を完了した者に入学を許可する。

第17条 保証人は父母又は近親者とする。

2 保証人は、その学生の在学中の身上に関する一切の事項について責任を負うものとする。

3 保証人について本学で適当でないときに変更させることがある。

第18条 疾病その他止むを得ない理由により退学しようとする場合は、許可を得て退学することができる。

第19条 疾病その他止むを得ない理由により、3か月以上欠席する場合は、許可を得て休学することができる。

2 休学期間は、1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として休学期間の延長を認めることができる。

3 休学期間は、通算して2年を超えることができない。

第20条 前条の理由が解消したときは、許可を得て復学することができる。

第21条 休学の期間は在学年数に算入しない。

第22条 本学から他の大学へ、若しくは他の大学から本学へ転学を志願する学生で、正当の理由があると認めた場合にはこれを許可することができる。

ただし、その場合は転学許可書と共に、在学年限及び既得単位の証明書によって、転籍事実を明らかにしなければならない。

第22条の2 教育上有益と認めるときは、学生が外国の大学における学修のため留学することを許可することができる。

2 前項の規定により外国の大学において学修する期間は、1年を限度とする。

3 学生が留学の期間において履修した授業科目について修得した単位を、第7条の2の規定に基づき、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

4 外国の高等教育研究機関のうち、大学に相当するものとして認定したものにおいて履修した学生についても、前項の規定を準用して本学における相当する授業科目の履修とみなし、単位を修得したものとすることができる。

5 第1項の許可を得て留学した期間は、第12条に定める在学期間を含める。

6 前項までに定めるもののほか、学生の留学について必要な事項は、別に定める。

第22条の3 休学期間中に他の大学又は短期大学等において履修した授業科目について修得した単位を、第7条の2の規定に基づき、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 休学期間中に行う大学以外の教育施設等における学修を、第7条の3の規定に基づき、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

第22条の4 本学3年次に編入学し得る者は、次の各号の一に該当する女子とする。

一 大学を卒業した者又は学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者

二 短期大学を卒業した者

三 高等専門学校を卒業した者

四 大学に2年以上在学し、62単位以上を修得した者

五 専修学校の専門課程（修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者（学校教育法第90条第1項に規定する者に限る。）

六 高等学校等の専攻科の課程（修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者（学校教育法第90条第1項に規定する者に限る。）

七 外国において学校教育における14年以上の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含む。）を修了した者（日本における外国の大学又は短期大学相当として文部科学大臣が指定した外国の学校を含む。）

第22条の5 転部、転科又は転専攻を希望する者があるときは、受け入れ学部、学科又は専攻に欠員のある場合に限り、別に定める規程により選考の上、これを許可することができる。

第23条 第18条の規定により本学を退学した者で、退学後2年以内に再入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り選考の上再入学を許可することができる。

第23条の2 次の各号の一に該当する者は、除籍することができる。

一 第5条第1項及び第3項に定める在学年数を超えた者

二 第19条第3項に定める休学の期間を超えてなお修学できない者

三 授業料及び教育充実費を滞納し、督促してもなお納入しない者

四 長期にわたり行方不明の者

2 前項第3号及び第4号の理由により除籍となった者で、除籍後2年以内に再入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り選考の上再入学を許可することができる。

第23条の3 第13条及び第15条から第17条までの規定は、転部・転科・転専攻、編入学及び再入学に準用する。

第6章 賞罰

第24条 次の各号の一に該当する者に対しては、表彰し、又は賞品を授与することができる。

一 学力が特に優秀な者

二 品性高潔であって全学生の模範とするにたる者

三 課外活動等において功績の顕著な者

第25条 学則その他本学が定める規則を守らず本学学生としての本分に反する行為をした者は、これを懲戒する。

2 懲戒は訓告、停学及び退学とする。

3 前項の退学は次の各号の一に該当する者に対して行う。

一 性行不良で改善の見込みがないと認められた者

二 学力劣等で成業の見込みがないと認められた者

三 正当の理由がなくて出席の常でない者

四 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

4 懲戒の処分の手続きは、別に定める。

第25条の2 停学の期間は、原則として在学年数に算入しない。

第7章 授業料その他の納付金

第26条 授業料その他の納付金の額を次のとおり定める。

一 入学検定料 35,000円（ただし、一般入試B方式（大学入試センター試験を利用する選抜）については、17,000円）

二 入学金 250,000円

三 授業料

家政学部

被服学科 775,000円（2年次 785,000円、3年次 795,000円、4年次 805,000円）

食物学科 775,000円（2年次 785,000円、3年次 795,000円、4年次 805,000円）

児童学科 765,000円（2年次 775,000円、3年次 785,000円、4年次 795,000円）

ライフデザイン学科 765,000円（2年次 775,000円、3年次 785,000円、4年次 795,000円）

文学部 745,000円（2年次 755,000円、3年次 765,000円、4年次 775,000円）

社会情報学部 755,000円（2年次 765,000円、3年次 775,000円、4年次 785,000円）

人間関係学部 745,000円（2年次 755,000円、3年次 765,000円、4年次 775,000円）

比較文化学部 745,000円（2年次 755,000円、3年次 765,000円、4年次 775,000円）

四 教育充実費

家政学部

被服学科 420,000円（2年次 430,000円、3年次 440,000円、4年次 450,000円）

食物学科 420,000円（2年次 430,000円、3年次 440,000円、4年次 450,000円）

児童学科 410,000円（2年次 420,000円、3年次 430,000円、4年次 440,000円）

ライフデザイン学科 410,000円（2年次 420,000円、3年次 430,000円、4年次 440,000円）

文学部 410,000円（2年次 420,000円、3年次 430,000円、4年次 440,000円）

社会情報学部 420,000円（2年次 430,000円、3年次 440,000円、4年次 450,000円）

人間関係学部 410,000円（2年次 420,000円、3年次 430,000円、4年次 440,000円）

比較文化学部 410,000円（2年次 420,000円、3年次 430,000円、4年次 440,000円）

五 実験実習費 実 費

六 その他の納付金については、別に定める。

七 第1号に定める入学検定料については、一般入試において複数の学科・専攻に同時に出願する場合は、次のとおり入学検定料割引を適用することができる。

① A方式において同時に2学科・専攻以上に出願する場合は、2学科・専攻目より1学科・専攻につき20,000円とする。

② B方式（大学入試センター試験を利用する選抜）において同時に2学科・専攻以上に出願する場合は、2学科・専攻目より1学科・専攻につき10,000円とする。

2 転学、転部・転科・転専攻、編入学及び再入学の場合の授業料その他の納付金の額については、別に定める。

第27条 授業料その他の納付金は、指定された期日までに納入しなければならない。

第28条 休学期間中の授業料は全額免除とし、教育充実費は半額免除とする。ただし、学期の途中で休学又は復学する者は、その期の所定の学費を納入しなければならない。

2 欠席又は停学中の者の授業料及び教育充実費は減免しない。

3 第22条の2の規定により留学を許可された者の留学期間中の授業料は全額免除とする。ただし、本学と外国の大学又は短期大学との交換留学協定（授業料等を相互に不徴収とすることを定めているものに限る。）に基づく交換留学生として、留学を許可された者を除く。

第28条の2 特に必要と認めた場合には、第26条に定める学生納付金を減免することができる。

2 学生納付金の減免に関する規程は別に定める。

第29条 退学又は除籍された者に対しても既納の授業料及び教育充実費は返戻しない。また未納の時は直ちに納入しなければならない（第23条の2第3号に該当するものを除く）。

第30条 削除

第31条 学生の中で、品行方正、学力優秀であって修業中学費支弁の途を失った者に対しては、貸費生として別に定める額を貸与することがある。

第32条 貸費生で卒業した者は、卒業の翌年から毎月貸与額の48分の1を月賦で返済することを要する。

第8章 教職員組織

第33条 本学に学長を置く。学長に事故のあるときはあらかじめ定めた者が代理する。

2 学長は、校務をつかさどり、所属教職員を統督する。

第33条の2 本学に副学長を置くことができる。

2 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

第33条の3 学部に学部長を置く。

2 学部長は、学部に関する校務をつかさどる。

第34条 本学に教育及び研究のため、教授、准教授、講師、助教、助教（実習担当）及び助手を置く。その定員は別にこれを定める。

第35条 本学に事務遂行のため、一定数の職員を置く。

第9章 教授会

第36条 学部に教授会を置く。

2 教授会は本学専任の教授、准教授、講師及び助教をもって組織する。

第37条 学部の教授会（以下「学部教授会」という。）は、次の事項を審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

一 学生の入学及び卒業

二 学位の授与

三 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、学部教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

2 学部教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長、学部長の求めに応じ、意見を述べるものとする。また、学科、専攻等は、学部長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学部長の求めに応じ、意見を述べるものとする。

3 学部教授会は、必要に応じて専門委員会を設け、その権限を委譲することができる。

第9章の2 運営会議

第37条の2 本学に運営会議を置く。

2 運営会議は、本学の教育研究に関する重要な事項について審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

3 運営会議に関する事項は、別に定める。

第10章 学生定員及び学級数

第38条 学生定員は次のとおりとする。

	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
一 家政学部			
被服学科	110名	7名	454名
食物学科	80名	—	320名
食物学専攻			
管理栄養士専攻	50名	—	200名
児童学科	80名	—	320名
児童学専攻			
児童教育専攻	50名	5名	210名
ライフデザイン学科	120名	7名	494名
二 文学部			
日本文学科	120名	7名	494名
英語英文学科	120名	7名	494名
コミュニケーション文化学科	120名	7名	494名
三 社会情報学部			
社会情報学科			
社会生活情報学専攻	100名	5名	410名
環境情報学専攻	100名	5名	410名
情報デザイン専攻	100名	5名	410名
四 人間関係学部			
人間関係学科			
社会学専攻	80名	4名	328名
社会・臨床心理学専攻	80名	4名	328名
人間福祉学科	100名	2名	404名

五 比較文化学部

比較文化学科 165名 5名 670名

- 2 家政学部食物学科食物学専攻及び児童学科児童学専攻の学級数は、1学年各2学級、4学年合計各8学級とし、家政学部食物学科管理栄養士専攻の学級数は、1学年1学級、4学年合計4学級とする。
- 3 人間関係学部人間福祉学科の介護福祉士養成課程の定員は1学年1学級30名とし、4学年合計4学級120名とする。

第11章 附属施設

第39条 本学に次の附属施設を置く。

- 一 総合情報センター
 - 二 寄宿舎
 - 三 健康センター
 - 四 心理相談センター
 - 五 学生相談センター
 - 六 博物館
 - 七 キャリア教育センター
 - 八 教職総合支援センター
 - 九 国際センター
 - 十 地域連携推進センター
 - 十一 英語教育研究所
- 2 前項の附属施設のほか、本学学部附属の教育研究施設を置くことができる。
 - 3 前二項の各附属施設に関する規程は別に定める。

第12章 科目等履修生、特別聴講学生、委託生及び外国人留学生

- 第40条 本学所定の授業科目のうち、1科目又は数科目を選んで履修を希望する者があるときは、授業及び研究に支障のない限り選考の上、科目等履修生として履修を許可することができる。
- 2 科目等履修生には、第11条の規定を準用して単位を与えることができる。
 - 3 科目等履修生に関する規程は別に定める。
- 第40条の2 国内外の大学又は短期大学との単位互換協定に基づき、本学の授業科目の一部の履修を希望する者があるときは、特別聴講学生として履修を許可することができる。
- 2 特別聴講学生には、第11条の規定を準用して単位を与えることができる。
 - 3 特別聴講学生に関する規程は、別に定める。
- 第41条 国内外の公共機関等から、その所属職員について研究事項を定め、研修について委託の願い出があるときは、授業及び研究に支障のない限り選考の上、委託生として研修を許可することができる。
- 2 委託生に関する規程は別に定める。
- 第42条 科目等履修生、特別聴講学生及び委託生については、別段の定めのあるものを除くほか、学部学生に関する規定を準用する。
- 第43条 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者については、外国人留学生として入学を許可することができる。
- 2 前項の規定により外国人留学生として入学を許可される者は、外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者として文部科学大臣の指定した者で、選考の上入学を許可された者とする。
 - 3 第1項の規定により入学を志願する者に対しては、当該学部において、履歴、人物、健康等について選考するほか、修学に必要な日本語及び学力について筆記、口述その他適当な方法によって選考を行う。
 - 4 外国人留学生に関する規程は別に定める。

第13章 地域貢献等

第44条 地域貢献等については別に定める。

第14章 学年、学期及び休業

第45条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第46条 学年を分けて、次の二期とする。

前期 4月1日から9月14日まで

後期 9月15日から翌年3月31日まで

2 第1項の規定にかかわらず、必要に応じて前期終了日及び後期開始日を変更することができる。

第47条 学年中の定期休業日を次のとおり定める。

- 一 学年末休業 3月21日から3月31日まで
- 二 夏季休業 8月1日から9月14日まで
- 三 冬季休業 12月22日から翌年1月6日まで
- 四 学校記念日 11月20日
- 五 日曜日
- 六 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

2 前項各号に定める定期休業日でも授業等を課し、又は特別講義を聴講させることがある。

3 第1項の規定にかかわらず、第1号から第3号までの休業期間を変更し、又は臨時に休業日を定めることができる。

附 則

(略)

附 則

1 この学則は、令和2年4月1日から施行する。

2 改正後の大妻女子大学学則第38条第1項に定める人間関係学部人間関係学科の学生定員は、令和2年度から令和4年度までの間は、次のとおりとする。

学科等	年度	令和2年度			令和3年度			令和4年度		
		入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
人間関係学部 人間関係学科										
社会学専攻		80名	4名	319名	80名	4名	318名	80名	4名	323名
社会・臨床心理学専攻		80名	4名	319名	80名	4名	318名	80名	4名	323名

3 改正後の大妻女子大学学則第38条第1項に定める人間関係学部人間福祉学科の学生定員は、令和2年度に限り、次のとおりとする。

学科等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
人間関係学部 人間福祉学科	100名	2名	412名

附 則

この学則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

1 この学則は、令和2年4月1日から施行する。

2 改正後の大妻女子大学学則施行の際、令和元年度以前に入学し、現に在学中の者に係る第4条の規定による別表(1)(但し、人間関係学部人間関係学科社会学専攻専門教育科目の「ビジネス英語」、「英語コミュニケーション」、「専門特殊講義」、社会・臨床心理学専攻専門教育科目の「Business English」、「English Communication」及び人間福祉学科専門教育科目の「ビジネス英語」、「英語コミュニケーション」を除く)の授業科目及び第9条第1項に関しては、なお、従前の例による。但し、全学共通科目外国語科目の人間関係学部に係る「備考」欄に関しては、平成30年度入学者から適用する。

3 改正後の大妻女子大学学則施行の際、令和元年度以前に入学し、現に在学中の者に係る第7条第1項に関しては、なお、従前の例による。但し、第7条第1項の規定による卒業のための最低修得単位数のうち、平成31年度及び令和元年度に家政学部児童学科児童教育専攻に入学した者に係る専門教育科目については、126単位とする。

附 則

1 この学則は、令和2年4月1日から施行する。

2 改正後の大妻女子大学学則施行の際、令和元年度以前に入学し、現に在学中の者に係る第4条の規定による別表(1)の授業科目に関しては、なお、従前の例による。

教務関係諸規程

大妻女子大学入学者の既修得単位の取り扱いに関する細則（昭和58年4月1日制定）

（総 則）

第1条 この細則は、大妻女子大学学則（昭和48年4月1日制定）第7条の2 第2項に規定する既修得単位の認定について定めるものとする。

（出願資格）

第2条 既修得単位の認定を願い出ることのできる者は、他の大学又は短期大学を卒業又は中途退学し、新たに本学の第1年次に入学した者とする。

（出願の時期）

第3条 出願の時期は第1年次の初めとする。

（出願手続）

第4条 既修得単位の認定を願い出る者は、次の書類を所定の期日までに教育支援センター教育支援グループ（多摩校に係わる学生については多摩事務部教育支援センター）へ提出するものとする。

- （1） 単位認定願書
- （2） 既修得単位の成績証明書

（単位の認定）

第5条 単位の認定は、教務委員会において審議し、教育上有益と認められた場合は、教授会の議を経て行うものとする。

（認定単位数）

第6条 単位の認定は、60単位を超えない範囲で行うものとする。

（認定単位の評価）

第7条 認定した単位の評価は、すべて「認」として処理するものとする。

附 則

この細則は、昭和58年度第1年次入学生から適用する。

附 則

この細則は、平成8年4月1日から施行し、平成8年度入学生から適用する。

附 則

この細則は、平成12年4月1日から施行し、平成12年度第1年次入学生から適用する。

附 則

この細則は、平成17年1月11日から施行し、平成16年12月1日から適用する。

附 則

この細則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成27年4月1日から施行する。

大学以外の教育施設等における学修に対する単位認定に関する細則（家政学部・文学部）

（平成14年3月14日制定 最終改正平成29年3月28日）

この細則は、大妻女子大学学則（昭和48年4月1日制定）第7条の3第3項に規定する単位認定に関する事項について定めるものとする。

家政学部・文学部

振り替え認定基準に定める検定または試験に合格した者、及び一定の成績を得た者には、本人の申請により、申請科目の配当年次に限り、4月の履修登録前に単位の認定及び授業科目への振り替え認定を行う。

1. 認定単位は合計6単位を越えることはできない。
2. 同レベルの複数の技能検定や試験を併用することはできない。
3. 再履修科目を振り替え認定することはできない。
4. 対象科目は以下のとおりとする。

全学共通科目

〔家政学部〕	英語 I A・英語 I B(計2単位)	または	英語 I C・英語 I D(計2単位)	〔文学部〕	英語 I A・英語 I B(計2単位)
	英語 II A・英語 II B(計2単位)				英語 I C・英語 I D(計2単位)
	英語 II C・英語 II D(計2単位)				英語 II A・英語 II B(計2単位)
					英語 II C・英語 II D(計2単位)

* □内の2科目を合わせて2単位を認定する。1単位のみで認定することはできない。

5. 振り替え認定基準と認定単位

認定単位	実用英語技能検定	TOEIC® L&R (IPテストも含む)	TOEFL®
4	準1級	700点以上	iBT® 68以上
6	1級	900点以上	iBT® 92以上

6. 対応科目を既に履修済みまたは履修登録中の場合は認定できない。
7. 認定申請の際、認定基準に定める検定の合格または試験の成績を証明する書類を提出しなければならない。
8. 履修登録時に、検定または試験の合格・成績取得を見込んで、必修科目の登録を見合わせることはできない。
9. 認定した単位の評価は、「N」として処理するものとする。

附 則

(略)

附 則

この改正後の細則は、平成29年4月1日から施行する。

大学以外の教育施設等における学修に対する単位認定に関する細則（社会情報学部）

（平成21年11月11日制定 最終改正平成31年1月16日）

この細則は大妻女子大学学則（昭和48年4月1日制定）第7条の3第3項に規定する単位認定に関する事項について定めるものとする。

社会情報学部

振り替え認定基準に定める試験に合格した者には、本人の申請により、申請科目の配当年次または上級年次に限り、指定された期間に単位の認定及び授業科目の振り替え認定を行う。

1. 対象科目は以下のとおりとする。

社会生活情報学専攻、環境情報学専攻： 専門教育科目（他専攻選択）

情報デザイン専攻： 専門教育科目（選択）

認定対象科目	単 位
情報処理機器概論	2 単位
インタフェースデザイン論	2 単位
統計処理及び演習	2 単位
情報管理	2 単位
アルゴリズム論及び演習 I	2 単位
情報ネットワーク論及び実習 I	2 単位
経営情報システム論	2 単位

2. 振り替え認定基準と認定単位

認定基準	認定単位
IT パスポート試験	2 単位
基本情報技術者試験	6 単位

3. 認定単位は、合計6単位を超えることはできない。

4. 対象科目を既に履修済みまたは履修登録中の場合は認定できない。また、再履修科目の振り替え認定は認めない。

5. 社会生活情報学専攻、環境情報学専攻の申請者は、他専攻で履修した単位と合わせて10単位を超えることはできない。

6. 認定申請の際、認定基準に定める試験の合格を証明する書類を提出しなければならない。

7. 単位の評価は認定として処理するものとし、評価は「N」とする。

8. この細則の改廃は、社会情報学部教務委員会の議を経て、社会情報学部教授会において行う。

附 則

（略）

附 則

この細則は平成31年4月1日から施行する。

試験に関する内規（昭和49年4月1日制定 最終改正 平成30年3月5日）

- ア** 試験を区分して、「定期試験」と「随時行う試験」とする。
- イ** 定期試験は、学期末・学年末に実施する。定期試験の実施科目は、1週間前に発表する。
- ウ** 履修登録をし、授業に出席した者でなければ受験資格を与えない。
- エ** 問題用紙による試験のほか、論文、または、レポート提出をもって試験に代えることがある。なお、科目によっては平常の学業成績をもって代えることがある。
- オ** 各授業科目について、出席がその授業時数の2/3に達しない者、及び授業料未納の者には原則として受験資格を与えない。
- カ** 成績は、試験の結果と平常の学修状態を総合して決定する。
- キ** 教育実習・校外実習・病気・忌引・交通機関の事故・裁判員選任に伴う事項等やむを得ない事情により定期試験等を受験できなかった者は、所定の期間内に速やかに「追試験願」を教育支援グループに提出しなければならない。その理由が妥当と認められた場合のみ、後日行われる1回限りの追試験を受けることができる。
- ク** 再試験とは、定期試験を受験し不合格の認定を受けた者が1回限り、所定の手続きを経て受験することができる試験である。
- ケ** 成績の評価基準は次のとおりである。
S…100点～90点 A…89点～80点 B…79点～70点
C…69点～60点 D…59点～（不合格）
- コ** 不合格の認定を受けた授業科目について、合格の認定を受けようとする場合は同一の授業科目を再び履修しなければならない。
- サ** 再試験を実施する科目は、学部、学科、専攻によって異なる。詳細については別に定める。
- シ** 追試験の得点は、特別の場合を除き2割減となり、再試験の評価は「C」または「D」となる。追試験の不合格者に対し再試験は行わない。
- ス** 追・再試験を受験する者は、所定の受験料を納めて手続きをしなければならない。
- セ** 受験に際しては、次の事項を厳守すること。
- （ア）受験の際は、必ず学生証を机上に掲示しておくこと。学生証がなければ受験することができない。
- （イ）受験の際は、机の中には何も入れてはならない。
- （ウ）許可のあった場合を除き、教科書・ノート・辞書などを試験場に持ち込んだ場合は、これを一括して椅子の下に置くこと。
- （エ）試験開始後、30分以内の遅刻者には、受験を許可する。ただし、終了時間は、延長しない。
- （オ）試験場で許可なく物品の貸借をしてはならない。
- （カ）試験開始後30分を経過しないうちは、退場することを許さない。
- （キ）30分経過後、答案を書き終わった者は、許可を得て退場することができる。なお、退場の際は、監督者の指示に従うこと。
- （ク）公正な態度で受験し、いささかでも他から疑問を持たれるような行為のないようにすること。
- ソ** 受験時、不正行為を行った者は「試験における不正行為者の処罰に関する規程（平成27年12月17日制定）」に基づいて処置される。

附 則

（略）

附 則

この規程の改正は、平成30年4月1日から施行する。

試験における不正行為者の処罰に関する規程（平成27年12月17日制定 最終改正平成29年12月18日）

この規程は、大妻女子大学学生懲戒規程（平成27年7月7日制定 以下「懲戒規程」という）第17条に基づき、試験における不正行為が発生した際、迅速に対応することを目的として定める。

- 1 試験における不正行為とは、次の各号のいずれかに該当する行為をいう。
 - ① 筆記試験
 - (1) 他人に受験を代理させる行為、及び他人の受験を代理する行為
 - (2) 他人の答案を見る行為、及び何らかの方法で他人の答案を知る行為
 - (3) 他人に答案を見せる行為、及び何らかの方法で他人に答案を教示する行為
 - (4) 他人と答案を交換する行為
 - (5) 持ち込みが許可されていない資料および電子機器類等を利用する行為
 - (6) 持ち込みが許可された資料および電子機器類等を貸借等する行為
 - (7) 所持品、衣服、身体、机または壁等へ書き込みをする行為、及びその書き込みを利用して答案を作成する行為
 - (8) その他試験監督者の指示に従わない行為、及び公正な試験の実施を阻害すると認められた行為
 - ② 論文・レポート・作品等の提出
 - (1) 他人に代筆等させた論文・レポート・作品等を提出する行為
 - (2) 他人の論文・レポート・作品等を代筆等する行為
 - (3) 実験や調査結果のデータを捏造又は改ざんする行為
 - (4) 他人の論文・レポート・作品等を盗用する行為
 - (5) その他授業担当者が不正だと判断した行為
- 2 試験のうち定期試験における不正行為については以下の処罰を行う。
 - ① 当該学期の定期試験の全試験科目を無効とする。
 - ② 不正行為者に対しては、懲戒規程第7条に基づいて、自宅謹慎を命じ、懲戒規程第5条第1項第1号の訓告とする。
 - ③ 副学長（学生担当）が当該不正行為を特に悪質なものと判断した場合、懲戒規程第8条に基づく調査委員会による調査を行い、必要に応じて更に嚴重な懲戒処分を実施する。
 - ④ 懲戒規程第10条第2項に基づいて、父母又は保証人に、不正行為及び懲戒処分の事実を通知するとともに、学内にその旨を公示する。
- 3 定期試験以外の試験における不正行為については以下のとおりとする。
 - ① 授業担当教員が当該試験を定期試験に準ずると判断する場合は、当該科目を無効とし、前項①～④を適用する。
 - ② 授業担当教員が当該試験を定期試験に準ずると判断しない、あるいは判断できない場合は、当該科目のみを無効とし、懲戒の対象とはせず、懲戒規程第6条に基づいて嚴重注意とする。
- 4 細部については、内規で定める。
- 5 この規程の改廃は、教務委員会の議を経て大学教育推進機構委員会において定める。

内 規

- (1) 試験とは、補講・試験期間（追・再試験期間を含む。）中又は授業期間中に実施する筆記試験及び当該試験に代えて課される論文・レポート・作品等の提出を指す。
- (2) 定期試験とは、補講・試験期間中に実施する試験（論文・レポート・作品等の提出を含む。）を指す。ただし、補講・試験期間中に補講を実施し、同時間内に試験（論文・レポート・作品等の提出を含む。）も行う場合は、定期試験以外の試験として取り扱う。
- (3) 集中講義については、定期試験以外の試験として取り扱う。
- (4) 無効となった科目の単位は、当該学期においては認定しない。
- (5) 自宅謹慎は、父母又は保証人の同居する自宅において行う。
- (6) 自宅謹慎の日数については、不正行為が発覚した日から1週間とする。
- (7) 学内の公示は、その不正行為の事実と懲戒処分のみとする。

- (8) 不正行為の事実調査は教育支援グループが行い、処罰に関する規程の第2項①～④の処罰を行う場合は、学生支援グループを通じて副学長（学生担当）に報告する。
- (9) 学生への訓告は、副学長（学生担当）からの依頼により、当該学生が所属する学部の学部長から与えることができる。

附 則

この規程は、平成27年12月17日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

大妻女子大学学生の留学に関する内規（平成8年3月15日制定 最終改定平成18年11月16日）**（総 則）**

第1条 この内規は、大妻女子大学学則（昭和48年4月1日制定）第22条の2第6項の規定により、学生の留学について必要な事項を定める。

（留学先の大学）

第2条 留学先の大学は、外国の大学又は外国の高等教育研究機関のうち大学に相当するもの（短期大学に相当するものを含む。）として学長が認定したものとする。

（出願資格）

第3条 留学を希望する者は、本学に半年以上在学していなければならない。

（出願手続）

第4条 留学を希望する者は、原則として6月末又は12月末までに次の書類をクラス指導主任を経て学部長に提出しなければならない。

- (1) 留学許可願（本学指定用紙）
- (2) 留学先大学発行の入学許可証又は受入許可書
- (3) 留学計画書及び履修予定科目一覧
- (4) 留学先大学の概要が記載された書類及び講義要綱等

（留学の許可）

第5条 学部長は、提出された書類について教務委員会の意見を徴し、留学が当該学生にとって教育上有益と認められる場合は、教授会の議を経て許可するものとする。

（留学期間）

第6条 留学の期間は1年以内とする。

（留学終了の手続）

第7条 留学を終了した者は、留学修了届をクラス指導主任を経て学部長に提出しなければならない。

2 留学先大学で修得した授業科目の単位の認定を希望する者は、留学修了届とともに次の書類を学部長に提出しなければならない。

- (1) 単位認定願（本学指定用紙）
- (2) 留学先大学発行の成績証明書又は単位修得証明及び評価基準を示す書類
- (3) 当該修得科目の授業内容及び授業時間数を証明する書類

（単位認定）

第8条 学部長は、提出された書類について、教務委員会による単位認定案を教授会に諮るものとする。

2 単位の認定は、学則第22条の2第3項の定めるとおりとする。

3 認定した単位の評価は、すべて「認」として処理するものとする。

（帰国後の履修取扱い）

第9条 帰国した年度の後期開講科目の履修を希望する者については、所定の日時に履修登録を認めるものとする。

2 留学先大学の学年暦の差異によって生ずる履修上の取扱いについては、教務委員会の定めるところによる。

（留学許可の取消し）

第10条 学部長は、留学生について次のいずれかに該当する場合には、教授会の議を経て留学許可を取り消すことができる。

- (1) 留学の成果が上がらないと認められたとき
- (2) 本学学生としての本分に反したとき

（補 則）

第11条 この内規に定めるもののほか、必要な事項は教務委員会が定める。

附 則

（略）

附 則

1. この内規は、平成18年11月16日から施行する。

大妻女子大学再入学に関する細則（昭和55年4月1日制定 最終改正平成20年2月13日）

（総 則）

第1条 この細則は、大妻女子大学学則（昭和48年4月1日制定。以下「学則」という。）第23条に規定する再入学について定める。

（出願資格）

第2条 再入学を願い出ることのできる者は、学則第18条により退学し、かつ、退学後2年以内の者とする。
ただし、年度途中で退学した場合は、退学した年度の4月から起算し2年以内とする。

（再入学できる学科・専攻）

第3条 再入学できる学科・専攻は、退学前に在学した同一の学科・専攻とする。ただし、学年に関しては、原則として退学前と同一とする。

（再入学の時期）

第4条 再入学の時期は、毎年4月とする。

（在籍期間）

第5条 再入学した者の在籍期間は、退学前の在学期間を含め、8年を超えることはできない。

（出願手続）

第6条 再入学を出願する者は、次の書類を入試グループへ提出するものとする。

（1）再入学願書

（2）退学前の成績証明書

2 再入学願を提出できるのは、毎年2月の指定の期日までとする。

（選 考）

第7条 再入学志願者の選考は、当該年度の実施要項により当該学科が行う。

（カリキュラム）

第8条 再入学した学生の履修すべきカリキュラムは、再入学を許可された相当年次のカリキュラムを適用する。

（既修得単位の認定）

第9条 退学前に修得した単位は、原則としてこれを認定し、再入学後の修得単位に通算することができる。

（履修指導）

第10条 再入学を許可された者に対する履修指導は、クラス指導主任及び教育支援グループにおいて行う。

（納入金）

第11条 再入学を許可された者は所定の納入金を指定の期日までに納入するものとする。

附 則

（略）

附 則

この細則は、平成20年2月13日から施行し、平成20年2月1日から適用する。

大妻女子大学早期卒業に関する規程（平成19年1月18日制定）

（趣旨・目的）

第1条 この規程は、大妻女子大学学則第12条ただし書きの規定に基づき、大妻女子大学における早期卒業の認定に関し必要な事項を定める。

（対象者）

第2条 本学に3年以上在学し、卒業に必要な単位を優秀な成績をもって修得したと認められる者を対象とする。

（早期卒業の申し出・審査）

第3条 早期卒業を希望する者は、2年次終了時に所属学科の学科長（社会情報学部は専攻主任）に申し出るものとする。

2 早期卒業を希望することができる者は、卒業要件単位数を90単位以上修得し、2年次終了時の通算GPAが3.7以上であること。

3 早期卒業希望の申し出があったときは、教務委員会で審査のうえ、教授会において審議し、学長に報告する。

（学習指導）

第4条 学科は、早期卒業希望者の3年次学習指導について、適切に実施する。

2 早期卒業希望者は、3年次から卒業論文、卒業研究、卒業制作等の指導を受けることができる。

3 早期卒業希望者は、3年次前期終了時に学習状況報告書を所属学科長（社会情報学部は専攻主任）に提出する。

（早期卒業の認定）

第5条 早期に卒業するためには、次の要件をすべて満たさなければならない。

（1）学則に定める教育課程を履修し、卒業に必要な単位数以上を修得していること。

（2）本学大学に3年以上在学していること。

（3）在学期間における通算GPAが3.7以上であること。

（4）卒業論文、卒業研究、卒業制作等が必修の場合は、その評価がA以上であること。

（5）当該学生が早期卒業を希望していること。

（卒業認定審査）

第6条 教務委員会は前条の要件について審査のうえ、教授会において審議し、学長が卒業を認定する。

（卒業の時期）

第7条 早期卒業の時期は、3年次終了時又は4年次前期終了時とする。

（その他）

第8条 この内規に定めるもののほか、早期卒業を実施する学部、学科、専攻及び早期卒業に関し必要な事項は、各学部において別に定める。

附 則

この規程は、平成19年4月入学者から適用する。

大妻女子大学における転部・転科・転専攻の取扱いに関する規程（平成26年2月10日制定）

第1条 大妻女子大学学則第22条の5の規定に基づく転部・転科・転専攻（以下「転部等」という。）の取扱いについては、この規程の定めるところによる。

第2条 転部等を受け入れる年次は、2年次とする。

第3条 転部等の受け入れは、学科・専攻毎の受け入れ年次の在籍者数（受け入れの前年度における11月1日現在）が、原則として学則第38条に規定する入学定員を超えない場合に限り、その範囲内において学部判断により実施できるものとする。ただし、入学定員を超える在籍者数がある場合でも、収容定員において許容範囲内であれば、学部判断により実施できるものとする。

2 転部等の受け入れ可能な人数は、各学部において、学科・専攻ごとに定め、11月初旬に教育支援グループに通知する。

第4条 受け入れを実施する学部は、必要に応じて選考基準等を定める。

第5条 転部等の選考は、原則として在籍中の成績、筆記試験、面接等を組み合わせて総合的に判定する。

第6条 転部等を希望する者は、所定の期日までに、出願書類を教育支援グループに提出する。

第7条 選考の結果、転部等を許可された者は、所定の転籍書類を学生支援グループに提出する。

第8条 転部等は在学期間中において1回限りとし、再度の転部等については認めない。

第9条 転部等を行った者に対する転部等以前に取得した単位の取扱いについては、受け入れを行った学部において必要に応じて卒業に必要な単位として認定することができるものとする。

第10条 転部等を行った者の在学年数は、転部等を行う前の在学期間を含め8年を超えることはできない。

第11条 本規程に定めのない事項については、そのつど大妻女子大学大学教育推進機構委員会の議を経て、大妻女子大学運営会議においてこれを定める。

第12条 この規程の改廃は、大妻女子大学大学教育推進機構委員会の議を経て、大妻女子大学運営会議が行う。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

大妻女子大学科目等履修生規程（平成9年11月4日制定 最終改正平成25年11月14日）

（趣 旨）

第1条 大妻女子大学学則（昭和48年4月1日制定。以下「学則」という。）第40条に規定する科目等履修生の取扱いについては、この規程の定めるところによる。

（入学資格）

第2条 科目等履修生として入学できる者は、学則第14条に規定する大学入学資格を有する者とする。

（入学の手続）

第3条 科目等履修生を志願する者は、次の書類に選考料13,000円を添えて所定の期日までに、学長に願い出なければならぬ。

- (1) 入学願書
- (2) 履歴書
- (3) 健康診断書
- (4) 最終出身学校の修了証明書又は卒業証明書
- (5) 現に職のある者は所属長の承諾書
- (6) 現に日本国に在住している外国人は、住民票

（入学の許可）

第4条 科目等履修生の入学は、教授会の議を経て学長が許可する。

（入学科及び履修料）

第5条 科目等履修生として入学を許可された者は、所定の期日までに入学科20,000円及び履修料として1単位につき20,000円を納付しなければならない。ただし、実験及び実習等に要する経費は、必要に応じ別途徴収することがある。

（諸料金の還付）

第6条 既納の選考料、入学科及び履修料は返還しない。

（入学期）

第7条 科目等履修生の入学期は、学年又は学期の始めとする。

（在学期間）

第8条 科目等履修生の在学期間は、6か月又は1年とする。ただし、特別の理由があるときは、願い出により在学期間の延長を許可することがある。

（履修単位数）

第9条 科目等履修生が1年間に出席できる履修科目の総単位数は、10単位以内とする。

（許可の取消し）

第10条 科目等履修生として本学諸規程に反したときは、教授会の議を経て学長は科目履修の許可を取り消すことがある。

（証明書の交付）

第11条 履修した授業科目の試験に合格し、単位を修得した者は、願い出により単位修得証明書の交付を受けることができる。

（他の規程の準用）

第12条 科目等履修生については、本規程のほか、正規の学生に関する諸規程を準用する。

（本学大学院生の履修）

第13条 本学大学院生が科目等履修生として教育職員免許状等各種資格取得のために必要な科目を履修する場合の選考料、入学科、履修料及び履修単位数等については、別に定める。

附 則

（略）

附 則

この規程は、平成25年11月14日から施行する。

大妻女子大学委託生規程（昭和46年4月1日制定 最終改正平成17年11月17日）

（趣 旨）

第1条 大妻女子大学学則（昭和48年4月1日制定）第41条第2項に規定する委託生の取扱いについては、この規程の定めるところによる。

（入学許可）

第2条 委託生は、国内の公立の学校にあっては教育委員会、国立及び私立の学校にあってはその学校長、その他の団体にあっては所属機関の長から委託された者、国外の教育研究機関等にあってはその学校長又は所属機関の長から委託された者について、教授会の議を経て学長が入学を許可する。

（入学資格）

第3条 委託生は、研究事項について研修するに十分な学力がなければならない。

（入学手続）

第4条 教育委員会、学校長又は所属機関の長は、所定の願書に研修を志望する者の履歴書、健康診断書を添えて学長に願い出るものとする。

（研修料）

第5条 委託生は、別に定めるところにより研修料を納付しなければならない。

（研修料の還付）

第6条 既納の研修料は返還しない。

（入学期）

第7条 委託生の入学期は毎学年の始めとする。ただし、特別の事情がある場合は、この限りでない。

（研修期間）

第8条 委託生の研修期間は、1年とする。ただし、特別の事情のある者は、6か月又は3か月とすることができる。

（講義等への出席）

第9条 委託生が研究事項に関連のある講義又は実験実習に出席することを願い出たときは、学部長は教授会の議を経てこれを許可することができる。

（研修結果の報告）

第10条 委託生は、所定の研修を修了したときは、その結果を学部長に報告しなければならない。

（研修証明）

第11条 所定の研修を修了したと認められた者には、研修証明書を交付することができる。

緊急事態発生時の授業及び試験等の取り扱いについて(覚書) (平成20年4月17日制定)

気象警報の発令や交通機関のストライキ等が生じた場合、授業及び試験等の取り扱いは次のとおりとする。また、緊急事態が発生した場合の授業及び定期試験等の取り扱いは、学内放送、学内掲示及び大妻Webメールをもって伝達する。

なお、補講については授業担当者の指示を受けること。

1. 気象警報発令の場合

(1) 各時限の授業開始2時間前から終了時間までの間に、警報下に置かれた時間帯があった場合、その時限の授業を休講とする。

なお、各時限の授業開始2時間前から終了までの時間帯の途中で、警報が解除された場合でも変更しない。

(2) 各時限の定期試験開始2時間前から終了時間までの間に、警報下に置かれた時間帯があった場合、その試験時限を最高3時間遅らせて試験を実施する。また、必要に応じて試験日程を変更することがある。

なお、各時限の試験開始2時間前から終了までの時間帯の途中で、警報が解除された場合でも変更しない。

(3) 台風や大雪など、気象状況が時間の経過とともに悪化し、数時間後には警報の発令が充分予測される場合、全学休講の措置を行うことがある。または、試験日程を変更することがある。

(4) 気象警報の対象は、各キャンパスが所在する以下の地域で「暴風警報と大雨警報が同時に」、「暴風警報と洪水警報が同時に」、「大雪警報」、「暴風雪警報」のいずれかが気象庁から発表された場合とする。

【千代田校】

・東京都の23区西部

【多摩校】

・東京都の多摩南部

授業期間の場合 (警報下に置かれた時間帯があった場合 その時限を休講とする)	授業時間						授業の取り扱い
	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限	
1時限開始の2時間前から終了時まで	休講						1時限は休講
2時限開始の2時間前から終了時まで		休講					2時限は休講
3時限開始の2時間前から終了時まで			休講				3時限は休講
4時限開始の2時間前から終了時まで				休講			4時限は休講
5時限開始の2時間前から終了時まで					休講		5時限は休講
6時限開始の2時間前から終了時まで						休講	6時限は休講

定期試験期間の場合 (警報下に置かれた時間帯があった場合 その試験時間を最高3時間遅らせる)	試験開始時間					
	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
1時限開始の2時間前から終了時まで (千代田校・多摩校 9:00～)	12:00					
2時限開始の2時間前から終了時まで (千代田校・多摩校 10:40～)		13:40				
3時限開始の2時間前から終了時まで (千代田校・多摩校 13:00～)			15:00			
4時限開始の2時間前から終了時まで (千代田校・多摩校 14:40～)				16:40		
5時限開始の2時間前から終了時まで (千代田校 16:20～)					18:20	
6時限開始の2時間前から終了時まで (千代田校 18:00～)						—

※休講の対象とならない気象警報や本学のキャンパスの地域には気象警報が発令されていないが、学生の皆さんが住んでいる地域に気象警報が発令され、登校が困難な場合は、後日、授業担当教員に届(指定様式)を提出してください。

2. 交通機関のストライキの場合

(1) 交通機関のストライキ等の対象とする交通機関は以下のとおり。

- ①千代田校…首都圏のJR線または東京メトロ全線あるいは都営地下鉄全線
- ②多摩校…首都圏のJR線または小田急電鉄全線あるいは京王電鉄全線

(2) ストライキが実施された場合の授業の取り扱いは以下のとおり。

- ①当日午前6時までにストライキが中止された場合は、平常授業とする。
- ②当日1時限開始（午前9時）までにストライキが中止された場合は、午後より開始される3時限の授業より実施する。
- ③当日1時限開始（午前9時）までにストライキが中止されない場合は、終日休講とする。
- ④上記以外の交通機関がストライキであっても、原則として平常どおり授業を行う。順法闘争等によるダイヤの乱れ等はこれに含まない。

(3) ストライキが実施された場合の定期試験等の取り扱いは以下のとおり。

- ①当日午前6時までにストライキが中止された場合は、平常どおり試験を実施する。
- ②当日1時限開始（午前9時）までにストライキが中止された場合は、午後より開始される3時限の試験より実施する。中止した1・2時限の試験は、後日あらためて実施する。
- ③当日1時限開始（午前9時）を過ぎてもストライキが中止されない場合は、試験を中止する。中止した試験は順延とせず、後日あらためて実施する。
- ④上記以外の交通機関がストライキであっても、原則として平常どおり試験を実施する。順法闘争等によるダイヤの乱れ等はこれに含まない。

授業期間の場合	授業時間						授業の取り扱い
	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限	
当日午前6時までに運転開始							平常どおり行う
当日1時限開始（午前9時）までに運転再開	休講	休講					3時限より行う
当日1時限開始（午前9時）までに運転が再開されない場合	休講	休講	休講	休講	休講	休講	終日休講

試験期間の場合	試験時間						試験の取り扱い
	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限	
当日午前6時までに運転開始							平常どおり行う
当日1時限開始（午前9時）までに運転再開	中止	中止					3時限より行う 1・2時限は後日実施
当日1時限開始（午前9時）までに運転が再開されない場合	中止	中止	中止	中止	中止	中止	後日実施

3. その他災害等で交通機関が全面的に運転を中止している場合の授業及び試験の措置については、上記措置に準ずるものとする。

4. その他注意事項

- (1) 学生及び保証人等からの電話での問い合わせには一切応じられないので、インターネット・テレビ・ラジオの報道によく注意し、上記の措置に従って判断すること。
- (2) ストライキの解除または交通機関の運転が再開されても、交通機関が混乱しているときは、登校のために無理をして事故に巻き込まれないよう安全を心がけること。

附 則

1. この覚書は、平成20年4月17日から施行し、平成20年4月1日から適用する。
2. 交通機関のストライキに伴う授業及び試験の取扱い（平成3年1月24日制定）及び気象警報発令に対する試験等の取扱い（覚書）（平成2年1月24日制定）は廃止する。

附 則

1. この覚書は、平成20年6月12日から施行し、平成20年5月23日から適用する。

附 則

1. この覚書は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

1. この覚書は、平成27年4月1日から施行する。

（目 的）

第1条 この規程は、本学家政学部児童学科（以下「児童学科」という。）卒業生及び本学大学院人間文化研究科人間生活科学専攻修士課程児童発達臨床学専修（家政学研究科児童学専攻修士課程を含む。以下「大学院児童発達臨床学専修等」という。）修了者の家庭教育相談に関する高い学術的水準の知識・技能の維持及び研究の進歩を図るために、大妻女子大学家政学部児童臨床研究センター規程第3条第3号に定める家庭教育相談員基礎能力等の認定を行い、もってその任務が適正に遂行されるようにすることを目的とする。

（定 義）

第2条 この規程において「家庭教育相談員基礎能力」とは、児童学科卒業時にあつては保育士資格、幼稚園教諭免許状、小学校教諭免許状取得者が、大学院児童発達臨床学専修等修了時にあつては、保育士資格、幼稚園教諭免許状、小学校教諭免許状、中学校教員免許状、高等学校免許状取得者が、家庭教育相談に関する基礎的な学習を終えて、保育又は教育に従事し、経験者の適切な指導の下に家庭教育相談に関する実務経験と研修を遂行しようとする者に認定する基礎的な能力をいう。

2 この規程において「家庭教育相談員資格」とは、保育士資格、幼稚園教諭免許状、小学校教諭免許状取得者の家庭教育相談に関する専門的な資質を有する者として、家庭教育に関する諸問題について援助を必要とする者の相談と指導活動を遂行する者に認定する資格をいう。

（申 請）

第3条 家庭教育相談員基礎能力の研修を受けようとする者は、学部三学年開始時又は修士課程第一学年開始時、別記様式1の研修申請書に別表に定める研修料添えて、家政学部児童臨床研究センター所長に研修の受講申請をしなければならない。

（認定要件）

第4条 家庭教育相談員基礎能力は、保育並びに教育活動に必要な児童学に関する基礎的資質及び理論的基礎を有する者として、次の各号の要件を満たす者に対して認定する。

- (1) 児童学科において、卒業に必要な授業科目に併せて、保育士資格、幼稚園教諭一種免許状又は小学校教諭一種免許状のいずれかの取得に必要な授業科目に優秀な成績を得ていること。
- (2) 大学院児童発達臨床学専修等において、修了に必要な授業科目及び児童学に関する修士論文に優秀な成績を得ていること。
- (3) 本学において、指定する研修課程を修了していること。

第5条 家庭教育相談員資格は、保育並びに教育に関する優れた資質に加えて、児童学に関する高度な専門的知識、技能並びに研究能力を有する者のうち、次の各号の要件を満たす者に対して認定する。

- (1) 本学家政学部児童学科において、卒業に必要な授業科目に併せて、保育士資格、幼稚園教諭一種免許状又は小学校教諭一種免許状の何れかの取得に必要な授業科目に優秀な成績を得て、前条に定める家庭教育相談員基礎能力の認定を得ていること。
- (2) 大学院児童発達臨床学専修等において、修了に必要な授業科目及び修士論文に優秀な成績を得て、併せて保育士資格又は幼小中高教諭免許を有していること。
- (3) 保育、幼稚園教育、小学校教育の実務に二年以上の経験を有し、その間家庭教育相談に必要な知識、技能の向上に関する研修と研究を行なっていること。
- (4) 家庭教育相談に関する実績を内容とする事例研究を提出し、児童臨床研究センターで行う審査に合格すること。

（認 定）

第6条 前二条に定める基礎能力等の認定は、センター所長及び家政学部長の申し出に基づいて学長が行う。

（認定業務）

第7条 第4条及び第5条に定める基礎能力等の認定に関する業務は、家政学部児童臨床研究センター所員会が行なう。

2 センター所員会が認定に関する業務を行なうときは、教育支援センターの職員が加わることとする。

（研修・研究）

第8条 家庭教育相談員資格の認定に際して必要とする研修と研究とは次の各号に掲げるものとする。

- (1) 児童臨床研究センターが主催する研究会、研修会又は講演会への参加

- (2) 家庭教育相談に関する団体が主催する研究会、研修会又は講演会への参加
- (3) 保育士、幼稚園、小学校の実務に関する研修会又は講演会への参加
- (4) 保育士、幼稚園、小学校の実務に関する施設園校内外研究会への参加又は発表
- (5) 家庭教育相談に関する学会又は研究会への参加又は発表

(認定・登録)

第9条 家庭教育相談員基礎能力の認定を受けようとする者は、学部第四学年修了時又は修士課程二学年修了時には、別記様式6の認定審査申請書に、別表に定める認定審査料を添えて、家政学部児童臨床研究センター所長に認定審査の申請をしなければならない。

- 2 前項の規定により認定を受けようとする者は、児童学科又は大学院児童発達臨床学専修等に在学する者でなければならない。

第10条 家庭教育相談員資格の認定を受けようとする者は、別記様式2の申請書に、別表に定める認定審査料を添えて、家政学部児童臨床研究センター所長に申請しなければならない。

- 2 前項の規定により認定を受けようとする者は、児童学科の卒業生又は大学院児童発達臨床学専修等の修了者でなければならない。

第11条 大学は、前二条の規定により申請した者のうち、家庭教育相談員基礎能力を有すると認定した者又は家庭教育相談員資格を有するに適格と認定した者に対して、別記様式4の資格認定書又は別記様式5の能力認定書を交付する。

- 2 前項の規定により基礎能力又は資格の認定書を交付された者が、家庭教育相談に関するそれぞれの任務を遂行するには、認定登録簿に、その氏名及び住所の登録を受けなければならない。

第12条 前条の認定登録簿は、児童臨床研究センターに備える。

- 2 基礎能力又は資格の認定を受けた者は、登録を受けた事項に変更があったときは、遅滞なくその旨を児童臨床研究センターに届け出なくてはならない。

(認定の確認)

第13条 第11条第2項により、認定登録簿に登録を受けた者は、その専門的知識、技能等の資質向上のため、常に自己研修に努めなければならない。

第14条 前条の主旨に基づき家庭教育相談員資格を有する者は、その資格を認定されてから5年ごとに、自己研修の成果を報告し、認定の確認を受けなければならない。

- 2 前項に定める認定の確認を申請する者は、別記様式3の申請書により、児童臨床研究センターに申請しなければならない。

(倫理)

第15条 家庭教育相談員基礎能力を認定された者又は家庭教育相談員資格を認定されたものは、保育・教育に携わる者としての道義的責任と、保育士、幼稚園教諭及び小学校教諭に関わる倫理を自覚し、その信用を傷つけるような行為をしてはならない。

(登録の消除)

第16条 第14条に定める認定の確認の申請を行わない者は、家庭教育相談員資格の認定を取り消すとともに、その登録を消除する。

- 2 第15条の規定に違反した者は、児童臨床研究センター所員会の審査に基づき家庭教育相談員資格の認定を取り消すとともに、その登録を消除する。

(附則)

- 1 この規程に定めるもののほか、基礎能力及び資格の認定、研修と教育及び認定の確認に関する必要事項は、大妻女子大学家政学部児童臨床研究センター規程第12条により、センター所員会の議を経て、センター所長が別に定める。

- 2 この規程は平成12年4月1日から施行する。

- 3 この規程施行の際、本学児童学科において保育士資格、幼稚園教諭免許状又は小学校教諭免許状を取得し卒業後二年以上経過した者で、次の各号の何れかの実務に携わっている場合には、第5条第1号の規定にかかわらず家庭教育相談員資格の認定を申請することができる。

- (1) 保育士、幼稚園教諭又は小学校教諭の職
- (2) 児童臨床、保育臨床に基づいて家庭教育に関する援助を行う職

- (3) 子育て支援又は家庭教育相談を行う国公立施設の職
 - (4) その他児童学に基づいて家庭教育に関する援助を行う職
- 4 この規程施行の際、本学児童学科第2学年以上に在学し、保育士資格、幼稚園教諭免許状又は小学校教諭免許状を取得する見込みのある者は、次の各号に掲げる認定方法の何れかを選択して申請することができる。但し、保育士資格、幼稚園教諭免許状又は小学校教諭免許状を取得できなかった場合にはこの限りではない。
- (1) 卒業時点で家庭教育相談員基礎能力の認定を申請する。
 - (2) 卒業後所定の実務経験を経た時点で家庭教育相談員資格の認定を申請する。

附 則

- 1 この規程は、平成14年4月1日から施行する。
- 2 改正後の本規程施行の際、保育士資格又は幼稚園、小学校、中学校、高等学校のいずれかの教諭免許状を取得し本学大学院児童学専攻を修了後二年以上経過した者で、次の各号の何れかの実務に携わっている場合には、第5条第2号の規定にかかわらず家庭教育相談員資格の認定を申請することができる。
- (1) 保育士、幼稚園教諭又は小学校教諭の職
 - (2) 児童臨床、保育臨床に基づいて家庭教育に関する援助を行う職
 - (3) 子育て支援又は家庭教育相談を行う国公立施設の職
 - (4) その他児童学に基づいて家庭教育に関する援助を行う職
- 3 改正後の本規程施行の際、本学大学院修士課程児童学専攻第二学年以上に在学し、所定の修了資格を取得する見込みのある者は、次の各号に掲げる認定方法の何れかを選択して申請することができる。但し、所定の修了資格を取得できなかった場合にはこの限りではない。
- (1) 修了時点で家庭教育相談員基礎能力の認定を申請する。
 - (2) 修了後所定の実務経験を経た時点で家庭教育相談員資格の認定を申請する。

附 則

この規程は、平成17年1月11日から施行し、平成16年12月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

別 表

家庭教育相談員基礎能力研修料	4,000円
家庭教育相談員基礎能力認定審査料	5,000円
家庭教育相談員資格認定審査料	10,000円

家庭教育相談員に関する基礎能力等認定業務実施内規（平成12年4月1日制定）

（目 的）

第1条 大妻女子大学家政学部児童臨床研究センター家庭教育相談員基礎能力等認定規程（平成12年4月1日制定。以下「認定規程」という）附則1の規定に基づき、家庭教育相談員の基礎能力等を認定する業務の細目について定める。

（家庭教育相談員基礎能力の認定）

第2条 基礎能力の認定は次に示す各号のうち、申請者の該当する専攻、免許及び資格に関わる科目の単位による。

- （1）児童学専攻で、保育士資格を取得しようとする者は、児童学科において、卒業に必要な授業科目に併せて、保育士資格取得に要する必修科目及び選択科目から70単位を申請する。ただし、全学共通科目は除く。
- （2）児童学専攻並びに児童教育専攻で、幼稚園教諭免許状を取得しようとする者は、児童学科において、卒業に必要な授業科目に併せて、それぞれの幼稚園教諭免許状の取得に要する教科に関する科目及び教職に関する科目の中から70単位を申請する。
- （3）児童教育専攻で、小学校教諭免許状を取得しようとする者は、児童学科において、卒業に必要な授業科目に併せて、小学校教諭免許状取得に要する教科に関する科目及び教職に関する科目の中から70単位を申請する。
- （4）申請者の履修する単位が、前各号に規定する70単位に満たない場合には、認定に必要な70単位に達するよう、さらに児童学科専任教員の担当する教科又は教職に関する科目を選択履修する。
- （5）前各号に規定する必要単位の科目には、「児童臨床特講」又は「保育臨床論」の何れかが評価B以上の成績を得て必ず含まれていることとする。

第3条 基礎能力の認定に合格する基準は、前条に定める科目の中50単位以上の評価がA以上の成績を得ていることとする。

（家庭教育相談員資格の認定）

第4条 認定に必要な事例研究の報告は次の各号の内容を満たしていることとする。

- （1）保育士、幼稚園教諭又は小学校教諭の日常的な業務における、申請者自身の行なう指導、援助又は家庭教育相談活動を扱った記録であること。
- （2）扱った内容が、申請者の働きかけだけにとどまらず、指導、援助又は家庭教育相談を必要とする者の状態と併せて具体的に記述してあること。
- （3）指導、援助又は家庭教育相談の対象とした状態、目標、経過の諸相及び結果が記述解説され、分析及び考察がなされていること。
- （4）事例研究報告の評価が、所員会が前各号に基づいて作成した評価基準を満たしていること。

（申請要項及び学生便覧記載要項の作成）

第5条 認定規程及び本業務実施要項に基づき、基礎能力等認定の主旨及び申請の手続きの細目を配布する申請要項及び学生便覧に記載しその周知を図る。

附 則

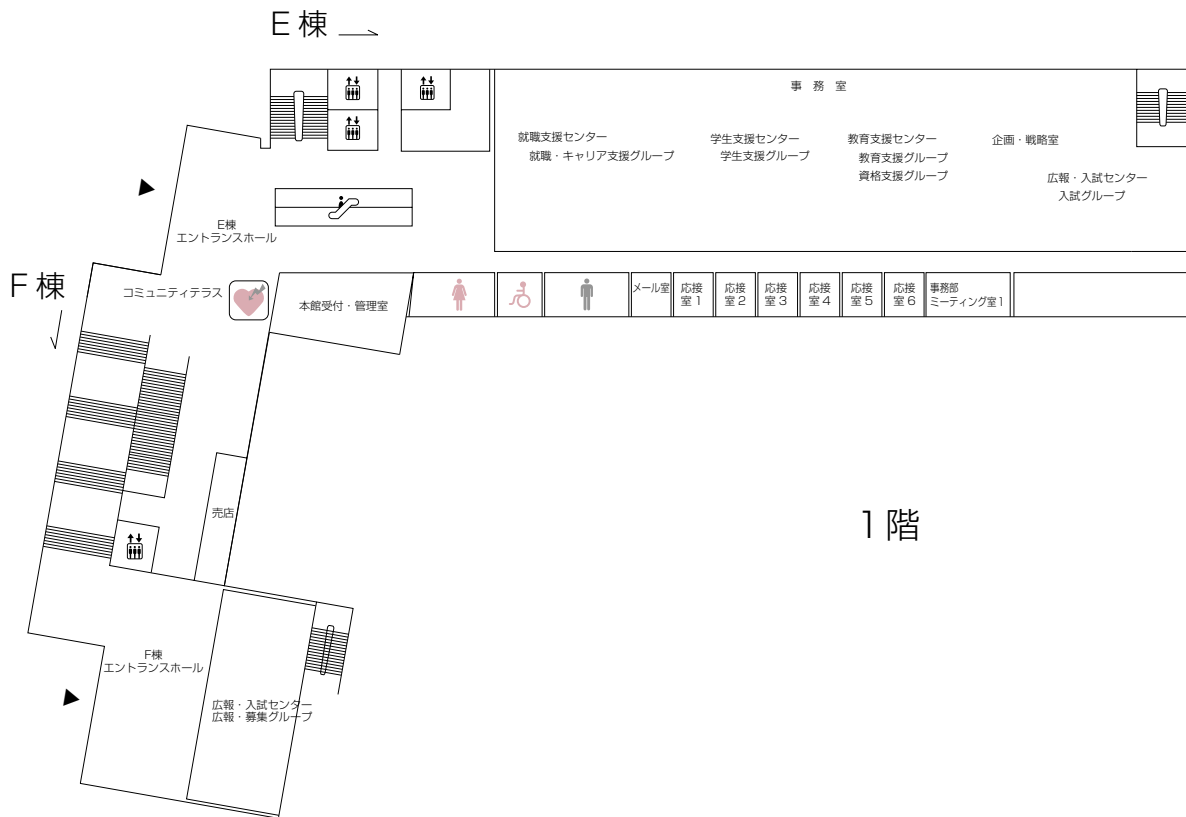
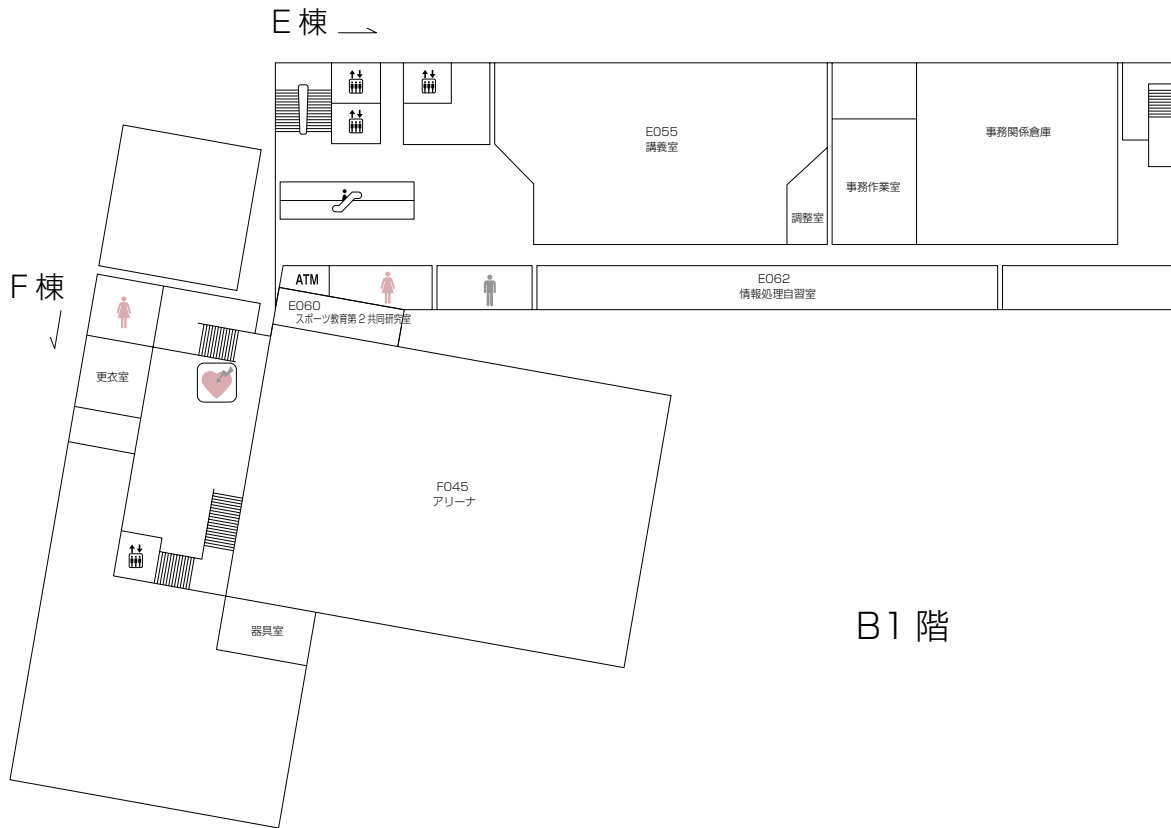
この内規は平成12年4月1日から施行する。

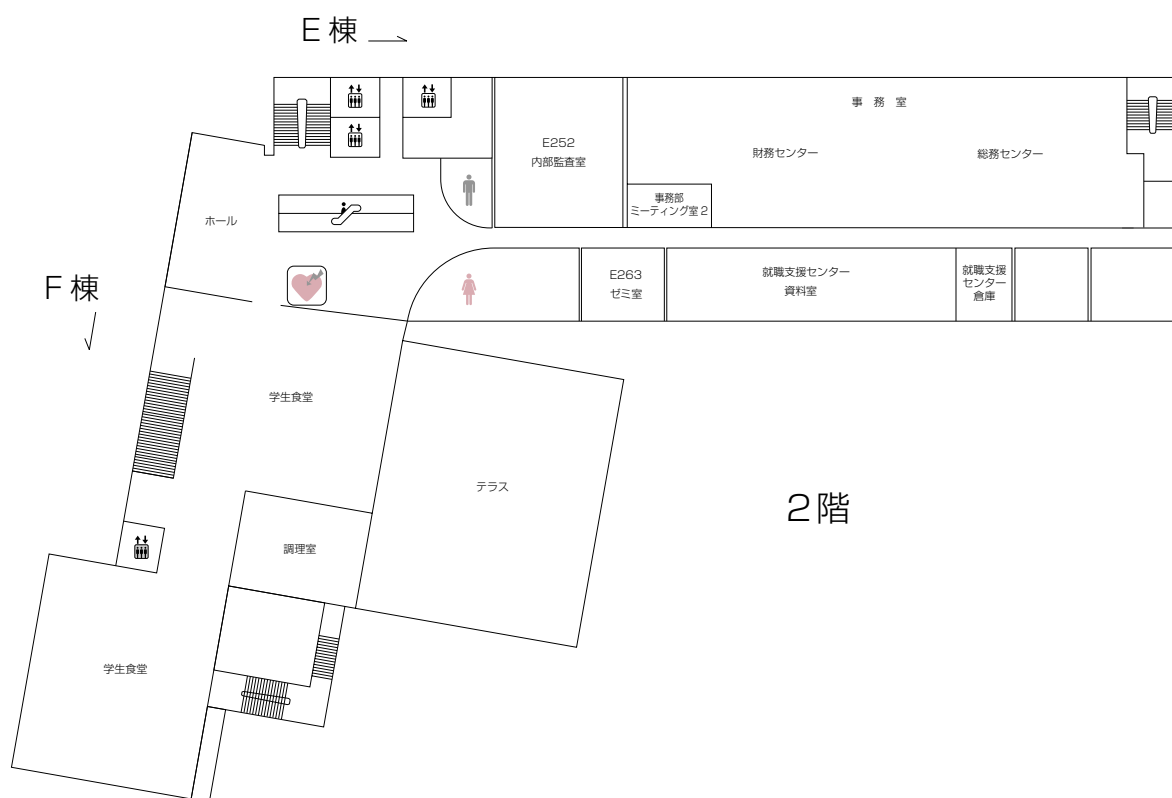
附 則

この内規は平成28年4月1日から施行する。

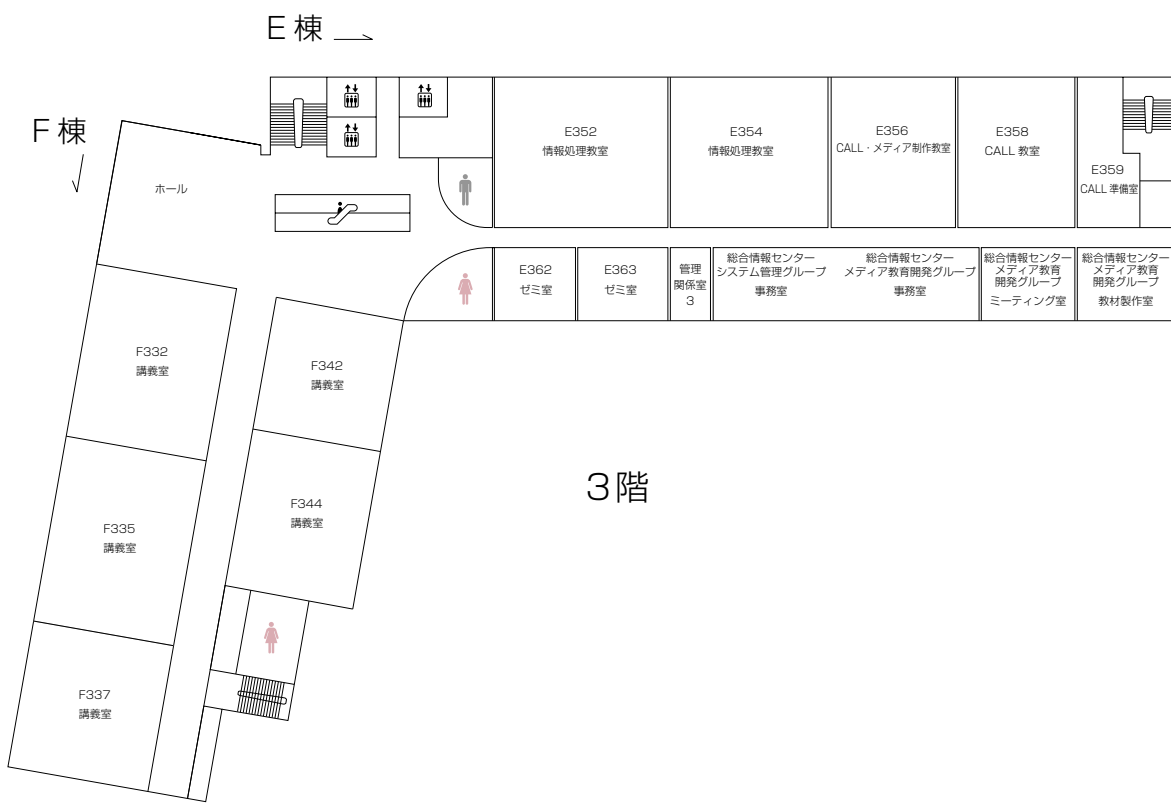
千代田校舎見取図

本館

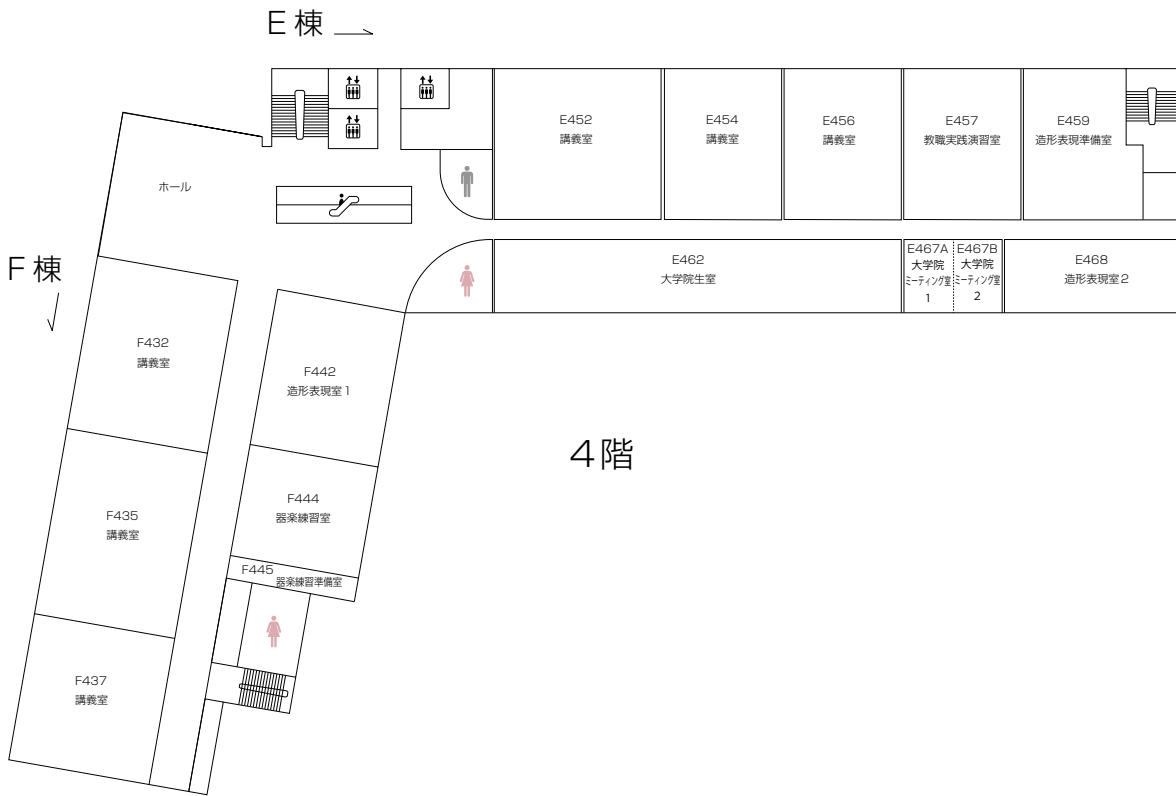




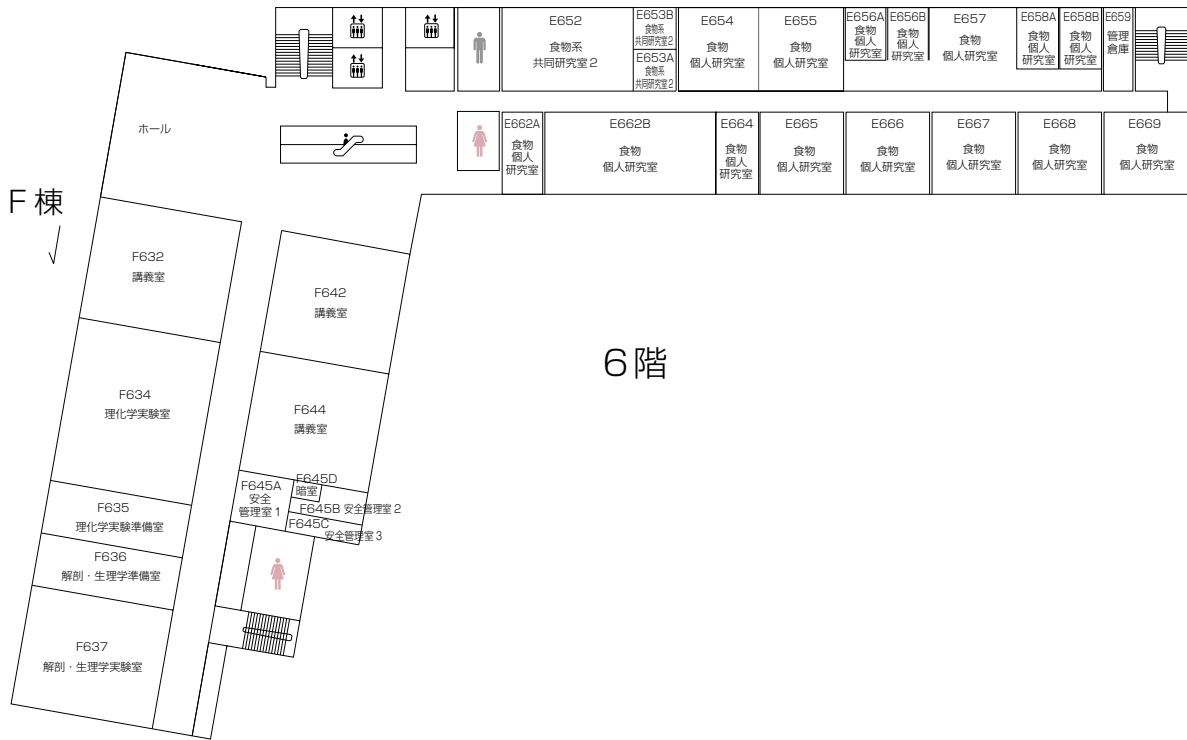
2階



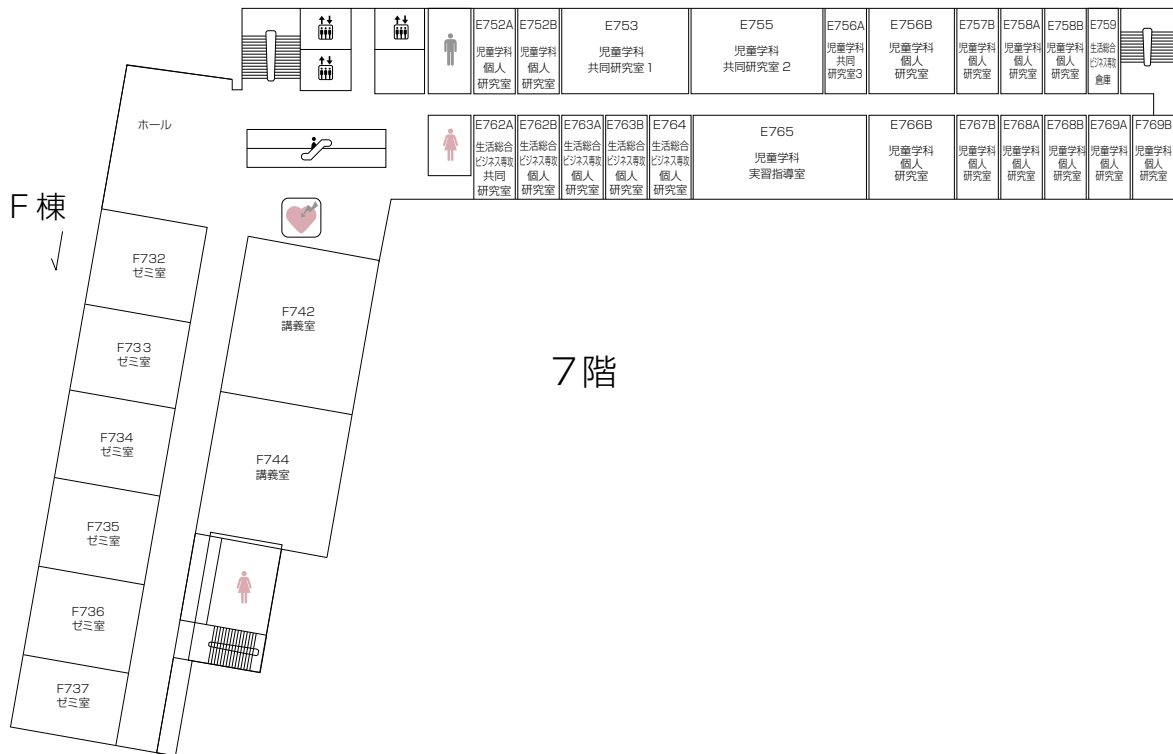
3階



E棟



E棟



8階

E棟



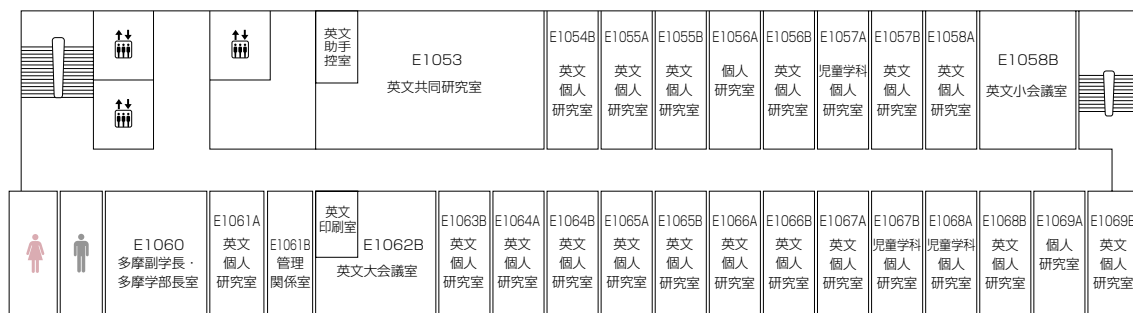
9階

E棟



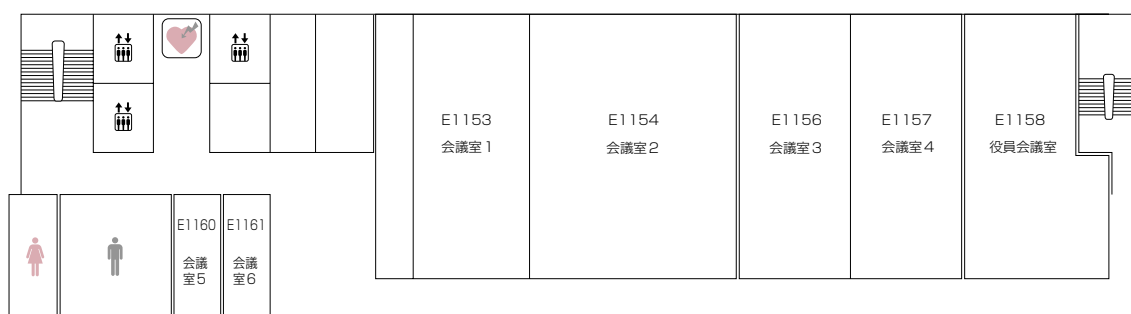
10階

E棟



11階

E棟

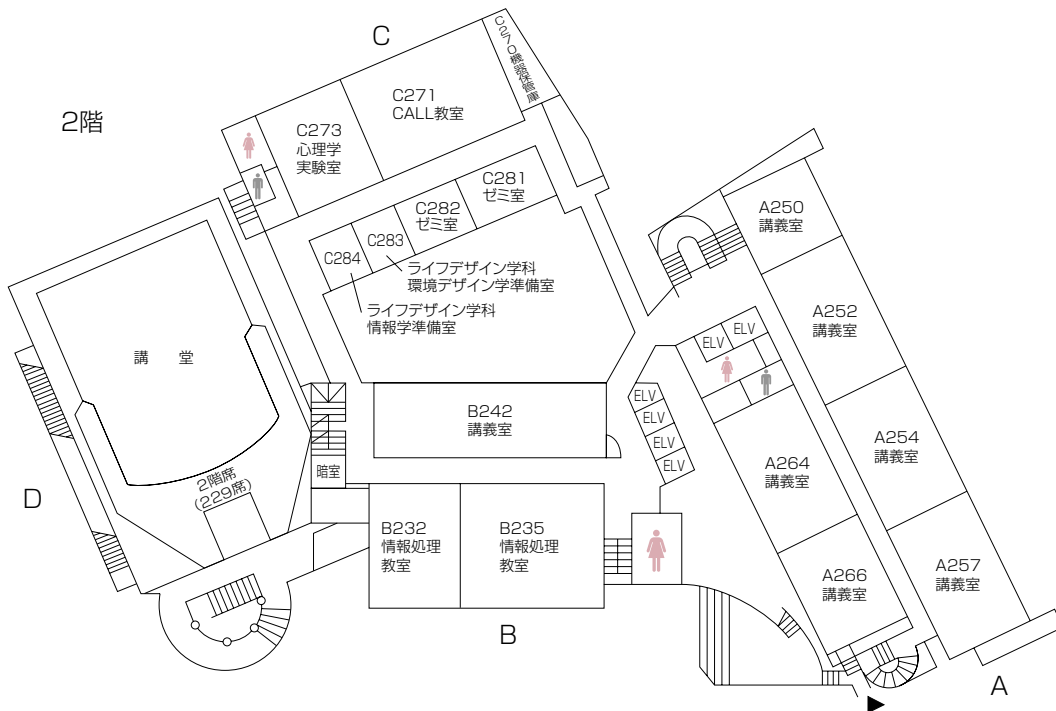
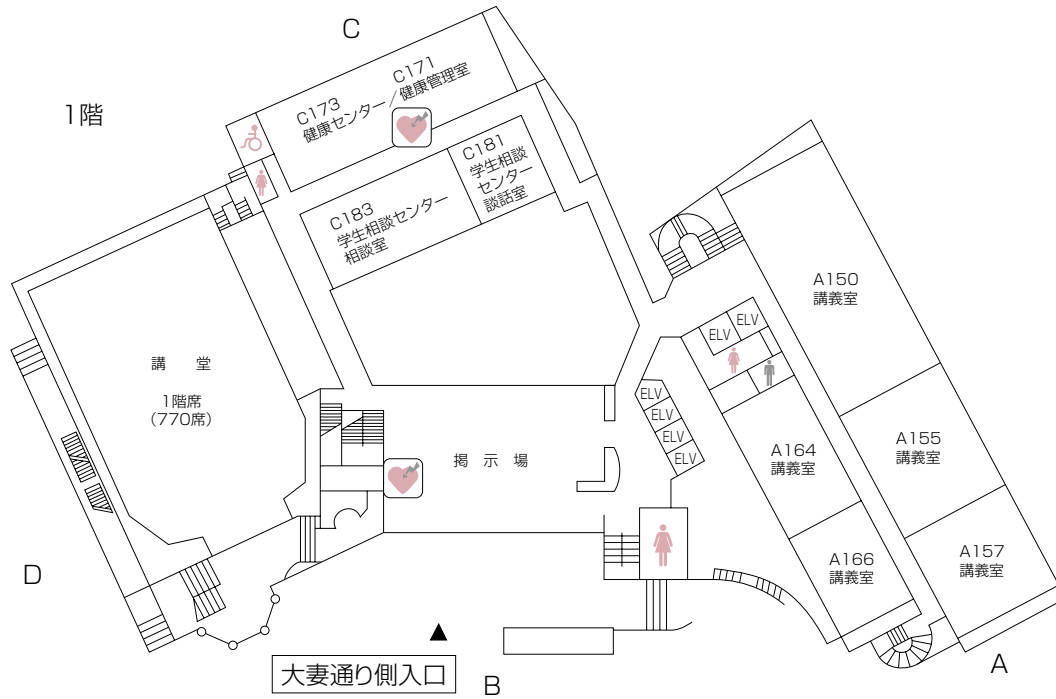


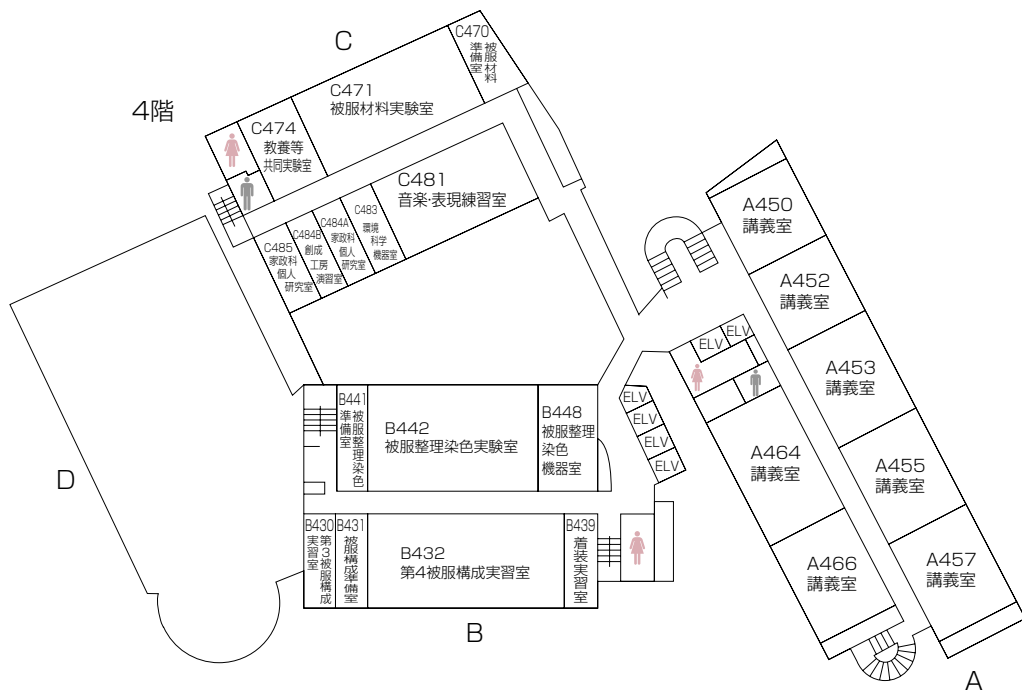
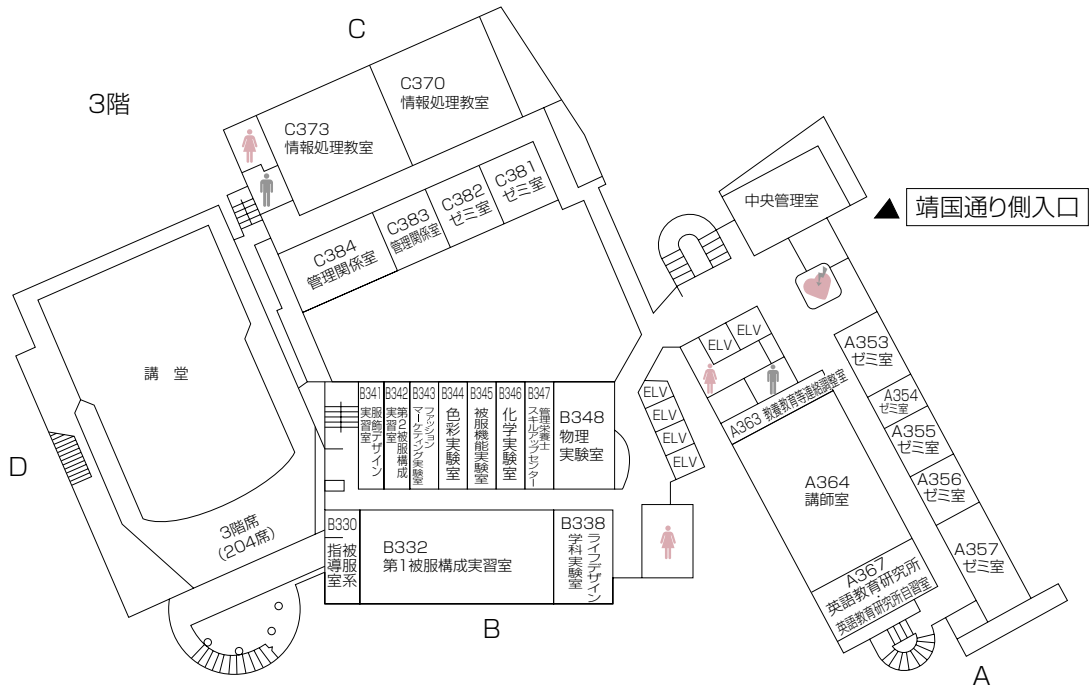
12階

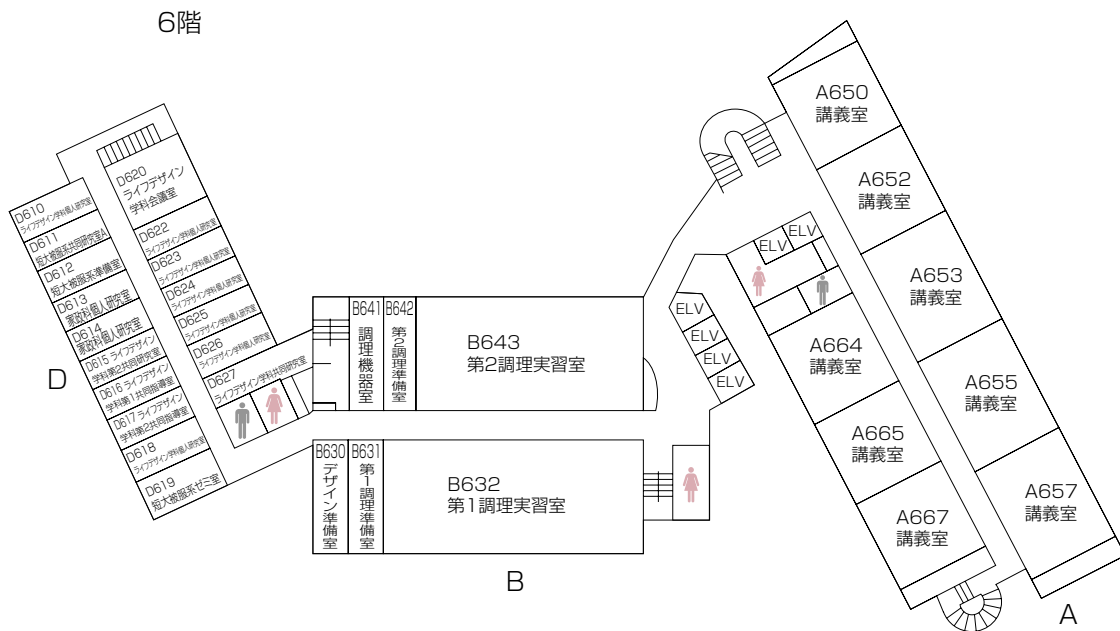
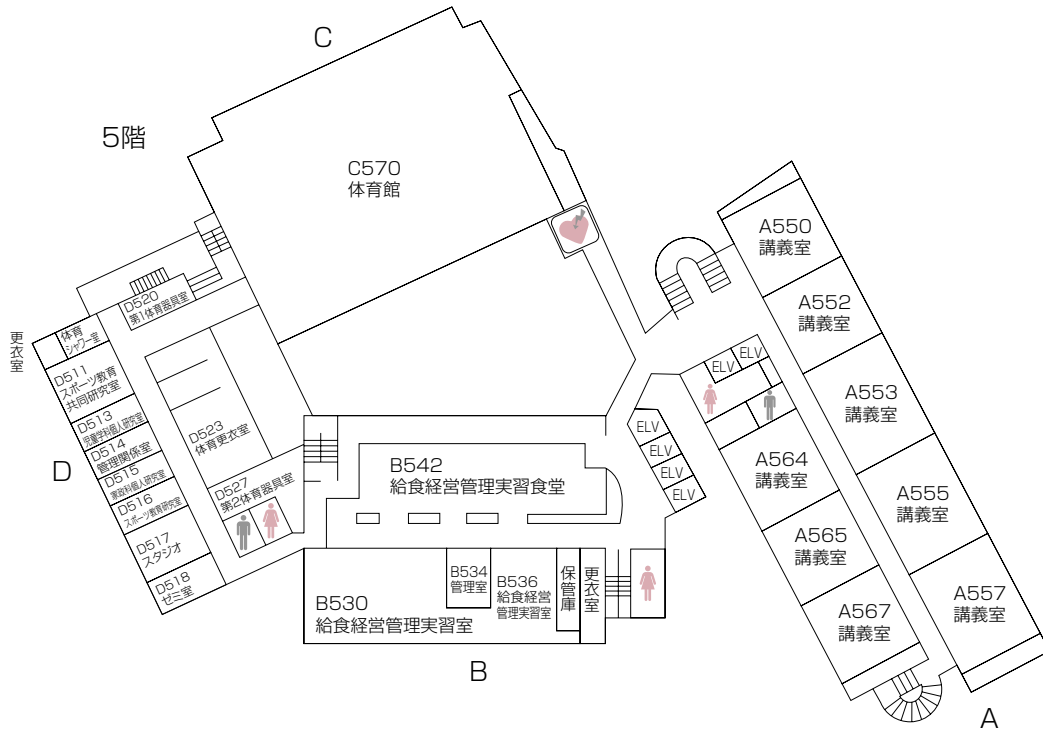
E棟

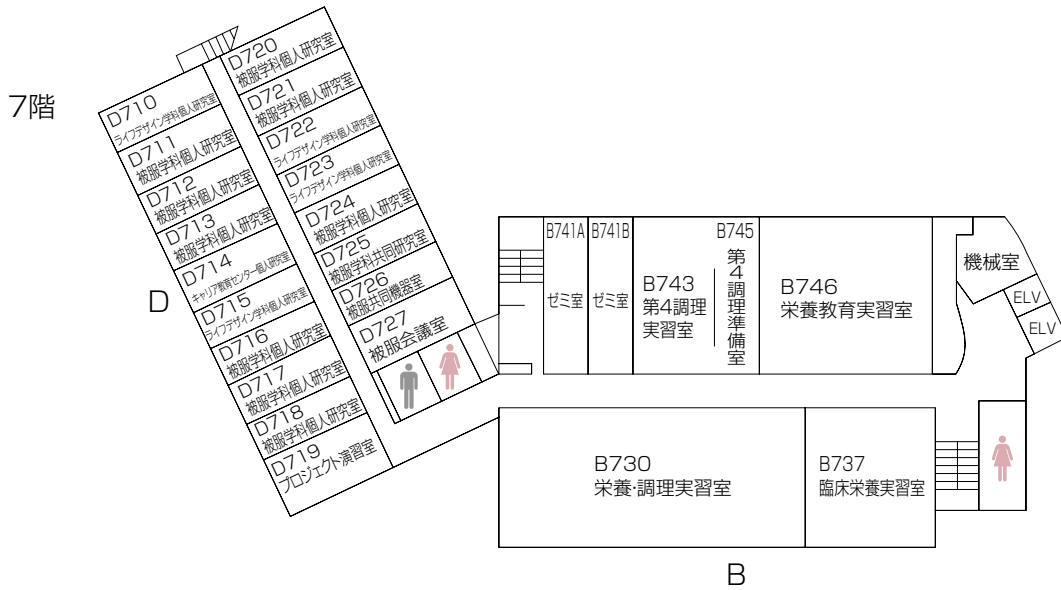




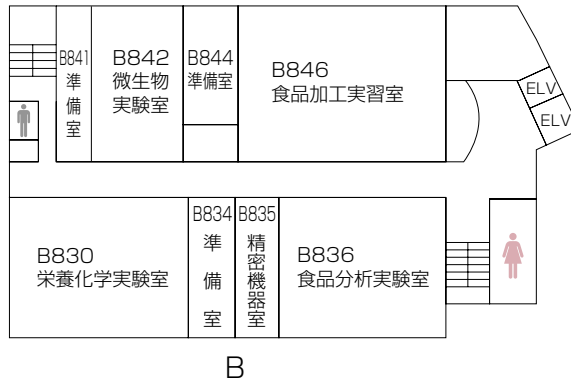




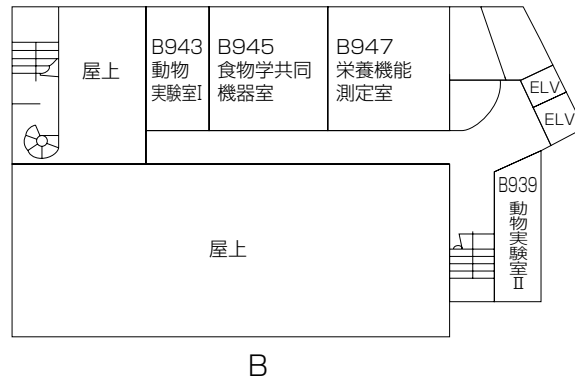




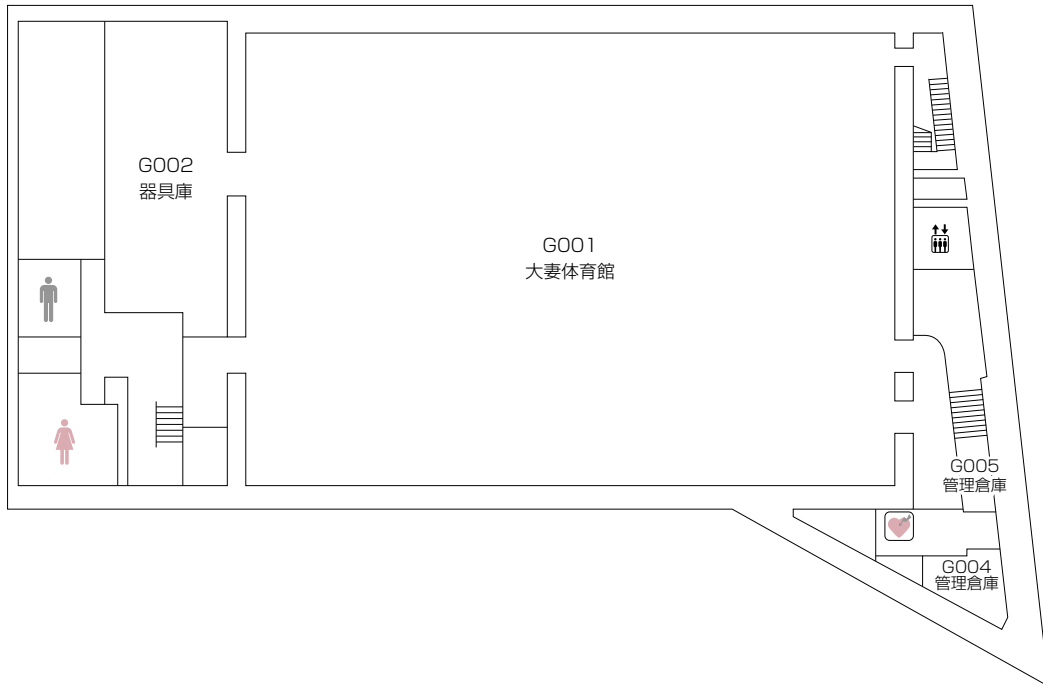
8階



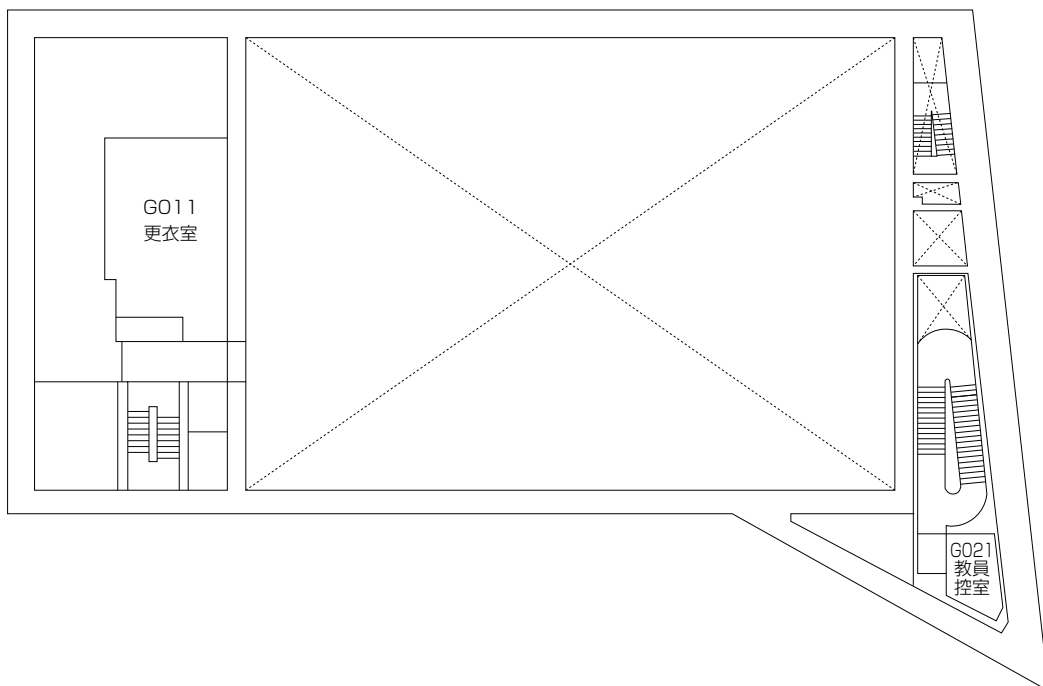
9階



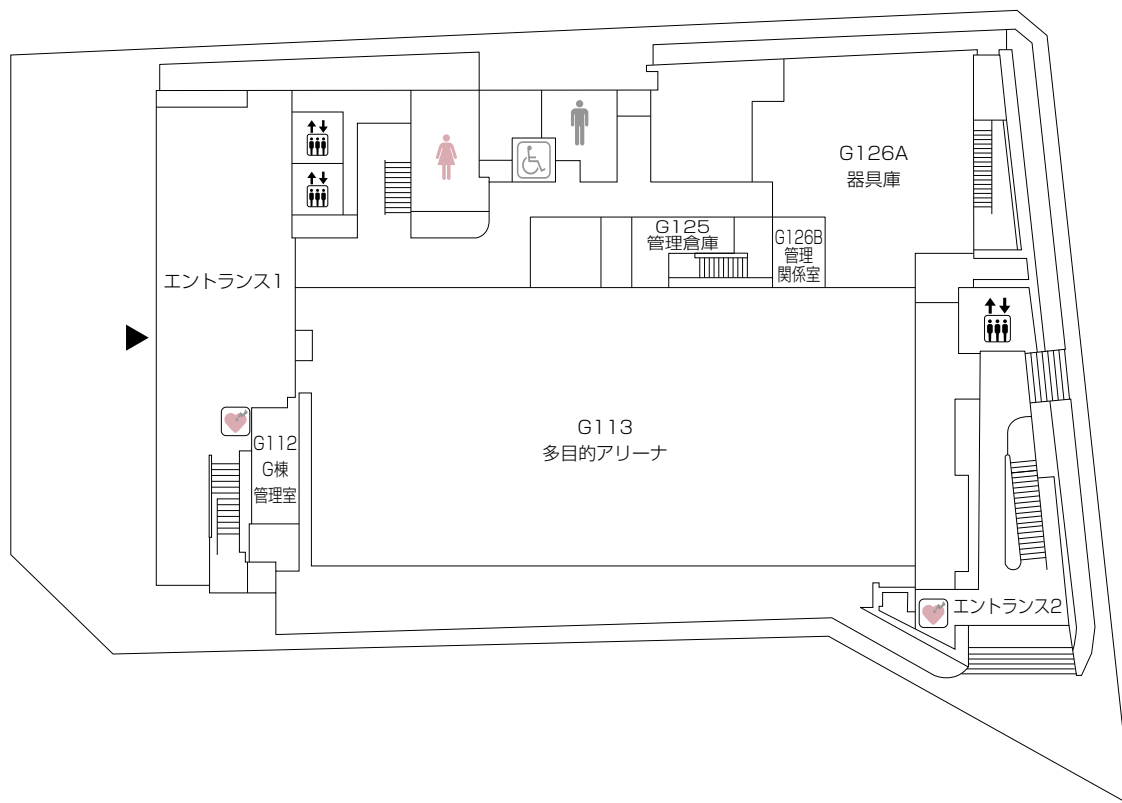
G棟 地下2階



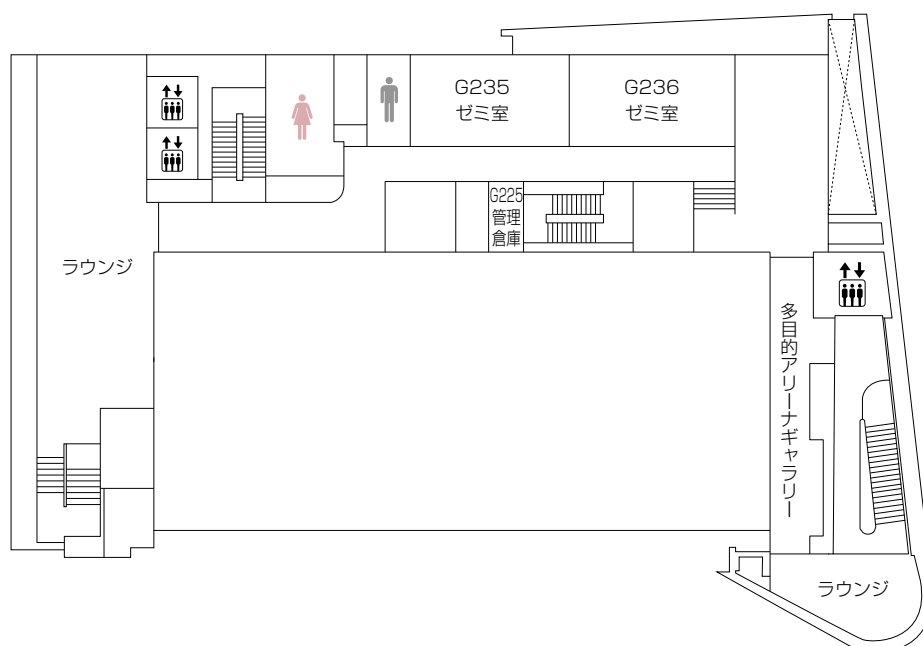
G棟 地下1階



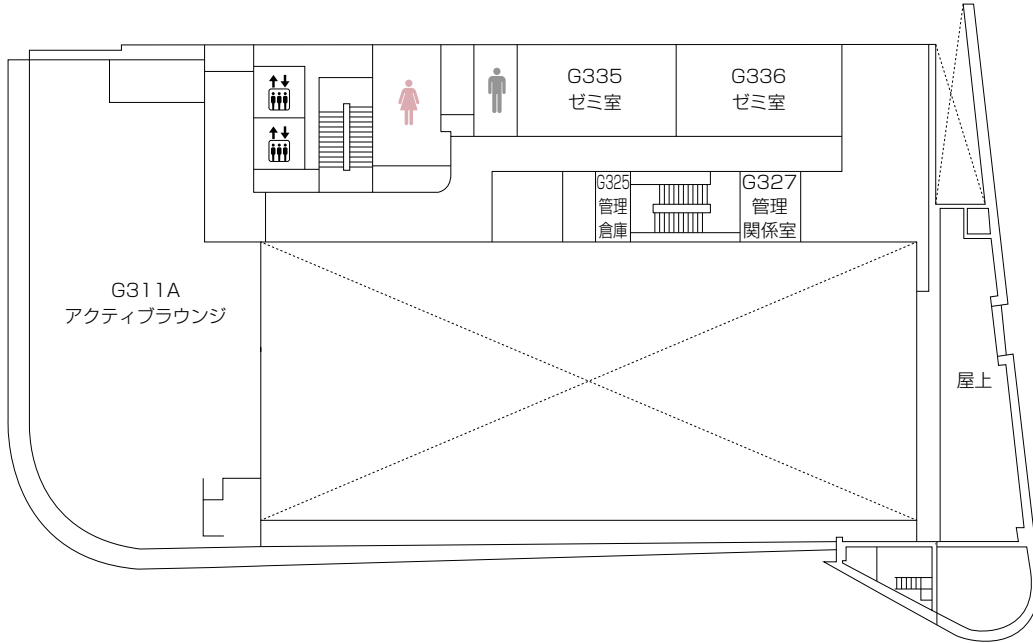
G棟 1階



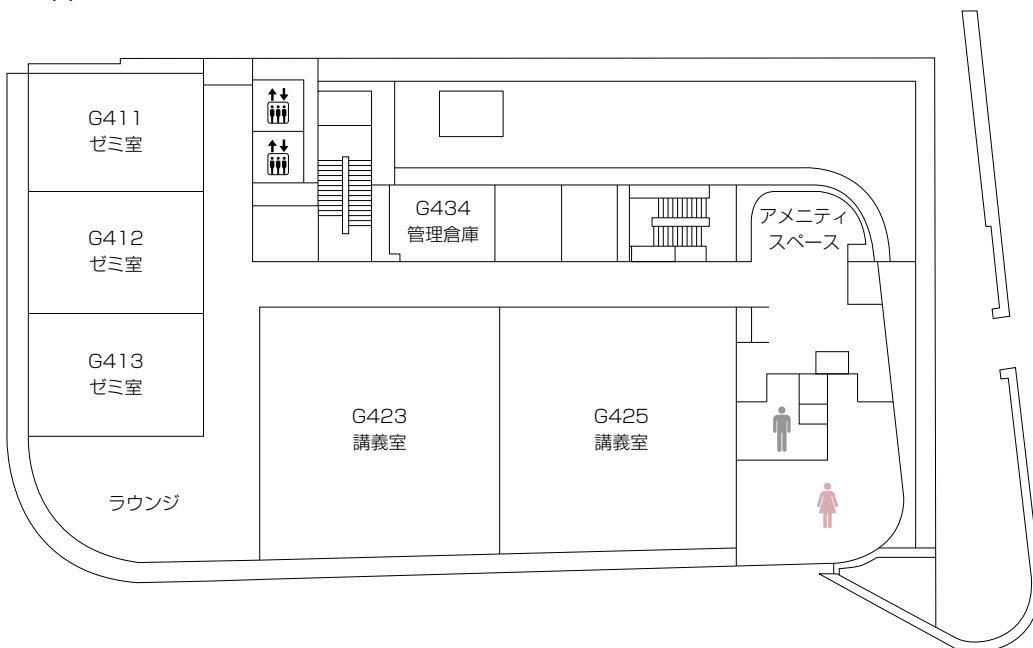
G棟 2階



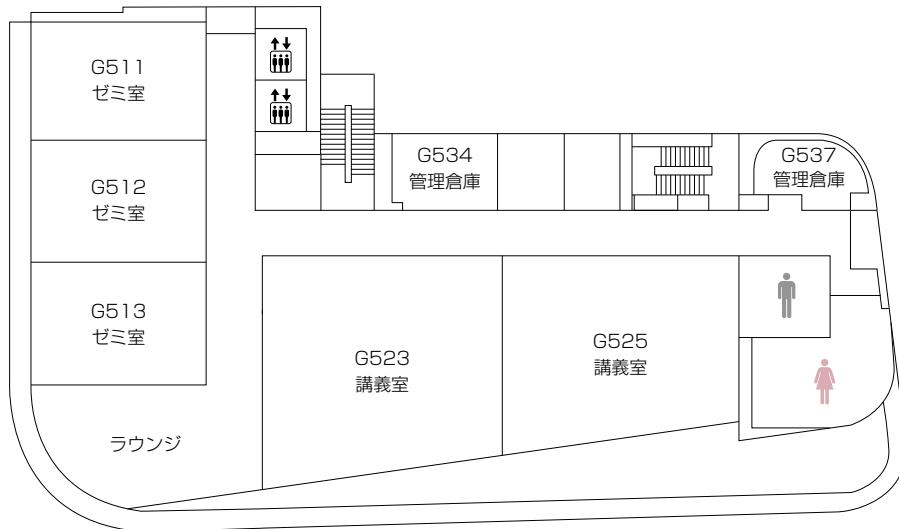
G棟 3階



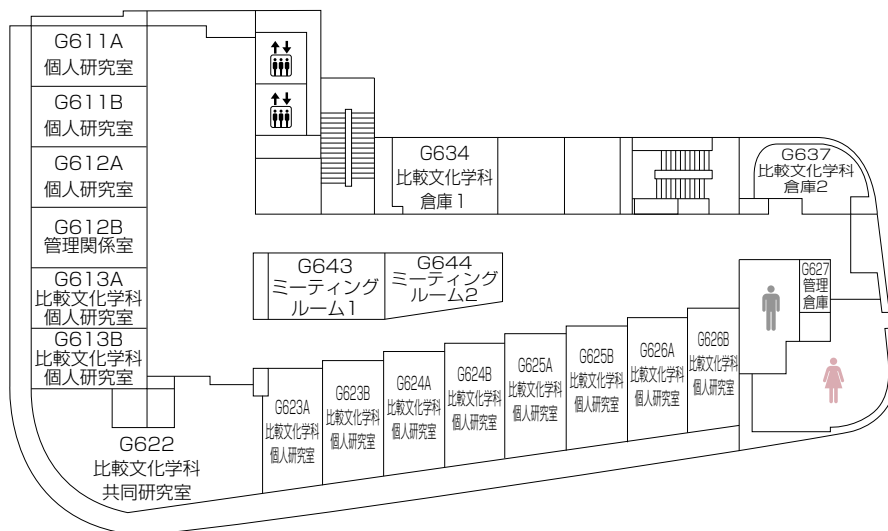
G棟 4階



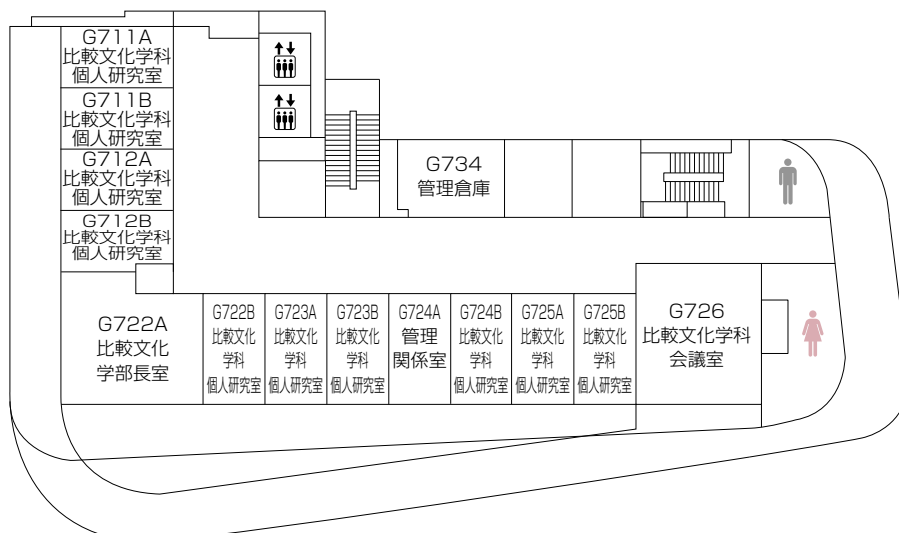
G棟 5階



G棟 6階



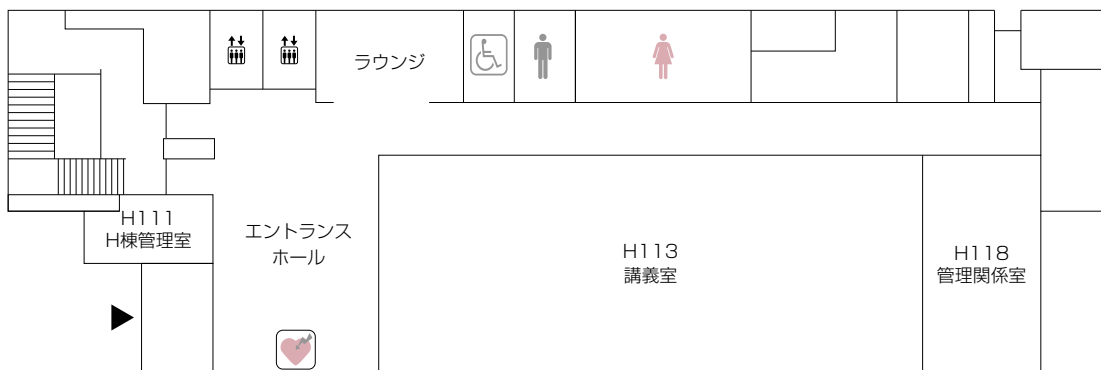
G棟 7階



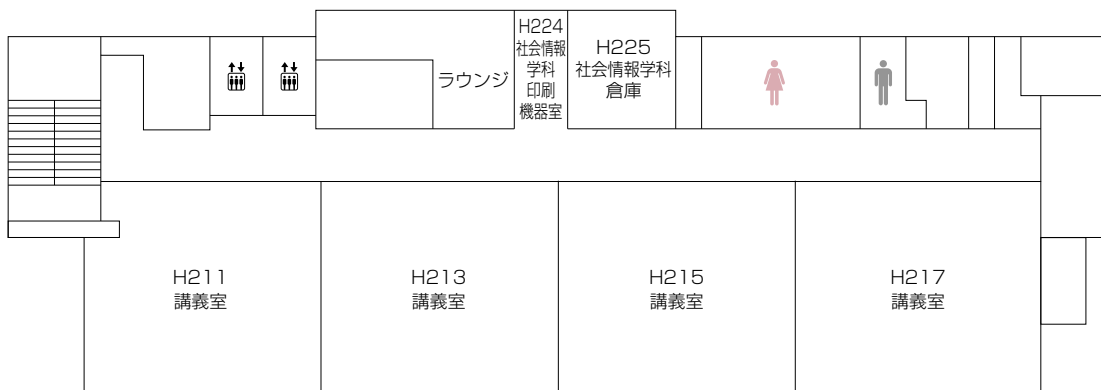
H棟 地下1階



H棟 1階



H棟 2階



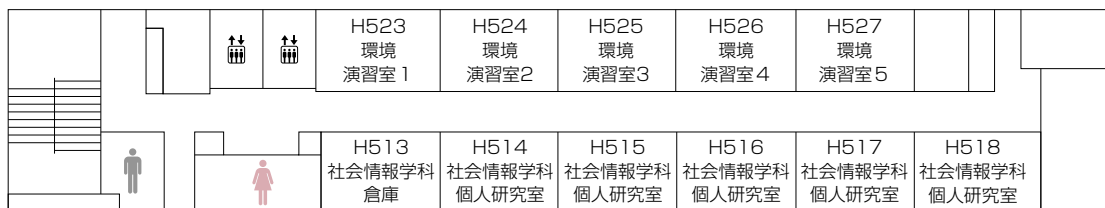
H棟 3階



H棟 4階



H棟 5階



H棟 6階

			H623 社会情報学科 個人研究室	H624 社会情報学科 個人研究室	H625 社会情報学科 個人研究室	H626 社会情報学科 個人研究室	H627 社会情報学科 個人研究室		
			H613 社会情報学科 個人研究室	H614 社会情報学科 個人研究室	H615 社会情報学科 個人研究室	H616 社会情報学科 個人研究室	H617 社会情報学科 個人研究室	H618 社会情報学科 個人研究室	

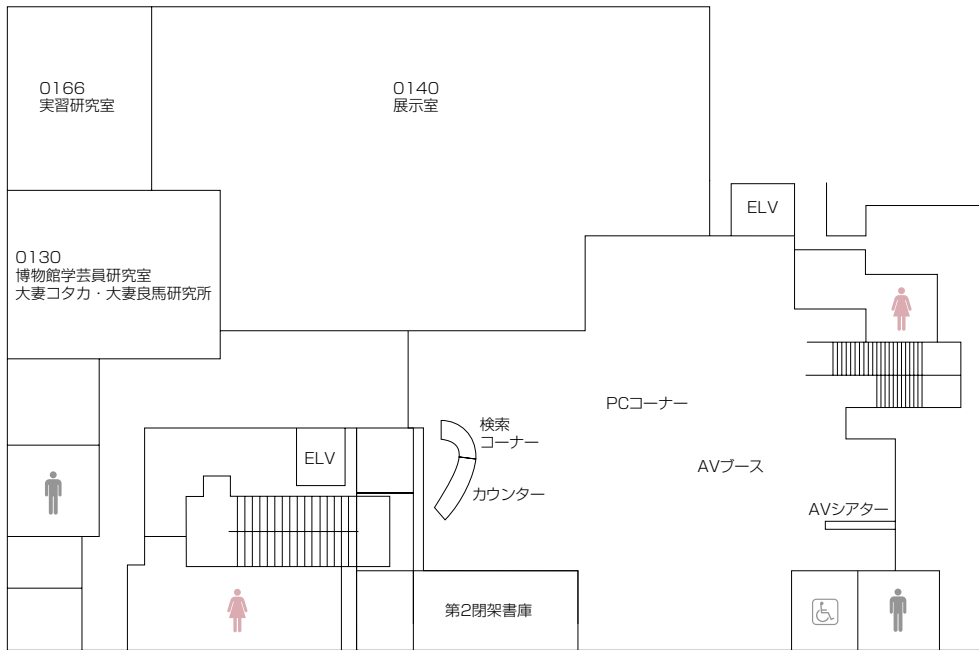
H棟 7階

			H723 情報デザイン 実験室4	H724 情報デザイン 実験室5	H725 情報デザイン 実験室5	H726 情報デザイン 実験室6	H727 情報デザイン 実験室6		
			H713 社会情報学科 個人研究室	H714 社会情報学科 個人研究室	H715 社会情報学科 個人研究室	H716 社会情報学科 個人研究室	H717 社会情報学科 個人研究室	H718 社会情報学科 個人研究室	

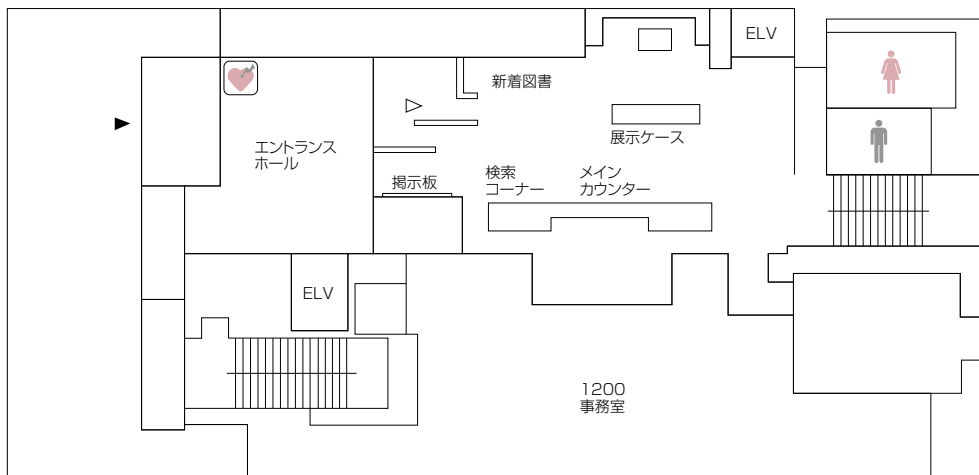
H棟 8階

			H823 社会情報学科 個人研究室	H824 情報デザイン 実験室1	H825 情報デザイン 実験室2	H826 情報デザイン 実験室3	H827 情報デザイン 実験室3		
			H813 社会情報学科 個人研究室	H814 社会情報学科 個人研究室	H815 社会情報学科 個人研究室	H816 社会情報学科 個人研究室	H817 社会情報学科 個人研究室	H818 社会情報学科 個人研究室	

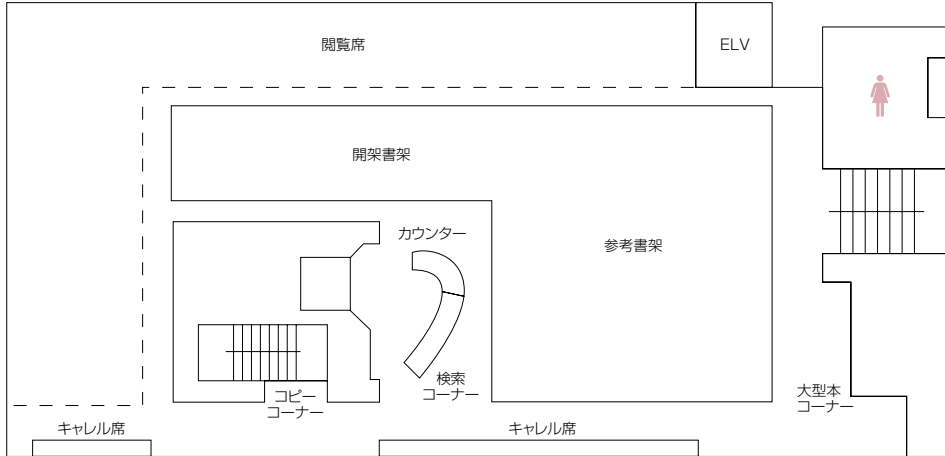
地下1階



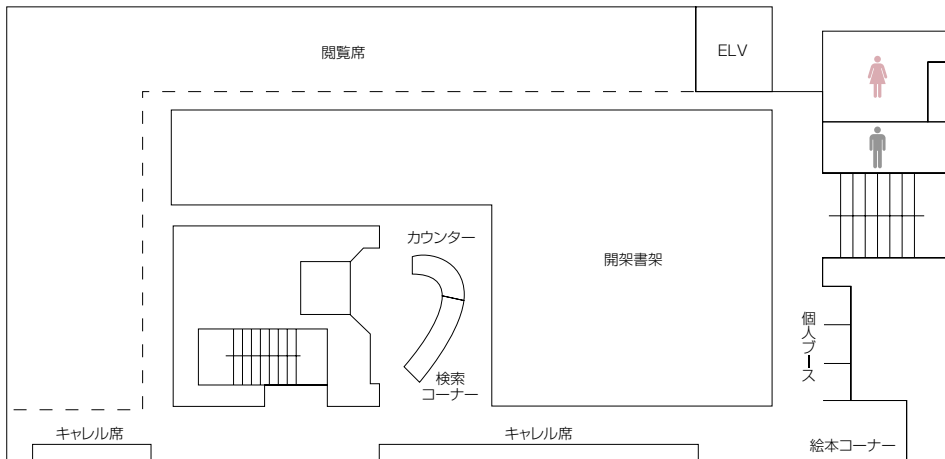
1階



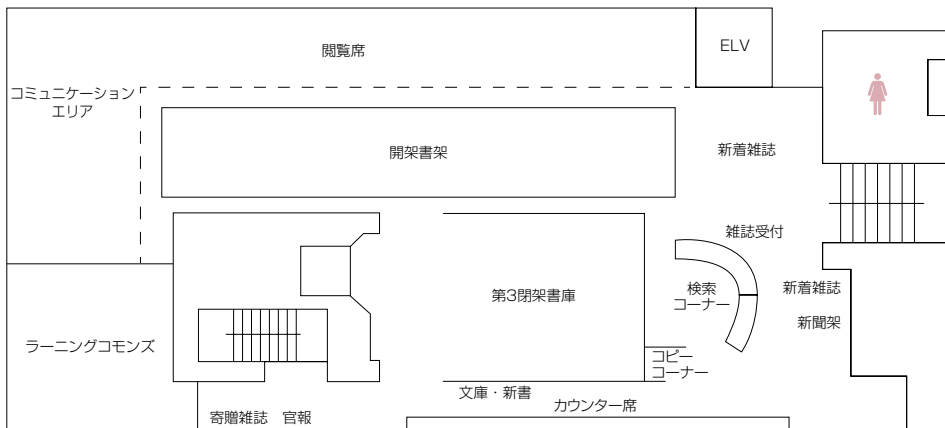
2階



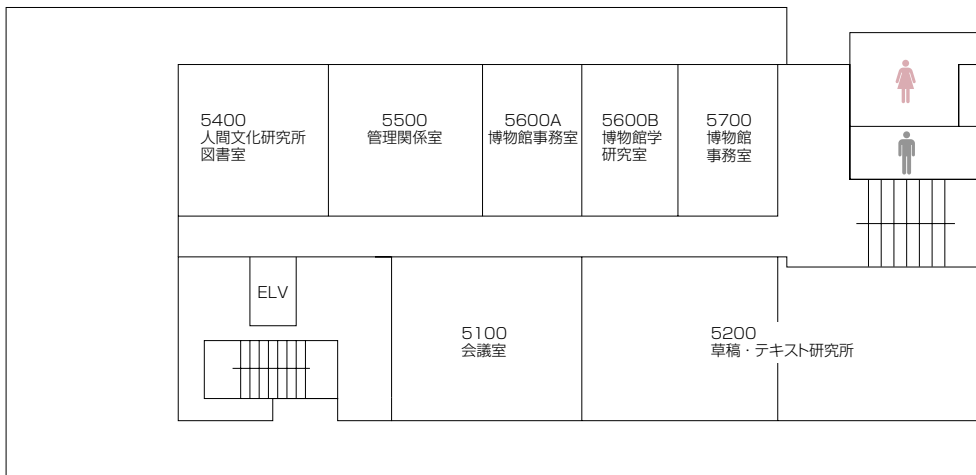
3階



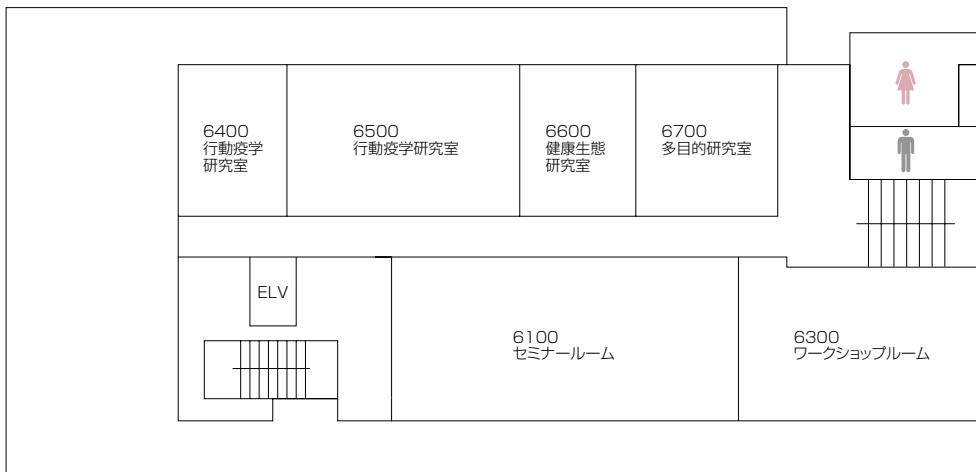
4階



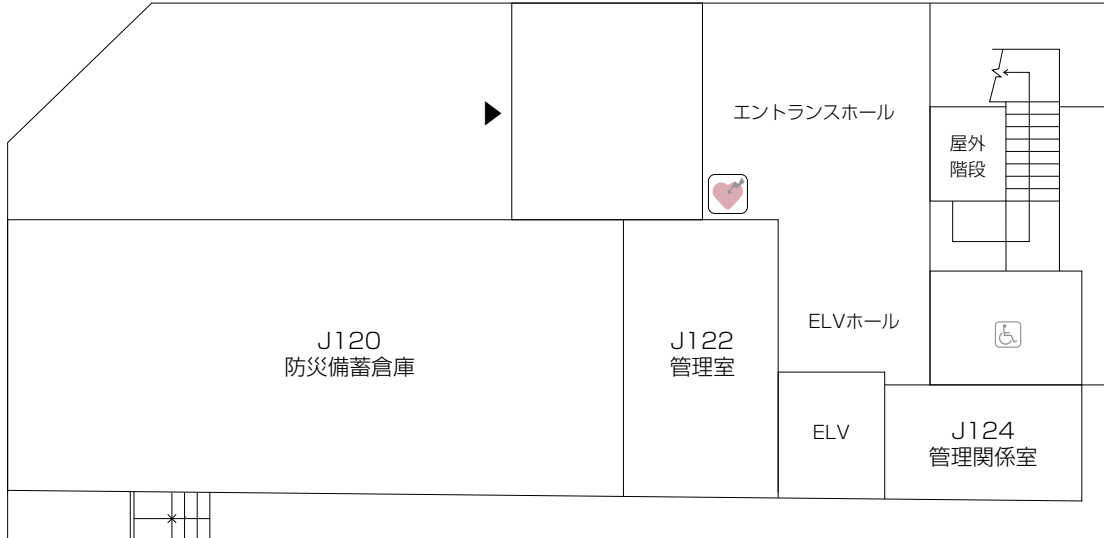
5階



6階



1階



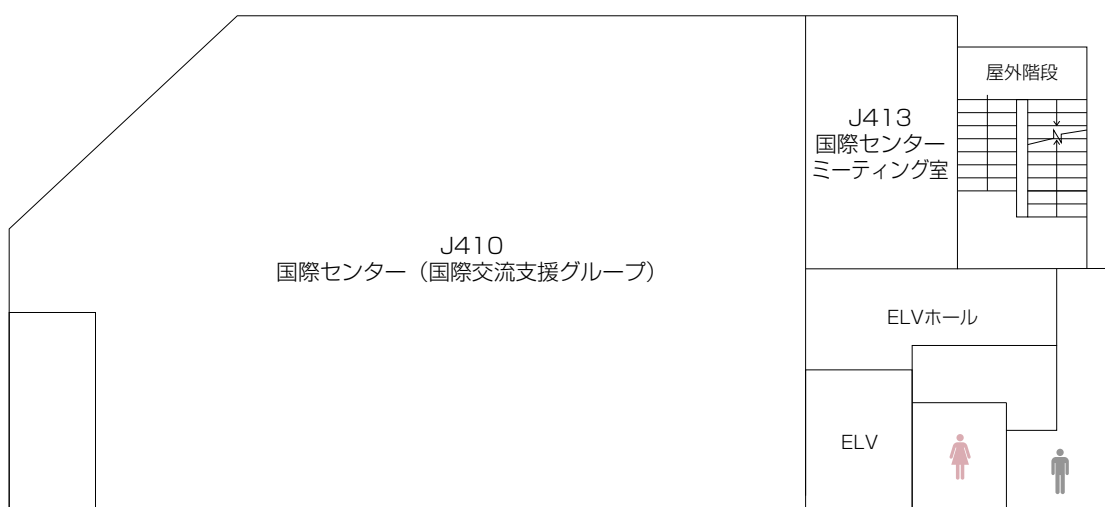
2階



3階



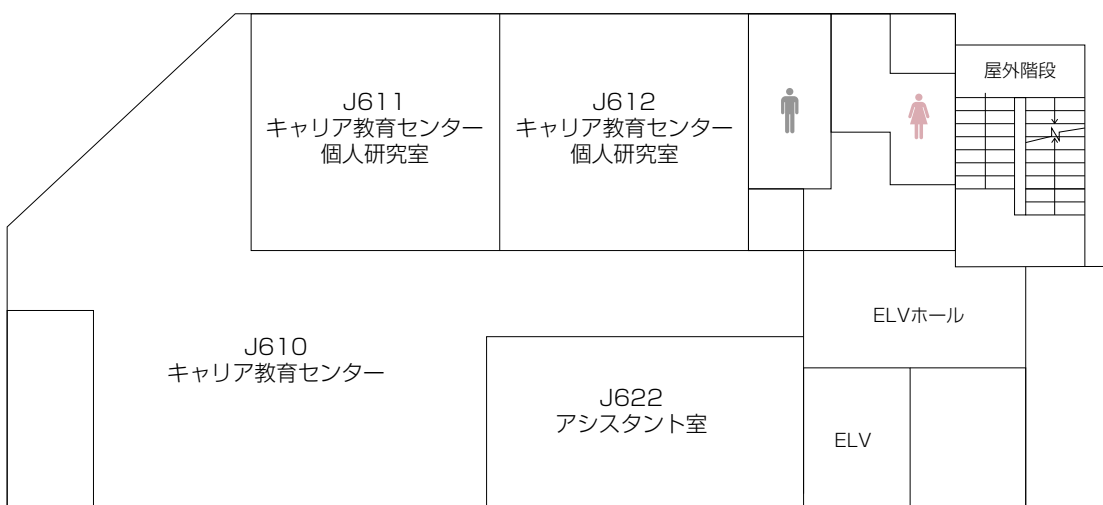
4階



5階

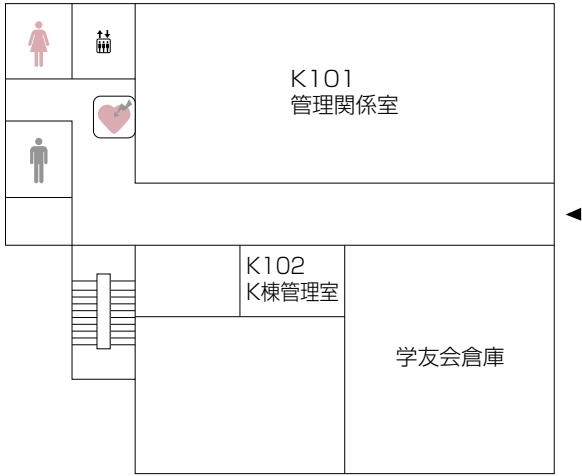


6階

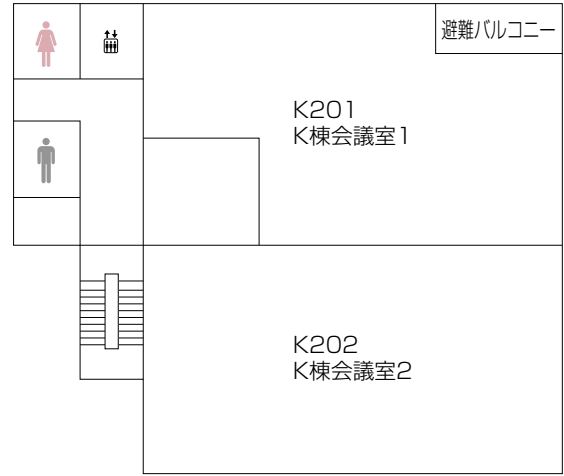


7階

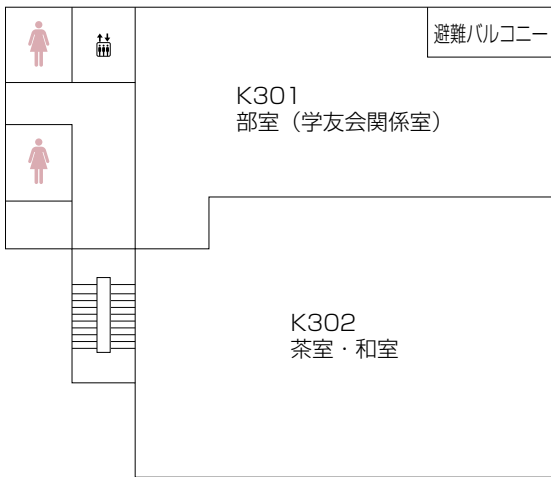




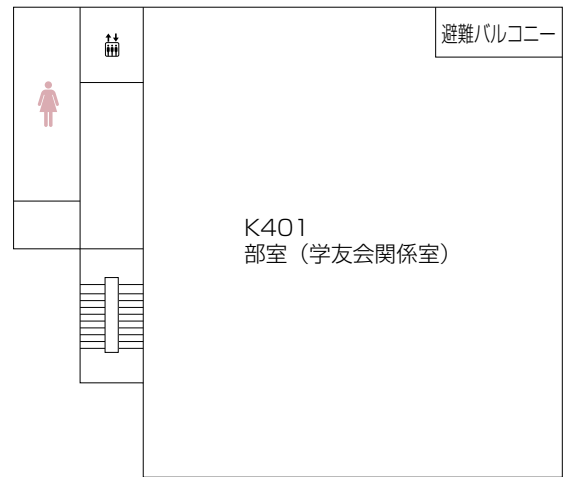
1階



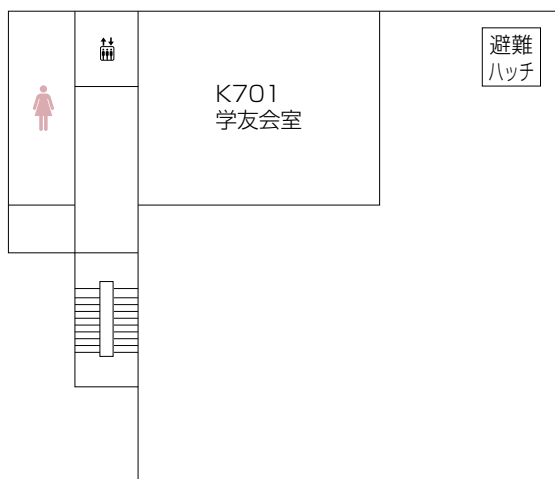
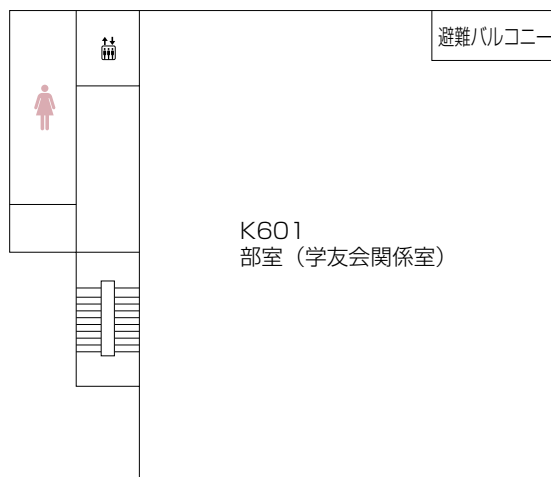
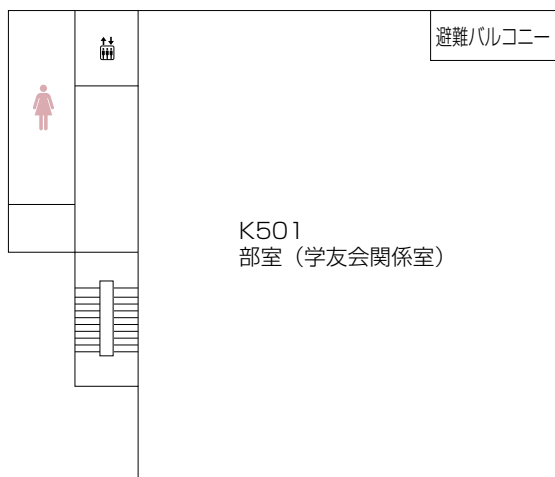
2階



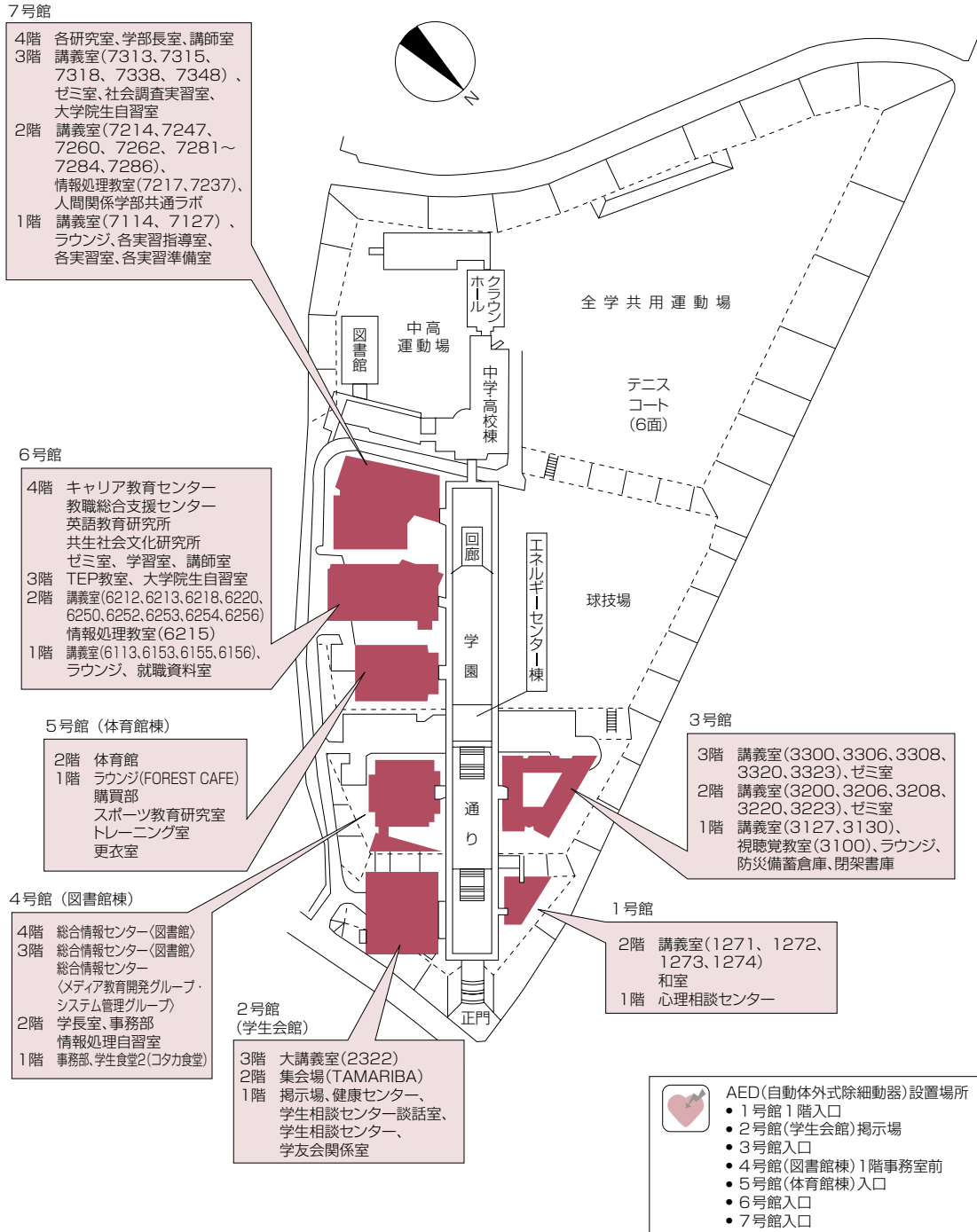
3階



4階



多摩校舎配置図



電話番号一覧

【千代田キャンパス】

教育支援センター

教育支援グループ……………03-5275-6061
資格支援グループ……………03-5275-6319

学生支援センター

学生支援グループ……………03-5275-6071
国際交流支援グループ……………03-5275-6310

健康センター……………03-5275-6078
学生相談センター……………03-5275-6173

広報・入試センター

入試グループ……………03-5275-6051
広報・募集グループ……………03-5275-6011

就職支援センター

就職・キャリア支援グループ…03-5275-6081

財務センター

財務グループ……………03-5275-6031
管財グループ……………03-5275-6041

総合情報センター

図書館……………03-5275-6013
メディア教育開発グループ……………03-5275-6085
システム管理グループ……………03-5275-6091

教職総合支援センター……………03-5275-6291

英語教育研究所……………03-5275-6819

株式会社大妻サポート購買部
大妻女子大学 千代田店……………03-3263-2668

講師室……………03-5275-6059

文科系研究室

日文・国文共同研究室……………03-5275-6028
英文共同研究室……………03-5275-6068
コミュニケーション
文化学科共同研究室……………03-5275-6116

家政学系研究室

被服学科共同研究室……………03-5275-6083
食物系共同研究室……………03-5275-6005
児童学科第1共同研究室……………03-5275-5945
ライフデザイン学科
共同研究室……………03-5275-6784
スポーツ教育共同研究室……………03-5275-6033

社会情報学部

社会情報学科共同研究室……………03-5275-6940

比較文化学部

比較文化共同研究室……………03-5275-6420

【多摩キャンパス】

事務部

教育・学事支援グループ……………042-372-9988
(入試関係……………042-372-9970)
学生・就職支援グループ……………042-372-9989
総務・財務グループ……………042-372-9111

総合情報センター

図書館……………042-372-9116
メディア教育開発グループ……………042-372-9112
システム管理グループ……………042-339-0033

教職総合支援センター……………042-339-0083

キャリア教育センター……………042-339-0085

健康センター……………042-339-0273
学生相談センター……………042-372-9979

心理相談センター……………042-372-9132

スポーツ教育研究室……………042-372-9139

英語教育研究所……………042-339-0071

人間関係学部

社会学専攻共同研究室……………042-372-9208
社会・臨床心理学専攻共同研究室
……………042-372-9204
人間福祉学科共同研究室……………042-372-9198

株式会社大妻サポート購買部
大妻女子大学 多摩店……………042-338-7060